公益財団法人マツダ財団寄付研究

「青森20-30代住民意識調査」報告書

2018年11月

トランスローカリティ研究会

代表：羽渕　一代（弘前大学　教授）

【目次】

序章　青年層の生活と意識（青森20-30代の住民意識）に関する調査概要 ・・・・・・・3
第１章　地域イメージ・地域評価および住居価値観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第２章　条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏在住の若者における移動経験と定住希望・・11
第３章　地域価値観／地域活動・社会活動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
第４章　移動と将来・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
第５章　仕事と余暇から見る青森の若者たち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
第６章　「自身の人生」「日本社会・政治」「学歴・年収」から見たむつ市・おいらせ町の若者
・・・・・・・69
第７章　生活に関わる価値観・ジェンダー意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85
第８章　むつ市・おいらせ町の未婚率および独身者の恋愛行動と結婚観・・・・・・・・・89
第９章　家族・人間関係について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・101
第10章　SNS利用と地元ネットワークの維持 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105
第11章　地方暮らしの若者のバリエーションを捉える・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
—青森20-30代調査と広島20-30代調査の比較から
単純集計表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・124

トランスローカリティ研究会（50音順）
阿部真大　（甲南大学　教授）
井戸　聡　（愛知県立大学　准教授）
岩田　考　（桃山学院大学　教授）
木村絵里子（日本女子大学　学術研究員）
轡田竜蔵　（同志社大学　准教授）
白石壮一郎（弘前大学　准教授）
寺地幹人　（茨城大学　准教授）
永田夏来　（兵庫教育大学大学院　講師）
成田　凌　（首都大学東京大学院　博士後期課程）
羽渕一代　（弘前大学　教授：研究会代表）

序章　青年層の生活と意識（青森20-30代の住民意識）に関する調査

羽渕　一代（弘前大学）

本報告は、トランスローカリティ研究会がおこなった、青森県むつ市とおいらせ町に居住する20代から30代の男女を対象とした、地方在住者のライフスタイルと社会意識に関わるアンケート調査の結果である。地方在住者と一口に言っても様々な地方があり、地域があり、多様な人々がそれぞれの生活を送っている。地方といっても病院や高等教育機関が存在しない自治体であったり、公共交通のアクセスが悪く生活に影響を及ぼすような地域もあったりする。また首都圏のような大都会ではないものの、生活の利便性が高く、医療や教育などのサービスを受けるために苦労しないような地方の中核をなすような地域もある。同じ地方という言葉で示されているものの、異なる様相を示す様々な地域がある。

いっぽうで、都市と田舎という軸が見直されるべきであることはこれまでも指摘されてきたことである。交通網の発達・モータリゼーションによりヒト・モノ・サービスなどの移動のハードルが下がっている。加えて高度情報化によってコミュニケーションの地理的障壁は撤廃されつつある。これと関連し、ライフスタイルや労働はこれまでの地方研究で示されてきた結果とは異なる様相を呈している。さらに場所に規定されない行動や意識も明らかにされつつある。本調査は、トランスローカリティ研究会メンバーでもある轡田竜蔵（2016）がマツダ財団の委託研究としておこなった「広島20-30代住民意識調査」をベースとして設計している。広島調査から得られた地方に関する実証的な知見を青森調査においても検証してみようという試みである。つまり、もしも広島で得られた地方中枢拠点都市圏に属する地域とそこから外れる地域とのあいだにある相違が青森でも検証されるならば、そこには日本全国でみられる地方の中枢拠点都市圏とそれ以外の地域のあいだにある差異性とあらゆる地方にみられる相同性が推測可能になるだろうし、広島と青森との間に差がみられるならば、西日本と東日本という地理的位置などによる文化や社会関係の差を確認することになる。広島と青森が同様の結果を示すならば、日本全国の地方の一般的特性を明らかにする手掛かりとなるかもしれない。つまり本研究はトランスローカリティという地方を超えた地方性とでもいうべき、地方を理解するための新しいモデル構築をおこなうエビデンスを得ようとする試みでもある。

ただし、このような目的を達成するためには理論的な地域サンプリングを必要とするうえに、調査時点の統一も必要である。広島県と青森県という地域の選択は、トランスローカリティモデルを議論していくための厳密な理論サンプリングをおこなった結果ではないし、同時期に行った調査でもない。したがって本調査はモデル検証のための実査に向けたプレ調査に相当している。広島調査の2地域のサンプリングは消費生活や労働、移動や人口などを鑑み、地方中枢拠点都市と条件不利地域に近い都市とが選択されている。このサンプリングには地域の異質性を代表できるという仮定のもとでおこなわれている。

条件不利地域とは行政用語として近年の行政文書に散見され、また学術用語としても使用されはじめている。いずれも中山間地や離島、島嶼部など地理的に都市部から一定程度以上距離があり、雇用機会も少なく、産業振興をはじめとした社会経済的な発展がのぞみにくい地域を指しているとすることが一般的である（白石・羽渕、2016）。しかし青森に所縁のある人間が想像する条件不利地域と広島に所縁のある人間が想像するそれとでは、同じ研究会に所属する社会学者であっても異なる。都市部からの一定程度以上の距離とはどのくらいの距離を指すのか、雇用機会というのはどのようなことをイメージするのか、産業振興の遅れ、高等教育機関の不在、医療過疎の程度等をどのように測るのかという点については、研究者のもつ実感やイメージによって異なり、科学的に考えるならば定義によって異なるとしかいいようのない事態を呈している。それは地方中枢拠点都市についても同様のことがいえる。

今回の青森調査においては、広島で選択された2地域と条件が比較的近いと考えられる場所を選択している。広島市を中心とした都市雇用圏に位置する府中町にはイオンモールがある。八戸市を中心とした都市雇用圏に位置するおいらせ町にもイオンモールがある。同じイオンモールであっても店舗の規模や入込客数などは異なるだろうし、広島市を中心とした都市雇用圏と八戸市を中心とした都市雇用圏では規模がまるきり異なる。ただし青森県内には府中町に相当する場所はおいらせ町しかない。府中町もおいらせ町も県内随一の規模をもつ都市雇用圏に包含されているという点においては、地域選択にある程度の妥当性があるものと考えている。また三次市からの広島を中心とした都市雇用圏の繁華街へのアクセスとむつ市の八戸市を中心とした都市雇用圏（もしくは青森市を中心とした都市雇

用圏）の繁華街へのアクセスは似たようなものかもしれない。むつ市は、自家用車や公共交通機関を利用した場合のアクセシビリティ、人口の程度等という観点から広島調査と比較する目的からサンプリングするならば青森県内のなかではもっとも妥当性があると思われる。

調査項目についても、可能な限り広島調査と比較できるように設計している。地域イメージ、居住地域の価値観と居住歴、労働状況と価値観、自己評価と人生に対する価値観、生活に対する価値観と人間関係、社会や政治に対する意識、という主観的意識と価値観が質問項目の中心をなしている。広島調査における、地域、労働、人間関係に対する満足度と本人の幸福度と独立して変数を作成しているという点が従来の社会学における幸福研究とは異なりラディカルで面白いパースペクティブを提供していた。青森調査においてもこれらの項目を引き継ぎ、地方在住者の幸福が何によって決定されているのか、そして都市、もしくは地方といった住む場所によって幸福度が規定されるのかどうか、確認してみたい。もしも地域によって幸福が規定されないのであれば、何が幸福を決めるのだろうか。広島調査と本調査はこのような問いに答え、地方性を超える地方性、つまりトランスローカリティとは何かを探るための礎である。調査概要は以下の通りである。

調査時期：2018年4月～5月
対象地：青森県むつ市・おいらせ町
対象年齢：20歳から39歳
調査方法：選挙人名簿を用いた無作為抽出（系統抽出）によるアンケート調査（郵送法）
計画サンプル：各1500票（合計3000票）
有効回収サンプル：340票（22.6%）：男性55.3%　女性44.7%（むつ市）
　　340票（22.6%）：男性47.1%　女性52.9%（おいらせ町）

参考文献

轡田竜蔵2016『平成26年度 公益財団法人マツダ財団委託研究「広島 20-30 代住民意識調査」報告書（統計分析篇）【第２版】』公益財団法人マツダ財団
轡田竜蔵2017『地方暮らしの幸福と若者』勁草書房
白石壮一郎・羽渕一代2016「条件不利地域普通科校の高卒後の移動と地元定着 ： 青森県下北郡北通の同窓会調査から」『人文社会科学論叢』（人文科学篇）弘前大学人文社会科学部

第１章　地域イメージ・地域評価および住居価値観

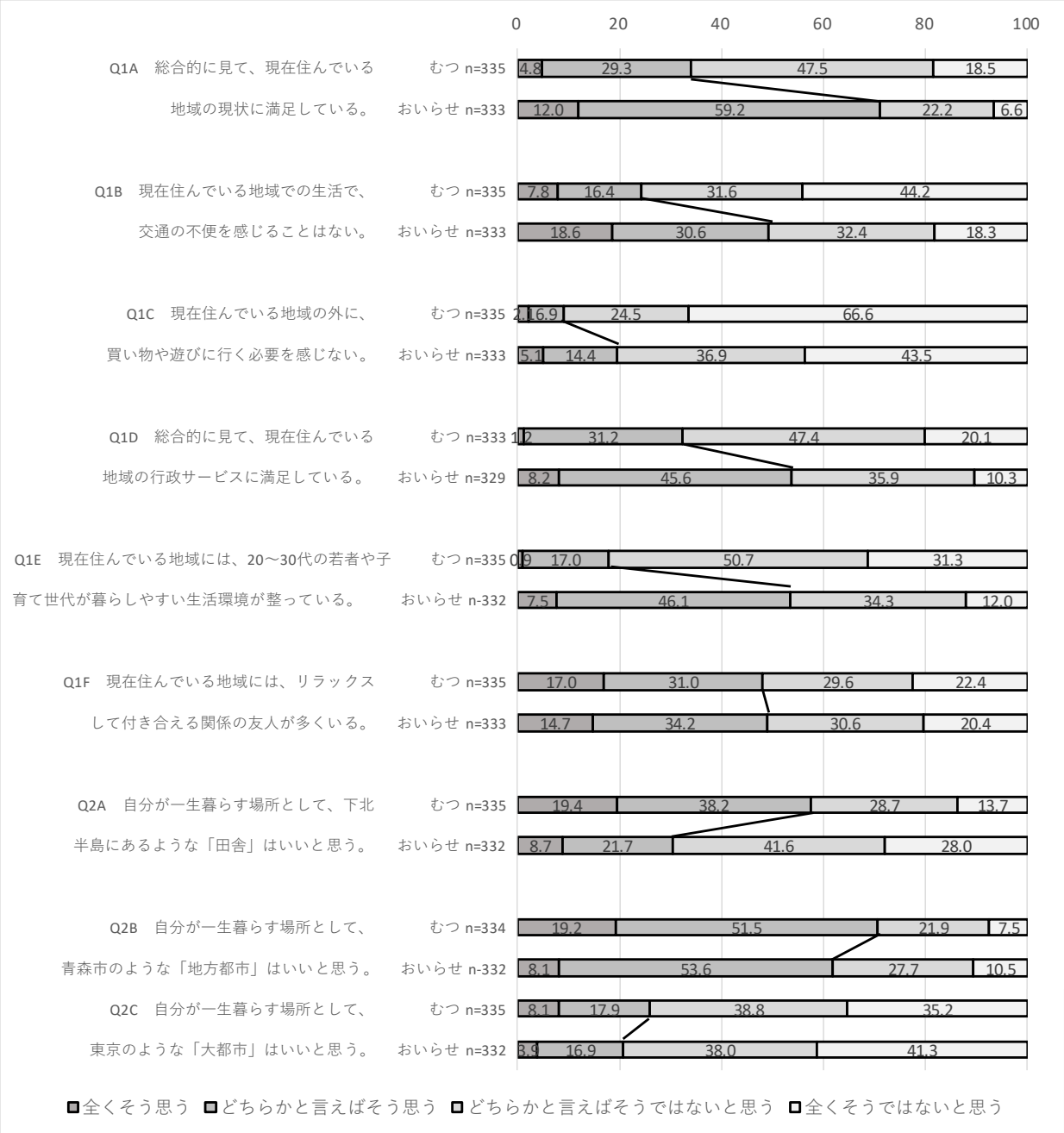
寺地幹人（茨城大学）

本章では、地域イメージ・地域評価（Q1）に関する項目の一部（A～F）と、住居価値観（Q2）の項目の一部（A～C）に関して、集計結果を解説する。

１－１．地域ごとの相対度数

むつ市とおいらせ町の回答分布をグラフで示し、肯定回答（全くそう思う＋どちらかと言えばそう思う）と否定回答（どちらかと言えばそうではないと思う＋全くそうではないと思う）の境の位置を実線で結び、比較している。

横軸：％



地域に対する総合的な満足（Q1A）および交通不便の感じなさ（Q1B）、地域外へ買い物・遊びに行く必要性（Q1C）、行政サービスへの満足（Q1D）、若者・子育て世代環境への評価（Q1E）のすべてが、おいらせ町の方がむつ市より目に見えて高い。一方で、友人の豊富さ（Q1F）に関しては、両地域の分布に大差

はない。これらは、轡田竜蔵（2017）が示した、地方中枢都市／条件不利地域[1]での地域評価の関係のパターンと同様である。

肯定する地域規模（Q2A～Q2C）に関しては、田舎に対する肯定度合、地方都市に対する肯定度合、大都市に対する肯定度合のすべてに関して、むつ市の方が高い。これら3つがともに高いことは、＜都市⇔田舎＞という図式を仮定する場合、やや不思議に見える[2]。この点に関しては、それぞれの地域内でどういった人たちがこれを肯定しているか、細分化して見ていくことも必要となる。

１－２．地域ごとの変数間関係

細分化して見ていくために、本章で扱う項目と回答者の社会的属性の関係を分析する必要がある。しかしその前に、各項目どうしの関係を把握することで、いくつかの回答を総合的にささえる意識の存在を推察したり、イメージ・評価・価値観の関係パターンから地域の特性を考察する。以下は、両地域での、担当変数間の相関分析（ピアソンの順位相関）の結果である[3]。

＜地域に対する総合的な満足（Q1A）＞は、両地域とも、他のすべての変数と有意に関連している。両地域とも、Q1B～Q2Bは正の相関であり、大都市の肯定（Q2C）のみ負の相関になっている。このように、地方中枢都市と条件不利地域で、総合的な地域満足と各種地域評価・地域イメージの間の関係の形は変わらないが、むつ市は友人の豊富さ（Q1F）と強く相関し、おいらせ町は行政サービスへの満足（Q1D）や若者・子育て世代環境への評価（Q1E）といった行政・制度的住環境と強く相関する。ここから、条件不利地域に対応するむつ市では、環境面の不十分さを人間関係が補填して地域に満足している可能性があることが、推察される。

その他、他の変数との関連が両地域で同形な変数は、**＜地域外へ買い物・遊びに行く必要性（Q1C）＞**であり、総合的な満足（Q1A）、交通不便の感じなさ（Q1B）、行政サービスへの満足（Q1D）、若者・子育て世代環境への評価（Q1E）、田舎の肯定（Q2A）と正の相関になっている。

一方、上記2つ（Q1AおよびQ1C）以外の他の項目に関しては、両地域で以下の違いが見られる。統計的有意性および相関の方向性が両地域で同じ部分は省略し、両地域で異なっている部分のみを以下に説明していく。

＜交通不便の感じなさ（Q1B）＞に関して、むつ市のみ田舎の肯定（Q2A）と正の相関、おいらせ町のみ友人の豊富さ（Q1F）と正の相関になっている。これだけでは変数間の因果関係の推察は難しいので、田舎の肯定や友人関係の豊富さが他のどういった変数と関連しているか、詳細な分析をしていく際には、確認する必要がある。

＜行政サービスへの満足（Q1D）＞に関して、おいらせ町のみ、友人の豊富さ（Q1F）および田舎の肯定（Q2A）とそれぞれ正の相関に、大都市の肯定（Q2C）と負の相関になっている。都会的な生活を望まずに、かつ現実には住んでいないからこそかもしれないが田舎を肯定することができ、友人にも恵まれているような人ほど、現在の行政・制度的住環境に満足している。

---

[1] 轡田（2015）（2017）の広島調査と対応させ、本章においては、おいらせ町を地方中枢都市（八戸市近郊）かつ Q2A～Q2C における「地方都市」、むつ市を条件不利地域かつ Q2A～Q2C における「田舎」という位置づけで、扱う。

[2] ただし轡田は、これら 3 つのうち 2 つに関して、「必ずしも『田舎志向』と『地方都市志向』が対立するわけではない」（轡田 2015: 64）と述べている。

[3] 統計的に有意なセルを灰色にし、その中で正の相関のセルを太字にしている。

むつ		問1B：B　現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。	問1C：C　現在住んでいる地域の外に、買い物や遊びに行く必要を感じない。	問1D：D　総合的に見て、現在住んでいる地域の行政サービスに満足している。	問1E：E　現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている。	問1F：F　現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる。	問2A：A　自分が一生暮らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。	問2B：B　自分が一生暮らす場所として、青森市のような「地方都市」はいいと思う。	問2C：C　自分が一生暮らす場所として、東京のような「大都市」はいいと思う。
問1A：A　総合的に見て、現在住んでいる地域の現状に満足している。	Pearson の相関係数	.382**	.310**	.380**	.374**	.174**	.414**	.139*	-.135*
	有意確率（両側）	.000	.000	.000	.000	.001	.000	.011	.013
	N	335	335	333	335	335	335	334	335
問1B：B　現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。	Pearson の相関係数		.186**	.175**	.230**	.088	.229**	.023	-.124*
	有意確率（両側）		.001	.001	.000	.107	.000	.679	.023
	N		335	333	335	335	335	334	335
問1C：C　現在住んでいる地域の外に、買い物や遊びに行く必要を感じない。	Pearson の相関係数			.137*	.110*	-.101	.122*	-.100	-.064
	有意確率（両側）			.012	.044	.064	.025	.068	.240
	N			333	335	335	335	334	335
問1D：D　総合的に見て、現在住んでいる地域の行政サービスに満足している。	Pearson の相関係数				.502**	.071	.089	.156**	.019
	有意確率（両側）				.000	.197	.105	.004	.724
	N				333	333	333	332	333
問1E：E　現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている。	Pearson の相関係数					.132*	.100	.115*	-.057
	有意確率（両側）					.016	.066	.035	.299
	N					335	335	334	335
問1F：F　現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる。	Pearson の相関係数						.312**	.048	-.109*
	有意確率（両側）						.000	.381	.046
	N						335	334	335
問2A：A　自分が一生暮らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。	Pearson の相関係数							.122*	-.282**
	有意確率（両側）							.026	.000
	N							334	335
問2B：B　自分が一生暮らす場所として、青森市のような「地方都市」はいいと思う。	Pearson の相関係数								-.085
	有意確率（両側）								.122
	N								334

** 1% 水準で有意（両側）　／ * 5% 水準で有意（両側）

おいらせ		問1B：B　現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。	問1C：C　現在住んでいる地域の外に、買い物や遊びに行く必要を感じない。	問1D：D　総合的に見て、現在住んでいる地域の行政サービスに満足している。	問1E：E　現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている。	問1F：F　現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる。	問2A：A　自分が一生暮らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。	問2B：B　自分が一生暮らす場所として、青森市のような「地方都市」はいいと思う。	問2C：C　自分が一生暮らす場所として、東京のような「大都市」はいいと思う。
問1A：A　総合的に見て、現在住んでいる地域の現状に満足している。	Pearson の相関係数	.393**	.254**	.537**	.527**	.240**	.189**	.177**	-.221**
	有意確率（両側）	.000	.000	.000	.000	.000	.001	.001	.000
	N	333	333	329	332	333	332	332	332
問1B：B　現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。	Pearson の相関係数		.305**	.227**	.288**	.191**	.092	.064	-.107
	有意確率（両側）		.000	.000	.000	.000	.095	.242	.051
	N		333	329	332	333	332	332	332
問1C：C　現在住んでいる地域の外に、買い物や遊びに行く必要を感じない。	Pearson の相関係数			.333**	.295**	.044	.133*	.070	-.071
	有意確率（両側）			.000	.000	.427	.015	.203	.195
	N			329	332	333	332	332	332
問1D：D　総合的に見て、現在住んでいる地域の行政サービスに満足している。	Pearson の相関係数				.639**	.194**	.146**	.133*	-.123*
	有意確率（両側）				.000	.000	.008	.016	.026
	N				328	329	328	328	328
問1E：E　現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている。	Pearson の相関係数					.245**	.165**	.250**	-.128*
	有意確率（両側）					.000	.003	.000	.020
	N					332	331	331	331
問1F：F　現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる。	Pearson の相関係数						.034	.150**	-.148**
	有意確率（両側）						.536	.006	.007
	N						332	332	332
問2A：A　自分が一生暮らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。	Pearson の相関係数							.076	-.086
	有意確率（両側）							.168	.120
	N							332	332
問2B：B　自分が一生暮らす場所として、青森市のような「地方都市」はいいと思う。	Pearson の相関係数								.003
	有意確率（両側）								.958
	N								332

** 1% 水準で有意（両側）　／ * 5% 水準で有意（両側）

＜若者・子育て世代環境への評価（Q1E）＞に関して、おいらせ町のみ、田舎の肯定（Q2A）と正の相関、大都市の肯定（Q2C）と負の相関になっている。現実には住んでいないタイプの地域の肯定が、現在の環境の満足に関連しているか、不満に関連しているか、両方の側面をもつ。

＜友人の豊富さ（Q1F）＞に関して、むつ市のみ田舎の肯定（Q2A）と正の相関、おいらせ町のみ、交通不便の感じなさ（Q1B）、行政サービスへの満足（Q1D）、地方都市の肯定（Q2B）と正の相関になっている。因果の向きは不明だが、両地域とも現在住んでいるタイプの地域への肯定と友人の豊富さは比例している点は共通しており、かつ、地方中枢都市でのみ、現在の交通環境や制度的住環境への肯定的評価にも比例する。「田舎」では、総合的な地域満足が辛うじて友人関係に下支えされているが、友人関係に恵まれているような状態がより複数種の地域評価に比例する状態は、「田舎」にはない。

＜田舎の肯定（Q2A）＞に関しては、むつ市のみ、交通不便の感じなさ（Q1B）、友人の豊富さ（Q1F）、地方都市の肯定（Q2B）と正の相関、大都市の肯定（Q2C）と負の相関になっている。一方でおいらせ町のみ、行政サービスへの満足（Q1D）および若者・子育て世代環境への評価（Q1E）と、それぞれ正の相関になっている。

＜地方都市の肯定（Q2B）＞に関して、むつ市のみ田舎の肯定（Q2A）と正の相関、大都市の肯定（Q2C）と負の相関になっている。一方で、おいらせ町のみ友人の豊富さ（Q1F）と正の相関になっている。

両項目（Q2AおよびQ2B）とも、現在住んでいるタイプの地域に対する肯定は、友人関係の豊富さと比例しており、かつ条件不利地域であるむつ市においてのみ、田舎や地方都市での生活を肯定することと、大都市での生活を否定することとが、結びついている。

１－３．各地域での社会的属性との関係

以下は、両地域において、担当項目と回答者の社会的属性の関連を確認した結果である[4]。

		問1A:A 総合的に見て、現在住んでいる地域の現状に満足している。	問1B:B 現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。	問1C:C 現在住んでいる地域の外に、買い物や遊びに行く必要を感じない。	問1D:D 総合的に見て、現在住んでいる地域の行政サービスに満足している。	問1E:E 現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている。	問1F:F 現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる。	問2A:A 自分が一生暮らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。	問2B:B 自分が一生暮らす場所として、青森市のような「地方都市」はいいと思う。	問2C:C 自分が一生暮らす場所として、東京のような「大都市」はいいと思う。
性別（男性／女性）	むつ							*		
（クロス分析）	おいらせ							*		
年齢	むつ									
（相関分析）	おいらせ							**		**
婚姻（結婚／独身）	むつ									
（クロス分析）	おいらせ									**
世帯年収	むつ						**			
（相関分析）	おいらせ									
最終学歴（大学院・大学・短大／左記以外）	むつ									
（クロス分析）	おいらせ								*	
移動（ずっと地元／Uターン／Iターン）	むつ						***	***		
（クロス分析）	おいらせ		**							

相関分析に関しては、正・負の方向性を表から判断可能なので、関連の方向性が表からだけでは不明なクロス分析についてのみ、以下に説明する。

両地域とも、性別と田舎の肯定（Q2A）に有意な関連があるが、むつ市では女性の方が男性より否定的なのに対し、おいらせ町では女性の方が肯定的な結果となっている（表省略）。

おいらせ町において、婚姻と大都市の肯定（Q2C）が有意に関連しているが、既婚は「全くそう思わない」の割合が高く、独身（離婚・死別・未婚）は「どちらかと言えばそうではないと思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合が高い（残差分析より・表省略）。

---

[4] 相関分析の結果おいては、二重下線ありかつ灰色塗りが負の相関、下線・灰色塗りなしが正の相関となっている（アスタリスク 1 つが 5%水準、2 つが 1%水準で統計的に有意）。クロス分析ではχ^2検定を行いその結果を記載しているが（アスタリスク 1 つが 5%水準、2 つが 1%水準、3 つが 0.1%水準で統計的に有意）、期待値 5 未満のセル数がセル数全体の 20%を超えたものについては除外している。

おいらせ町において、学歴[5]と地方都市の肯定（Q2B）が有意に関連しているが、大卒層が「どちらかと言えばそう思う」の割合が高く、非大卒層は「どちらかと言えばそうではないと思う」の割合が高い（残差分析より・表省略）。

移動[6]に関しては、両地域で有意に関連している項目が異なる。むつ市では友人の豊富さ（Q1F）に関して、最も肯定している割合「全くそう思う」の割合および肯定回答（全くそう思う＋どちらかと言えばそう思う）の割合は、意外にも、ずっと地元の者よりもUターン者の方が大きくなっている（以下の表参照）。ずっと地元にいる方が一度離れた者よりその地域の友人関係が豊かかというと、そうではない結果となっている。

		問1F:F 現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる。				
		全くそうではないと思う	どちらかと言えばそうではないと思う	どちらかと言えばそう思う	全くそう思う	合計
ずっと地元	度数	15	22	28	15	80
	行%	18.8%	27.5%	35.0%	18.8%	100.0%
	調整済み残差	−0.9	−0.5	1.0	0.5	
Uターン	度数	27	36	49	34	146
	行%	18.5%	24.7%	33.6%	23.3%	100.0%
	調整済み残差	−1.6	−1.8	1.0	2.7	
Iターン	度数	31	38	22	6	97
	行%	32.0%	39.2%	22.7%	6.2%	100.0%
	調整済み残差	2.6	2.4	−2.0	−3.4	
合計	度数	73	96	99	55	323
	行%	22.6%	29.7%	30.7%	17.0%	100.0%

また、むつ市では田舎の肯定（Q2A）に関して、ずっと地元＞Uターン＞Iターンの順に肯定的であるという、予想通りの結果が出ている（以下の表参照）。

		問2A:A 自分が一生暮らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。				
		全くそうではないと思う	どちらかと言えばそうではないと思う	どちらかと言えばそう思う	全くそう思う	合計
ずっと地元	度数	2	22	36	20	80
	行%	2.5%	27.5%	45.0%	25.0%	100.0%
	調整済み残差	−3.4	−0.2	1.4	1.5	
Uターン	度数	18	39	56	33	146
	行%	12.3%	26.7%	38.4%	22.6%	100.0%
	調整済み残差	−0.8	−0.6	0.0	1.4	
Iターン	度数	25	31	32	9	97
	行%	25.8%	32.0%	33.0%	9.3%	100.0%
	調整済み残差	4.0	0.9	−1.3	−3.0	
合計	度数	45	92	124	62	323
	行%	13.9%	28.5%	38.4%	19.2%	100.0%

おいらせ町では、交通不便の感じなさ（Q1B）に関して、ずっと地元の者が最も肯定している（＝不便に感じない）（以下の表参照）。これには、慣れやその地域の状況への割り切り（不便さが割り切れる程度であること）などが関連していると考えられる。

一方、交通不便の感じなさへの否定回答（どちらかと言えばそうではないと思う＋全くそうではないと思う）の割合が最も大きいのはIターン者であるが、最も否定している「全くそうではないと思う」の割合はUターン者の方が大きい（以下の表参照）。また、Iターン者において、どちらかと言えば不便を感じることはないと思っている者の割合は、期待値に比べて有意に小さくなっている（残差分析・1%水準）。おいらせ町の交通不便に関するこうした結果には、Uターン者におけるターン前の地域との比較による否定的評価や、Iターン者における現在の地域への割り切りなどが関係していると、推察できる。

[5] 吉川徹（2009）を参照し、最終学歴が大学院・大学・短大とそれら以外の 2 カテゴリーで、分析した。

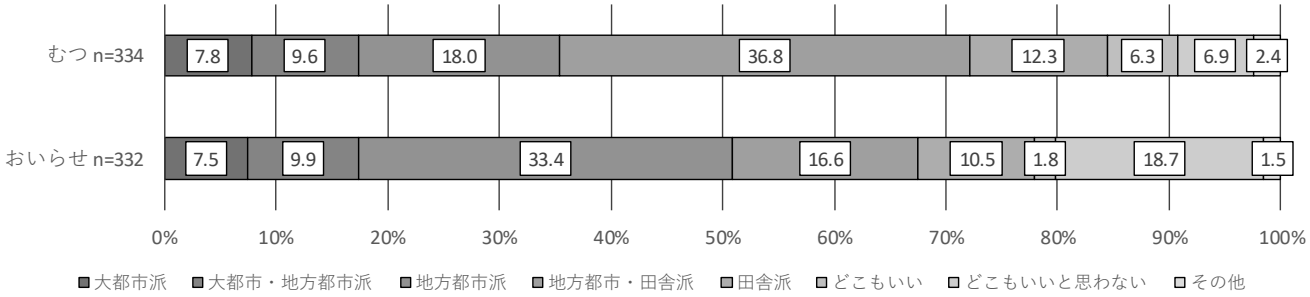
[6] Q5 で、A と回答した者を「ずっと地元」、B ないし C と回答した者を「U ターン」、D～H のいずれかを回答した者を「I ターン」とした（I と回答した者は除外した）。

		問1B:B 現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。				
		全くそうではないと思う	どちらかと言えばそうではないと思う	どちらかと言えばそう思う	全くそう思う	合計
ずっと地元	度数	6	21	36	18	81
	行%	7.4%	25.9%	44.4%	22.2%	100.0%
	調整済み残差	−3.1	−1.5	3.3	1.0	
Uターン	度数	30	36	35	17	118
	行%	25.4%	30.5%	29.7%	14.4%	100.0%
	調整済み残差	2.2	−0.6	−0.1	−1.4	
Iターン	度数	25	47	25	24	121
	行%	20.7%	38.8%	20.7%	19.8%	100.0%
	調整済み残差	0.6	1.9	−2.8	0.5	
合計	度数	61	104	96	59	320
	行%	19.1%	32.5%	30.0%	18.4%	100.0%

１－４．＜田舎志向／地方都市志向／大都会志向＞のパターン

本章では最後に轡田（2015 :64-5, 152）を参考に、＜田舎の肯定（Q2A）＞＜地方都市の肯定（Q2B）＞＜大都市の肯定（Q2C）＞の3つに関して、それぞれの項目が肯定回答と否定回答のいずれであるかを組み合わせ[7]、そのパターンの割合を算出する。

むつ市とおいらせ町、それぞれの結果は以下の通りとなった。



むつ市では＜地方都市・田舎派＞が最も多く36.8%であるのに対し、おいらせ町では＜地方都市派＞が最も多く33.4%であった。両地域において、大都市を含むカテゴリー（＜大都市派＞＜大都市・地方都市派＞）の割合にほぼ違いはないが、＜地方都市派＞の割合と田舎を含むカテゴリーの割合に、違いが見られる。

ちなみに、轡田（2015 : 152）による広島調査の分布と比較する[8]と、条件不利地域の方（三次市およびむつ市）の分布はおおむね類似しているが、地方中枢都市の方の分布は、やや異なっている。府中町では＜地方都市派＞が43.0%だったのに対しおいらせ町では33.4%で、また、府中町では＜地方都市・田舎派＞が33.1%だったのに対しおいらせ町では16.6%で、かなり違いがある。一方で、轡田（2015 : 152）の府中町では＜その他＞（8.0%）に含まれているが、上のグラフでは独立させて集計した＜どこもいいとは思わない＞（Q2A～Q2Cいずれにも否定回答）の割合がおいらせ町において18.7%で、2番目に多くなっている[9]。このようになった原因として、調査項目の作成の際に、「青森市のような『地方都市』はいいと思う」というワーディングにしてしまったことが考えられる。

今回は両地域の単純な分布の比較や、2変数の分析が中心だったが、社会的属性を統制した分析や、他の意識項目との関連が、今後の分析の課題となる。

文献

吉川徹, 2009,『学歴分断社会』筑摩書房.
轡田竜蔵, 2015,『「広島20-30代住民意識調査」報告書（統計分析編）』公益財団法人マツダ財団.
轡田竜蔵, 2017,『地方暮らしの幸福と若者』勁草書房.

---

[7] 3つの項目がいずれか一つでも無回答の場合には、分析から除外した。

[8] 轡田（2015：152）にあるグラフは地方中枢都市が上、条件不利地域が下になっているが、今回は本章１節と合わせるために、それとは逆にしているので、比較する際には注意が必要である。

[9] この点が、１－１の最後に記した、肯定する地域規模の３項目がともにむつ市の方が高いことにも、関連している可能性が考えられる。

第２章　条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏在住の若者における移動経験と定住希望

成田　凌（首都大学東京大学院　博士後期課程）

２－１．はじめに

（1）本章の目的

本章の目的は、条件不利地域圏（むつ市）と地方中枢拠点都市圏（おいらせ町）在住[10]の若者における過去の移動経験と現住地域での定住希望・定住の見通し、車の所有状況について大まかな傾向をつかむことである。具体的には、①現住地での定住希望〔Q1g〕、②現住地での定住予測・見通し〔Q1h〕、③同居家族員の車の所有〔Q4〕、④居住歴（現住地が「地元」か／現住地に移ってきた経緯・理由）〔Q5〕、⑤引っ越し経験の有無・時期〔F9〕、⑥前住地（都道府県・市町村）〔F10〕、⑦引っ越した理由〔F11〕、の7変数の単純集計とクロス集計表の結果から検討する。

（2）使用するデータと回答者の基本属性

また、本章ではクロス集計表を作成する際に、性別、出身地、年代、学歴、婚姻状態、職業、個人年収などを独立変数とするが、次のように各変数を加工して用いた（表1）。「性別」は男性／女性、「出身地」は（調査対象）市町村内[11]／青森県内／青森県外、「年代」は30代（＝1978年5月～1988年4月生まれ）／20代（＝1988年5月～1998年5月生まれ）で区分した。「学歴」は高校卒業後の進路で移動経路が異なることを想定し、高卒以下（＝中卒・高卒）／高専・短大・大卒以上（＝専門学校卒、短大・高専卒、大学・大学院卒）で区別した[12]。「婚姻状態」は既婚／未婚[13]、「職業」はSSM調査の職業分類を参考にしつつ、かつ、海上自衛隊の基地所在地であるむつ市では自衛隊隊員（＝保安）が多いことが想定されるため、専門技術管理（＝専門・技術、管理）／事務販売（＝事務、販売）／サービス／製造・運輸・建設など（＝製造作業・機械操作、輸送・機械運転、運搬・清掃・包装、建設作業）／保安／農林漁業・その他（＝農林漁業、その他）[14]と区分した。そして年収は「個人年収」を用い、100万円未満（＝所得なし、100万円未満）／100万円台／200万円台／300万円台／400～500万円台／600万円台以上と区分した。

次節以降、過去の移動経験、および現住地域での定住希望・定住の見通しについて検討するが、それに先立ち、むつ市とおいらせ町の回答者の基本属性を示しておく[15]（表2）。性別はどちらともほぼ半数で、出身地はむつ市で市内出身者（70.3%）、県外出身者（13.9%）がやや多く、おいらせ町ではおいらせ町外の青森県出身者が3割強みられた。また、ともに年代は30代の方が多い（おおよそ20代：30代＝4：6）、婚姻状態も既婚者が4割前後、未婚者が6割前後である。学歴についても大きく違いはない

---

[10] 本調査では、轡田（2016）における「地方中枢拠点都市」とその都市圏外にある周辺地域としての「条件不利地域圏」（あるいは、「まち」と「いなか」）に対応するように、前者はおいらせ町、後者はむつ市が選定された。また選定にあたっては、両地域の人口規模が比較的に似通っている一方で人口動態が異なること、商業施設や住環境などが「地方都市」的／「田舎」的であること、両地域に社会経済的な結びつきがあること（雇用圏や平日生活圏は異なるが、休日生活圏は重なる）なども検討されている。調査対象地選定理由および調査対象地の概要については、序章（羽渕）や第４章（白石）、第11章（轡田）を参照。

[11] むつ市の調査票ではむつ市（旧むつ市、旧大畑町、旧脇野沢村、旧川内町を含む）出身者が、おいらせ町の調査票ではおいらせ町（旧百石町、旧下田町を含む）出身者が該当する。

[12] そのため、ここでは（専門学校、高専・短大、大学・大学院）「在学中」を除いた。

[13] クロス集計をおこなう際に該当者が少数であったこと（むつ22人、おいらせ21人）、別に詳細な解釈が必要となることなどをふまえ、本稿では「離死別」者を除外して分析をおこなった。

[14] 「農林漁業」従事者が少数であったため（むつ2人、おいらせ9人）、本稿では「その他」の職業と合わせた。

[15] 各変数における集計結果や分析結果は、巻末の単純集計表および各章を参照。

が、むつ市は高卒以下が、おいらせ町は高専・短大・大卒以上が若干多くなっている。職業は、ともに事務販売が約 25%、専門技術管理とサービスがそれぞれ 20%前後、製造・運輸・建設なども 20%弱の割合だが、むつ市で保安が約 15%みられるのが特徴的である。個人年収は 100 万円以下が 2 割弱、100 万円台が 2 割前後、200 万円台が約 2 割と、どちらの地域も約 6 割が 200 万円台以下である。

表1　クロス集計表に用いた変数の説明

性別	男性／女性
出身地	（調査対象）市町村内／青森県内／青森県外
年代	20代＝1988年5月～1998年5月生まれ 30代＝1978年5月～1988年4月生まれ
学歴	高卒以下＝中卒、高卒 高専・短大・大卒以上＝専門学校卒、短大・高専卒、大卒・大学院卒
婚姻状態	既婚＝結婚している 未婚＝結婚したことはない
職業	専門技術管理＝A専門・技術、B管理 事務販売＝C事務、C販売 サービス＝Eサービス 製造・運輸・建設など＝F製造作業・機械操作、G輸送・機械運転、H運搬・清掃・包装、I建設作業 保安＝J保安 農林漁業・その他＝K農林漁業、Lその他
個人年収	100万円未満＝所得なし、100万円未満 100万円台／200万円台／300万円台／400～500万円台／600万円台以上＝600～700万円台、800～900万円台、1000万円以上

表2　回答者の基本属性

変数名		むつ %（人）	おいらせ %（人）
性別	男性	55.2（187）	47.4（161）
	女性	44.8（152）	52.6（179）
出身地	市町村内	70.3（227）	58.1（186）
	青森県内	15.8（ 51）	33.8（318）
	青森県外	13.9（ 45）	8.1（ 26）
年代	20代	41.3（140）	42.6（145）
	30代	58.7（199）	57.4（195）
学歴	高卒以下	52.2（167）	47.6（150）
	高専・短大・大卒以上	47.8（153）	52.4（165）
婚姻状態	既婚	43.4（133）	39.4（121）
	未婚	56.7（174）	60.6（186）

変数名		むつ %（人）	おいらせ %（人）
職業	専門技術管理	19.9（ 57）	24.9（ 75）
	事務販売	24.5（ 70）	23.9（ 72）
	サービス	17.5（ 50）	21.9（ 66）
	製造・運輸・建設など	16.8（ 48）	18.9（ 57）
	保安	15.4（ 44）	3.3（ 10）
	農林漁業・その他	5.9（ 17）	7.0（ 21）
個人年収	100万円未満	19.1（ 61）	17.6（ 56）
	100万円台	16.3（ 52）	21.9（ 70）
	200万円台	22.9（ 73）	21.0（ 67）
	300万円台	18.8（ 60）	20.4（ 65）
	400～500万円台	17.6（ 56）	16.0（ 51）
	600万円台以上	5.3（ 17）	3.1（ 10）

２－２．引っ越し経験の有無、および前住地からの引っ越し理由

ここでは、F9「あなたが現住地に引っ越された時期をお教えください〔A□年前／B 引っ越したことはない〕」、F11「あなたが現在引っ越された理由についてお答えください〔複数回答〕」の回答結果から、引っ越し経験の有無、およびその時期と理由についてみていきたい。

（1）単純集計

まず、引っ越し経験の有無を確認しておきたい（表 3）。引っ越した経験がある回答者は、むつ市が 73.9%、おいらせ町が 71.4%と両地域とも、7 割以上の回答者が出身地域からの引っ越しを経験していた。したがって、一度も「引っ越したことがない」という回答者は、ともに約 4 分の 1 前後であった（むつ市が 26.1%、おいらせ町が 28.6%）。

表3　引っ越し経験の有無

	むつ	おいらせ
引っ越したことがある	73.9	71.4
引っ越したことはない	26.1	28.6
N	329	329

また、引っ越し経験者のうち現住地に引っ越してきた時期を表 4 に示した[16]。両地域を比較すると、むつ市の方が現住地域での居住年数が短い傾向にある。むつ市では、5 年以内に引っ越してきた回答者が 53.1%、10 年以内に引っ越してきた回答者となると 80.9%と 8 割を超える。一方のおいらせ町では、5 年以内に引っ越してきた回答者が 46.2%、10 年以内で 71.6%だった。つまり、現住地域に引っ越してきてから 10 年以上経過している回答者は 3 割に満たない（むつ市が 19.1%、おいらせ町が 28.4%）。

さらに、現住地に引っ越してきた理由をみてみたい（表 5）。むつ市・おいらせ町ともに「その他」の割合が最も多かったが[17]、それを除くと、引っ越し理由として多くあげられていた項目は、むつ市では、回答者自身の転勤（34.0%）、住宅の購入・建設（13.0%）、おいらせ町では、住宅の購入・建設（28.9%）、自身の転勤（16.2%）だった。他方で、回答者自身や配偶者の親との同居のために引っ越してきたという割合は、両地域とも、いずれの選択肢も 5%前後にとどまった。以上のように、むつ市では「自身の仕事のため」に引っ越してきており、おいらせ町では、「住宅の購入のため」に転居している傾向があることを指摘できよう。

[16] なお、調査票の選択肢は「A. □年前／B. 引っ越したことはない」である。なかには「6 か月」や「1.5 年」という回答もみられたが、その場合には切り上げる処理を施した。

[17] ただし、むつ市・おいらせ町ともに「その他」と回答した割合が最も高かったため、調査票における選択肢の設定が適当ではなかった可能性もあるため、その点は留意する必要がある。

表4　現住地に引っ越してきた時期（□年前）

	むつ		おいらせ	
	（%）	累積（%）	（%）	累積（%）
1	17.0	17.0	11.9	11.9
2	8.7	25.7	8.5	20.3
3	7.5	33.2	8.5	28.8
4	10.4	43.6	6.8	35.6
5	9.5	53.1	10.6	46.2
6	6.6	59.8	6.4	52.5
7	4.1	63.9	6.4	58.9
8	5.4	69.3	3.4	62.3
9	2.5	71.8	3.0	65.3
10	9.1	80.9	6.4	71.6
11	2.1	83.0	3.0	74.6
12	1.2	84.2	2.1	76.7
13	3.7	88.0	0.8	77.5
14	0.8	88.8	2.5	80.1
15	1.7	90.5	2.5	82.6
16	1.7	92.1	0.8	83.5
17	1.2	93.4	2.1	85.6
18	0.8	94.2	1.7	87.3
19	0.4	94.6	0.4	87.7
20	1.2	95.9	1.7	89.4
21	0.4	96.3	2.1	91.5
22	0.0	96.3	2.1	93.6
23	0.0	96.3	2.5	96.2
24	0.4	96.7	0.8	97.0
25	0.4	97.1	2.1	99.2
26	0.0	97.1	0.0	99.2
27	0.0	97.1	0.0	99.2
28	0.4	97.5	0.0	99.2
29	0.0	97.5	0.4	99.6
30	0.8	98.3	0.0	99.6
31	0.0	98.3	0.0	99.6
32	0.4	98.8	0.4	100.0
33	0.0	98.8	0.0	100.0
34	0.4	99.2	0.0	100.0
35	0.4	99.6	0.0	100.0
36	0.0	99.6	0.0	100.0
37	0.4	100.0	0.0	100.0
38	0.0	100.0	0.0	100.0
39	0.0	100.0	0.0	100.0
N	241		236	

表5　現住地に引っ越した理由（複数回答可）

	むつ			おいらせ		
	あてはまる	あてはまらない	N	あてはまる	あてはまらない	N
自身の転勤	34.0	66.0	238	16.2	83.8	228
配偶者の転勤	5.0	95.0	238	5.3	94.7	228
子どもの進学	2.5	97.5	238	1.8	98.2	228
住宅の購入や建設など	13.0	87.0	238	28.9	71.1	228
自身の親との同居の必要	5.0	95.0	238	5.7	94.3	228
配偶者の親との同居の必要	3.8	96.2	238	4.8	95.2	228
その他	39.9	60.1	238	40.6	59.4	229

表6　現住地に引っ越した理由（「その他」自由回答）：むつ市

	区分	その他：回答内容（自由記述）		（%）
1	進学	自身の進学	1.1	2.2
2		進学（自分）	1.1	
3	卒業	専門学校を経て帰ってきた	1.1	5.6
4		大学卒業	1.1	
5		短大を卒業したから地元へ帰った	1.1	
6		他の地域で学生	1.1	
7		学校卒業したので、一度戻るようにと親が	1.1	
8	自立	自立	1.1	4.4
9		一人暮らしへの憧れ	1.1	
10		一人立ち	1.1	
11		母親（弟）との生き方・考え方（価値観）の違い	1.1	
12	地元貢献	地元でなにかしたくて	1.1	1.1
13	就職	自分の就職	1.1	23.3
14		就職	7.8	
15		就職（自分）	1.1	
16		就職してすぐの勤務地が現在地	1.1	
17		就職のため	3.3	
18		就職のため上京	1.1	
19		就職の為	1.1	
20		職場から奨学金を借りていたため	1.1	
21		大学卒業し、就職の為	1.1	
22		大学卒業後の就職先だったため	1.1	
23		部隊配属	1.1	
24		寮生活のため	1.1	
25		仕事のため	1.1	
26	会社経営	会社経営	1.1	1.1
27	家業継承	親のお店を継ぐため	1.1	1.1
28	転職	自分の転職	1.1	3.3
29		転職	2.2	
30	退職	仕事を辞めたため	1.1	5.6
31		退職して戻ってきた	1.1	
32		退職のため	1.1	
33		期間工の契約期間が終了したが当時は再就職先も将来のことも不透明だった	1.1	
34		大学中退⇒フリーターになり仕送りをもらっていたが仕送り続けられない	1.1	

表6 （続き）現住地に引っ越した理由（「その他」自由回答）：むつ市

35	結婚・同棲	結婚	5.6	17.8
36		結婚し、今の主人の仕事場がむつ市だったため	1.1	
37		結婚してむつ市に住んで、離婚してからもそのまま住み続けている	1.1	
38		結婚でアパートを借りた	1.1	
39		結婚のため	2.2	
40		結婚の為	1.1	
41		結婚を期に	1.1	
42		今の配偶者と、結婚するため	1.1	
43		同棲をするため	1.1	
44		配偶者との結婚	1.1	
45		配偶者との同せい	1.1	
46	出産・子育て	家族会議の結果、小さい子どもがいた為	1.1	4.4
47		子どもができたから	1.1	
48		子どもが産まれるにあたって地元で子育てするため	1.1	
49		出産のため、後の生活のため	1.1	
50	離婚	自分の離婚を機に	1.1	3.3
51		離婚	2.2	
52	住居	シャワーのある家、広めの家	1.1	4.4
53		建物に不満があったから	1.1	
54		県営住宅の募集があったから	1.1	
55		市営住宅の抽選	1.1	
56	立地	職場が六ヶ所のため	1.1	1.1
57	建て替え	実家（産まれた時から。結婚後同じ敷地に新築した）	1.1	1.1
58	親・配偶者との同居	親（配偶者）との同居をした為	1.1	1.1
59	配偶者の転職	配偶者の転職　※もと配偶者？	1.1	1.1
60	親の看護・介護	親の病気	1.1	1.1
61	親の離婚	両親のりこん	1.1	1.1
62	親の転勤	親の転勤	2.2	4.4
63		父の転勤	2.2	
64	実家建て替え	父が住宅を建てたから	1.1	2.2
65		実家が売却された	1.1	
66	祖父母との同居	祖父、祖母との同居のため	1.1	2.2
67	祖父母との同居	祖父母の介護・就職が両立できなかったため	1.1	
68	不明	今住んでいる地域が「地元」であり、今も他の地域の学校に行っている。	1.1	6.7
69		実家へ戻った	1.1	
70		出戻り	1.1	
71		地元に戻ってきた	1.1	
72		家族の都合で	1.1	
73		転勤	1.1	
			N	90

表7　現住地に引っ越した理由（「その他」自由回答）：おいらせ町

	区分	その他：回答内容（自由記述）		（%）
1	進学	学校へ行くため	1.2	7.3
2		自分の進学	2.4	
3		進学	3.7	
4	卒業	学校卒業	1.2	3.7
5		専門学校卒業したから	1.2	
6		大学の卒業	1.2	
7	退学	自分の退学	1.2	1.2
8	自立	親からの自立	1.2	1.2
9	就職	就職	3.7	9.8
10		大学を卒業し、地元に就職したため	1.2	
11		大学卒業後、地元に戻って就職したため	1.2	
12		Uターン就職	1.2	
13		就職（自分の）	1.2	
14		就職のため	1.2	
15	退職	県外に就職していたが退職したため	1.2	5.6
16		仕事をやめた為	1.2	
17		仕事を辞めたため	1.2	
18		退職	1.2	
19		退職後地元に帰ってきた	1.2	
20	転職	転職	2.4	2.4
21	都会脱出	都会の生活に疲れて地元に戻ろうと思った	1.2	2.4
22		都会の生活に満足した	1.2	
23	結婚・同棲	結婚	12.2	20.7
24		結婚したから	1.2	
25		結婚したため	1.2	
26		結婚のため	1.2	
27		結婚予定のため	1.2	
28		配偶者との結婚で2人暮らしをするため	1.2	
29		恋人との同居	1.2	
30		恋人と同棲する為	1.2	
31	出産・子育て	戸建て借家でないと小さい子を複数名育てる事に気を遣う為（音の問題）	1.2	2.4
32		出産	1.2	
33	離婚	離婚	4.9	8.5
34		離婚・親の離婚が重なったから	1.2	
35		離婚したため	1.2	
36		離婚した為	1.2	
37	住居	アパート	1.2	8.5
38		アパートが狭いため	1.2	
39		より良い借家（広さ、ペット可）を求めて	1.2	
40		家探し	1.2	
41		会社の借り上げ住宅の変更のため	1.2	
42		公営住宅の入居が決まったから	1.2	
43		立ち退き	1.2	
44	立地	仕事の通勤のため	1.2	3.7
45		自分と配偶者の職場の中間地点	1.2	
46		実家にも近く、勤務地にも近いため	1.2	
47	配偶者の親との同居	生活難を予想し、夫の両親の家にころがりこんだ	1.2	1.2
48	その他：配偶者の希望	配偶者が自分の地元に帰りたいと望んだため	1.2	1.2
49	親との近居	親との近居の必要	1.2	2.4
50		親の近くにいようと思ったため（同居ではない）	1.2	

表7（続き）現住地に引っ越した理由（「その他」自由回答）：おいらせ町

51	親の転勤	親の転勤	2.4	7.3
52		父の転勤	3.7	
53		父親の転勤	1.2	
54	親の結婚	結婚（親）	1.2	1.2
55	親の離婚	両親の離婚	1.2	1.2
56	実家建て替え	親の住宅の建築	1.2	1.2
57	祖父母との同居	祖父祖母との同居	1.2	4.4
58		祖父母との同居	1.2	
59		祖父母と同居の必要	1.2	
60		祖父母の同居	1.2	
61	不明	実家の都合	1.2	1.2
			N	82

あわせて、「その他」で自由記述された回答の内容をみていきたい[18]（表 6 および表 7）。回答者自身に関するものとして、「進学」「卒業」「退学」「自立」（「地元貢献」）「都会脱出」「就職」「会社経営」「家業継承」「転職」「転勤」「退職」「結婚・（配偶者・恋人との）同棲」「出産・子育て」「離婚」「住居」「立地」「建て替え」があげられていた[19]。また、配偶者や親などとの関連するものとして、「親・配偶者との同居」「配偶者の親との同居」「配偶者の転職」「その他：配偶者の希望」、「親の看護・介護」「親との近居」「親の転勤」「親の結婚」「親の離婚」「実家の建て替え」「祖父母との同居」があげられた。

むつ市では「自身の就職」23.3%、「転職」3.3%など仕事関連の理由が約 25%あった。また、「配偶者や恋人との結婚・同棲」が 17.8%、「出産・子育て」関連が 4.8%と合わせて 20%をこえる。その他、「学校の卒業」や「退職」「離婚」したために戻ってきたというケースがそれぞれ 5%前後みられた。一方のおいらせ町では、「自身の就職」が 9.8%と、むつ市と比較すると少なかった。他方で「配偶者や恋人との結婚・同棲」が 20.7%、また「住居」や「立地」など住み替え関連のために引っ越したというケースが 10%程度みられるのが、むつ市とやや異なる点といえる。また、「（義）両親との近居」や「祖父母との同居」のためという記述もやや多くみられた。先の回答もあわせると、むつ市は仕事関連での、おいらせ町は住宅の購入や同居をともなう住み替えによる転入が多い点が、それぞれ地域の特徴だといえそうである。

（2）クロス表集計①：属性別にみる引っ越し経験の有無

続いて、性別、年代、学歴、職業、個人年収ごとに引っ越し経験の有無をみていきたい（表 8）。性別では、むつ市の女性の引っ越し経験有がほかに比べて 5%以上高い（77.6%）。年代別でみると、ともに 20 代が 65%前後、30 代が 8 割弱引っ越しを経験している。学歴別では、高卒以下はほぼ同じだが（約 65%）、むつ市の専門・短大・大卒以上が 82.7%とおいらせに比べて 7%、高卒以下と比べると約 15%高い。職業別にみると、両地域とも保安（むつ市 95.3%、おいらせ町 100.0%）、専門技術管理（むつ市 80.0%、おいらせ町 80.3%）で引っ越し経験有の割合が高い。両地域で傾向は異なるが、保安や専門技術管理に比べると事務販売（むつ市 67.6%、おいらせ町 76.1%）、サービス（むつ市 71.4%、おいらせ

[18] 「その他」の回答の区分は、以下の手順でおこなった。回答内容をもとに成田が草案を作成し、この分類が適切かを白石と成田の二人で検討した。なお、主体が不明瞭だったり、理由ではなく経緯を回答していたり、区分が難しいと判断した回答内容を「不明」に分類した。

[19] 「住居」と「立地」の区別は、アパートなどの住み替えを主と判断した回答を「住居」に、通勤などの利便性を重視しての転居が主と判断した回答を「立地」に分類した。

町 61.5%)、製造・運輸・建設など（むつ市 61.7%、おいらせ町 68.4%）の方が低い。個人年収別では、ともに 100 万円台が引っ越した経験のある人の割合が最も低く（むつ市 57.7%、おいらせ町 58.8%)、また個人年収が 200 万円台以下と 300 万円台以上では引っ越し経験の有無に違いがみられる。言い換えれば、個人年収が低い人ほど、引っ越しを経験していない傾向にあるといえそうである。

表8 クロス集計（引っ越し経験の有無×性別・年代・学歴・婚姻状態・職業・個人年収）

		むつ			おいらせ		
		引っ越したことがある	引っ越したことはない	N	引っ越したことがある	引っ越したことはない	N
		73.9%	26.1%	329	71.4%	28.6%	329
性別	男性	70.7%	29.3%	181	70.7%	29.3%	157
	女性	77.6%	22.4%	147	72.1%	27.9%	172
年代	20代	65.9%	34.1%	135	63.6%	36.4%	140
	30代	79.3%	20.7%	193	77.2%	22.8%	189
学歴	高卒以下	67.9%	32.1%	162	65.8%	34.2%	146
	専門・短大・大卒以上	82.7%	17.3%	150	75.3%	24.7%	158
婚姻状態	既婚	85.5%	14.5%	131	94.2%	5.8%	120
	未婚	63.2%	36.8%	171	56.8%	43.2%	183
職業	専門技術管理	80.0%	20.0%	55	80.3%	19.7%	71
	事務販売	67.6%	32.4%	68	76.1%	23.9%	67
	サービス	71.4%	28.6%	49	61.5%	38.5%	65
	製造・運輸・建設など	61.7%	38.3%	47	68.4%	31.6%	57
	保安	95.3%	4.7%	43	100.0%	0.0%	10
	農林漁業・その他	82.4%	17.6%	17	57.1%	42.9%	21
個人年収	100万円未満	63.2%	36.8%	57	74.5%	25.5%	55
	100万円台	57.7%	42.3%	52	58.8%	41.2%	68
	200万円台	70.0%	30.0%	70	63.1%	36.9%	65
	300万円台	82.8%	17.2%	58	81.0%	19.0%	63
	400～500万円台	92.9%	7.1%	56	85.7%	14.3%	49
	600万円台以上	87.5%	12.5%	16	80.0%	20.0%	10

（3）移動経験者の前住地

ここでは、F10「現住地に引っ越される前の地域についてお教えください〔都道府県・市町村〕」の回答結果から、移動経験者の前住地についてまとめる。

表 9 に示したように、前住地の都道府県のうち、青森県と回答した割合がどちらとも最も多かった（むつ市 56.2%、おいらせ町 68.8%)。

むつ市では、青森県内が 56.2%と半数をやや超える程度でとどまり、北海道（8.2%)、神奈川県（6.9%)、東京都（5.2%）など大都市部からの転入がみられる。青森県内では、現むつ市内での引っ越しが 3 割弱、次いで青森市（7.5%)、弘前市（4.8%)、八戸市（4.4%）と 3 都市からの引っ越しが多い（表 10)。また、むつ市における県外からの転入では、函館市・余市町・横須賀市・舞鶴市・江田島市・佐世保市・那覇市といった海上自衛隊の基地所在地となっている自治体からの転入がみられることも特徴といえるだろう。

おいらせ町では、青森県内で約 7 割、北海道・東北地方で 8 割となる。また、埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県の首都圏が合わせて 12.0%となっている。前住地が青森県内であっても、むつ市の場合と

は傾向が異なり、現おいらせ町内が 15.7%、八戸市が 18.3%、三沢市が 17.5%など、近隣の市町村からの転入が多くみられる（表 11）。

表9　前住の都道府県

		むつ			おいらせ	
		（%）	累積（%）		（%）	累積（%）
北海道	北海道	8.2	8.2	北海道	3.0	3.0
東北	青森県	56.2	64.4	青森県	68.8	71.8
	岩手県	2.1	66.5	岩手県	3.0	74.8
	宮城県	3.9	70.4	宮城県	4.3	79.1
	秋田県	1.3	71.7	秋田県	0.4	79.5
	山形県	0.9	72.5	山形県	—	—
	福島県	0.9	73.4	福島県	0.9	80.3
関東	茨城県	0.4	73.8	茨城県	—	—
	栃木県	0.4	74.2	栃木県	0.4	80.8
	群馬県	0.4	74.7	群馬県	0.4	81.2
（首都圏）	埼玉県	3.4	78.1	埼玉県	2.6	83.8
	千葉県	1.3	79.4	千葉県	1.7	85.5
	東京都	5.2	84.5	東京都	5.1	90.6
	神奈川県	6.9	91.4	神奈川県	2.6	93.2
	石川県	0.4	91.8	石川県	0.4	93.6
	静岡県	0.9	92.7	長野県	0.4	94.0
	愛知県	0.9	93.6	岐阜県	0.9	94.9
	京都府	0.4	94.0	静岡県	0.9	95.7
	大阪府	0.9	94.8	愛知県	0.4	96.2
	奈良県	0.4	95.3	京都府	0.4	96.6
	岡山県	0.4	95.7	奈良県	0.4	97.0
	広島県	1.3	97.0	高知県	0.4	97.4
	香川県	0.9	97.9	福岡県	1.3	98.7
	福岡県	0.4	98.3	佐賀県	0.4	99.1
	長崎県	1.3	99.6	宮崎県	0.4	99.6
	沖縄県	0.4	100.0	沖縄県	0.4	100.0
N		233			234	

表10　前住の市町村（むつ市）

		むつ (%)
北海道（19）	石狩市	0.4
	恵庭市	0.4
	旭川市	0.4
	札幌市	1.8
	網走市	0.4
	※ 函館市	3.5
	※ 余市町	0.4
	室蘭市	0.4
	江別市	0.4
青森県（131）	※ むつ市	26.4
	旧大畑町（現むつ市）	1.8
	旧川内町（現むつ市）	0.9
	大間町	0.4
	東通村	2.2
	横浜町	1.3
	六ケ所村	0.4
	野辺地町	0.9
	青森市	7.5
	平内町	0.4
	※ 八戸市	4.4
	南部町	0.4
	十和田市	1.3
	三沢市	2.2
	弘前市	4.8
	五所川原市	0.4
	鰺ヶ沢町	0.9
	深浦町	0.4
青森県以外の東北（22）	盛岡市	1.8
	北上市	0.4
	仙台市	4.0
	にかほ市	0.4
	能代市	0.4
	秋田市	0.4
	寒河江市	0.9
	平田村	0.4
	いわき市	0.4
北関東（3）	宇都宮市	0.4
	東海村	0.4
	太田市	0.4
首都圏（35）	朝霞市	0.4
	寄居町	0.4
	所沢市	0.4
	さいたま市	0.9
	鶴ヶ島市	0.4
	日高市	0.4
	川越市	0.4
	市川市	0.4
	松戸市	0.4
	府中市	0.4
	目黒区	0.4
	板橋区	0.4
	港区	0.4
	文京区	0.4
	世田谷区	0.4
	杉並区	0.4
	日野市	0.4
	調布市	0.4
	川崎市	0.4
	相模原市	0.4
	横浜市	2.2
	※ 横須賀市	2.6
	※ 厚木市	0.4
	鶴見区	0.4
	海老名市	0.4
その他（19）	輪島市	0.4
	清水町	0.4
	御前崎市	0.4
	名古屋市	0.4
	小牧市	0.4
	※ 舞鶴	0.4
	大阪市	0.4
	天理市	0.4
	倉敷市	0.4
	※ 江田島市	1.3
	高松市	0.4
	坂出	0.4
	北九州市	0.4
	※ 佐世保市	0.4
	大村市	0.9
	※ 那覇市	0.4
	N	227

注）海上自衛隊の基地所在自治体に「※」を付した

表11　前住の市町村（おいらせ町）

		おいらせ（%）
北海道（7）	札幌市	1.3
	函館市	0.4
	根室市	0.4
	千歳市	0.4
青森県（161）	おいらせ町	15.3
	旧下田町（現おいらせ町）	0.4
	八戸市	18.3
	三沢市	17.5
	六戸町	1.7
	五戸町	0.9
	十和田市	4.8
	六ケ所村	1.7
	旧天間村林（現七戸町）	0.4
	東北町	0.4
	階上町	0.4
	三戸町	0.4
	むつ市	0.9
	青森市	4.8
	弘前市	1.7
	鰺ヶ沢町	0.4
青森県以外の東北（19）	盛岡市	1.3
	滝沢市	0.9
	久慈市	0.4
	山田町	0.4
	東松島市	0.9
	富谷市	0.4
	栗原市	0.4
	仙台市	1.7
	石巻市	0.4
	秋田市	0.4
	福島市	0.4
	二本松市	0.4
北関東（2）	日光市	0.4
	高崎市	0.4
首都圏（25）	坂戸市	0.4
	嵐山町	0.4
	日高市	0.4
	草加市	0.4
	熊谷市	0.9
	市川市	0.4
	八千代市	0.4
	船橋市	0.9
	八王子市	0.9
	国立市	0.4
	中野区	0.9
	台東区	0.9
	葛飾区	0.4
	日野市	0.4
	川崎市	0.4
	相模原市	0.4
	茅ヶ崎市	0.9
	横浜市	0.4
	横須賀市	0.4
その他（16）	白山市	0.4
	長野市	0.4
	各務原市	0.9
	浜松市	0.4
	沼津市	0.4
	一宮市	0.4
	京都市	0.4
	奈良市	0.4
	南国市	0.4
	広川町	0.4
	春日市	0.4
	福岡市	0.4
	唐津市	0.4
	宮崎市	0.4
	那覇市	0.4
	N	229

２－３．居住歴、および現在の地域に移ってきた経緯・理由

ここでは、問 5 の「居住歴について、以下から最も近い選択肢ひとつに〇をつけてください〔選択肢は表 12 を参照〕」の回答結果から、現住の地域が「地元」であるか、そして現住の地域に移ってきた経緯・理由についてまとめる。

(1) 単純集計

まず、表 12 から現住の地域が「地元」であるかを確認しておく[20]。現住の地域が「地元」である割合は、むつ市が 67.5%、おいらせ町が 60.0%で回答者の 6 割以上だった。さらに現在の地域に移ってきた経緯を詳しくみていくと、むつ市・おいらせ町のどちらとも、「他の地域で暮らしたことが無い」と回答した、いわゆる「土着層」は約 25%だった。また、他の地域での生活を経験して戻ってきた「U ターン層」は、むつ市で 43.6%、おいらせ町で 35.6%だった。経緯別にみると、「学校卒業（中退）後、戻ってきた」がむつ市で 24.2%、おいらせ町で 19.9%と 2 割前後おり、「他の地域で就職後、戻ってきた」者は若干おいらせ町の方が少ないが、ともに 2 割弱存在した（むつ市 19.4%、おいらせ町 15.7%）。

他の地域が「地元」である、いわゆる「転入層」の割合は、むつ市が 29.0%、おいらせ町が 36.3%と、おいらせ町の方が約 7%高かった。現住の地域に移ってきた理由として、むつ市では「仕事」（19.1%）が大半を占めており、そのほかの理由をあげた回答者はそれぞれ 5%に満たなかった。他方おいらせ町では、「結婚」が 11.1%、「住み替え」が 11.1%、「仕事」が 9.0%と、この 3 項目がそれぞれ 1 割前後あげられた。

表12 居住歴

		むつ (N=335)	おいらせ (N=332)	
現住の地域が「地元」	他の地域で暮らしたことがない	23.9	24.4	（土着層）
	他の地域の学校を卒業(または中退)後、戻ってきた	24.2	19.9	（Uターン層）
	他の地域で就職後、戻ってきた	19.4	15.7	
他の地域が「地元」	結婚のため今住んでいる地域に移った	4.5	11.1	（転入層）
	仕事のため今住んでいる地域に移った	19.1	9.0	
	就学のため今住んでいる地域に移った	1.5	0.9	
	住み替えのため今住んでいる地域に移った	0.9	11.1	
	家族の都合で今住んでいる地域に移った	3.0	4.2	
その他	その他	3.6	3.6	（その他）

(2) 属性別の居住歴

続いて、性別、年代、学歴、婚姻状態、職業、個人年収によって居住歴（「土着層」／「U ターン層」／「転入層」）が異なるのかを確認してみたい[21]（表 13）。

---

[20] 本章では、「その他」の回答内容についての分析はおこなわない。また、「その他」の自由回答の記述内容をふまえて再分類して分析をおこなった轡田の分析結果と異なっている場合がある点に注意。

[21] なお、「その他」は分析から除外している。本章での居住歴の分類、および用いた選択肢は次の通り。「土着層」＝「A 今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域で暮らしたことがない」。「U ターン層」＝「B 今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域の学校を卒業（または中退）後、戻ってきた」／「C 今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域で就職後、戻ってきた」。「転入層」＝「D 結婚のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である」／「E 仕事のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である」／「F 就学のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である」／「G 住み替えのため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である」／「H 家族

表13 クロス集計表（居住歴×性別・年代・学歴・職業・個人年収）

		むつ				おいらせ			
		土着層	Uターン層	転入層	N	土着層	Uターン層	転入層	N
		24.8%	**45.2%**	30.0%	323	25.3%	36.9%	**37.8%**	320
性別	男性	20.7%	**43.6%**	35.8%	179	23.5%	**42.5%**	34.0%	153
	女性	29.4%	**47.6%**	23.1%	143	26.9%	31.7%	**41.3%**	167
年代	20代	27.6%	**41.0%**	31.3%	134	31.8%	**39.4%**	28.8%	132
	30代	22.3%	**48.4%**	29.3%	188	20.7%	35.1%	**44.1%**	188
学歴	高卒以下	**41.0%**	32.9%	26.1%	161	36.4%	25.0%	**38.6%**	140
	専門・短大・大卒以上	4.2%	**61.8%**	34.0%	144	19.0%	**44.9%**	36.1%	158
婚姻状態	既婚	18.9%	**45.7%**	35.4%	127	13.6%	20.3%	**66.1%**	118
	未婚	29.9%	**44.5%**	25.6%	164	34.9%	**44.2%**	20.9%	172
職業	専門技術管理	9.6%	**61.5%**	28.8%	52	18.9%	37.8%	**43.2%**	74
	事務販売	26.6%	**59.4%**	14.1%	64	25.4%	**44.8%**	29.9%	67
	サービス	30.6%	**49.0%**	20.4%	49	32.2%	**33.9%**	**33.9%**	59
	製造・運輸・建設など	**42.6%**	36.2%	21.3%	47	**35.8%**	32.1%	32.1%	53
	保安	7.0%	18.6%	**74.4%**	43	0.0%	10.0%	**90.0%**	10
	農林漁業・その他	17.6%	**47.1%**	35.3%	17	28.6%	**42.9%**	28.6%	21
個人年収	100万円未満	**40.7%**	30.5%	28.8%	59	13.2%	37.7%	**49.1%**	53
	100万円台	38.0%	**48.0%**	14.0%	50	**38.8%**	34.3%	26.9%	67
	200万円台	21.7%	**59.4%**	18.8%	69	**36.5%**	31.7%	31.7%	63
	300万円台	17.5%	**50.9%**	31.6%	57	18.6%	**44.1%**	37.3%	59
	400～500万円台	7.8%	37.3%	**54.9%**	51	10.0%	40.0%	**50.0%**	50
	600万円台以上	17.6%	17.6%	**64.7%**	17	20.0%	30.0%	**50.0%**	10

注）行で最も割合の高い箇所を太字にした。

性別でみると、むつ市ではともにUターン層が最も多い（男性43.6%、女性47.6%）。対しておいらせ町では、男性はUターン層が最も多いが（42.5%）、女性は転入層が最も多くなっている（41.3%）。年代別では、おいらせ町の30代で転入層が最も高い割合を示す（44.1%）のを除けば、Uターン層が多くなっている（むつ市：20代41.0%、30代48.4%／おいらせ町：20代39.4%）。学歴別では、専門・短大・大学以上では（10ポイント以上の差はあるものの）、ともにUターン層が多い（むつ市61.8%、おいらせ町44.9%）。他方、高卒以下では、むつ市では土着層が最も多い（41.0%）のに対し、おいらせ町は（こちらはわずか2ポイントの差だが）転入層の方が多い（38.6%）。また、むつ市内から通学できる高等教育機関が限られていることもあり、専門・短大・大卒以上の土着層はほぼみられなかった（4.2%）。婚姻状態別でも基本的にUターン層が多いが、おいらせ町の既婚者だけは転入層が最も高かった(66.1%)。職業別では、保安は両地域ともに転入層が多い（むつ市74.4%、おいらせ町90.0%）のに対し、製造・運輸・建設などは両地域とも土着層の占める割合が高かった（むつ市42.6%、おいらせ町35.8%）。また事務販売とサービスの多くはUターン層が占めているが、専門技術管理は、むつ市ではUターン層が61.5%（土着層はわずか9.6%）、おいらせ町では転入層が43.2%であり、職業によって居住歴が異なる傾向にあった。そして個人年収別では、明確な違いがみられた。むつ市では、年収が高いのは転入層で（600万円以上：64.7%、400～500万円台：54.9%）、Uターン層は100万円台～300

の都合のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である」。

万円台に多く、100 万円未満に土着層が最も多い（40.7%）。くわえて、年収のカテゴリが下がるにつれて、土着層の占める割合が増加する傾向にあり、転入層のそれとは対照的である。他方のおいらせ町も、やや極端な傾向がみられ、100 万円未満と 400～500 万円台と 600 万円以上のカテゴリでは転入層が最も多い（100 万円未満：49.1%、400～500 万円台：50.0%、600 万円以上：50.0%）一方で、100 万円台と 200 万円台は土着層が最も多いことが明らかになった（100 万円台：38.8%、36.5%）。

２－４．車の所有状況

ここでは、問 4 の「あなたが同居されているご家族で車をもっている方はどなたですか〔複数回答。選択肢は表 14 参照〕」の回答結果から、同居家族員の車の所有状況をみていきたい。

（1）単純集計

表 14 に示したように、むつ市・おいらせ町ともに、一家族で車を保有している割合の高さが指摘できる。回答者自身も含めて、同居している家族員の誰かが車を所有している割合は、むつ市が 97.0%、おいらせ町が 98.8%だった。また回答者自身に限定しても、車の所有率はむつ市で 76.2%、おいらせ町で 82.4%だった。両地域で比較したとき、回答者自身、きょうだい、父親、母親それぞれにおいて、おいらせ町の方が 10 ポイント前後、所有率が高い。ただし、この単純集計表のみでは同居者がいる回答者が少なかったのか、あるいは同居家族員の自家用車の所有率が低いのかは不明であるため、後ほど確認する。

表14 同居家族員の車の所有状況

	むつ			おいらせ		
	所有	非所有／非同居	N	所有	非所有／非同居	N
同居家族員の誰か	97.0	3.0	333	98.8	1.2	334
自分	77.8	22.2	333	83.8	16.2	334
配偶者	36.4	63.6	332	36.1	64.2	332
父親	39.0	61.0	333	51.1	49.2	333
母親	35.4	64.6	333	53.2	46.8	333
きょうだい	14.4	85.6	333	25.7	74.3	334
祖父	3.6	96.4	333	3.9	96.1	334
祖母	1.2	98.8	333	3.6	96.4	333
子ども	0.9	99.1	333	1.8	98.2	334

（2）クロス表集計①：回答者の車の所有状況

続いてクロス表集計の結果をもとに、回答者自身の車の所有状況について、性別、年代、学歴、職業、個人年収別にみていく。全体的に 7 割以上という高い割合で自身の車を所有していることを前提としながらも、表 15 から車の所有状況を概観してみると、「むつ市（条件不利地域圏）」の「高卒以下」の「20 代」「女性」はほかのカテゴリに比べると若干低い傾向にある。他方、「おいらせ町（地方中枢拠点都市圏）」の「専門・短大・大卒以上」の「30 代」「男性」は若干高い傾向がみられ、「むつ市（条件不利地域圏）」の「高卒以下」の「20 代」「女性」と対照的である。また、もう一点注目されるのは、個人年収が 100 万円台の車の所有状況である。むつ市（65.4%）とおいらせ町（85.5%）で 20 ポイントの差があった。

表15 クロス集計表（回答者の車の所有状況×性別・年代・学歴・職業・個人年収）

		むつ			おいらせ		
		車あり	車なし	N	車あり	車なし	N
		77.8%	22.2%	333	83.8%	16.2%	334
性別	男性	80.7%	19.3%	181	87.9%	12.1%	157
	女性	74.2%	25.8%	151	80.2%	19.8%	177
年代	20代	68.8%	31.2%	138	79.4%	20.6%	141
	30代	84.0%	16.0%	194	87.0%	13.0%	193
学歴	高卒以下	76.7%	23.3%	163	84.4%	15.6%	147
	専門・短大・大卒以上	83.3%	16.7%	150	88.3%	11.7%	162
婚姻状態	既婚	87.0%	13.0%	131	86.7%	13.3%	120
	未婚	71.6%	28.4%	169	80.2%	19.8%	182
職業	専門技術管理	87.3%	12.7%	55	86.5%	13.5%	74
	事務販売	88.2%	11.8%	68	90.1%	9.9%	71
	サービス	74.0%	26.0%	50	81.3%	18.8%	64
	製造・運輸・建設など	89.4%	10.6%	47	94.5%	5.5%	55
	保安	79.1%	20.9%	43	90.0%	10.0%	10
	農林漁業・その他	62.5%	37.5%	16	95.2%	4.8%	21
個人年収	100万円未満	48.3%	51.7%	60	55.4%	44.6%	56
	100万円台	65.4%	34.6%	52	85.5%	14.5%	69
	200万円台	93.1%	6.9%	72	95.5%	4.5%	66
	300万円台	86.7%	13.3%	60	93.5%	6.5%	62
	400～500万円台	86.5%	13.5%	52	88.2%	11.8%	51
	600万円台以上	94.1%	5.9%	17	100.0%	0.0%	10

（3）クロス表集計②：父親と母親、および配偶者の車の所有状況

ここでは、同居している父親と母親、および配偶者の車の所有状況についてみていく。先の選択肢のうち、現在、父親または母親との同別居状態（F6「以下に挙げるあなたの家族・親族がそれぞれ現在どこに住んでいますか〔A 自分の父親／B 自分の母親／C 配偶者〕」で「1 同居している」を選択した回答者）とのクロス表集計をおこなった[22]。

その結果、むつ市・おいらせ町のどちらとも、同居している父親は 90%以上、母親は 70%以上、車を所有していた（表 16）。つまり、おいらせ町の回答者の父親と母親の車の所有率の高さは、同居率の違いによるものだと考えて差し支えないだろう。

[22] きょうだいや祖父母に関しては、同別居状態を確認できる項目が本調査に含まれていないため、検討できなかった。

表16　同居する配偶者・父親・母親の車の所有

	むつ			おいらせ		
	車あり	車なし	N	車あり	車なし	N
配偶者	84.4	15.6	122	90.3	9.7	124
父親	93.1	6.9	101	97.1	2.9	137
母親	71.4	28.6	119	82.1	17.9	179

２－５．現住地での定住希望、および将来の定住の見通し

最後に、問 1[23]のうち、G「今後、可能ならば、現在住んでいる地域に住み続けたいと思っている」とH「20 年後も、現在住んでいる地域か、その近くに住んでいると思う」の回答結果から、現住地域での定住希望（問 1G)、および将来の定住見通し（問 1F）についてみていく。

（1）単純集計

まず、現住地域での定住希望について記述する。図 1 に示したように、むつ市では現在の地域に住み続けたいと思っている人の割合は、そうではない人に比べて若干多い。「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせて 50.9%、「全くそうではないと思う」と「どちらかと言えばそうではないと思う」をあわせて 47.1%だった。一方、おいらせ町では、約 7 割が現在の地域に住み続けたいと思っており（69.4%)、そうではない人は 3 割に満たなかった（27.9%)。ただし、「全くそう思う」と回答した強い定住希望のある人の割合は、むつ市とおいらせ町で、ほぼ同数であった。おいらせ町の「どちらかと言えばそう思う」の割合と、むつ市における「全くそうではないと思う」の割合の差が（おおよそ 15～20%)、ほぼそのまま、むつ市とおいらせ町との間の定住希望者の割合の差として表れている。

また、現住地域での将来の定住の見通しについては、20 年後も現住地で定住していると予想する人の割合（「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」）は、両地域とも約 6 割以上だった（むつ市が 59.7%、おいらせ町が 69.8%)。そのうちの、かなりの程度で現住地域に住んでいるだろうと考えている人（「全くそう思う」と回答）の割合は、むつ市が 31.2%、おいらせ町が 27.4%で大きな差はなかった（むしろ、むつ市の方が若干高い)。対して、おそらく将来は現住地に住んでいないと予想している（「全くそうではないと思う」）人の割合は、むつ市が 19.7%、おいらせ町が 10.0%で、約 10 ポイントの差がみられる。

[23] 質問文は、「あなたは、現在住んでいる地域について、どのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください〔選択肢は図 1 参照〕」である。

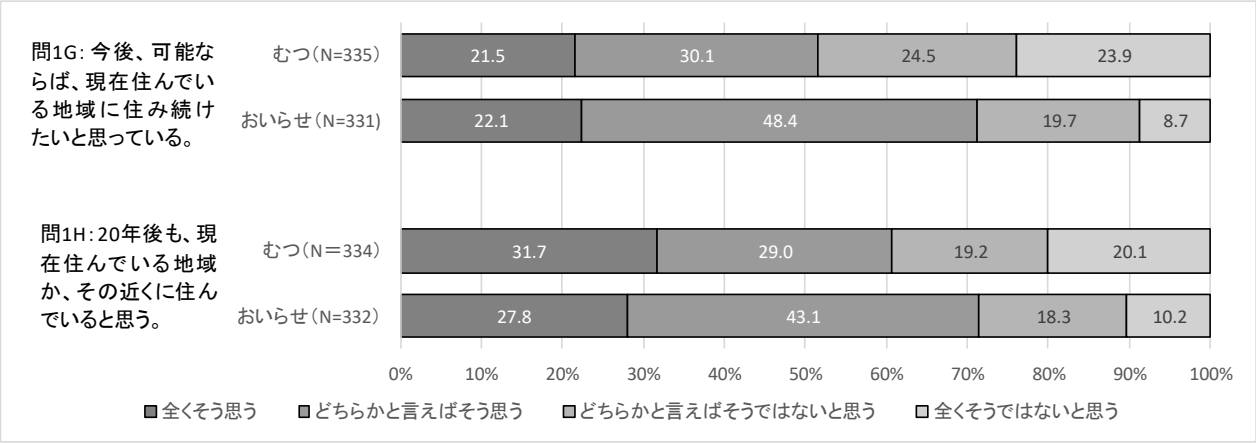


図1　現住地での定住希望および見通し

（2）クロス表集計①：属性別の定住希望

続いて、現住地域での定住希望と各属性（性別、出身地、年代、学歴、婚姻状態、居住歴（土着層／Uターン層／転入層）、職業、個人年収）との関連から検討していく（表 17）。

おいらせ町では、ほぼ全てのカテゴリにおいて「どちらかと言えばそう思う」が最も高い割合で、かつ 5 割前後を占めている。「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、ほぼすべてのカテゴリにおいて、約 7 割以上がおいらせ町での定住を希望していた。そのなかで定住希望の割合が低かったカテゴリは、青森県外出身者（「全くそう思う」16.0%、「どちらかと言えばそう思う」36.0%）、20 代（「全くそう思う」15.0%、「どちらかと言えばそう思う」47.9%）、未婚者（「全くそう思う」17.7%、「どちらかと言えばそう思う」47.5%）だった。とはいえ、それでも合わせると過半数は定住を希望しているという結果だった。

他方、むつ市では、カテゴリによって定住を希望する層としない層が明瞭に分かれた。年代では大きな差はみられないものの、男性に比べると女性が、市町村内出身者に比べると市町村外出身者（むつ市以外の青森県内出身者と青森県外出身者）が、土着層やUターン層に比べると転入層がむつ市での定住に否定的な傾向にある。婚姻状態によっても若干の違いがみられた。（既婚者・離死別者よりは未婚者の方がやや定住に否定的）。職業別でみると、保安が強く否定的だが、専門技術管理とサービス業従事者は、ほぼ半々であった。個人年収別では、400 万円～500 万円台以上の高収入なカテゴリでは定住に否定的な割合が多い。それ以外は基本的に定住を希望する傾向にあるが、100 万円台のカテゴリではどちらともいえない状況にある。

表17　クロス集計表（現住地での定住希望×性別・出身地・年代・学歴・婚姻状態・居住歴・職業・個人年収）

		むつ					おいらせ				
		全くそう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそうではないと思う	全くそうではないと思う	N	全くそう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそうではないと思う	全くそうではないと思う	N
		21.5%	**30.1%**	24.5%	23.9%	335	22.1%	**48.4%**	19.7%	8.7%	331
性別	男性	23.6%	**33.5%**	19.2%	23.6%	182	24.5%	**53.5%**	14.2%	7.7%	155
	女性	19.1%	26.3%	**30.9%**	23.7%	152	20.5%	**44.9%**	25.0%	9.7%	176
出身地	市町村内	28.6%	**34.4%**	23.2%	13.8%	224	27.4%	**47.5%**	18.4%	6.7%	179
	青森県内	6.0%	24.0%	32.0%	**38.0%**	50	18.5%	**53.7%**	21.3%	6.5%	108
	青森県外	2.2%	11.1%	26.7%	**60.0%**	45	16.0%	**36.0%**	24.0%	24.0%	25
年代	20代	21.6%	**28.1%**	**28.1%**	22.3%	139	15.0%	**47.9%**	26.4%	10.7%	140
	30代	21.5%	**31.8%**	22.1%	24.6%	195	27.7%	**49.7%**	15.2%	7.3%	191
学歴	高卒以下	23.0%	27.3%	**29.1%**	20.6%	165	23.4%	**57.9%**	12.4%	6.2%	145
	高専・短大・大卒以上	19.3%	**31.3%**	21.3%	28.0%	150	21.7%	**44.1%**	24.8%	9.3%	161
婚姻状態	既婚	26.7%	**29.8%**	22.1%	21.4%	131	26.9%	**52.9%**	12.6%	7.6%	119
	未婚	20.5%	26.3%	**26.9%**	26.3%	171	17.7%	**47.5%**	25.4%	9.4%	181
居住歴	土着層	**35.0%**	31.3%	23.8%	10.0%	80	25.9%	**58.0%**	13.6%	2.5%	81
	Uターン層	25.3%	**37.0%**	21.9%	15.8%	146	28.2%	**39.3%**	22.2%	10.3%	117
	転入層	4.1%	19.6%	28.9%	**47.4%**	97	13.3%	**53.3%**	21.7%	11.7%	120
職業	専門技術管理	20.0%	**30.9%**	25.5%	23.6%	55	20.3%	**44.6%**	27.0%	8.1%	74
	事務販売	26.5%	**30.9%**	22.1%	20.6%	68	22.9%	**51.4%**	14.3%	11.4%	70
	サービス	16.0%	**36.0%**	**36.0%**	12.0%	50	20.6%	**42.9%**	25.4%	11.1%	63
	製造・運輸・建設など	31.9%	**38.3%**	17.0%	12.8%	47	20.0%	**56.4%**	18.2%	5.5%	55
	保安	11.4%	22.7%	22.7%	**43.2%**	44	22.2%	**55.6%**	0.0%	22.2%	9
	農林漁業・その他	**35.3%**	23.5%	23.5%	17.6%	17	23.8%	**52.4%**	14.3%	9.5%	21
個人年収	100万円未満	16.4%	**31.1%**	29.5%	23.0%	61	19.6%	**48.2%**	21.4%	10.7%	56
	100万円台	19.2%	30.8%	**32.7%**	17.3%	52	18.8%	**47.8%**	21.7%	11.6%	69
	200万円台	27.8%	**30.6%**	23.6%	18.1%	72	18.2%	**56.1%**	15.2%	10.6%	66
	300万円台	21.7%	**38.3%**	25.0%	15.0%	60	24.2%	**46.8%**	27.4%	1.6%	62
	400～500万円台	17.0%	24.5%	17.0%	**41.5%**	53	28.6%	**46.9%**	16.3%	8.2%	49
	600万円台以上	0.0%	35.3%	23.5%	**41.2%**	17	40.0%	**60.0%**	0.0%	0.0%	10

注）行で最も割合の高い箇所を太字にした。

（3）クロス表集計②：属性別の定住見通し

最後に、現住地域での定住希望と各属性（性別、出身地、年代、学歴、婚姻状態、居住歴（土着層／Uターン層／転入層）、職業、個人年収）との関連から検討したい（表 18）。

先の定住希望と同様に、一部のカテゴリ（青森県外出身者、未婚、保安、専門技術管理）を除いて、おいらせ町では現住地での将来的な定住を予想している割合が高かった。ただし、おいらせ町の女性は将来も現住地に定住するであろうと回答した人の割合が考えている割合がむつ市の女性や両地域の男性と比較して 10 ポイント近く低かった。

むつ市においても、カテゴリによって、定住希望とほぼ同じような形で、意識の違いが指摘できそうである。一点加えるならば、定住希望では、やや否定的（「どちらかと言えばそうではない」と回答）であったり、比較的肯定的（「どちらかと言えばそう思う」と回答）であったりした人びとが、定住の見通しではより定住に寄った回答をしているようにみえる。この点に関しては今後さらに分析する必要があ

るが、全体的に「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合が、定住希望（「そう思う」21.5%、「どちらかと言えばそう思う」30.1%、あわせて 51.5%）よりも、定住見通し（「そう思う」31.7%、「どちらかと言えばそう思う」29.0%、あわせて 60.7%）の方が高いことから、その傾向に大きな誤りはないだろう。そうであるならば、むつ市の若者たち（条件不利地域圏在住者）は、その理由や動機、背景がポジティブであれ、ネガティブであれ、将来的には現住地に定住する（あるいは定住し続ける）ことを想定している状況にあることがうかがえる。

表18　クロス集計表（現住地での定住見通し×性別・出身地・年代・学歴・婚姻状態・居住歴・職業・個人年収）

		むつ					おいらせ				
		全く そう思う	どちらかと 言えば そう思う	どちらかと 言えば そうではない と思う	全く そうではない と思う	N	全く そう思う	どちらかと 言えば そう思う	どちらかと 言えば そうではない と思う	全く そうではない と思う	N
		31.7%	29.0%	19.2%	20.1%	334	27.8%	**43.1%**	18.3%	10.2%	332
性別	男性	**33.0%**	29.1%	17.0%	20.9%	182	33.8%	**40.8%**	14.0%	11.5%	157
	女性	**30.5%**	29.1%	21.9%	18.5%	151	22.9%	**45.7%**	22.3%	9.1%	175
出身地	市町村内	**41.3%**	32.7%	20.2%	5.8%	223	33.9%	**41.1%**	18.9%	6.1%	180
	青森県内	20.0%	18.0%	22.0%	**40.0%**	50	26.2%	**48.6%**	16.8%	8.4%	107
	青森県外	2.2%	15.6%	15.6%	**66.7%**	45	11.5%	**42.3%**	11.5%	34.6%	26
年代	20代	27.5%	**30.4%**	23.2%	18.8%	138	20.0%	**41.4%**	27.1%	11.4%	140
	30代	**34.9%**	28.2%	16.4%	20.5%	195	33.9%	**44.8%**	12.0%	9.4%	192
学歴	高卒以下	**34.1%**	26.2%	23.8%	15.9%	164	31.5%	**45.2%**	15.1%	8.2%	146
	高専・短大・大卒以上	29.3%	**30.7%**	13.3%	26.7%	150	25.9%	**44.4%**	19.1%	10.5%	162
婚姻状態	既婚	**38.9%**	25.2%	14.5%	21.4%	131	35.3%	**44.5%**	10.1%	10.1%	119
	未婚	**29.4%**	28.8%	23.5%	18.2%	170	21.5%	**44.2%**	23.8%	10.5%	181
居住歴	土着層	**54.4%**	25.3%	17.7%	2.5%	79	35.8%	**45.7%**	14.8%	3.7%	81
	Uターン層	34.9%	**39.7%**	17.1%	8.2%	146	32.2%	**38.1%**	19.5%	10.2%	118
	転入層	8.2%	17.5%	22.7%	**51.5%**	97	18.3%	**46.7%**	19.2%	15.8%	120
職業	専門技術管理	**29.1%**	**29.1%**	16.4%	25.5%	55	21.6%	**43.2%**	25.7%	9.5%	74
	事務販売	35.3%	**36.8%**	13.2%	14.7%	68	26.8%	**52.1%**	15.5%	5.6%	71
	サービス	32.0%	**34.0%**	22.0%	12.0%	50	22.2%	**42.9%**	17.5%	17.5%	63
	製造・運輸・建設など	**52.2%**	26.1%	13.0%	8.7%	46	30.9%	**47.3%**	9.1%	12.7%	55
	保安	15.9%	20.5%	20.5%	**43.2%**	44	20.0%	20.0%	**30.0%**	**30.0%**	10
	農林漁業・その他	**47.1%**	17.6%	23.5%	11.8%	17	**38.1%**	**38.1%**	19.0%	4.8%	
個人年収	100万円未満	23.3%	**35.0%**	21.7%	20.0%	60	28.6%	**33.9%**	25.0%	12.5%	56
	100万円台	28.8%	**42.3%**	17.3%	11.5%	52	22.1%	**47.1%**	23.5%	7.4%	68
	200万円台	**37.5%**	30.6%	19.4%	12.5%	72	19.7%	**48.5%**	16.7%	15.2%	66
	300万円台	**36.7%**	26.7%	18.3%	18.3%	60	32.3%	**48.4%**	12.9%	6.5%	62
	400～500万円台	26.4%	22.6%	18.9%	**32.1%**	53	**39.2%**	33.3%	17.6%	9.8%	51
	600万円台以上	29.4%	5.9%	11.8%	**52.9%**	17	**50.0%**	**50.0%**	0.0%	0.0%	10

注）行で最も割合の高い箇所を太字にした。

２－６．おわりに

（1）知見のまとめ

以上、大掴みにではあるが、本調査における条件不利地域圏（むつ市）および地方中枢拠点都市圏（おいらせ町）在住者の過去の移動経験、および現住地への定住希望・見通しについてみてきた。ここまでの知見を改めてまとめると、次のようになる。

①引っ越し経験者は、むつ市、おいらせ町ともに 7 割以上おり、反対に引っ越しをしたことが無い人びと（＝土着層）は、3 割未満だった。

②引っ越し経験者のうち、おいらせ町在住者の方が、むつ市在住者よりも現住地域での居住年数が長い傾向がみられた。

③引っ越しの理由では、むつ市は自身の仕事関連が、おいらせ町は住居の購入や（配偶者や家族との）同居・住み替えをともなうものが多かった。また、選択肢に含まれていなかった「結婚・同棲」「出産・子育て」関連についても、両地域で 2 割前後回答された。

④引っ越し経験の有無と属性との関連についてみると、男性より女性の方が、20 代よりも 30 代の方が、高卒以下よりも専門・短大・大卒以上の方が、未婚よりも既婚の方が引っ越し経験者の割合が高かった。また、職業別では、保安ではむつ市・おいらせ町ともに 9 割以上、専門技術管理では 8 割が引っ越しを経験しており、他の職業に比べると高かった。個人年収別にみると、基本的には年収が高くなるほど引っ越し経験者の占める割合が高くなる傾向がみられた。

⑤引っ越し経験者の前住地は、両地域ともに青森県内が最も多かった（むつ市 56.2%・おいらせ町 68.8%）。おいらせ町は約 7 割が県内の他市町村からの引っ越しであり、八戸市、三沢市、おいらせ町内の近隣からの引っ越しが中心だった。一方むつ市は、半数弱が県外からの引っ越しであり、海上自衛隊所在自治体からの引っ越しが多くみられた。

⑥現住地域が「地元」である回答者の割合は、おいらせ町に比べるとむつ市の方が若干多い（むつ市 67.5%・おいらせ町 60.0%）。

⑦居住歴別にみると、むつ市は土着層（23.9%）／U ターン層（43.6%）／転入層（29.0%）、おいらせ町は土着層（24.4%）／U ターン層（35.6%）／転入層（36.3%）だった。土着層の比率はむつ市・おいらせ町ともに同程度だったが、むつ市では U ターン層の方が、おいらせ町では転入層の方が約 10%高いという違いがみられた。

⑧居住歴と属性との関連から検討したところ、むつ市では基本的に U ターン層が多かった。ただし、そのなかで土着層の割合が最も多かったのは、高卒以下（41.0%）、製造・運輸・建設など（42.6%）、100 万未満（40.7%）であり、また転入層の割合が多かったのは保安（74.4%）、400～500 万円台（54.9%）、600 万円以上（64.7%）だった。

⑨おいらせ町における居住歴と属性との関連については、むつ市のように全体的としての傾向をとらえるのが困難だったため、ここでは個別的な指摘にとどめる。U ターン層が多かったのは、男性（42.5%）、20 代（39.4%）、専門・短大・大卒以上（44.9%）、未婚（44.2%）と離死別（78.9%）だった。他方、転入層が多かったのは女性（41.3%）、30 代（44.1%）、高卒以下（38.6%）、既婚（66.1%）だった。職業別では、製造・運輸・建設など（35.8%）のみ土着層が最も多かった。専門技術管理（43.2%）と保安（90.0%）は転入層が、事務販売（44.8%）は U ターン層が多くを占めていた。個人年収別にみると、100 万円未満、400～500 万円台、600 万円以上の約 5 割は転入層だった。他方で 100 万円台（38.8%）と 200 万円台（36.5）では土着層が、300 万円台で

はUターン層が最も多かった。

⑩むつ市・おいらせ町とも、ほぼすべての回答者で同居家族のうち誰かが車を所有していた。同居家族員別の所有率は、むつ市と比べるとおいらせ町の方が若干高かった。

⑪回答者自身の車の所有率は、「むつ市」の「20代」の「高卒以下」で「現在結婚していない女性」という一部の属性だけ低かった。また、「100 万円台」の車の所有率について、むつ市（65.4%）とおいらせ町（85.5%）では20%の差がみられた。

⑫現住地域での定住希望に対して肯定的な回答を示した割合は、むつ市では半数、おいらせ町では約7割だった。ただし、定住を強く希望している割合（「全くそう思う」と回答）は、両地域を比較するとほぼ同じであった。この2割弱の違いは、むつ市の強い否定の割合が高かったことによってみられるものだった。

⑬むつ市では6割、おいらせ町では7割の回答者が、現住地域で定住するという見通しであった。他方、むつ市の回答者の2割は、現住地域で定住することはないと回答した。

⑭属性別に定住希望との関連をみてみると、おいらせ町では、ほぼすべてのカテゴリでおおよそ7割以上が現住地での定住に肯定的だった。そのなかで相対的に定住を希望者の割合が相対的に低いカテゴリ（青森県外出身、20代、未婚者）でも、半数以上は現住地での定住を希望していた。

⑮一方、むつ市における現住地での定住希望は、属性によって明瞭に分かれた。男性より女性が、むつ市内出身者よりも市外出身者が、土着層やUターン層に比べると転入層がむつ市での定住に否定的だった。また職業別では保安が、個人年収別では400～500万円台と600万円以上の層が、定住に否定的だった。

⑯属性別の定住見通しでも、おいらせ町では定住希望と同様に一部のカテゴリ（青森県外出身者、未婚、保安、専門技術管理）を除くと、現住地で定住すると見通している割合が高かった。

⑰むつ市の定住見通しと属性との関連についても、定住希望と同様の傾向がみられた。加えて、定住希望に比べると定住見通しの方が、定住寄りになっていることが示された。

（2）今後の課題

以上のように、条件不利地域圏（むつ市）と地方中枢拠点都市圏（おいらせ町）では、移動経験（引越しの有無）や居住経歴（土着層／Uターン層／転入層）に異なる傾向があることが示唆された。それらは現住地での定住希望や将来的な定住の見通しにも影響を与えうる。今後は条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏の区分だけではなく、農村的（周辺部）／都市的（市街地）の生まれ（育ち）であるのかも含め、さらなる分析・考察をおこなう必要がある。

［参考文献］

轡田竜蔵, 2016,『公益財団法人マツダ財団委託研究「広島 20-30 代住民意識調査」報告書（統計分析篇）〔第2版〕』公益財団法人マツダ財団.

第３章：地域価値観／地域活動・社会活動について

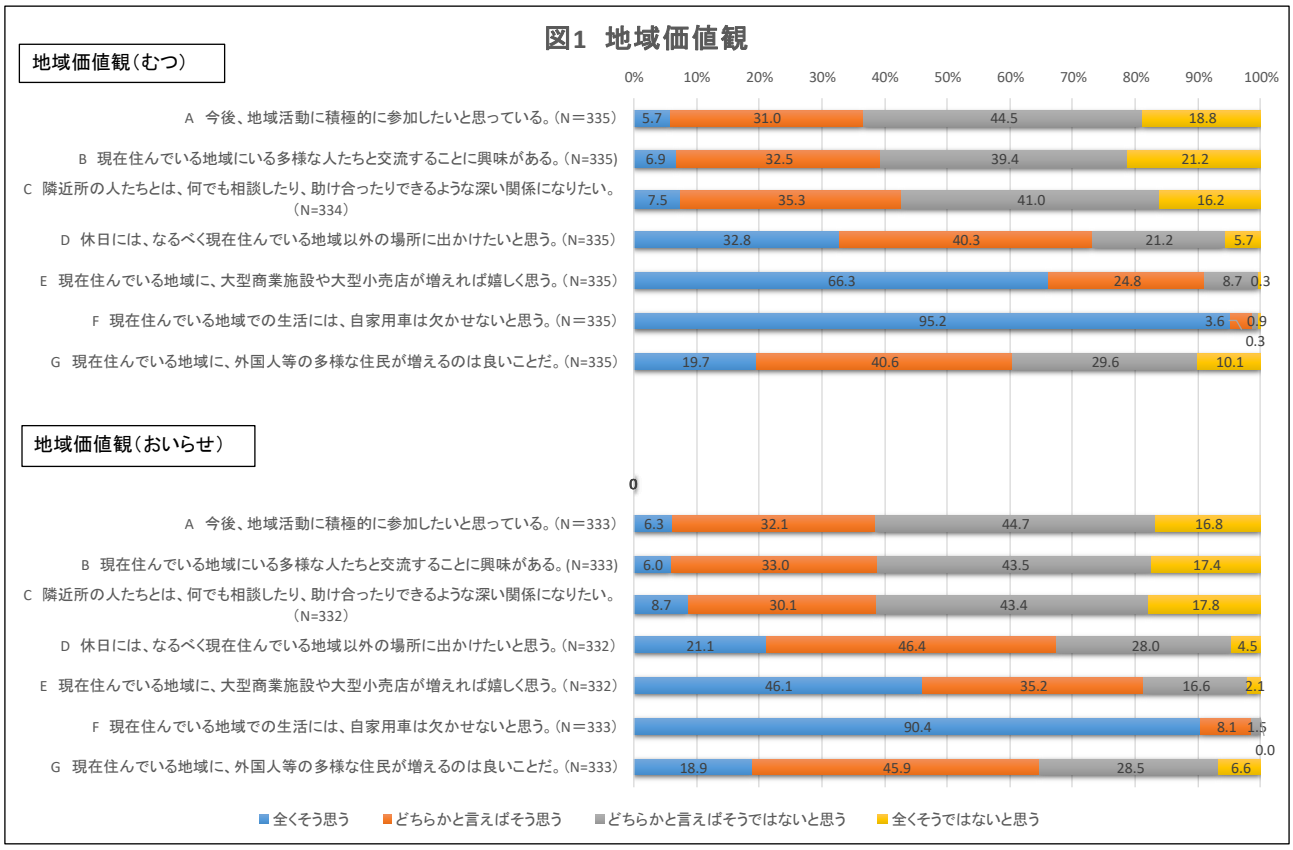
井戸聡（愛知県立大学）

３－１．はじめに

この章では「地域価値観」と「地域活動・社会活動」についての検討を行う。

３－２．地域価値観について

問3では「地域についての価値観」について7項目の質問を行った（図1）。



肯定的な回答（「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）と肯定的ではない回答（「どちらかと言えばそうではないと思う」と「全くそうではないと思う」の合計）と、むつ市、おいらせ町の2つの地域の関連について、χ二乗検定を行ったところ、1項目を除いては、有意差はみられなかった。

むつ・おいらせの2つの地域で、差が見られた質問項目は「E現在住んでいる地域に、大型商業施設や大型小売店が増えれば嬉しく思う」であり、5%水準での有意差であった。「大型商業施設・大型小売店」が増えてほしいという回答について、おいらせ町が81.3%であったのに対して、むつ市の回答は91.0%で、むつ市の方が「大型商業施設・大型小売店」が増えてほしいという回答が約10ポイント多かった。

また、有意差は確認できなかったが、「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」という項目についてのそれぞれの地域の肯定的な回答の割合は、むつ市が73.1%、おいらせ町が67.5%であった。有意確率は0.109と10%の水準をわずかに満たさないが、むつ市の方が「休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたい」と思っている人が多いという傾向が読み取れるのではないかと考えられる。

むつ市は、おいらせ町に比べて、大型商業施設・大型小売店を望み、また、休日になるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思っているという傾向が読み取れる。おいらせ町に比べて、むつ市の方が、地域内の商業施設や休日の外出先に恵まれておらず、おいらせ町を「地方中枢拠点地域都市圏」、むつ市を「条件不利地域圏」（轡田2017）と想定した場合の2つの圏域の地域的条件の差が現れている部分であると考えられる。

ただし、地域価値観についての質問項目の中で、肯定的な回答の割合が高かったのは、むつ市、おいらせ町ともに、「F現在住んでいる地域での生活には、自家用車が欠かせないと思う」（むつ市、おいらせ

町ともに98%以上)、「E現在住んでいる地域に、大型商業施設や大型小売店が増えれば嬉しく思う」(むつ市90%以上、おいらせ町80%以上)、「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」(むつ市70%以上、おいらせ町70%弱)の3つの項目であり、わずかにむつ市の方の割合が高いとは言え、おいらせ町も十分にその割合が高いと考えられ、生活環境の条件不利性を抱えた地域である、もしくは圏域の中に条件不利的な地域を多く抱えている、と考えられる。

一方で、地域価値観についての質問項目の中で、肯定的な回答の割合が最も低かったのは、むつ市、おいらせ町ともに「A今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている」(むつ市36.7%、おいらせ町38.4%)であった。

その他に、肯定的な回答の割合が低かった項目もむつ市とおいらせ町で共通しており、「B現在住んでいる地域にいる多様な人達と交流することに興味がある」(むつ市、おいらせ町ともに40%弱)、「C隣近所の人たちとは、なんでも相談したり、助け合ったりできるような深い関係になりたい」(むつ市40%強、おいらせ町40%弱)となっている。

(1)属性と地域価値観

基本的な属性(性別・年齢・婚姻・学歴・世帯年収・居住歴・移動経験)と地域価値観についての関連を見たのが表1である。

表1 基本属性と地域価値観の関係

		問3A地域活動	問3B多様な交流	問3C近隣関係	問3D休日に出かけたい	問3E大型商業施設・小売店	問3F自家用車	問3G外国人など多様性
性別	むつ	女≪男	—	—	—	—	—	—
男・女／χ二乗	おいらせ	女<男	女<男	—	—	男<女	—	男≪女
年齢	むつ	—	—	—	—	—	—	—
相関	おいらせ	—	—	—	高<低	—	—	高<低
婚姻	むつ	—	—	—	—	—	—	—
独身・結婚／χ二乗	おいらせ	—	—	—	—	—	—	結婚<独身
学歴	むつ	—	—	—	—	—	—	—
大学・短大／非大学・短大／χ二乗	おいらせ	—	—	—	—	大学<非大学	—	非大学≪大学
世帯年収	むつ	—	—	—	—	—	—	—
相関	おいらせ	—	—	—	—	—	—	—
居住歴	むつ	—	—	—	地元≪U≪I	—	—	—
地元・Iターン・Uターン／χ二乗	おいらせ	—	—	—	—	—	—	—
移動経験	むつ	—	—	—	なし≪あり	—	—	—
あり・なし／χ二乗	おいらせ	なし≪あり	—	—	—	—	—	—

「≪」は5%水準で、「<」は10%水準で有意。

性別において、有意差がみられる項目が多く現れており、婚姻、世帯年収、居住歴で有意差がみられる項目が少ないか全くない。また、「G現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えるのは良いことだ」の項目で、基本属性による有意差が多くみられる(性別・年齢・婚姻・学歴)。

①性別と地域価値観

性別と地域価値観についての関連において、有意差がみられた項目が多かったのはおいらせ町であった(4項目)。おいらせ町で、性別において、有意差がみられたのは「A今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている」「B現在住んでいる地域にいる多様な人達と交流することに興味がある」「E現在住んでいる地域に、大型商業施設や大型小売店が増えれば嬉しく思う」「G現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えるのは良いことだ」の質問項目であった。「A地域活動に積極的に参加したいと思っている」と「B地域にいる多様な人たちとの交流」については女性よりも男性の方が多く肯定的に回答し、また、「E大型商業施設・大型小売店が増えれば嬉しく思う」と「G外国人等の多様な住民が増える」については男性よりも女性の方が多く肯定的に回答した。

そのなかで強い関連が見られたのは、「G外国人等の多様な住民が増える」の項目に関する性別における有意差であった。この項目に対する肯定的な回答の割合は、女性で71.0%、男性で58.0%であり、10ポイント以上の差があった。一方で、むつ市では、同項目に対する肯定的な回答は、女性で62.5%、男性で58.2%であり、性別による有意差はみられなかった。

むつ市において、性別による有意差がみられたのは「A今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている」の項目のみであった。この項目に対しては、先述のようにおいらせ町でも関連を読み取れるが、より強く関連しているのはむつ市の方であった。むつ市では、肯定的な回答の割合は女性で28.9%、男性で42.9%であり、10ポイント以上の差があった(おいらせ町:女性34.1%、男性43.3%)。

②年齢と地域価値観
　年齢と地域価値観についての関連において相関分析を行い、その結果、有意であったのはおいらせ町のみであり、むつ市では年齢における有意な関連は確認できなかった。
　おいらせ町で、年齢において有意な関連がみられたのは「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」と「G現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えるのは良いことだ」の質問項目であった。いずれの項目においても、年齢が低いほど肯定的な回答の割合が高くなる傾向を示している。ただし、相関係数（スピアマンのロー）は－0.114（地域以外の場所に出かける）、－0.121（外国人等の多様な住民が増える）と極めて弱い相関を示しているに過ぎない。また、年齢を20代と30代に分け、上記の2項目を2段階に分けた場合でのクロス分析を行った場合、「地域以外の場所に出かける」では20代（年齢が低い層）の方が、30代よりも肯定的な回答の割合が高かったものの（20代71.2%、30代64.8%）、有意差は確認できなかった。「外国人等の多様な住民が増える」ことについては、5%水準で有意差が確認され、20代（年齢が低い層）の方が、30代よりも肯定的な回答の割合が高かった（20代71.2%、30代60.3%）。
　弱いながらも関連があると考えた場合、低い年齢の人ほど、地域内で与件としてあるものに自足しておらず、地域外の要素を求める傾向がある可能性が読み取れる。ただし、今回の調査では対象年齢を20歳から39歳としているため、限られた年齢層内での比較に留まっている。ここで読み取られた傾向が、その他の年齢層に同様に当てはまるものであるのか、また、むつ市では読み取ることができなかったこの傾向が、その他の年齢層でも見受けられないのか等については正確な議論はできない。

③婚姻と地域価値観
　婚姻（独身・結婚）と地域価値観についての関連において、有意差がみられたのはおいらせ町の1項目のみであり、むつ市では婚姻における有意差は確認できなかった。
　おいらせ町で、婚姻との関連において、有意差がみられたのは「G現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えるのは良いことだ」の質問項目であった（10%水準での有意差）。「G外国人等の多様な住民が増える」については結婚よりも独身の方が多く肯定的に回答した。
　この項目に対する肯定的な回答の割合は、独身で68.3%、結婚で59.2%であり、約10ポイントの差があった。一方で、むつ市では、同項目に対する肯定的な回答は、独身で59.6%、結婚で63.4%であり、婚姻による有意差はみられなかった。

④学歴と地域価値観
　学歴（大学・短大／非大学・短大）と地域価値観についての関連において、有意差がみられたのはおいらせ町の2項目のみであり、むつ市では学歴における有意差は確認できなかった。おいらせ町で、学歴において、有意差がみられたのは「E現在住んでいる地域に、大型商業施設や大型小売店が増えれば嬉しく思う」と「G現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えるのは良いことだ」の2つの質問項目であった。「E大型商業施設・大型小売店が増えれば嬉しく思う」については大学・短大よりも非大学・短大の方が多く肯定的に回答した。一方で、「G外国人等の多様な住民が増える」については非大学・短大よりも大学・短大の方が多く肯定的に回答し、「大型商業施設・商業施設」との関連が10%水準での有意差であるのに対して、「外国人等の多様な住民」との関連は5%水準での有意差であった。
　「E大型商業施設・大型小売店が増えれば嬉しく思う」の項目に対する肯定的な回答の割合は、非大学・短大で83.9%、大学・短大で76.3%であり、約7ポイントの差があった。
　「G外国人等の多様な住民が増える」の項目に対する肯定的な回答の割合は、大学・短大で77.3%、非大学・短大で57.6%であり、約20ポイントの差があった。一方で、むつ市では、同項目に対する肯定的な回答は、大学・短大で59.3%、非大学・短大で61.0%であり、学歴による有意差はみられなかった。

⑤世帯年収と地域価値観
　世帯年収と地域価値観についての関連において相関分析を行い、その結果、有意な関連がみられた項目はなかった。

⑥居住歴と地域価値観
　居住歴（地元層・Uターン層・Iターン層）と地域価値観についての関連において、有意差がみられたのはむつ市の1項目のみであり、おいらせ町では居住歴における有意差は確認できなかった。むつ市で、居住歴における有意差がみられたのは「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけ

たいと思う」の質問項目であり、地元層よりもUターン層が、Uターン層よりもIターン層の方が多く肯定的に回答した。なお、5%水準での有意差であった。

「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」の項目に対する肯定的な回答の割合は、地元層で56.3%、Uターン層で76.7%、Iターン層で80.4%となり、地元層とUターン層で20ポイント以上、Uターン層とIターン層で約4ポイントの差があり、「地元層」と「Uターン層・Iターン層」との間で大きな開きがあることが確認された。

一方で、むつ市では、同項目に対する肯定的な回答は、地元層で67.5%、Uターン層で68.6%、Iターン層で69.4%と有意差はみられなかった。

⑦移動経験と地域価値観

移動経験（経験あり・経験なし）と地域価値観についての関連において、有意差がみられた項目は、むつ市では「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」、おいらせ町では「A今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている」の各質問項目であった。

むつ市で「現在住んでいる地域以外の場所に出かけたい」という項目に対して、移動経験ありの方が移動経験なしよりも多く肯定的に回答した。その割合は、移動経験なしが56.3%、移動経験ありが78.2%と、20ポイント以上多かった。また、おいらせ町で「地域活動に積極的に参加したい」という項目に対して、移動経験ありの方が移動経験なしよりも多く肯定的に回答した。その割合は、移動経験なしが28.4%であるのに対して、移動経験ありが41.4%と、13ポイント多かった。なお、上記の2つの項目については5%水準での有意差であった。

一方で、むつ市において、性別による有意差がみられたのは「A今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている」の項目のみであった。この項目に対しては、先述のようにおいらせ町でも関連を読み取れるが、より強く関連しているのはむつ市の方であった。むつ市では、肯定的な回答の割合は女性で28.9%、男性で42.9%であり、10ポイント以上の差があった（おいらせ町：女性34.1%、男性43.3%）。

(2)　小括

年齢と地域価値観については、先述のように、弱いながらも関連があると考えた場合、低い年齢の人ほど、地域内で与件としてあるものに自足しておらず、地域外の要素を求める傾向がある可能性が読み取れることを指摘した。

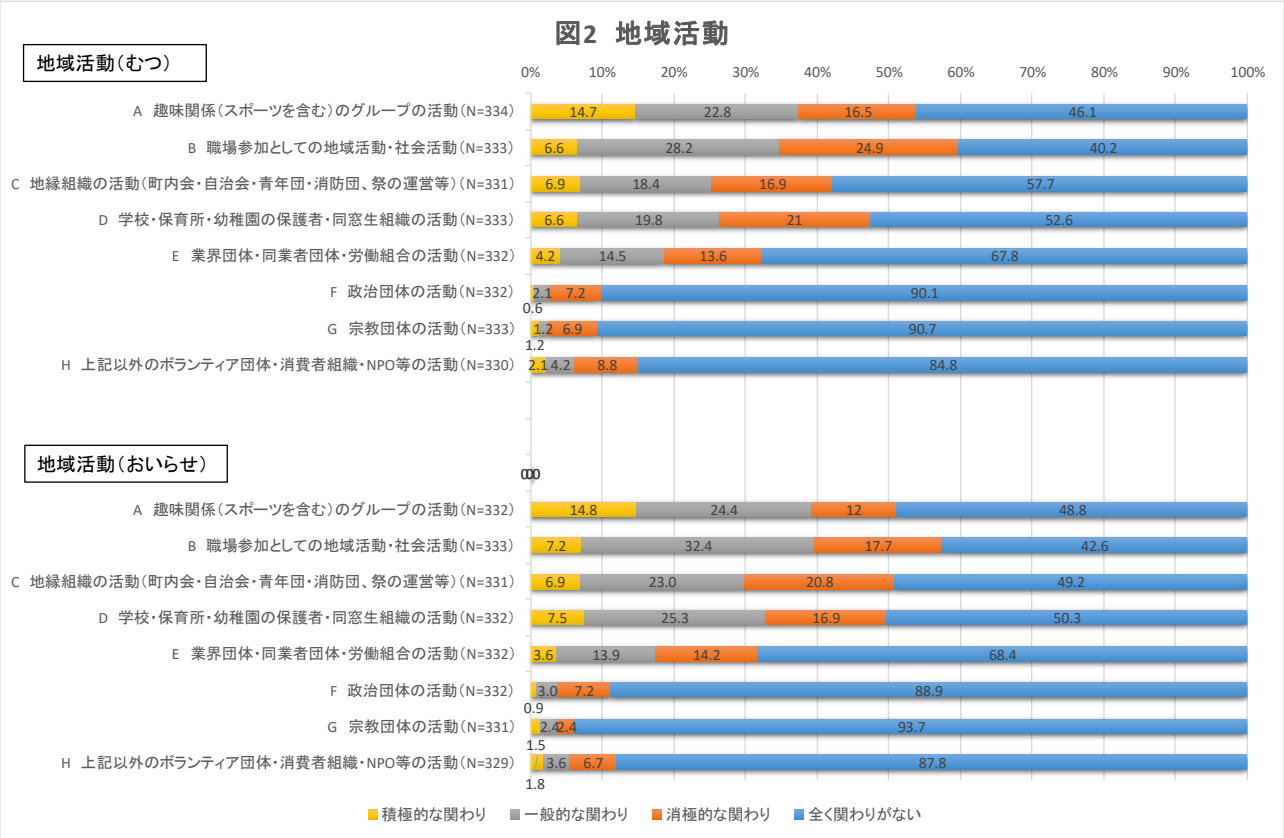
他方、居住歴や移動経験との関連では、むつ市では、地元以外での居住歴や移動経験がある方が、地域外の要素を求める傾向が認められることから、移動を伴って地域外の要素を経験している層が、地域外の要素を求める傾向があり、一方で、おいらせ町では居住歴や移動経験と、地域外の要素を求めることには関連が認められないことから、条件不利地域圏において乏しい都市的な生活環境条件をおいらせ町では一定程度得られているため、居住歴や移動経験ではなく、より若い層が地域内の与件に充足せず、地域外の要素を求める傾向となっているとみることが可能であるかもしれない。

基本属性と地域価値観との関連をみた場合、性別・年齢・婚姻・学歴が有意な関連を示した項目が多かったのはおいらせ町であった。一方で、居住歴と移動経験による違いが有意な関連を示した項目が多かったのはむつ市の方であった。

おいらせ町では、「その地域のなかで」個人がどのような社会的属性を有しているのかが、地域価値観に影響を与えやすく、むつ市では「その地域に対して」個人がどのような位置関係を有しているのかが、地域価値観に影響を与えやすいという仮説を立てることができるのではないだろうか。おいらせ町を地方中枢拠点地域圏、むつ市を条件不利地域圏と考えた場合、地方中枢拠点地域圏では個人の静態的な社会的属性が、条件不利地域圏では個人の移動と関連する動態的な社会的属性が地域価値観に影響する傾向があると言い換えることができるのではないだろうか。

３－３．地域活動・社会活動について

F15では「地域活動・社会活動の関わりの程度」について8項目の質問を行った（図2）（※「その他」については除外してある）。



肯定的な回答（「積極的な関わり」と「一般的な関わり」の合計）と肯定的ではない回答（「消極的な関わり」と「全く関わりがない」の合計）と、むつ市、おいらせ町の2つの地域の関連について、χ二乗検定を行ったところ、1項目を除いては、有意差は見られなかった。むつ・おいらせの2つの地域で、唯一、差が見られた質問項目は「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」であり、10%水準での有意差であった。むつ市に対して、おいらせ町の方が「学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」への関わりが多くなっている（むつ市26.4%に対しておいらせ町32.8%）。

地域活動・社会活動についての質問項目の中で、肯定的な回答の割合が高かったのは、むつ市、おいらせ町ともに、「A趣味関係の活動」（むつ市37.4%、おいらせ町39.2%）と「B職場参加としての活動」（むつ市34.8%、おいらせ町39.6%）の2つの項目であった。

一方で、地域価値観についての質問項目の中で、肯定的な回答の割合が最も低かったのは、むつ市、おいらせ町ともに「F政治団体の活動」（むつ市2.7%、おいらせ町3.9%）と「G宗教団体の活動」（むつ市2.4%、おいらせ町3.9%）であった。

また、「C地縁組織の活動」に関して、肯定的な回答と肯定的でない回答という割り当てではなく、関わりあり（「積極的な関わり」＋「一般的な関わり」＋「消極的な関わり」）と関わりなし（全く関わりがない）と割り当てをした場合、むつ市とおいらせ町で5%水準の有意な差が確認できる（むつ市42.3%、おいらせ町50.8%）。

地縁組織の活動に関して、おいらせ町を地方中枢拠点地域圏、むつ市を条件不利地域圏とした場合、条件不利地域圏であるむつ市の方が関わりの割合が高いのではないかと予測されたが、結果はおいらせ町の方が関わりの割合が高いことを示した。轡田による府中町（地方中枢拠点地域圏）と三次市（条件不利地域圏）の調査内容とは逆の結果となっている（轡田2017, p.77）。この点に関しては、今後の分析・考察が必要となってこよう。

(1)属性と地域活動・社会活動

基本的な属性（性別・年齢・婚姻・学歴・世帯年収・居住歴・移動経験）と地域活動についての関連を見たのが表2である。

表2　基本属性と地域活動・社会活動の関係

		F15A趣味関係（スポーツを含む）のグループ活動	F15B職場参加としての地域活動・社会活動	F15C地縁組織の活動（町内会・自治会・青年団・消防団、祭の運営等）	F15D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動	F15E業界団体・同業者団体・労働組合の活動	F15F政治団体の活動	F15G宗教団体の活動	F15H上記以外のボランティア団体・消費者組織・NPO等の活動
性別	むつ	—	女≪男	女≪男	—	女≪男	—	—	—
男・女／χ二乗	おいらせ	女<男	—	女<男	男≪女	—	—	—	—
年齢	むつ	30後≦30前<20前<20後	—	—	20前<20後<30前<30後	—	—	—	—
4段階※／χ二乗	おいらせ	—	—	—	20後≪30前≒20前≪30後	—	—	—	—
婚姻	むつ	—	—	独身<結婚	独身≪結婚	—	—	—	—
独身・結婚／χ二乗	おいらせ	—	—	—	独身≪結婚	—	—	—	—
学歴	むつ	非大学<大学	非大学≪大学	—	—	—	—	—	—
大学・短大／非大学・短大／χ二乗	おいらせ	—	非大学<大学	—	—	非大学≪大学	—	—	—
世帯年収	むつ	—	—	—	—	—	—	—	—
相関	おいらせ	—	—	—	—	—	—	—	—
居住歴	むつ	—	—	—	—	—	—	—	—
地元・Iターン・Uターン／χ二乗	おいらせ	—	—	—	地元<U<I	—	—	—	—
移動経験	むつ	—	—	—	—	—	—	—	—
あり・なし／χ二乗	おいらせ	—	—	—	—	—	—	—	—

「≪」は5%水準で、「<」は10%水準で有意。「≦」は若干の差異、「≒」はほぼ差異なし。※F・G・H項目についてはケース数が少ないため年齢2段階で検定

性別、年齢、学歴において、有意差がみられる項目が多く現れており、世帯年収、居住歴、移動経験で有意差がみられる項目が少ないか全くない。また、「A趣味関係のグループ活動」「B職場参加としての地域活動・社会活動」「C地縁組織の活動」「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」「E業界団体・同業者団体・労働組合の活動」の項目で、基本属性による有意差が多くみられる（性別・年齢・婚姻・学歴）。

一方で「F政治団体の活動」「G宗教団体の活動」「Hボランティア団体・消費者組織・NPO等の活動」については基本属性との関連が認められなかった。

むつ市とおいらせ町の両地域で、同じ組み合わせで基本属性と地域活動の項目の有意な関連が認められたのは、学歴と「B職場参加としての地域活動・社会活動」、性別と「C地縁組織の活動」、年齢／婚姻と「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」の各組み合わせであった。

年齢・婚姻・学歴の基本属性は、むつ市、おいらせ町それぞれにおいて、地域活動・社会活動の各項目のなかの同一項目に対して、関連が認められる傾向があるのに対し、性別・居住歴の基本属性は、地域活動・社会活動の同一項目に対してというよりは、むつ市とおいらせ町で別々の項目に対して関連を示す傾向が確認できる。

①性別と地域活動・社会活動

性別と地域活動・社会活動への肯定的な関わりについての関連において、有意差がみられた項目がむつ市とおいらせ町で同数であった（各3項目）。むつ市では「B職場参加としての地域活動・社会活動」（男性40.2%、女性27.7%）、「C地縁組織の活動」（男性30.1%、女性19.7%）、「E業界団体・同業者団体・労働組合の活動」（男性24.6%、女性20.8%）、おいらせ町では「A趣味関係のグループ活動」（男性43.9%、女性34.9%）、「C地縁組織の活動」（男性35.0%、女性25.3%）、「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」（女性39.4%、男性25.5%）の各3項目で性別における有意な差がみられた。ほとんどの項目において女性よりも男性の方が活動への肯定的な関わりが多くみられたのだが、おいらせ町での「D学校等の活動」の項目においてのみ、男性よりも女性の方が活動への肯定的な関わりが多かった。

むつ市では職場や業界等の活動で、性別による有意差が認められるのに対し、おいらせ町では趣味や学校等の活動で、性別による有意差が生じていた。

地縁組織の活動では、いずれの地域でも女性よりも男性の方が、関わりが多かった。

まとめると、むつ市でもおいらせ町でも地縁組織の活動の担い手は男性に偏っており、また、むつ市では職場・業界・同業者・労働組合等の仕事に関わる活動の担い手が男性に偏っており、さらに、おいらせ町では、趣味活動の担い手が男性にやや偏り、学校等の活動の担い手が女性に偏っている。

むつ市では職場、業界、地縁組織等の地域社会内での公的な場面で男性が関わっていることが多く、また、女性の方が関わりが薄いと言えそうである。おいらせ町では、むつ市のような地域社会内の公的場面での性別による優位な差は確認できないが、学校等の子どもに関する活動において女性が関わっていることが多い、ということになる。

②年齢と地域活動・社会活動

年齢（20代前半・20代後半・30代前半・30代後半）と地域活動・社会活動についての関連において、有意差がみられたのは、むつ市とおいらせ町で「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」、また、むつ市で「A趣味関係のグループ活動」の各項目であった。

「D学校等の活動」では、むつ市では年齢段階順に20代前半から30代後半へと肯定的な関わりが多く

なる傾向が認められる（20代前19.1%、20代後21.1%、30代前27.1%、30代後35.1%）。おいらせ町では、20代後半が肯定的な関わりが少なく、20・30代前半で関わりが多くなり、30代後半で最も関わりが多くなる（20代後13.6%、20代前33.9%、30代前33.8%、30代後44.4%）。いずれの地域でも、概して20代から30代に移行するに連れて学校等の活動への関わりが多くなる。子どもの学齢期に学校等の活動への関わりが多くなっていると捉えることができるだろう。

むつ市では、「A趣味活動」と年齢の関連で、20代後半が最も肯定的な関わりが多く、次いで20代前半が多い。30代になると関わりの割合が減り、30代後半が最も関わりが少なくなる（30代後31.6%、30代前32.3%、20代前39.7%、20代後49.3%）。

趣味活動に関して、おいらせ町では年齢が上がっても趣味活動への関わりがあるのに対し、むつ市では年齢が上がると趣味活動への関わりが少なくなる傾向があると想定することができる。むつ市を条件不利地域圏とすると、条件不利地域圏では年齢が上がると趣味活動を行う機会や場に恵まれなくなる可能性が考えられる。趣味活動が現代社会の個人にとってのひとつの居場所となりうることを考えると、むつ市では年齢が上がった場合に趣味活動という居場所の確保が困難になる傾向があるという可能性が考えられる。

③婚姻と地域活動・社会活動

婚姻（独身・結婚）と地域活動・社会活動についての関連において有意差がみられたのは、むつ市とおいらせ町で共通する項目としては「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」であった（むつ市：独身17.7%、結婚40.5%、おいらせ町：独身22.7%、結婚47.9%）。また、むつ市では「C地縁組織の活動」と婚姻の関連において有意差がみられた（独身21.6%、結婚29.8%）。

「D学校等の活動」では、むつ市、おいらせ町ともに独身よりも結婚の方が関わりの割合が多くなる。ただし、この関連は独身か結婚かという属性の差異よりも、子どもがいるかいないかによる影響が大きいのではないかと推測される。そこで子どもの有無と「D学校等の活動」への関わりについての関連についてみてみると、5%水準での有意差が確認され、子どもある場合に活動への関わりが多くなる（表3）。

表3　子どもの有無と学校等の活動への関わりの関係

むつ市		学校等の活動への関わり		合計	N
		関わりがある	関わりがない		
子どもの有無	子どもなし	13.70%	86.30%	100%	190
	子どもあり	49.60%	50.40%	100%	119
合計		27.50%	72.50%	100%	309
χ二乗検定		χ二乗値47.280　有意確率0.000			

おいらせ町		学校等の活動への関わり		合計	N
		関わりがある	関わりがない		
子どもの有無	子どもなし	17.30%	82.70%	100%	185
	子どもあり	58.80%	41.20%	100%	114
合計		33.10%	66.90%	100%	299
χ二乗検定		χ二乗値54.783　有意確率0.000			

④学歴と地域活動・社会活動

学歴（大学・短大／非大学・短大）と地域活動・社会活動への関わりについての関連において、むつ市とおいらせ町で共通して有意差がみられたのは、「B職場参加としての地域活動・社会活動」（むつ市：大学・短大45.6%、非大学・短大29.0%、おいらせ町：大学・短大45.8%、非大学・短大36.0%）の項目で、大学・短大の方が非大学・短大よりも関わりが多くなる。

むつ市で学歴と関連する地域活動・社会活動の項目は「A趣味関係のグループ活動」で、10%水準での有意差であった。大学・短大の趣味活動への肯定的な関わりは44.7%、非大学・短大では33.9%で10ポイント以上の差がみられた。

おいらせ町では、上記以外に学歴と関連するのは「E業界団体・同業者団体・労働組合の活動」の項目で5%水準での有意差であった。大学・短大の業界等の活動への肯定的な関わりは24.2%、非大学・短大では13.8%で10ポイント以上の差がみられた。

むつ市、おいらせ町の両地域において、高学歴である場合に職場等の活動への関わりが多くなる。また、むつ市では高学歴であると趣味活動への関わりが多くなる。

地方中枢拠点地域圏、条件不利地域圏ともに高学歴であることは職場等の活動への関わりを高め、条

件不利地域圏では、高学歴であることは趣味活動への関わりを高め、高学歴でない場合に趣味活動への関わりが薄くなる。

高学歴である場合には、職場等を通じての社会参加やつながりの機会を得やすく、そうでない場合に機会を得づらくなり、また、むつ市では、高学歴である場合に趣味活動を通じた社会参加やつながりの機会を得やすいが、そうでない場合にその機会を得にくい、と言えそうである。

⑤世帯年収と地域活動・社会活動

世帯年収と地域価値観についての関連において相関分析を行い、その結果、有意な関連がみられた項目はなかった。

⑥居住歴と地域活動・社会活動

居住歴（地元層・Uターン層・Iターン層）と地域活動・社会活動についての関連において、有意差がみられたのはおいらせ町の1項目のみであり、むつ市では居住歴における有意差は確認できなかった。おいらせ町では「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」の項目で居住歴との関連が有意であった。地元層よりもUターン層が、Uターン層よりもIターン層の方が多く肯定的な関わりがあると回答した。なお、有意確率は10%水準であった。

「D学校等の活動」の項目に対する肯定的な関わりがある回答の割合は、地元層で26.3%、Uターン層で29.6%、Iターン層で41.0%となり、地元層とUターン層で約3ポイント、Uターン層とIターン層で10ポイント以上の差があり、「地元層・Uターン層」と「Iターン層」との間で大きな開きがあることが確認された。

一方で、むつ市では、同項目に対する肯定的な関わりの回答は、地元層で30.3%、Uターン層で24.3%、Iターン層で25.0%と有意差はみられなかったが、おいらせ町とは異なり地元層が最も多くなっている。

婚姻と学校等の活動の関連について、子どもの有無という要因を考慮したが、ここでも子どもの有無という要因を居住歴との関連で考えてみる。おいらせ町では、居住歴と子どもの有無に5%水準での有意差が確認され、「地元層・Uターン層」に比べて、「Iターン層」は25ポイント以上の差で子どもありとなる（表4）。

表4　子どもの有無と居住歴の関係

むつ市		子どもの有無		合計	N
		子どもあり	子どもなし		
居住歴	地元層	32.40%	67.60%	100%	71
	Uターン層	38.80%	61.20%	100%	134
	Iターン層	41.90%	58.10%	100%	93
合計		38.30%	61.70%	100%	298
χ二乗検定		χ二乗値1.583　有意確率0.453			

おいらせ町		子どもの有無		合計	N
		子どもあり	子どもなし		
居住歴	地元層	24.30%	75.70%	100%	70
	Uターン層	29.40%	70.60%	100%	109
	Iターン層	56.50%	43.50%	100%	115
合計		38.80%	61.20%	100%	294
χ二乗検定		χ二乗値25.596　有意確率0.000			

居住歴と学校等の活動が関連するのは、Iターン層に子どもがある場合が多く、子どもがいることで学校等への活動に関わりが多くなるからと考えられる。一方で、むつ市では有意な関連はみられない。

⑦移動経験と地域活動・社会活動

移動経験（経験あり・経験なし）と地域活動・社会活動についての関連において、有意差がみられた項目はなかった。

(2)小括

基本属性と地域活動・社会活動との関連をみた場合、性別・年齢・婚姻・学歴が有意な関連を示した項目はむつ市がおいらせ町に比べてやや多かった（むつ市9項目、おいらせ町7項目）。そのなかで共通する3項目で同じ基本属性の関連が見られた。2つの地域で、性別、年齢、婚姻、学歴が地域活動・社会活

動への関わりに影響を与えやすい要因になっていると考えられる。一方で、世帯年収と移動経験による関連は、いずれの地域でもほとんど確認できなかった。

３－４．まとめ

むつ市とおいらせ町の両地域について、地域価値観と地域活動・社会活動と基本属性との関連の観点から考えてみた場合、これまでの分析から次のようなことが導き出せるのではないだろうか。

まず、むつ市であれ、おいらせ町であれ、世帯年収と地域価値観や地域活動・社会活動との関連は基本的にみられなかった。ただし、個人年収との相関分析をした場合、おいらせ町でのみ「E業界団体等の活動」との弱い関連がみられる（スピアマンのロー0.254、有意確率0.000）。

以上から、ここでは世帯年収を除いた基本属性について考えてみる。

地域価値観について、性別・年齢・婚姻・学歴・子どもの有無といった基本属性は、おいらせ町では、地域価値観項目での肯定的な回答に関連することが多く、むつ市ではほとんどの項目で関連が見られない。また、居住歴・移動経験について、おいらせ町では関連する地域価値観項目がほとんどなく、むつ市では、「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」との関連がみられた。

性別・年齢・婚姻・学歴・子どもの有無といった基本属性が、むつ市とおいらせ町のどちらの地域においても、地域活動・社会活動への関わりと関連することが多く、居住歴・移動経験は関連が限定的である。

まとめると、地域活動・社会活動においては、むつ市、おいらせ町、どちらの地域においても、性別・年齢・婚姻・学歴・子どもの有無といった「その地域のなかで」個人がどのような社会的属性を有しているのかが、地域活動・社会活動との関わりに影響を与えやすいと考えられ、居住歴・移動経験といった「その地域に対して」個人がどのような位置関係を有しているのかという基本属性については、おいらせ町でのみ限定的な影響があり、むつ市では影響しないと考えられる。

一方で、地域価値観については、性別・年齢・婚姻・学歴・子どもの有無といった「その地域のなかで」個人がどのような社会的属性を有しているのかが、おいらせ町で影響を与えやすく、むつ市ではほぼ影響がないと考えられる。また、居住歴・移動経験といった「その地域に対して」個人がどのような位置関係を有しているのかという基本属性については、おいらせ町では「A地域活動に積極的に参加」の項目に限定的に影響し、むつ市では「D休日に地域以外の場所に出かけたいと思う」という項目に限定的に影響している。「その地域のなかで」個人がどのような社会的属性を有しているのかが、地域価値観に影響しやすいのは、おいらせ町であると考えられ、地域活動・社会活動に対しては、むつ市、おいらせ町どちらの地域においても影響しやすい。

表5　社会属性と地域価値観／地域活動･社会活動の関係

		地域価値観の肯定的な回答	地域活動･社会活動への肯定的な関わり
むつ市	地域のなかでの社会的属性	―	○
	地域に対しての社会的属性	△	―
おいらせ町	地域のなかでの社会的属性	○	○
	地域に対しての社会的属性	△	△

○:影響あり　△:限定的な影響　―:影響ありとはいえない

その一方で、「その地域に対して」個人がどのような位置関係を有しているのかという社会的属性は、地域価値観に対しても、地域活動・社会活動に対しても、またむつ市、おいらせ町どちらの地域においても影響は限定的であるか、もしくは影響しないと考えられる（表5）。

以上のように考えた場合、地域に対する価値観は地方中枢拠点地域圏（おいらせ町）では、主に「地域のなかでの社会的属性」について考えることが検討されるべきであり、地域活動・社会活動への関わりについても、地方中枢拠点地域圏（おいらせ町）、条件不利地域圏（むつ市）ともに「地域のなかでの社会的属性」について主に検討されるべきであると言えそうである。また「地域に対しての社会的属性」については、地方中枢拠点地域圏（おいらせ町）、条件不利地域圏（むつ市）ともに、地域に対する価値観に関しても、地域活動・社会活動に関しても関連は限定的であることを踏まえて検討の対象とするのが適当であると考えられる。

参考文献

・轡田竜蔵、『地方暮らしの幸福と若者』勁草書房、2017年

第４章　移動と将来

白石壮一郎（弘前大学）

４－１．問題意識と調査の意図

通常の地域移動調査、とくに公的統計調査では、過去の移動歴（実績）のみ扱われることが多い。本調査では、将来の移動（意識）についても設問した。この章では、将来の移動についての質問への回答の集計を手がかりに、「移動すること」にかかわる個人の意識がどのように規定されているのか、どの変数（現住地、ジェンダー、これまでの移動経験、出身地、業種、婚姻ステイタス、移住先についての志向など）によって規定されてゆくのかを考察する。

４－２．対象地域の概要

現おいらせ町（人口約25,000人）は、平成大合併で旧百石町・下田町が合併してできた自治体であり、農村部と一部の住宅開発地からなり、周辺市町村からも集客する巨大商業施設（イオンモール）を擁している。また、市街地をふくむ八戸市（人口約22.5万人）に隣接し、電車で10分（330円）で移動できる。八戸市には周辺市町村からの通勤・通学が多く、おいらせ町から他市町村への昼間人口流出の実数は八戸市が2,882人で最も多く、次いで三沢市の2,631人、第3位が十和田市の657人である[24]。ちなみに八戸市からの昼間人口流出実数の第1位はおいらせ町の1,429人であり、八戸市とおいらせ町とは日常的なモビリティによる相互交流があると言えるだろう（おいらせ町を含む「八戸都市圏」）。

現むつ市（人口約75,000人）は、青森県下北郡でロードサイド店などを含む唯一の市街地が位置する。平成大合併のときに農漁村地域の旧大畑町・川内町・脇野沢村と旧むつ市が合併し、現むつ市となった（これらの旧3町村からむつ市街地までは、自動車なら1時間未満で到達できる）。前３町村は農漁業が主産業であり、合併後は旧むつ市の人口は横ばい状態だがこれら旧３町村は人口減少している。現むつ市は、近隣町村との昼間の人口流出入があり、実数の多い順に、流出先は東通村（751）、六ヶ所村（504）、横浜町（482）、流入元は東通村（846）、横浜町（214）、風間浦村（141）となっている。

なお、本調査回答者の自市町出身者割合は、むつ市が7割弱、おいらせ町が6割弱であった（表1）。おいらせ町・むつ市の単純比較が、どのような意味をもつかはその都度考察する必要がある。設問によってはむつ市／おいらせ町の内部を旧町村で分割するなどの操作で、市街地、新興住宅地、条件不利地などに分けて分析した方がよい項目もあるかもしれない。また、広島県内の2地域を対象におこなわれた轡田［2017］の調査研究は、「地方中枢拠点都市圏」（府中町）／「条件不利地」（三次市）という地域カテゴリを採用しているが、これをそのまま「地方中枢拠点都市圏」（おいらせ町）／「条件不利地」（むつ市）として適用できるのか。この点についても検討が必要だが、この章では触れていない。

---

[24] 昼間流出・流入人口データについては、青森県企画政策部統計分析課［2016］「平成 27 年国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等統計　青森県の従業地・通学地による人口・就業状態等集計結果の概要」を参照した。

表1　出身市町村

おいらせ

市町村	人	%
札幌市	1	0.3
帯広市	1	0.3
八雲町	1	0.3
岩見沢市	1	0.3
青森市	6	1.9
旧名川町（現南部町）	1	0.3
十和田市	11	3.4
野辺地町	2	0.6
八戸市	32	10
むつ市	3	0.9
六戸町	3	0.9
五所川原市	1	0.3
五戸町	4	1.3
東北町	2	0.6
旧下田町（現おいらせ町）	2	0.6
階上町	2	0.6
三沢市	32	10
平川市	2	0.6
六ケ所村	2	0.6
平内町	1	0.3
弘前市	1	0.3
おいらせ町	184	57.5
旧天間村林（現七戸町）	1	0.3
三戸町	1	0.3
新郷村	1	0.3
宮古市	1	0.3
岩泉町	1	0.3
矢巾町	1	0.3
仙台市	1	0.3
由利本荘市	1	0.3
南相馬市	1	0.3
郡山市	1	0.3
高萩市	1	0.3
河内町	1	0.3
川口市	1	0.3
川崎市	1	0.3
相模原市	1	0.3
富士市	1	0.3
伊東市	1	0.3
名古屋市	1	0.3
豊橋市	1	0.3
江南市	1	0.3
みよし市	1	0.3
奈良市	1	0.3
行橋市	1	0.3
八代市	1	0.3
宮崎市	1	0.3
合計	320	100

むつ

市町村	人	%
稚内市	1	0.3
石狩市	1	0.3
恵庭市	1	0.3
旭川市	1	0.3
中標津町	1	0.3
札幌市	2	0.6
網走市	1	0.3
新ひだか町	1	0.3
函館市	2	0.6
青森市	11	3.4
鰺ヶ沢町	2	0.6
旧大畑町（現むつ市）	5	1.5
大間町	2	0.6
風間浦村	3	0.9
旧川内町（現むつ市）	1	0.3
旧倉石村（現五戸町）	1	0.3
十和田市	3	0.9
野辺地町	2	0.6
八戸市	9	2.8
東通村	7	2.2
むつ市	218	67.5
横浜町	3	0.9
六戸町	1	0.3
旧脇野沢村（現むつ市）	3	0.9
平川市	1	0.3
弘前市	4	1.2
深浦町	1	0.3
下北地方	1	0.3
盛岡市	1	0.3
滝沢市	1	0.3
紫波町	1	0.3
一関市	1	0.3
花巻市	1	0.3
気仙沼市	1	0.3
多賀城市	1	0.3
仙台市	2	0.6
鹿角市	1	0.3
にかほ市	1	0.3
寒河江市	1	0.3
伊達市	1	0.3
本宮市	1	0.3
平田村	1	0.3
会津坂下町	1	0.3
下仁田町	1	0.3
越谷市	2	0.6
朝霞市	1	0.3
寄居町	1	0.3
我孫子市	1	0.3
東金市	1	0.3
府中市	1	0.3
五泉市	1	0.3
名古屋市	1	0.3
舞鶴	1	0.3
大阪市	1	0.3
倉敷市	1	0.3
真庭市	1	0.3
飯塚市	1	0.3
小郡市	1	0.3
熊本市	1	0.3
竹田市	1	0.3
合計	323	100

４－３．「地元」について

（1）「地元」と感じられる地域の範囲（F7.）

「地元」をどこ（どの範囲）と想定しているか、という意識について尋ねた設問である。回答者にとって「地元」と感じられる地域の範囲について、「出身の小学校区」「出身の中学校区」「出身の市町村全体」「他市町村を含む生活圏」「青森県全体」「その他（自由記述）」から1つを選択してもらっている。回答者680人中、662人からの回答を得ている（無回答18人）。

回答の分布をみると、むつ市在住者、おいらせ市在住者ともに「市町村全体」がもっとも高い割合だが、両者で比較すればむつ市在住者が高く（59.4%）、おいらせ町在住者は低い（43.5%）。しかし「小学校区」「中学校区」をあわせた値ではむつ市在住者、おいらせ町在住者どちらも23%前後で同じ程度である。

むつ市在住者とおいらせ町在住者とで度数分布に顕著な差がみられるのは「他市町村をふくむ生活圏」についてで、むつ市が10.0%であるのに対し、おいらせ町が22.9%と10ポイント以上の開きがある。つまり、おいらせ町在住者は、むつ市在住者よりも地元の地域範囲として他市町村を含めて考える人の割合が多い。これは先に2節で示しておいたそれぞれの地域概要からその背景が推察される。おいらせ町在住の場合は、隣接の八戸市や三沢市との通勤・通学などでの日常的な往来のある人口の割合が両市合わせて約22%を占め、これは先のおいらせ町在住者の地元と意識する範囲が「他市町村をふくむ生活圏」と回答した人の割合とほぼ等しい。

「地元」が通常は「出身地」と重ねて想定されることを考えれば、高校生までの生活移動圏で「地元」の範囲に関する意識が規定されうると考えてもよいだろう。だとすれば、町内に高校（普通科、進路多様校）が1校のみのおいらせ町出身者が、隣接する八戸市を生活移動圏内に入れており、かれらの「他市町村をふくむ生活圏」回答率が、市内に3高校があるむつ市出身者よりも高くなるということは考えられる。ただ、表2のデータはおいらせ町とむつ市の在住者の回答なのであり、たとえば弘前市出身でおいらせ町在住の回答者であれば、弘前市およびその周囲の他市町村をふくむ範囲について「地元だと感じるか否か」について回答していることになる。だから、出身地と高校通学までで「地元」の範囲に関する意識があるていど規定されるという仮説を確かめるためには、おいらせ町出身者、むつ市出身者を割り出した上で確かめる必要がある。

表2「地元」と感じられる地域の範囲

	むつ		おいらせ	
	人	%	人	%
出身の小学校区	26	7.6	32	9.4
出身の中学校区	50	14.7	48	14.1
出身の市町村全体	202	59.4	148	43.5
他市町村を含む生活圏	34	10.0	78	22.9
青森県全体	16	4.7	23	6.8
その他	3	0.9	2	0.6
無回答	9	2.6	9	2.6
合計	340	100.0	340	100.0

（2）出身都道府県（F8A.）

県内出身者が、むつ市（85.5%）、おいらせ町（91.4%）のどちらの回答者にも、第1位の割合を占めている（むつ市は「下北地方」という回答を「青森県内」に入れればわずかに値が増える）。第2位が北海道であることも共通しているが、県内出身者の割合との開きは大きく、むつ市在住者の3.4%、おいらせ町在住者の1.5%である。

北海道・東北地方のほかの出身者をみてみると、むつ市在住者の出身都府県は12、おいらせ町在住者の出身県は９であり、むつ市在住者のほうが出身地のやや多いことがわかる。この差は、むつ市にある海上自衛隊に各地から隊員が転入してくることの影響が考えられるだろう。

（3）出身市町村（F8B.）

おいらせ町在住者、むつ市在住者いずれの出身市町村も、自市町がほかの市町村を引き離して1位であることは共通している。自市町内出身者の割合は、おいらせ町在住者が57.5%、むつ市在住者が67.5%であり、むつ市在住者が10ポイントおいらせ町在住者を上回っている。おいらせ町在住者の出身町村の第2位は八戸市・三沢市で同率の10%であり、むつ市在住者の出身市町村第2位は青森市で3.4%

と、自市とのポイントの開きが大きい。

（4）出身中学校（F8C.）

回答者の卒業した中学校名を記述回答で尋ねた。表3はその単純集計である。この設問は、回答者の出身地を市町村より小さな範囲（中学校区）で特定するためのものである。別章で、出身地からの移住歴などの変数に利用している。

例えば、出身地の市町村（表1）は、平成合併後の現市町村だが、もしおいらせ町内とむつ市内でより意味のある地区区分（例えば市町内の「市街地」「条件不利地」「新興住宅地」「農村部」など）を適用するのなら、この中学校区を用いて「旧市町村単位」で区切っていくなどの方法が考えられる（e.g.むつ市→「旧むつ市」「それ以外の旧大畑町ほか」）。

表3 出身中学校

おいらせ

中学校名	人	%
美香保	1	0.3
名寄東	1	0.3
沖舘	1	0.3
造道	1	0.3
青森西	2	0.6
甲田	1	0.3
三内	1	0.3
十和田	3	1
十和田東	2	0.6
三本木高校附属	1	0.3
十和田第一	1	0.3
大深内	1	0.3
甲東	1	0.3
三本木	2	0.6
野辺地	1	0.3
八戸市内の高校	1	0.3
八戸北稜	5	1.6
根城	2	0.6
八戸第三	2	0.6
市川	5	1.6
下長	4	1.3
大館	1	0.3
江陽	1	0.3
長者	1	0.3
八戸第一養護	1	0.3
南浜	2	0.6
八戸第一	1	0.3
三条	1	0.3
八戸盲学校小学部-中学部	1	0.3
白銀南	1	0.3
八戸東	1	0.3
八戸第二	2	0.6
是川	1	0.3
田名部	1	0.3
大畑	1	0.3
川内	1	0.3
六戸	3	1
五所川原第三	1	0.3
倉石	2	0.6
川内	1	0.3
東北	2	0.6
上郷	1	0.3

中学校名	人	%
名久井第一	1	0.3
階上	2	0.6
堀口	8	2.6
三沢第五	6	1.9
三沢第三	3	1
三沢第一	9	2.9
三沢第二	5	1.6
平賀西	1	0.3
平賀東	1	0.3
六ケ所第二	1	0.3
平沼	1	0.3
西平内	1	0.3
木ノ下	35	11.2
下田	152	48.7
三戸	1	0.3
新郷	1	0.3
榎林	1	0.3
宮古河南	1	0.3
矢巾	1	0.3
上杉山	1	0.3
東由利	1	0.3
原町第二	1	0.3
秋山	1	0.3
河内	1	0.3
戸塚西	1	0.3
中野	1	0.3
門野	1	0.3
羽田	1	0.3
宮田	1	0.3
三好丘	2	0.6
奈良興東	1	0.3
中京	1	0.3
生目台	1	0.3
合計	312	100

むつ

中学校名	人	%
稚内東	1	0.3
北都	1	0.3
中標津	1	0.3
東海第四	2	0.6
網走第三	1	0.3
静内第三	1	0.3
尾札部	1	0.3
旭	1	0.3
戸山	1	0.3
佃	1	0.3
青森南	1	0.3
筒井	1	0.3
沖舘	1	0.3
新城	2	0.6
波打	1	0.3
鰺ヶ沢第一	1	0.3
鰺ヶ沢第二	1	0.3
大間	3	1
奥戸	1	0.3
木造	4	1.3
柏	1	0.3
十和田東	1	0.3
野辺地	2	0.6
八戸北稜	2	0.6
福地	1	0.3
白銀	1	0.3
根城	1	0.3
八戸第三	1	0.3
市川	1	0.3
是川	1	0.3
東通村内の中学校	1	0.3
北部	5	1.6
南部	3	1
東通	1	0.3
脇野沢	7	2.3
むつ	33	10.7
田名部	82	26.6
近川	5	1.6
大平	34	11
関根	6	1.9
むつ養護学校中学部	1	0.3
大湊	15	4.9

中学校名	人	%
大畑	28	9.1
角違	1	0.3
川内	7	2.3
横浜	2	0.6
有畑	1	0.3
七百	1	0.3
倉石	1	0.3
平賀西	1	0.3
弘前市立第一	1	0.3
弘前市立第四	1	0.3
弘前市立第三	1	0.3
岩崎	1	0.3
見前	1	0.3
盛岡北陵	1	0.3
紫波第二	1	0.3
大東	1	0.3
宮古河南	1	0.3
上杉山	1	0.3
宮城野	1	0.3
花輪第一	1	0.3
仁賀保	1	0.3
陵南	1	0.3
梁川	1	0.3
本宮第一	1	0.3
小平	1	0.3
坂下第一	1	0.3
下仁田	1	0.3
北陽	1	0.3
朝霞第四	1	0.3
男衾	1	0.3
東金東	1	0.3
府中第二	2	0.6
五泉北	1	0.3
神丘	1	0.3
西淀	1	0.3
倉敷東	1	0.3
勝山	1	0.3
宮原	1	0.3
二瀬	1	0.3
長嶺	1	0.3
都野	1	0.3
合計	308	100

(5) 出身高校（F8D.）

回答者の卒業した高校名を記述回答で尋ねた。表4はおいらせ町在住者、むつ市在住者それぞれの単純集計を示したものである。有効回答は297票（おいらせ）、300票（むつ）だった。出身地と同じく、県内高校の卒業者（網がけ部分）が大部分を占め、おいらせ町在住回答者のうちで合計93.3%、むつ市在住の回答者のうちで合計85.4%が県内高校の卒業者である。

これらの出身高校は、例えば職業高校か普通科高校か、普通科高校のなかでも大学進学者の割合の高い高偏差値の進学校か、そうではない低偏差値の進路多様校かによって、卒業後の進路や就職後のキャリアパスがちがってくるだろう。ここでは目安として、卒業生の半数以上が四年制大学に進学する高校を「進学校」とし、半数未満が四年制大学に進学する高校を「非進学校・進路多様校」とした。進路先の具体的な情報が公開されていない場合には、偏差値50以上の普通科高校を「進学校」とした。

表4 出身高校

おいらせ

高校名	人	%
札幌東陵	1	0.3
青森県内の高校	1	0.3
青森	1	0.3
青森中央	1	0.3
青森東	2	0.7
青森北	1	0.3
青森工業	1	0.3
青森山田	1	0.3
北斗（定時制・通信制）	2	0.7
十和田工業	14	4.7
三本木	9	3.0
三本木農業	13	4.4
野辺地	3	1.0
八戸	8	2.7
八戸東	7	2.4
八戸西	8	2.7
八戸南	2	0.7
八戸北	4	1.3
八戸商業	6	2.0
八戸工業	6	2.0
八戸学院光星	13	4.4
八戸工業大学第一	9	3.0
八戸工業大学第二	5	1.7
八戸高専	1	0.3
八戸聖ウルスラ	3	1.0
八戸第一養護	1	0.3
千葉学園	4	1.3
向陵	1	0.3
八戸北高校南郷校舎	1	0.3
八戸中央	1	0.3
大湊	1	0.3
田名部	2	0.7
六戸	14	4.7
五所川原工業	2	0.7
五所川原第一	1	0.3
五戸	2	0.7
名久井農業	1	0.3
三沢（普通科・定時制）	37	12.5
三沢商業	30	10.1
柏木農業	1	0.3
弘前中央	1	0.3
東奥義塾	1	0.3
百石	53	17.8
三戸	2	0.7
黒石	1	0.3
七戸高校八甲田校舎	1	0.3
盛岡南	1	0.3
盛岡視覚支援学校高等部普通科-専攻科	1	0.3
宮古工業	1	0.3
明成	1	0.3
西目	1	0.3
原町	1	0.3
東洋大附牛久	1	0.3
春日部女子	1	0.3
科学技術学園（普通科・通信制）	1	0.3
橋本	1	0.3
伊東	1	0.3
江南	1	0.3
岡崎	1	0.3
榛原	1	0.3
苅田工業	1	0.3
日向学院	1	0.3
オレワ	1	0.3
合計	297	100.0

むつ

高校名	人	%
稚内商工	1	0.3
旭川東栄	1	0.3
中標津	1	0.3
北海学園	1	0.3
札幌商業	1	0.3
網走南ヶ丘	1	0.3
南茅部	1	0.3
小樽水産	1	0.3
北広島	1	0.3
北海道栄	1	0.3
青森	2	0.7
青森東	7	2.3
青森西	1	0.3
青森北	2	0.7
戸山	3	1.0
青森山田	3	1.0
東奥学園	2	0.7
青森第一高等養護	1	0.3
北斗（定時制・通信制）	5	1.7
鰺ヶ沢	2	0.7
大間	5	1.7
三本木	1	0.3
野辺地	4	1.3
光星学院野辺地西	10	3.3
八戸	1	0.3
八戸東	1	0.3
八戸南	1	0.3
八戸北	3	1.0
八戸商業	1	0.3
八戸学院光星	2	0.7
八戸工業大学第一	3	1.0
八戸聖ウルスラ	1	0.3
向陵	1	0.3
むつ市内の高校	1	0.3
大湊	53	17.7
田名部	60	20.0
むつ工業	40	13.3
むつ養護	1	0.3
田名部高校大畑校舎	18	6.0
大湊高校川内校舎	9	3.0
野辺地高校横浜分校	2	0.7
五所川原	1	0.3
五所川原第一	1	0.3
三沢商業	1	0.3
弘前	3	1.0
聖愛	1	0.3
百石	2	0.7
黒石	2	0.7
盛岡市立	1	0.3
盛岡南	1	0.3
紫波総合	1	0.3
大東	1	0.3
気仙沼向洋	1	0.3
仙台育英	1	0.3
仙台東	1	0.3
花輪	1	0.3
由利工業	1	0.3
寒河江	1	0.3
福島県内の高校	1	0.3
福島南	1	0.3
日本大学東北	1	0.3
坂下	1	0.3
吉井	1	0.3
越谷南	1	0.3
新座総合技術	1	0.3
坂戸西	1	0.3
印旛	1	0.3
成東	1	0.3
府中東	1	0.3
新津南	1	0.3
享栄	1	0.3
東淀川	1	0.3
岡山城東	1	0.3
関西	1	0.3
武田	2	0.7
嘉穂	1	0.3
熊本北	1	0.3
竹田	1	0.3
JFK	1	0.3
NHK学園	1	0.3
合計	300	100.0

移動の問題と関連づけて考えるため、おいらせ町とむつ市の高校進学に関する環境をみてみよう。おいらせ町内にある高校は、県立の百石高校1校のみである。百石高校は普通科と食物調理科とが併設されており、偏差値は41～43の進路多様校である（2016年の進路実績は卒業生男女計138名中、四年制大学進学15名）。一方のむつ市は、市内に田名部高校、大湊高校、むつ工業高校と3校の県立高校がある。田名部高校（偏差値50～53）は、むつ市中心市街近くに位置する普通科進学校である（定時制・英語科も併設）。2016年の進路実績は卒業生男女計165名で、四年制大学合格が174件、就職内定が22件だった。大湊高校（偏差値44）は、普通科の進路多様校であり、2016年の進路実績は卒業生男女計194名中、四年制大学進学62名。むつ工業高校は職業高校（偏差値41）であり、卒業生の大部分が高卒就職する（進路実績数の公開情報なし）。

表5-1と表5-2は、おいらせ町出身でおいらせ町在住の回答者（以下「おいらせ町出身者」）とむつ市出身でむつ市在住の回答者（以下「むつ市出身者」）の高校種別の進学先の分布を示している。双方でもっとも高い割合を示している進学先種別は、普通科の非進学校（進路多様校）である。普通科進学校への進学については、むつ市出身者（30.7%）がおいらせ出身者（14.1%）より高く、職業高校進学ではおいらせ出身者30.6%、むつ市出身者18.8%と、普通科進学校進学とほぼ同じポイント差での逆転した傾向がみられる。

表5-1　高校種別進学先（おいらせ出身者）

高校種別	人数	%
普通（進）	24	14.1
普通（非進）	91	53.5
職業	52	30.6
特別支援	2	1.2
留学	1	0.6
合計	170	100.0

表5-2　高校種別進学先（むつ出身者）

高校種別	人数	%
普通（進）	62	30.7
普通（非進）	97	48.0
職業	38	18.8
特別支援	2	1.0
留学	1	0.5
その他	2	1.0
合計	202	100.0

最終学歴を尋ねた別の設問（F19）の回答集計から、表5-3および表5-4を作成した。大卒・大学院卒あるいは在学中の割合をみると、おいらせ町在住者の30.2%、むつ市在住者の32.4%と、最終学歴にはそれほど大きな差はないことが分かる。「短大卒・高専卒または在学中」についても差はほぼない（双方4割前後）。「専門学校卒または在学中」については、おいらせ町在住者（59.0%）がむつ市在住者（54.8%）をやや上回るという結果になっている。

高校進学時に、自分のそれまで育った市町村を越境して進学する者はどのくらいいるのか。表5-5と表5-6はそれぞれ、おいらせ町出身者とむつ市出身者の具体的な進学先高校を示している。それぞれ、すでに確認したように自市町外の進学は目立っているが、両者を比較すれば、おいらせ町出身者が町内の高校に進学した割合（24.7%）が、むつ市出身者が市内の高校に進学した割合（80.2%）よりもずっと低い。

表5-3. 最終学歴:おいらせ在住者

	人	%	累積%
大学卒・大学院卒または在学中	85	25.4	30.2
短大卒・高専卒または在学中	35	10.5	40.7
専門学校卒または在学中	61	18.3	59.0
高卒	139	41.6	95.8
中卒	11	3.3	99.1
その他	3	0.9	100.0
合計	334	100.0	

表5-4. 最終学歴:むつ在住者

	人	%	累積%
大学卒・大学院卒または在学中	93	27.6	32.4
短大卒・高専卒または在学中	22	6.5	38.9
専門学校卒または在学中	54	16.0	54.8
高卒	156	46.3	96.4
中卒	11	3.3	99.7
その他	1	0.3	100.0
合計	337	100.0	

おいらせ町出身者は、隣接する三沢市と八戸市所在の高校に多く進学し、割合にすればちょうど全進学者数のおよそ４分の1ずつがこの2市の高校に進学しているのが分かる。普通科進学校は町内になく、八戸市に複数、十和田市に1校所在しており、大学進学希望者の多くがこれら２市の高校に進学するだろう。大学進学志望を必ずしも持たない者は、進学先として普通科進路多様校や職業高校に進学することになり、町内の百石高校、八戸市、十和田市、六戸市、五所川原市などに進学先がある。

表5-5

所在地(%)	高校種別	公立/私立	高校名	人数	%
おいらせ町(24.7)	普通(非進)	県立	百石(普通科・食物調理科)	42	24.7
三沢市(28.2)	普通(非進)	県立	三沢(普通科・定時制)	28	16.5
	職業	県立	三沢商業	20	11.8
八戸市(25.3)	普通(非進)	私立	八戸学院光星	8	4.7
	普通(進)	県立	八戸西(普通科・スポーツ科)	6	3.5
	普通(進)	県立	八戸	5	2.9
	普通(進)	県立	八戸東	5	2.9
	普通(進)	県立	八戸北	3	1.8
	普通(進)	私立	八戸聖ウルスラ（普通科・音楽科・英語科）	3	1.8
	普通(非進)	私立	向陵	1	0.6
	職業	私立	八戸工業大学第一（普通科・工業科）	5	2.9
	職業	私立	八戸工業大学第二(美術科)	3	1.8
	職業	県立	八戸商業	2	1.2
	職業	県立	八戸工業	1	0.6
	特別支援	県立	八戸第一養護	1	0.6
十和田市(12.4)	職業	県立	三本木農業	10	5.9
	職業	県立	十和田工業	9	5.3
	普通(進)	県立	三本木	2	1.2
六戸町(5.9)	普通(非進)	県立	六戸	10	5.9
五所川原市(1.2)	職業	県立	五所川原工業	2	1.2
県外(1.2)	特別支援	岩手県立	盛岡視覚支援学校高等部普通科-専攻科	1	0.6
	-	ニュージーランド	オレワ	1	0.6
その他(1.2)	普通(非進)	県立	北斗(定時制・通信制)	1	0.6
	普通(非進)	県立	八戸中央(定時制・通信制)	1	0.6
合計				170	100.0

表5-6

所在地(%)	高校種別	公立/私立	高校名	人数	%
むつ市(80.2)	普通(進)	県立	田名部	54	26.7
	普通(非進)	県立	大湊	51	25.2
	普通(非進)	県立	田名部高校大畑校舎	14	6.9
	普通(非進)	県立	大湊高校川内校舎	7	3.5
	職業	県立	むつ工業	34	16.8
	特別支援	県立	むつ養護	1	0.5
	–		(高校名不明)	1	0.5
野辺地町(6.4)	普通(非進)	私立	光星学院野辺地西(総合学科)	10	5.0
	普通(非進)	県立	野辺地	3	1.5
青森市(5.9)	普通(進)	県立	青森東	3	1.5
	普通(進)	県立	青森	2	1.0
	普通(非進)	私立	青森山田(普通科・情報処理科・自動車科・調理科)	2	1.0
	普通(非進)	私立	東奥学園(普通科・調理科・福祉科・情報科学科)	2	1.0
	普通(進)	県立	青森北	1	0.5
八戸市(3.0)	普通	県立	戸山	1	0.5
	特別支援	県立	青森第一高等養護	1	0.5
	職業	私立	八戸工業大学第一(普通科・工業科)	3	1.5
	普通(非進)	私立	向陵	1	0.5
	普通(非進)	私立	八戸学院光星(普通科・保育福祉科)	1	0.5
	職業	県立	八戸商業	1	0.5
おいらせ町(1.0)	普通(非進)	県立	百石(普通科・食物調理科)	2	1.0
横浜町	普通(非進)	県立	野辺地高校横浜分校	1	0.5
弘前市(0.5)	普通(進)	県立	弘前	1	0.5
県外(0.5)	–	アメリカ	JFK	1	0.5
その他(2.0)	普通(非進)	県立	北斗(定時制・通信制)	3	1.5
	–	–	NHK学園	1	0.5
合計				202	100.0

むつ市出身者の高校進学先は、自市内高校への進学がもっとも高い割合（80.2%）を示す。前述の通り、自市内でも普通科進学校、普通科進路多様校、職業高校とバリエーションがある。

４－４．引っ越し予想

これ以降の「引っ越し予想」の設問は、移動の理由やタイミングはどのようなものと想定されているか、移動先はどこだと想定されるかなどを割り出すためのものである。これらを、おいらせ町在住者／むつ市在住者、業種、男女、学歴などによる差がどのように出るかについてクロス集計をみていく。

また「引っ越し予想」を、これまでの移動パターン（居住歴）と合わせてみれば、より複雑な移動パターンがどのように決まっていくのかが見えてくるはずだ（例えば、居住歴でUターンに分類された人は、これからも転出は想定していないのか、など）。

対象者の年代を考えれば、労働人口が多く含まれると想定されるが、一定割合の専業主婦もいることが考えられるので、前述のように男女別の集計をみていく必要がある。女性の場合は、配偶者や恋人の移動から予想している場合が考えられる（ジェンダー・トラック）。

(1) 今後引っ越しを考えているか（F12_1.）

今後に引っ越しすることが考えられるかどうか、「(考えられるとすれば) おそらく■年後」「これからの引っ越しは考えにくい」の二者択一で回答してもらった。今後の引っ越しが考えられる場合、その要因としては就職、転勤、転職、結婚などが考えられるだろう。

表6　今後引っ越しを考えているか

	おいらせ在住者		むつ在住者	
	人	%	人	%
今後、引っ越すだろう	128	39.6	146	45.6
今後の引っ越しは考えにくい	195	60.4	174	54.4
合計	323	100.0	320	100.0

まず単純集計（表6）だが、おいらせ町在住者は「今後引っ越すだろう」を回答した割合と「今後の引っ越しは考えにくい」を回答した割合がおおよそ4：6になっている。むつはこれがおおよそ4.5：5.5の割合になっている（これは、むつ市の対象者に海上自衛隊員が含まれることの影響が考えられ

る)。

引っ越し予想と最終学歴との関係はどうだろうか。表7-1.、表7-2. はこの設問F12_1への回答と、最終学歴を尋ねた設問F19. の回答とのクロス集計表である。各学歴カテゴリの有効回答の全数のうち、引っ越しを予測している人の割合を、a/(a+b)として算出すれば、この値が高くなるのはおいらせ町在住者、むつ市在住者ともに、「大学卒・大学院卒または在学中」の高学歴者である。中卒・高卒・専門学校卒はこれよりも相対的に低い値を示しているが、「短大卒・専門学校卒」のカテゴリではおいらせ町在住者よりもむつ市在住者のほうがやや高い値を示している。

表7-1. 引っ越し予想と最終学歴:おいらせ在住者　（人）

	a 引っ越す	b 考えにくい	合計	a／(a+b)
大学卒・大学院卒または在学中	46	36	82	0.6
短大卒・高専卒または在学中	11	23	34	0.3
専門学校卒または在学中	25	32	57	0.4
高卒	40	92	132	0.3
中卒	4	7	11	0.4
その他	1	1	2	0.5
合計	127	191	318	

表7-2. 引っ越し予想と最終学歴:むつ在住者　（人）

	a 引っ越す	b 考えにくい	合計	a／(a+b)
大学卒・大学院卒または在学中	51	38	89	0.6
短大卒・高専卒または在学中	10	12	22	0.5
専門学校卒または在学中	17	34	51	0.3
高卒	64	81	145	0.4
中卒	4	7	11	0.4
合計	146	172	318	

次に、引っ越し予想と業種との関係はどうだろうか。別の「あなたの主な仕事の勤務先の業種または業務内容」について17業種からの択一式で回答してもらった設問F22. の結果と、F12_1. の今後の引っ越しを考えられるかどうかについての回答のクロス集計が表7-3. および表7-4. である。17業種あることによってそれぞれの業種の度数が小さくなってしまうため、有為差の検定はおこなっていないが、おいらせ町在住者はa/(a+b)の値が0.7以上を示す業種が「不動産・金品売買」しかないのに比べ、むつ市在住者は「電気・ガス・熱供給・水道」「金融・保険」など全6業種が0.7以上の値を示している。ここからは、おいらせ町在住者よりもむつ市在住者の方がより将来の引っ越しを予想しているという傾向が出るのは、海上自衛隊員（業種別回答は「その他のサーヴィス」あるいは「上記に分類されない公務員」を選択したと思われる）の影響のみではないことが推測できる。

表7-3. 引っ越し予想と業種:おいらせ

業種	a 引っ越す	b 考えにくい	（人）	a／(a+b)
農林漁業・鉱業	3	8	11	0.3
建設業	5	18	23	0.2
製造業	10	24	34	0.3
電気・ガス・熱供給・水道	0	5	5	0.0
情報通信	1	1	2	0.5
運輸・郵便	4	4	8	0.5
卸売・小売	16	19	35	0.5
金融・保険	1	4	5	0.2
不動産・金品売買	4	2	6	0.7
飲食店・宿泊サービス	5	10	15	0.3
生活関連サービス	5	8	13	0.4
専門技術サービス	1	2	3	0.3
その他のサービス	4	5	9	0.4
教育・学習支援	12	10	22	0.5
医療・福祉	24	35	59	0.4
上記に分類されない公務員	12	13	25	0.5
その他	6	5	11	0.5
合計	113	173	286	

表7-4. 引っ越し予想と業種:むつ

業種	a 引っ越す	b 考えにくい	（人）	a／(a+b)
農林漁業・鉱業	2	1	3	0.7
建設業	6	21	27	0.2
製造業	3	8	11	0.3
電気・ガス・熱供給・水道	6	2	8	0.8
情報通信	2	2	4	0.5
運輸・郵便	3	2	5	0.6
卸売・小売	7	24	31	0.2
金融・保険	4	1	5	0.8
不動産・金品売買	2	1	3	0.7
飲食店・宿泊サービス	2	13	15	0.1
生活関連サービス	8	4	12	0.7
専門技術サービス	1	3	4	0.3
その他のサービス	1	7	8	0.1
教育・学習支援	6	4	10	0.6
医療・福祉	20	29	49	0.4
上記に分類されない公務員	42	22	64	0.7
その他	6	4	10	0.6
合計	121	148	269	

（2）今後の引っ越しについて考えられる理由（F14.）

「あなたが今後引っ越される場合、次の引っ越しの理由はどのようなものになるとお考えですか」という質問に、「自分の転勤」、「配偶者の転勤」、「子どもの進学」、「住宅の購入や建設」、「自分の親との同居の必要」、「配偶者の親との同居の必要」という選択肢に「その他」を加えたものから選んで回答してもらった（複数回答可）。

表8は、この回答を集計したものである。おいらせ町在住者、むつ市在住者ともにもっとも大きな割合を占める理由は「自分の転勤」である。それ以下の理由の分布は、おいらせ町在住者とむつ市在住者とで比較すると微妙に異なっている。おいらせ町在住者の回答では、そのほかの理由に比べて「住宅の購入・建設」（18.3%）が10ポイントほど上回っている。対してむつ市在住者の回答では「配偶者の転勤」が「住宅の購入・建設」と並ぶ（11.4%）。また、「配偶者の親との同居」を理由として選んだ回答がおいらせ町在住者には多く、「自分の親との同居」を理由として選んだ回答はむつ市在住者に多い。

表8　今後の引っ越しについて考えられる理由

%

	おいらせ町	むつ市
自分の転勤	30.2	38.6
配偶者の転勤	8.9	11.4
子どもの進学	5.3	6.5
住宅の購入・建設	18.3	11.4
自分の親との同居	3.6	7.1
配偶者の親との同居	8.9	3.3
その他	24.9	21.7
N	136	156

表9　今後の引っ越しについて考えられる理由：ジェンダーとのクロス集計

%

	性別	おいらせ町	むつ市
自分の転勤	男性	50.8	61.6
	女性	27.3	26.1
配偶者の転勤	男性	5.1	3.5
	女性	15.6	26.1
子どもの進学	男性	1.7	5.8
	女性	10.4	10.1
住宅の購入・建設	男性	32.2	15.1
	女性	15.6	11.6
自分の親との同居	男性	5.1	8.1
	女性	3.9	8.7
配偶者の親との同居	男性	3.4	2.3
	女性	16.9	5.8
その他	男性	16.9	11.6
	女性	41.6	42.0
N	男性	59	86
	女性	77	69
	計	136	155

「配偶者の転勤」「自分の親／配偶者の親との同居」という理由の選択に、ジェンダーによる違いはあるだろうか。表9はこれらの項目についてジェンダー別に再集計したものである。男女間で値の差が顕著なのは、2点についてだ。まず「配偶者の転勤」を理由に選択した回答者は、おいらせ町在住でもむつ市在住でも女性の方が男性より明らかに高い割合である。次に、「自分の親との同居」を理由として選択した回答者はおいらせ町在住者とむつ市在住者とのあいだでそれほどの差がみられないのに比べれば、「配偶者の親との同居」を理由として選択した回答者については、おいらせ町在住者の場合は女性のほうが男性より高い割合を示しており、おいらせ町在住者の場合は女性が男性よりも20.3ポイント、むつ市在住者の場合は女性が男性よりも8.1ポイント高い値となっている。

（3）おそらく■年後に引っ越し（F12_2）

今後の引っ越しが考えられる場合に、それがおそらく何年後のことと考えられるか。その設問への回答の単純集計が表10である。むつ市在住者、おいらせ町在住者いずれも「3年後」までで有効回答の半数を越え、「7年後」までで7割を越えている。一定年数の内にここまでの割合で引っ越しが予想されているのは、労働者（とその家族）が「転勤」を想定していることによるだろう。

また、「無回答」が一定割合いることも、注目してよいかもしれない。ただし、この質問票では「引っ越しを考えられるかどうか」という質問に対して無回答なのか、引っ越しは考えられるものの、何年後かは分からないゆえに無回答なのかの区別はつかない。

表10 おそらく■年後に引っ越し

むつ

■年後	人	%	%(累積)
1	45	27.1	27.1
2	30	18.1	45.2
3	21	12.7	57.8
4	3	1.8	59.6
5	18	10.8	70.5
6	1	0.6	71.1
7	3	1.8	72.9
8	1	0.6	73.5
10	12	7.2	80.7
13	1	0.6	81.3
20	1	0.6	81.9
25	1	0.6	82.5
30	5	3	85.5
無回答	24	14.5	100
合計	166	100	

おいらせ

■年後	人	%	%(累積)
1	49	33.8	33.8
2	19	13.1	46.9
3	10	6.9	53.8
4	5	3.4	57.2
5	22	15.2	72.4
6	2	1.4	73.8
7	1	0.7	74.5
10	11	7.6	82.1
14	1	0.7	82.8
15	1	0.7	83.4
18	1	0.7	84.1
20	3	2.1	86.2
30	2	1.4	87.6
無回答	18	12.4	100
合計	145	100	

(4) 引っ越し先の予想地 (F13_1、F_13A、F_13B)

この先、引っ越しを考えられる人は、引っ越し先がどこになるのかについてある程度予測はついているのだろうか。国内か海外か、国内ならば都道府県や市町村はどこか、大都市／地方都市／町村部のいずれだと思うか、について回答してもらった。表11-1、表11-2、表11-3はその単純集計である。おおむね国内の転勤が予測されており (表11-1)、国内の引っ越し先予想地としては県内がもっとも回答者の割合が高く、おいらせ町在住者、むつ市在住者ともに東北地方内を予想した回答が75%に達している (表11-2)。ただ、むつ市在住回答者の場合は、北海道転勤を予測している人がおいらせ在住回答者にくらべて多い。また、関東圏では東京都と千葉県、神奈川県が双方ともにやや多くなっている。

表11-1 引越先予想地

おいらせ

どこへ	人	%	%(累積)
国内	121	83.4	83.4
海外	4	2.8	86.2
無回答	20	13.8	100.0
合計	145	100.0	

むつ

どこへ	人	%	%(累積)
国内	142	85.5	85.5
海外	1	0.6	86.1
国内国外どちらでも	1	0.6	86.7
無回答	22	13.3	100.0
合計	166	100.0	

表11-2　引っ越し予想先（都道府県）

おいらせ在住者

どこへ	人	%	%（累積）
北海道	3	3.3	3.3
青森県	58	63	66.3
岩手県	2	2.2	68.5
宮城県	8	8.7	77.2
秋田県	1	1.1	78.3
栃木県	1	1.1	79.3
埼玉県	1	1.1	80.4
千葉県	1	1.1	81.5
東京都	8	8.7	90.2
神奈川県	3	3.3	93.5
石川県	2	2.2	95.7
静岡県	1	1.1	96.7
京都府	1	1.1	97.8
山口県	1	1.1	98.9
沖縄県	1	1.1	100
合計	92	100	

むつ在住者

どこへ	人	%	%（累積）
北海道	12	10.3	10.3
青森県	63	54.3	64.7
岩手県	2	1.7	66.4
宮城県	8	6.9	73.3
秋田県	1	0.9	74.1
山形県	1	0.9	75
埼玉県	1	0.9	75.9
千葉県	9	7.8	83.6
東京都	7	6	89.7
神奈川県	4	3.4	93.1
京都府	2	1.7	94.8
大阪府	1	0.9	95.7
広島県	2	1.7	97.4
福岡県	1	0.9	98.3
長崎県	2	1.7	100
合計	116	100	

表11-3 引っ越し予想先(市町村)

おいらせ在住者

どこへ	人	%
札幌市	2	2.5
ニセコ町	1	1.2
青森市	2	2.5
十和田市	5	6.2
八戸市	20	24.7
六戸町	2	2.5
五所川原市	1	1.2
五戸町	1	1.2
階上町	1	1.2
三沢市	3	3.7
六ケ所村	1	1.2
おいらせ町	19	23.5
三八地方	1	1.2
盛岡市	1	1.2
宮古市	1	1.2
仙台市	8	9.9
宇都宮市	1	1.2
野田市	1	1.2
八王子市	1	1.2
中央区	1	1.2
昭島市	1	1.2
茅ヶ崎市	2	2.5
小松市	1	1.2
浜松市	1	1.2
京都市	1	1.2
防府市	1	1.2
那覇市	1	1.2
合計	81	100.0

むつ在住者

どこへ	人	%
稚内市	1	1.0
札幌市	4	4.1
函館市	6	6.1
青森市	7	7.1
鰺ヶ沢町	1	1.0
八戸市	5	5.1
むつ市	31	31.6
横浜町	1	1.0
五戸町	1	1.0
三沢市	3	3.1
弘前市	6	6.1
奥州市	1	1.0
仙台市	9	9.2
にかほ市	1	1.0
山形市	1	1.0
所沢市	1	1.0
習志野市	1	1.0
柏市	3	3.1
松戸市	1	1.0
館山市	1	1.0
市原市	1	1.0
府中市	1	1.0
横浜市	3	3.1
横須賀市	1	1.0
舞鶴	2	2.0
大阪市	1	1.0
江田島市	1	1.0
福山市	1	1.0
佐世保市	2	2.0
合計	98	100.0

引っ越し先市町村の予想（表11-3）をみると、おいらせ町在住者もむつ市在住者も、自市町内での引っ越しを予想した回答が一定割合を占めることが分かる。おいらせ町在住者の場合は、町内の引っ越し（23.5%）に次いで、日常的な通勤・通学圏でもある八戸市への引っ越し（24.7%）が予想されている。しかし同じく通勤・通学圏であり高校進学先にもなっている三沢市については、回答割合は八戸に比べようもなく低い。八戸市の次に回答割合が高いのは仙台市（9.9%）である。

むつ市在住者の場合は、市内の引っ越し予想回答（31.6%）のほかで目立った回答割合を示している市町村はない。仙台市や函館市、青森市、弘前市といった地方都市が5%～10%のあいだの割合を示している。

（5）引っ越し先予想：大都市/地方/田舎（F13_2.）

将来に引っ越しが考えられるとしたら、その移動先を具体的な県や市町村ではなく、大都市／地方／田舎（町村部）のどれか、その予想を設問した。その回答の単純集計を示したのが表12-１.である。おいらせ在住者、むつ在住者ともに似たような回答分布傾向であり、6割以上が地方都市への引っ越しを予想しており、次いで町村部（2～3割）、大都市（1割前後）と並ぶ。

表12-1. 引っ越し先予想：大都市/地方/田舎

%

どこへ	むつ	おいらせ
大都市	12.8	9.9
地方都市	65.4	62.6
田舎（町村郡）	21.8	27.5
N	78	91

ここで、この引っ越し先の「予想」と、暮らしたい地域の「希望」との関係をみてみたい。本調査では、「あなたの住居に関わる価値観について伺います」という4件法の設問がある（問2. A～C）。このなかで「自分が一生暮らす場所として、下北半島のようにあるような「田舎」はいいと思う」（田舎に定住志向）、「自分が一生暮らす場所として青森市のような「地方都市」はいいと思う」（地方都市定住志向）、「自分が一生暮らす場所として東京のような「大都市」はいいと思う」（大都市定住志向）、という3つの項目についての回答と、このF13_2の引っ越し先「予想」の結果とのクロス集計を試みよう。

表12-2. 暮らしたい地域（希望）

%

場所	志向の強さ	おいらせ	むつ
田舎	4 まったくそう	8.7	19.4
	3 どちらかといえばそう	21.7	38.2
	2 どちらかといえばそうではない	41.6	28.7
	1 まったくそうではない	28.0	13.7
地方都市	4 まったくそう	8.1	19.2
	3 どちらかといえばそう	53.6	51.5
	2 どちらかといえばそうではない	27.7	21.9
	1 まったくそうではない	10.5	7.5
大都市	4 まったくそう	3.9	8.1
	3 どちらかといえばそう	16.9	17.9
	2 どちらかといえばそうではない	38.0	38.8
	1 まったくそうではない	41.3	35.2
	N	332	335

まず、暮らしたい地域の「希望」についての単純集計の内容を確認しておく。表12-2. は、田舎／地方都市／大都市への定住志向田舎に定住志向（問2. A～C）についての単純集計表である。注目されるのは、地方都市定住志向と大都市定住志向に関しての傾向である。おいらせ町在住者・むつ市在住者ともに、地方都市定住志向には「どちらかといえばそう」を半数以上が選択しており、「まったくそう」も合わせればおいらせ町在住者の6割以上、むつ市在住者の7割以上が地方都市定住志向を示していることが分かる。つまり、おおまかに全体をみれば、将来暮らす地域については「予想」（表12-1.）
も「希望」（表12-2.）も、地方都市志向を選択する回答者は5割～7割程度を占めることになる。また、大都市定住についてはおいらせ町在住者・むつ市在住者ともに否定的な傾向がみえ、「どちらかといえばそうではない」「まったくそうではない」を合わせれば、おいらせ町在住者の8割弱、むつ市在住者の7割以上が否定的な志向を示していることが分かる。つまり「予想」ばかりでなく「希望」についても、大都市志向を選択する回答者は1割～3割程度なのである。一方で、両地域で異なった傾向がみられるのは田舎定住志向についてで、むつ市在住者の方が、おいらせ町在住者に比べて肯定的な回答割合がやや高い。

表12-3. 定住の「希望」と引っ越し先の「予想」その関係：おいらせ在住

a. 「田舎に定住志向」と今後の引っ越し先予想とのクロス集計（人）

	大都市	地方都市	田舎	計
まったくそう	3	3	4	10
どちらかといえばそう	1	11	4	16
どちらかといえばそうではない	3	23	6	32
まったくそうではない	2	13	3	18
無回答	1	1	0	2
計	10	51	17	78

b. 「地方都市定住志向」と今後の引っ越し先予想とのクロス集計（人）

	大都市	地方都市	田舎	計
まったくそう	2	6	2	10
どちらかといえばそう	4	27	8	39
どちらかといえばそうではない	2	12	7	21
まったくそうではない	1	5	0	6
無回答	1	1	0	2
計	10	51	17	78

c. 「大都市定住志向」と今後の引っ越し先予想とのクロス集計（人）

	大都市	地方都市	田舎	計
まったくそう	1	2	0	3
どちらかといえばそう	4	11	1	16
どちらかといえばそうではない	1	21	5	27
まったくそうではない	3	16	11	30
無回答	1	1	0	2
計	10	51	17	78

表12-4. 定住の「希望」と引っ越し先の「予想」その関係：むつ在住

a. 「田舎に定住志向」と今後の引っ越し先予想とのクロス集計（人）

	大都市	地方都市	田舎	計
まったくそう	0	3	3	6
どちらかといえばそう	1	21	12	34
どちらかといえばそうではない	2	20	6	28
まったくそうではない	6	12	3	21
無回答	0	1	1	2
計	9	57	25	91

b. 「地方都市定住志向」と今後の引っ越し先予想とのクロス集計（人）

	大都市	地方都市	田舎	計
まったくそう	2	10	3	15
どちらかといえばそう	3	38	14	55
どちらかといえばそうではない	2	5	6	13
まったくそうではない	2	2	1	5
無回答	0	2	1	3
計	9	57	25	91

c. 「大都市定住志向」と今後の引っ越し先予想とのクロス集計（人）

	大都市	地方都市	田舎	計
まったくそう	5	2	1	8
どちらかといえばそう	2	11	3	16
どちらかといえばそうではない	2	26	10	38
まったくそうではない	0	17	10	27
無回答	0	1	1	2
計	9	57	25	91

次に、定住先の「希望」と引っ越し先の「予想」との関係をもう少し詳しくみるために、田舎／地方都市／大都市への定住志向の別に、引っ越し先予想とのクロス集計結果を、おいらせ町在住者とむつ市在住者とのそれぞれについて、表12-3. および表12-4. にまとめた（各度数が小さくなっているので割合では示さずに実数で示す）。たとえば田舎に定住志向で将来の予想移住先が田舎である（「田舎志向-予想移動先田舎」）など、希望移動先と予想移住先が一致する組み合わせを四角い枠で囲み、

実際にクロス集計で人数が多く分布したセル（15人以上）は網がけしてある。すでに表12-1. および表12-2. で確認したとおり、全体の傾向として予想移住先は6割以上が「地方都市」である。「予想」の列をみれば、いずれの表でも人数は地方都市の列に多く分布していることが確認できる。

さて、「希望」と「予想」とが一致する組み合わせ（四角い枠）のセルとクロス集計結果で多くの人数が分布するセル（網がけ部分）とが重なるケースは、おいらせ町在住者においてもむつ市在住者においても希望移動先と予想移動先とがどちらも「地方都市」のところである。地方都市志向について「どちらかといえばそう思う」を選択した回答者のうち、将来の予想移動先も地方都市を選択した人は、おいらせ町在住者（表12-3-b.）では27人、むつ市在住者（表12-4-b.）では38人になっていて、これらがクロス集計表のほかのどの組み合わせ（セル）に比べても上回る人数が分布している。

そのほかの田舎に定住志向、大都市定住志向を選択した回答者においては、「希望」と「予想」とが一致する組み合わせのセル（四角い枠）は、クロス集計結果で多くの人数が分布するセル（網がけ）とはズレたところに位置しており、人数が多く分布しているとは言えない。

田舎定住志向について「どちらかというとそうではない」「まったくそうではない」と回答した人のうち、おいらせ町在住では（表12-3-a.）50人中36人、むつ市在住では（表12-4-a.）49人中32人の回答者が、将来地方都市に移動するだろう、と予想している。これは、同じカテゴリで将来大都市に移動するだろう、と予想している回答者の人数（おいらせ町在住者5人、むつ市在住者8人）よりもずっと多い。

田舎に定住志向がある（「まったくそう」「どちらかといえばそう」）と回答した人は、おいらせ町在住の回答者では26人、むつ市在住の回答者では40人である。これらのなかで、将来の予想移動先を地方都市だろうと回答している人は、おいらせ町在住の回答者14人、むつ市在住の回答者では24人である。これらの人は、どちらかといえば不本意ながら将来地方都市に暮らすことになるだろう、と予想していることになる。

大都市定住志向（「まったくそう」「どちらかといえばそう」）を選択した回答者は、おいらせ町在住の回答者（表12-3-c.）のなかでは19人、むつ市在住の回答者（表12-4-c.）のなかでは24人である。これらのなかで、将来の予想移動先を地方都市だろうと回答している人は、おいらせ町在住の回答者のなかでは13人、むつ市在住の回答者のなかでは13人と、いずれも過半数である。また、大都市定住志向について否定的に回答した（「どちらかといえばそうではない」「まったくそうではない」）人については、おいらせ町在住の回答者57人中37人が、むつ市在住の回答者65人中の43人が将来地方都市に暮らすことになるだろう、と予想している。

地方都市定住志向について「どちらかといえばそうではない」「まったくそうではない」と否定的な回答者については、移住先をどのように希望し予想しているか。おいらせ町在住の回答者の場合（表12-3-b.）は27人、むつ市在住の回答者の場合（表12-4-b.）は18人がこれにあたる。かれらのうち、おいらせ町在住回答者の17人、むつ市在住回答者の13人は地方都市に移住することを予想している。

おいらせ町在住者・むつ市在住者ともに、具体的に引っ越しを想定している回答者が4割以上で、引っ越しを想定している回答者は高学歴者に多い。自分の転勤や夫の転勤での引っ越しという移動理由が多く想定され、将来の大都市への移動については「予想」も「希望」も低く、地方都市への移動について「予想」も「希望」も6割に達する。これらが「引っ越し予想」を通して本節でみてきた概略である。

４－５．まとめ

以上で、おいらせ町とむつ市の在住者の地域移動のうち、特に各市町出身者の高校までの移動と、在住者の将来の移動についての傾向をみてきた。おいらせ町については、周辺市町村との境界をまたいだ移動から八戸都市圏という生活移動圏の実効性をうかがうことができ、むつ市については人口減少地（旧村）を抱えているものの、現住者（回答者）の将来の移動に関しては、おいらせ町・むつ市双方の在住者ともに地方都市への移動の希望と予想の傾向が出ており、その移住予想先の地方都市はほぼ県内ふくむ東北地方内で収まる。このように転勤移動するのは比較的高学歴の労働人口であり、高卒・専門学校卒の労働人口は地域内に定着する、という図式が想定できる。従業種の違いから、むつ市在住者回答者に将来の引っ越しを予想している割合が、おいらせ町在住回答者に比べ大きいこと、今後の引っ越しに関して考えられる理由のうち「配偶者の転勤」「配偶者の親との同居」について、両地域の間のジェンダー差の傾向がみとめられたことが挙げられるが、それ以外には本調査のデータでみる限りは、両地域に顕著なちがいはないように思われる。

第５章　仕事と余暇から見る青森の若者たち

阿部真大（甲南大学）

本章では、仕事、仕事と余暇の関係、性別役割分業規範、所得と労働時間といった側面から、調査結果を分析していきたい。

５－１．仕事について

まず、仕事についての項目を、おいらせ町、むつ市、全体の調査結果を使って概観していく。そこからは、短期的に見た「働きやすさ」（やりがいや承認、人間関係など）に関してはある程度は満足しつつも、経済的な側面では不満があり、それに呼応するように未来のキャリアに対しても不安を抱いている若者たちの姿が浮かび上がってきた。

本節では、問6の仕事に関する項目について、見ていきたい（表1、2、3）。

表１　単純集計（おいらせ町）

	問6A：A 総合的に見て、自分の仕事の現状に満足している。	問6B：B 給料や報酬に満足している。	問6C：C 毎日の仕事が「楽しい」と感じられる。	問6D：D 自分は「やりがい」がある仕事をしていると思う。	問6E：E 勤務時間（長さ、時間帯）に関する不満はない。	問6F：F 自分の仕事ぶりは、人に認められていると思う。	問6G：G 現在の職場の人間関係に満足している。	問6H：H 現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代にとって魅力的な仕事の選択肢がある。	問6I：I 今よりよい条件の勤務先に移ろうとか、チャンスを求めて転職しようという考えは持っていない。	問6J：J 今後の自分自身の仕事の将来について、明るい希望を持っている。	問6K：K 今後の勤務先の将来（経営など）について、明るい希望を持てると思う。	問6L：L 20年後も現在の延長線上にある内容の仕事をしていると思う。	問6M：M 20年後も勤務先を変えずに働いていると思う。【配置転換は、同じ勤務先とみなします。】	問6N：N 20年後は、今よりも高い給料や報酬をもらって仕事をしていると思う。
４全くそう思う	10.9	10.5	9.2	18.4	19.7	10.9	18.2	1.4	21.2	8.5	6.5	18.4	17.8	17.7
３どちらかと言えばそう思う	46.1	33.3	39.1	47.3	38.4	50.9	46.7	16.0	22.3	29.4	29.3	40.5	27.7	31.1
２どちらかと言えばそうではないと思う	24.9	31.6	34.0	23.1	25.5	31.4	26.8	50.9	29.8	42.3	44.9	25.9	28.1	36.2
１全くそうではないと思う	18.1	24.5	17.7	11.2	16.3	6.8	8.2	31.7	26.7	19.8	19.4	15.3	26.4	15.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表２　単純集計（むつ市）

	問6A：A　総合的に見て、自分の仕事の現状に満足している。	問6B：B　給料や報酬に満足している。	問6C：C　毎日の仕事が「楽しい」と感じられる。	問6D：D　自分は「やりがい」がある仕事をしていると思う。	問6E：E　勤務時間（長さ、時間帯）に関する不満はない。	問6F：F　自分の仕事ぶりは、人に認められていると思う。	問6G：G　現在の職場の人間関係に満足している。	問6H：H　現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代にとって魅力的な仕事の選択肢がある。	問6I：I　今よりよい条件の勤務先に移ろうとか、チャンスを求めて転職しようという考えは持っていない。	問6J：J　今後の自分自身の仕事の将来について、明るい希望を持っている。	問6K：K　今後の勤務先の将来（経営など）について、明るい希望を持てると思う。	問6L：L　20年後も現在の延長線上にある内容の仕事をしていると思う。	問6M：M　20年後も勤務先を変えずに働いていると思う。【配置転換は、同じ勤務先とみなします。】	問6N：N　20年後は、今よりも高い給料や報酬をもらって仕事をしていると思う。
４全くそう思う	10.6	10.9	7.7	19.2	21.8	9.5	15.1	0.0	20.4	8.5	7.4	22.6	18.0	20.1
３どちらかと言えばそう思う	44.4	34.2	40.1	44.8	37.0	51.1	50.7	5.3	17.3	30.3	25.7	41.3	30.4	33.8
２どちらかと言えばそうではないと思う	32.4	30.3	36.6	26.3	21.1	30.6	24.6	47.9	34.2	43.3	48.2	20.8	27.9	27.8
１全くそうではないと思う	12.7	24.6	15.5	9.6	20.1	8.8	9.5	46.8	28.2	18.0	18.7	15.2	23.7	18.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表３　単純集計（全体）

	問6A：A　総合的に見て、自分の仕事の現状に満足している。	問6B：B　給料や報酬に満足している。	問6C：C　毎日の仕事が「楽しい」と感じられる。	問6D：D　自分は「やりがい」がある仕事をしていると思う。	問6E：E　勤務時間（長さ、時間帯）に関する不満はない。	問6F：F　自分の仕事ぶりは、人に認められていると思う。	問6G：G　現在の職場の人間関係に満足している。	問6H：H　現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代にとって魅力的な仕事の選択肢がある。	問6I：I　今よりよい条件の勤務先に移ろうとか、チャンスを求めて転職しようという考えは持っていない。	問6J：J　今後の自分自身の仕事の将来について、明るい希望を持っている。	問6K：K　今後の勤務先の将来（経営など）について、明るい希望を持てると思う。	問6L：L　20年後も現在の延長線上にある内容の仕事をしていると思う。	問6M：M　20年後も勤務先を変えずに働いていると思う。【配置転換は、同じ勤務先とみなします。】	問6N：N　20年後は、今よりも高い給料や報酬をもらって仕事をしていると思う。
４全くそう思う	10.7	10.7	8.5	18.8	20.8	10.2	16.7	0.7	20.8	8.5	6.9	20.5	17.9	18.9
３どちらかと言えばそう思う	45.2	33.7	39.6	46.1	37.7	51.0	48.7	10.7	19.8	29.8	27.5	40.9	29.0	32.4
２どちらかと言えばそうではないと思う	28.6	31.0	35.3	24.7	23.4	31.0	25.7	49.4	31.9	42.8	46.5	23.4	28.0	32.1
１全くそうではないと思う	15.4	24.6	16.6	10.4	18.2	7.8	8.9	39.2	27.4	18.9	19.0	15.3	25.0	16.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(1)給料、報酬

まず、「問6A：A　総合的に見て、自分の仕事の現状に満足している。」に対する回答は、「全くそう思う（以下、４とする）、どちらかと言えばそう思う（以下、３とする）どちらかと言えばそうではないと思う（以下、２とする）、全くそうではないと思う（以下、１とする）」の順に、「10.9, 46.1, 24.9, 18.1」（単位は%、以下同、おいらせ町）、「10.6, 44.4, 32.4, 12.7」（むつ市）、「10.7, 45.2, 28.6, 15.4」（全体）となり、半数強の人が肯定的な意見を持っていることが分かった。

ただし、給料や報酬に関しては、「問6B：B　給料や報酬に満足している。」に対して、「４、３、２、１」の順に、「9.1, 28.8, 27.4, 21.2」（おいらせ町）、「10.9, 34.2, 30.3, 24.6」（むつ市）、「10.7, 33.7, 31.0, 24.6」（全体）となり、肯定的な意見を持っている人は半数弱にとどまった。この項目は、仕事に関する評価の中で最も否定的な結果が出ており、それは個人所得の低さに起因していると考えられる（後述）。

(2)やりがい、人間関係、勤務時間

一方、給料、報酬とは別に、「働きやすさ」の点から考えると、さほど否定的な評価ではなかった。

まず、いわゆる「やりがい」について見ていきたい。「問6D：D　自分は「やりがい」がある仕事をしていると思う。」に対して、「４、３、２、１」の順に、「18.4, 47.3, 23.1, 11.2」（おいらせ町）、「19.2, 44.8, 26.3, 9.6」（むつ市）、「18.8, 46.1, 24.7, 10.4」（全体）と、60%強の人が仕事の「やりがい」を認めている。また、「問6F：F　自分の仕事ぶりは、人に認められていると思う。」に対しては、「４、３、２、１」の順に、「10.9, 50.9, 31.4, 6.8」（おいらせ町）、「9.5, 51.1, 30.6, 8.8」（むつ市）、「10.2, 51.0, 31.0, 7.8」（全体）と、これも60%強の人が、承認感を得ている。

続いて、職場の人間関係について見ていきたい。「問6G：G　現在の職場の人間関係に満足している。」に対して、「４、３、２、１」の順に、「18.2, 46.7, 26.8, 8.2」（おいらせ町）、「15.1, 50.7, 24.6, 9.5」（むつ市）、「16.7, 48.7, 25.7, 8.9」（全体）と、約65%人が職場の人間関係には満足している。

続いて、勤務時間について見ていきたい。「問6E：E　勤務時間（長さ、時間帯）に関する不満はない。」に対して、「４、３、２、１」の順に、「19.7, 38.4, 25.5, 16.3」（おいらせ町）、「21.8, 37.0, 21.1, 20.1」（むつ市）、「20.8, 37.7, 23.4, 18.2」（全体）と、6割弱の人が勤務時間について不満を持っていない。

やりがい、人間関係、勤務時間と、「働きやすさ」の観点からは、さほど否定的な結果は出なかったと言える。

(3)仕事の楽しさ

ただし、「働きやすさ」についての調査結果と対照的に、仕事の「楽しさ」については、あまり肯定的な評価が見られなかった。

「問6C：C　毎日の仕事が「楽しい」と感じられる。」に対しては、「４、３、２、１」の順に、「9.2, 39.1, 34.0, 17.7」（おいらせ町）、「7.7, 40.1, 36.6, 15.5」（むつ市）、「8.5, 39.6, 35.3, 16.6」（全体）と、仕事に「楽しさ」を感じている人は半数弱にとどまった。

「働きやすいが給料がよくないため仕事が楽しくない」ということは、「ダウンシフター」的な考え方が弱いこと（後述）とも関係するだろう。いずれにせよ、若者が「働きやすさ」だけでないものを求めていることは確かであり、それは社会の「下部構造」（経済的な基盤）の問題である。

(4)未来への展望

「下部構造」の脆弱さは、若者たちの未来に対する不安感を強めている。

自分自身のキャリアに関しては、「問6J：J　今後の自分自身の仕事の将来について、明るい希望を持っている。」に対して、「４、３、２、１」の順に、「8.5, 29.4, 42.3, 19.8」（おいらせ町）、「8.5, 30.3, 43.3, 18」（むつ市）、「8.5, 29.8, 42.8, 18.9」（全体）と、6割強の人が不安を抱いている。また、勤務先の将来性についても、「問6K：K　今後の勤務先の将来（経営など）について、明るい希望を持てると思う。」に対して、「４、３、２、１」の順に、「6.5, 29.3, 44.9, 19.4」（おいらせ町）、「7.4, 25.7, 48.2, 18.7」（むつ市）、「6.9, 27.5, 46.5, 19」（全体）と、 6割を大きく上回る人が不安を持っている。また、日本企業に特徴的な年功序列制度についても、「問6N：N　20年後は、今よりも高い給料や報酬をもらって仕事をしていると思う。」に対して、「４、３、２、１」の順に、「17.7, 31.1, 36.2, 15」（おいらせ町）、「20.1, 33.8, 27.8, 18.3」（むつ市）、「18.9, 32.4, 32.1, 16.6」（全体）と「年功序列」という考え方自体、若者の間でかなり衰退していることが分かった。

若者が仕事に関してあまりよい未来を描けていないことは憂慮すべき事態だが、救いは、転職に対して、積極的な姿勢が見られたことである。

それは、仕事をすっかり変えてしまうという訳ではないが（「問6L：L　20年後も現在の延長線上にある内容の仕事をしていると思う。」に対しては、6割弱の人が肯定的な答えをしている）、よりよい条件の職場があれば、転職しようとする意欲は高いということである。

「問6I：I　　今よりよい条件の勤務先に移ろうとか、チャンスを求めて転職しようという考えは持っていない。」に対しては、「４、３、２、１」の順に、「21.2, 22.3, 29.8, 26.7」（おいらせ町）、「20.4, 17.3, 34.2, 28.2」（むつ市）、「20.8, 19.8, 31.9, 27.4」（全体）、「問6M：M　20年後も勤務先を変えずに働いていると思う。【配置転換は、同じ勤務先とみなします。】」に対しては、「４、３、２、１」の順に、「17.8, 27.7, 28.1, 26.4」（おいらせ町）、「18, 30.4, 27.9, 23.7」（むつ市）、「17.9, 29, 28, 25」（全体）と、半数以上の若者たちが転職について積極的に考えており、転職への意志は強いことが分かった。このことは、「よい仕事があれば移動をいとわない」ということでもあり、キャリアをめぐるトランスローカリティ研究の重要性を示唆していると言えるだろう。

(5)魅力的な仕事

本節の最後に、問６において、おいらせ町とむつ市で注目すべき大きな差があった項目について確認しておく。

「問6H：H　現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代にとって魅力的な仕事の選択肢がある。」に関して、おいらせ町とむつ市の間では、有意な差があった（T検定:p<.001）。このことは、雇用という点での若者の地域へのプル要因が、おいらせ町（「まち」）がむつ市（「いなか」）よりも強いことを示している。これは、雇用をめぐる「まち」と「いなか」の顕著な違いと言えるだろう（ただし、年収には大きな差はなく（後述）、また、満足度等のスコアも大差ないことには注意すべきである）。

５－２．仕事と余暇の関係

続いて、仕事と余暇についての項目を、おいらせ町、むつ市、全体の調査結果を使って概観していく。ここでは、ダウンシフター志向の弱さと余暇志向の強さ、ドメスティック志向でありつつもモビリティは高いという若者の姿が浮かび上がってきた。

本節と次節では、問７と問10（A～C）、F16（A～E）の調査結果をもとに考えていきたい（表4-9）。

表４　単純集計（おいらせ町）

	問7A：A　満足な収入が得られるのであれば、長時間働いてもかまわないと思う。	問7B：B　やりがいのある仕事であれば、満足な収入が得られなくてもかまわないと思う。	問7C：C　やりがいのある仕事であれば、長時間働いてもかまわないと思う。	問7D：D　女性は子どもができても、ずっと職業を続けるほうがいいと思う。	問7E：E　男は外で働き、女は家庭を守るべきだ。	問7F：F　子どもを他人に預けてまで母親が働くことはない。	問7G：G　一家の生計を支えるのはやはり男の役割だ。
４全くそう思う	15.9	5.7	10.1	13.2	2.4	6.8	14.6
３どちらかと言えばそう思う	37.7	21.4	27.8	54.4	10.2	18.8	36.6
２どちらかと言えばそうではないと思う	29.3	47.9	39.4	26.4	45.5	44.6	28.3
１全くそうではないと思う	17.1	25.0	22.7	6.0	41.9	29.8	20.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表５　単純集計（むつ市）

	問7A：A　満足な収入が得られるのであれば、長時間働いてもかまわないと思う。	問7B：B　やりがいのある仕事であれば、満足な収入が得られなくてもかまわないと思う。	問7C：C　やりがいのある仕事であれば、長時間働いてもかまわないと思う。	問7D：D　女性は子どもができても、ずっと職業を続けるほうがいいと思う。	問7E：E　男は外で働き、女は家庭を守るべきだ。	問7F：F　子どもを他人に預けてまで母親が働くことはない。	問7G：G　一家の生計を支えるのはやはり男の役割だ。
４全くそう思う	23.9	7.0	14.3	15.8	2.7	7.9	16.4
３どちらかと言えばそう思う	33.0	16.7	30.1	47.7	14.2	21.0	34.5
２どちらかと言えばそうではないと思う	32.7	50.3	35.3	28.9	40.6	46.8	27.3
１全くそうではないと思う	10.3	26.1	20.4	7.6	42.4	24.3	21.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表６　単純集計（全体）

	問7A：A　満足な収入が得られるのであれば、長時間働いてもかまわないと思う。	問7B：B　やりがいのある仕事であれば、満足な収入が得られなくてもかまわないと思う。	問7C：C　やりがいのある仕事であれば、長時間働いてもかまわないと思う。	問7D：D　女性は子どもができても、ずっと職業を続けるほうがいいと思う。	問7E：E　男は外で働き、女は家庭を守るべきだ。	問7F：F　子どもを他人に預けてまで母親が働くことはない。	問7G：G　一家の生計を支えるのはやはり男の役割だ。
４全くそう思う	19.9	6.3	12.2	14.5	2.6	7.4	15.5
３どちらかと言えばそう思う	35.4	19.1	28.9	51.1	12.2	19.8	35.6
２どちらかと言えばそうではないと思う	31.0	49.1	37.3	27.6	43.1	45.7	27.8
１全くそうではないと思う	13.7	25.5	21.5	6.8	42.2	27.1	21.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(1)ダウンシフター志向の弱さ

轡田竜蔵は、広島での調査をもとに「ダウンシフターは主流ではない」（轡田2017: 265）と述べているが、その点は、この調査でも同様の結果を得た。

まず、「問7B：B　やりがいのある仕事であれば、満足な収入が得られなくてもかまわないと思う。」に対しては、「４、３、２、１」の順に、「5.7, 21.4, 47.9, 25」（おいらせ町）、「7, 16.7, 50.3, 26.1」（むつ市）、「6.3, 19.1, 49.1, 25.5」（全体）と、約4人に3人が否定的に答えており、「問7C：C　やりがいのある仕事であれば、長時間働いてもかまわないと思う。」に対しても、「４、３、２、１」の順に、「10.1, 27.8, 39.4, 22.7」（おいらせ町）、「14.3, 30.1, 35.3, 20.4」（むつ市）、「12.2, 28.9, 37.3, 21.5」（全体）と、約６割の人が否定的な反応を示した。また、「問10B：B　社会情勢を考えれば、今後、生活水準が上がらなくても仕方ないと思う。」に対しても、「４、３、２、１」の順に、「3.9, 31.3, 44.6, 20.2」（おいらせ町）、「6.3, 31.3, 44.8, 17.6」（むつ市）、「5.1, 31.3, 44.7, 18.9」（全体）と、6割強の人が否定的で、「問10C：C　自分なりにお金をかけずに楽しく暮らす方法はあるので、今後、生活水準が上がらなくてもかまわない。」に至っては、「４、３、２、１」の順に、「3, 16.7, 50.3, 30.1」（おいらせ町）、「2.7, 14.4, 52.4, 30.5」（むつ市）、「2.8, 15.5, 51.3, 30.3」（全体）と、8割強の若者が否定的な反応を示した。

以上の調査結果は、若者たちのダウンシフター志向の弱さを示していると考えられる。彼らは、「お金がなくてもやりがいがあればいい」などとは思っていないのである。

表７　単純集計

	おいらせ町			むつ市			全体		
	問10A：A 余暇の生活を優先させたいので、仕事で長時間働きたくない。	問10B：B 社会情勢を考えれば、今後、生活水準が上がらなくても仕方ないと思う。	問10C：C 自分なりにお金をかけずに楽しく暮らす方法はあるので、今後、生活水準が上がらなくてもかまわない。	問10A：A 余暇の生活を優先させたいので、仕事で長時間働きたくない。	問10B：B 社会情勢を考えれば、今後、生活水準が上がらなくても仕方ないと思う。	問10C：C 自分なりにお金をかけずに楽しく暮らす方法はあるので、今後、生活水準が上がらなくてもかまわない。	問10A：A 余暇の生活を優先させたいので、仕事で長時間働きたくない。	問10B：B 社会情勢を考えれば、今後、生活水準が上がらなくても仕方ないと思う。	問10C：C 自分なりにお金をかけずに楽しく暮らす方法はあるので、今後、生活水準が上がらなくてもかまわない。
４全くそう思う	22.6	3.9	3.0	23.0	6.3	2.7	22.8	5.1	2.8
３どちらかと言えばそう思う	44.0	31.3	16.7	47.5	31.3	14.4	45.8	31.3	15.5
２どちらかと言えばそうではないと思う	28.0	44.6	50.3	26.9	44.8	52.4	27.4	44.7	51.3
１全くそうではないと思う	5.4	20.2	30.1	2.7	17.6	30.5	4.0	18.9	30.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(2)余暇への志向の強さ

注目すべきは、「問7A：A　満足な収入が得られるのであれば、長時間働いてもかまわないと思う。」に対して、「４、３、２、１」の順に、「15.9, 37.7, 29.3, 17.1」（おいらせ町）、「23.9, 33, 32.7, 10.3」（むつ市）、「19.9, 35.4, 31, 13.7」（全体）と答えていることである。彼らは「ダウンシフター」志向が弱いからといって、「長時間労働・高収入」への志向もあまり強くない。

このことは、余暇への志向の強さと関係している。「問10A：A　余暇の生活を優先させたいので、仕事で長時間働きたくない。」に対する回答は、「４、３、２、１」の順に、「22.6, 44, 28, 5.4」（おいらせ町）、「23, 47.5, 26.9, 2.7」（むつ市）、「22.8, 45.8, 27.4, 4」（全体）と、65%以上の人が仕事より余暇を優先させる志向をもっていた。

余暇の楽しみ方のひとつとして、県外地域や大都市、外国への旅行が考えられるが、頻度としては、外国→大都市→県外地域の順に多かった。注目すべきは、「海外」の頻度の低さである。「出かけていない」人が、95.7%（おいらせ町）、95.5%（むつ市）と、若者たちのドメスティックな余暇志向が浮き彫りになった。

現代の若者たちの消費活動の中心であるショッピングモール等の大型商業施設に関しては、「現住所の自治体の中にある大型商業施設」だけでなく「現住所の自治体の外にある県内の大型商業施設」にもよく出かけていることが分かった。これは、若者たちの余暇活動におけるモビリティの高さを示していると考えられる。しかし、「現住所の自治体の外にある県内の大型商業施設」に行く頻度として「週に数日程度」、「月に数日程度」と答えている若者が、おいらせ町では44.4%、むつ市では35.9%と、有意な差があったことから（T検定:p<.001）、モビリティでは克服できない「まち」と「いなか」の格差も浮き彫りになった。

表８　単純集計

	おいらせ町					むつ市					全体				
	F16A：現住所の自治体の中にある大型商業施設	F16B：現住所の自治体の外にある県内の大型商業施設	F16C：国内の県外地域	F16D：（F16Cのうち）首都圏・関西圏などの国内の大都市	F16E：日本国外	F16A：現住所の自治体の中にある大型商業施設	F16B：現住所の自治体の外にある県内の大型商業施設	F16C：国内の県外地域	F16D：（F16Cのうち）首都圏・関西圏などの国内の大都市	F16E：日本国外	F16A：現住所の自治体の中にある大型商業施設	F16B：現住所の自治体の外にある県内の大型商業施設	F16C：国内の県外地域	F16D：（F16Cのうち）首都圏・関西圏などの国内の大都市	F16E：日本国外
４週に数日程度	32.1	7.5	0.6	0.6	0.0	23.7	3.3	1.2	0.6	0.0	27.9	5.4	0.9	0.6	0.0
３月に数日程度	53.2	36.9	8.1	1.5	0.0	43.8	32.6	6.3	2.7	0.0	48.5	34.8	7.2	2.1	0.0
２年に数日程度	11.7	42.6	66.3	41.0	4.3	15.3	54.2	57.5	41.4	4.5	13.5	48.4	61.9	41.2	4.4
１出かけていない	3.0	12.9	25.0	56.8	95.7	17.1	9.9	34.9	55.3	95.5	10.1	11.4	30.0	56.0	95.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

５－３．性別役割分業規範

続いて、性別役割分業規範について見ていきたい。結論から先に述べると、この点に関しては、保守的な傾向は見られず、かなりリベラル寄りであった。これは、轡田による広島調査より、さらに明確な結果が出ている（同: 268)。

「問7D：D　女性は子どもができても、ずっと職業を続けるほうがいいと思う。」に対する回答は、「４、３、２、１」の順に、「13.2, 54.4, 26.4, 6」（おいらせ町)、「15.8, 47.7, 28.9, 7.6」（むつ市)、「14.5, 51.1, 27.6, 6.8」（全体）と、６割強の若者が女性の就業継続に対して肯定的な評価であった。このことは、個人年収の低さや産業のサービス化（後述）も関係しているだろう。

また、「問7F：F　子どもを他人に預けてまで母親が働くことはない。」に対する回答を見ても、「４、３、２、１」の順に、「6.8, 18.8, 44.6, 29.8」（おいらせ町)、「7.9, 21, 46.8, 24.3」（むつ市)、「7.4, 19.8, 45.7, 27.1」（全体）と、７割を超える若者が否定的で、「問7E：E　男は外で働き、女は家庭を守るべきだ。」に対する回答に至っては、「４、３、２、１」の順に、「2.4, 10.2, 45.5, 41.9」（おいらせ町)、「2.7,14.2, 40.6, 42.4」（むつ市)、「2.6, 12.2, 43.1, 42.2」（全体）と、８割以上の若者が否定的であった。

注目すべきは、「問7G：G　一家の生計を支えるのはやはり男の役割だ。」に対する回答が、「４、３、２、１」の順に、「14.6, 36.6, 28.3, 20.5」（おいらせ町)、「16.4, 34.5, 27.3, 21.8」（むつ市)、「15.5, 35.6, 27.8, 21.2」（全体）となったことである。賛成、反対がちょうど約半分ずつにわかれたこの結果は、「専業主婦を前提とした性別役割分業規範は（現実的に無理なので）衰退しているが、あくまで男性が主たる稼ぎ手であるという意味で、解体はしていない」と解釈することもできるだろう。しかし、約半分はこの考え方を否定しているという点を重視すると、解体に向けた過渡期的な現象と見ることもできる。何れにせよ、一般に思われている「地方は保守的だ」というステレオタイプを覆す調査結果であることは間違いない。

しかし、（容易に想像できることではあるが）全体では全ての項目において（問７のEではT検定：p<.01)、おいらせ町では問７のD（T検定：p<.05)、F、G（T検定：p<.01）において、むつ市では問７のDにおいて男女差があった（T検定：p<.01)。

５－４．所得、労働時間

続いて、所得と労働時間について、従業上の地位に注目しつつ、見ていきたい。

従業上の地位に関する結果（表9）を見ると、まず、いわゆる「主婦パート」が５％以下と、かなり少ないことが分かる。このことは、未婚率の高さに関係しているだろう。また、役員・経営者・自営業の数も３％と、かなり少ない。この地域で「雇用社会化」が進んでいることが伺える。また、「主婦パート」以外の非正規雇用者の数は約15%と多く、雇用の非正規化が進んでいることも分かる。

こうした層に関しては、（家庭の事情で働く時間を制限せざるをえないといった）様々な事情も考えな

くてはならないため、雇用の「質」を測る客観的な指標である、所得と労働時間に関しては、正社員に絞って見ていきたい。

表９

	おいらせ町	むつ市	全体
仕事を主にしていて、正規雇用（フルタイム）の仕事で収入を得た	67.5	64.2	65.9
仕事を主にしていて、自営業主またはその家族従業員として収入を得た	3.0	2.4	2.7
仕事を主にしていて、会社経営者または役員として収入を得た	1.2	2.4	1.8
仕事を主にしていて、パート・アルバイト・派遣・有期契約の非正規雇用の仕事で収入を得た	14.8	12.4	13.6
家事を主にしつつ、正規雇用以外の仕事もしていて収入を得た	3.0	4.5	3.8
通学を主にしつつ、正規雇用以外の仕事もしていて収入を得た	1.8	0.9	1.4
家事を主にしていて、仕事で収入を得ていない	4.8	7.9	6.3
通学を主にしていて、仕事で収入を得ていない	1.8	2.1	2.0
家事も通学もしておらず、仕事で収入も得ていない	2.1	3.0	2.6
合計	100.0	100.0	100.0

個人所得に関しては、おいらせ町、むつ市ともに中央値が300万円代となっている（表10）。こうした状況が、先に見た給料、報酬に対する不満の強さに結びついていると考えられる。労働時間に関しては、47.971時間（おいらせ町）、49.52時間（むつ市）、48.72時間（全体）となっており、長時間労働が常態化していることが見てとれる（法的には40時間以上が「長時間労働」とされる、表11）。これは、先の調査結果（「問6E：E　勤務時間（長さ、時間帯）に関する不満はない。」に対する肯定的な評価）と矛盾しているようだが、同問の回答の平均値をとったところ、おいらせ町においては、2.53（正規雇用）、3.31（役員・経営者・自営業）、2.80（非正規雇用）、むつ市においては、2.55（正規雇用）、3.00（役員・経営者・自営業）、2.71（非正規雇用）と、正規雇用に関して、労働時間に関する不満がもっとも高いことが分かった。この点に関しては、正規雇用者は例外と考えるべきかもしれない。しかし、それでもスコアは半分（2.5）を上回っており、そこから若者の長時間労働に対する「慣れ」を指摘することもできるだろう。

表10

	おいらせ町	むつ市	全体
100万円未満	0.9	0.9	1.0
100万円台	9.5	15.9	12.7
200万円台	29.4	27.9	28.6
300万円台	28.4	28.4	28.4
400～500万円台	24.9	22.6	23.7
600～700万円台	6.5	3.8	5.1
800～900万円台	0.4	0.5	0.5
合計	100.0	100.0	100.0
N	201	208	409

表11　収入のある仕事に費やしている時間（週合計）

地域	平均値
おいらせ町	47.97
むつ市	49.52
全体	48.72

５－５．業種　−おいらせ町、むつ市の特殊性

最後に、業種に関して見ていきたい。

表12において、１割を越えている業種を見ていくと、医療・福祉（病院・医療施設、保育所、介護事業、

社会福祉事務所等）は、20.7%（おいらせ）、18.8%（むつ）、卸売・小売（物品の販売を行っている店舗、事業所等）は、12.7%（おいらせ）、12.1%（むつ）と、高齢化、サービス産業化という、世の中の趨勢を反映した調査結果が出ている。

表12　業種

	おいらせ町	むつ市	全体
農林漁業・鉱業	3.7	1.1	2.4
建設業	7.7	9.6	8.6
製造業	12.0	3.9	8.1
電気・ガス・熱供給・水道	2.3	2.8	2.6
情報通信	0.7	1.8	1.2
運輸・郵便（旅客運送、貨物運送、郵便配達等）	2.7	1.8	2.2
卸売・小売（物品の販売を行っている店舗、事業所等）	12.7	12.1	12.4
金融・保険	1.7	1.8	1.7
不動産・金品売買	2.0	1.1	1.5
飲食店・宿泊サービス	5.7	5.3	5.5
生活関連サービス（美容院、クリーニング店、スポーツ施設、娯楽施設等）	4.3	4.3	4.3
専門技術サービス（研究所、デザイン事務所、法律事務所、経営コンサルタント等）	1.0	1.4	1.2
その他のサービス（農業協同組合、自動車整備、各種の修理業等）	3.0	3.2	3.1
教育・学習支援（学校、幼稚園、図書館などの社会教育機関、学習塾等）	8.0	3.5	5.8
医療・福祉（病院・医療施設、保育所、介護事業、社会福祉事務所等）	20.7	18.8	19.8
上記に分類されない公務員	8.3	23.8	15.8
その他	3.7	3.9	3.8
合計	100.0	100.0	100.0

両者の大きな違いは、製造業（12%＜むつ＞，3.9%＜おいらせ＞）と上記に分類されない公務員（8.3%＜むつ＞，23.8%＜おいらせ＞）である。製造業に関しては、工業都市である八戸に近いこと、上記に分類されない公務員に関しては、海上自衛隊の大湊基地が近いことが理由として考えられる。この違いが調査結果に与える影響に関しては、今後の課題としたい。

参考文献

　轡田竜蔵2017『地方暮らしの幸福と若者』勁草書房

第６章　「自身の人生」「日本社会・政治」「学歴・年収」から見たむつ市・おいらせ町の若者

岩田　考（桃山学院大学）

６－１．はじめに

本章では、３つの観点からむつ市と上北郡おいらせ町の若者の意識について分析を行う。まず第一に、「自身の人生に関する評価（問８）」や「人生に関する価値観（問９）」など自身の人生に関する意識である。第二に、「日本社会と政治に対する評価（問13）」や「日本社会と政治にかかわる価値観（問14）」など日本社会や政治に関する意識である。最後に、回答者の社会経済的な側面をとらえる「学歴（F19）」と「年収（F25）」に関しても分析を行う。

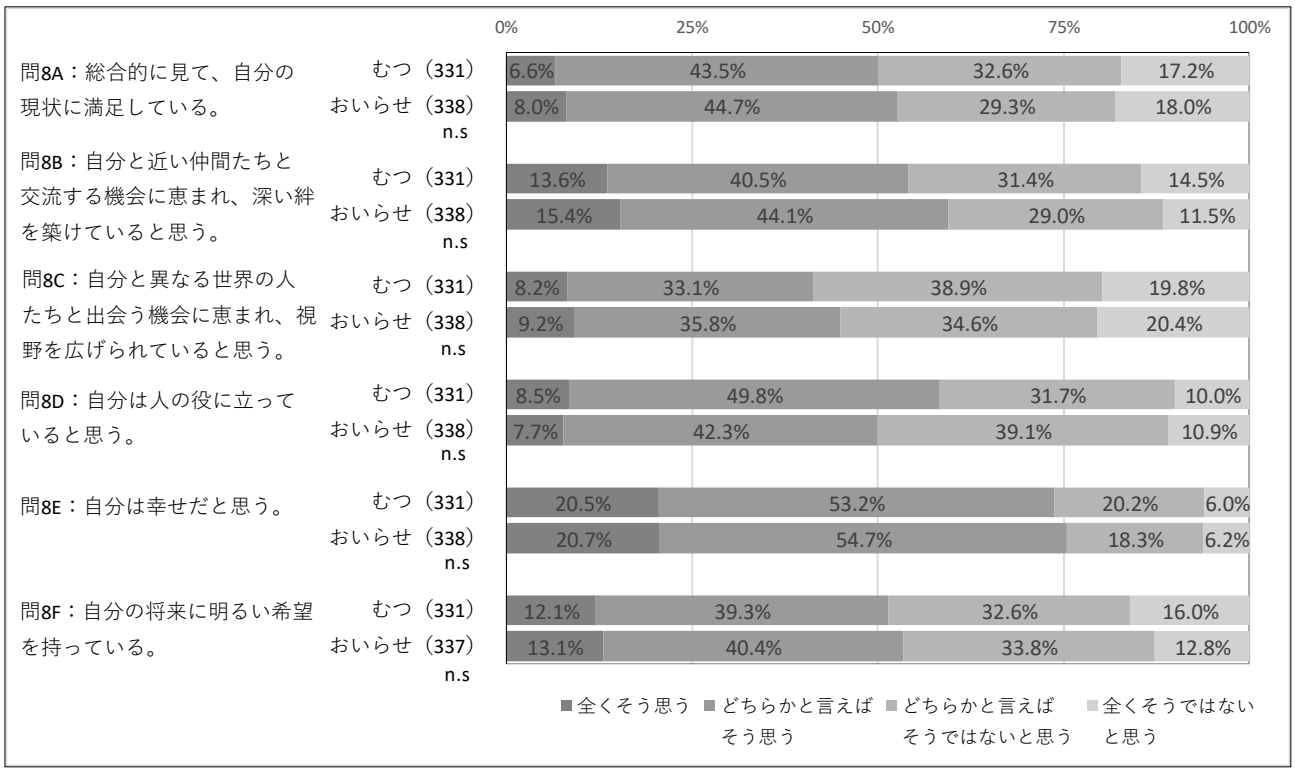
各領域の大まかな回答傾向をとらえるとともに、地域社会の多様性をとらえる類型として、本調査のもとにもなった轡田（2016, 2017）の広島調査において提起された「条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏」という類型化の妥当性についても若干の検討を加える。

６－２．自身の人生に関する意識（問８・問９）

(1)自身の人生に対する評価（問８）

まずは、「自身の人生に対する評価（問８）」についてみてみよう。図１に示したように、「自身の人生に対する評価」に関して、６つの質問を行った。６項目すべてにおいて、２つの地域（むつ市と上北郡おいらせ町）で有意差は見られなかった（χ^2検定５％水準）。

図１　自身の人生に対する評価（問８）



注）（　）内は回答者数。「n. s.」は、χ^2検定の結果、5%水準で有意差なし。

肯定的な回答（「全くそう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）の割合が高い項目は、「E 自分は幸せだと思う。」で、７割以上が肯定的回答をしている（むつ市73.7%・おいらせ町75.4%）。約４分の3の若者が幸福だと考えており、幸福度は高くなっている。また、肯定的回答の割合が低い項目は、「C 自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。」で、肯定率は約４割にとどまっている（むつ市41.3%・おいらせ町45.0%）。両地域とも異質な他者との出会いの機会はあまり多とは言えないようである。

本調査では、むつ市とおいらせ町を特性が異なる地域と位置付け調査を行った。轡田（2017）の区分に基づけば、むつ市は「条件不利地域圏」、おいらせ町は「地方中枢拠点都市圏」に概ねあてはまる。轡田によれば、「地方中枢拠点都市圏」とは、「30万人以上の基準を満たす都市雇用圏（三大都市圏以外）」であり、「条件不利地域圏」は「『地方中枢拠点都市圏』から外れる地方圏の地域」である（轡田2017:61-2）。「自身の人生等に対する評価」に関しては、６項目すべてにおいて２つの地域に有意差はみられず、「地方中枢拠点都市圏／条件不利地域圏」という区分は、地方の多様性をとらえようとする上で、あまり有効とは言えない。

(2)自身の人生に対する評価（問８）：広島調査との比較

表１は、「自身の人生に対する評価（問８）」について、轡田（2016）が行った広島調査の２地域と比較したものである。先の区分で言えば、三次市が「条件不利地域圏」であり、安芸郡府中町が「地方中枢拠点都市圏」にあたる。轡田の分析によれば、「B 自分と近い仲間たちと交流する機会に恵まれ、深い絆を築けていると思う。」「C 自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。」において、三次市よりも府中町でポジティブな傾向がみられたとされる（轡田2016:124-5）。

青森の２地域も含め比較してみると、４地域とも回答分布は、かなり類似しているといえよう。あえて差異を見出すとすれば、「A 総合的に見て、自分の現状に満足している。」と「E 自分は幸せだと思う。」において、青森の２地域よりも広島の２地域のほうが、肯定的な回答の割合がやや高くなっている。

この結果からは、「地方中枢拠点都市圏／条件不利地域圏」という区分よりも、「青森／広島」あるいは「東北地方／中国地方」という区分のほうが、「自身の人生に対する評価」の差異を分析するうえでは有効な可能性があるといえよう。

表１　自身の人生に対する評価（問８）:広島調査との比較

		全くそう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそうではないと思う	全くそうではないと思う	計
問8A：総合的に見て、自分の現状に満足している。	むつ（331）	6.6%	43.5%	32.6%	17.2%	100.0%
	おいらせ（338）	8.0%	44.7%	29.3%	18.0%	100.0%
	三次市（広島）	10.6%	48.4%	12.6%	13.9%	85.5%
	府中町（広島）	10.7%	51.4%	25.3%	12.7%	100.1%
問8B：自分と近い仲間たちと交流する機会に恵まれ、深い絆を築けていると思う。	むつ（331）	13.6%	40.5%	31.4%	14.5%	100.0%
	おいらせ（338）	15.4%	44.1%	29.0%	11.5%	100.0%
	三次市（広島）	12.6%	44.5%	29.9%	13.0%	100.0%
	府中町（広島）	13.4%	46.4%	30.0%	10.2%	100.0%
問8C：自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。	むつ（331）	8.2%	33.1%	38.9%	19.8%	100.0%
	おいらせ（338）	9.2%	35.8%	34.6%	20.4%	100.0%
	三次市（広島）	6.5%	25.8%	45.6%	22.1%	100.0%
	府中町（広島）	5.7%	30.0%	43.2%	21.0%	99.9%
問8D：自分は人の役に立っていると思う。	むつ（331）	8.5%	49.8%	31.7%	10.0%	100.0%
	おいらせ（338）	7.7%	42.3%	39.1%	10.9%	100.0%
	三次市（広島）	5.4%	42.2%	41.5%	10.9%	100.0%
	府中町（広島）	4.0%	42.7%	40.7%	12.7%	100.1%
問8E：自分は幸せだと思う。	むつ（331）	20.5%	53.2%	20.2%	6.0%	100.0%
	おいらせ（338）	20.7%	54.7%	18.3%	6.2%	100.0%
	三次市（広島）	24.7%	56.8%	12.4%	6.1%	100.0%
	府中町（広島）	26.1%	54.8%	13.9%	5.2%	100.0%
問8F：自分の将来に明るい希望を持っている。	むつ（331）	12.1%	39.3%	32.6%	16.0%	100.0%
	おいらせ（337）	13.1%	40.4%	33.8%	12.8%	100.0%
	三次市（広島）	12.4%	40.7%	34.3%	12.6%	100.0%
	府中町（広島）	12.7%	43.2%	31.5%	12.7%	100.1%

注）（　）内は回答者数。四捨五入の関係で、合計が100.0%になっていない項目がある。ただし、三次市の「A総合的に見て、自分の現状に満足している。」は合計で85.5%であり、報告書の記載ミスの可能性がある。

(3)基本属性別にみた「自身の人生に対する評価（問８）」

次に、基本属性別に「自身の人生に対する評価」をみてみよう（表2)。ここでは、性別（男／女)、年齢（実数)、婚姻（独身／既婚)、学歴（在学中も含む。大学・短大卒＝「在学中（大学または大学院)」「在学中（短大または高専)」「大学卒または大学院卒」「短大卒または高専卒」・非大学／短大卒＝「在学中（専門学校)」「専門学校卒」「高卒」「中卒」「その他」)、世帯収入（カテゴリーの中央の値。「1000万円以上」は1100万円に変換。)、移動歴（ずっと地元／Uターン／Iターン）をとりあげる。

世帯収入と学歴で有意差がみられる項目が多くなっている。世帯収入が高いほうが、多くの点で「自身の人生」を肯定的に評価する傾向がみられる。特に、むつ市でその傾向が強い。また、大学・短大卒のほうが、「C 自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。」「D 自分は人の役に立っていると思う。」を肯定する割合が高くなっている。

表２　基本属性別にみた「自身の人生に対する評価（問８）」

		問8A：総合的に見て、自分の現状に満足している。	問8B：自分と近い仲間たちと交流する機会に恵まれ、深い絆を築けていると思う。	問8C：自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。	問8D：自分は人の役に立っていると思う。	問8E：自分は幸せだと思う。	問8F：自分の将来に明るい希望を持っている。
性別 男・女 （χ二乗検定）	むつ				女＜男		
	おいらせ						
年齢 （相関係数）	むつ	低＜高					
	おいらせ						
婚姻 結婚・独身 （χ二乗検定）	むつ	独身＜結婚				独身＜結婚	
	おいらせ			有意差あり			
学歴（在学含む） 大学・短大／非大学・短大 （χ二乗検定）	むつ			非大学＜大学	非大学＜大学		
	おいらせ			非大学＜大学	非大学＜大学		
世帯収入（階級値） （相関係数）	むつ		低＜高	低＜高	低＜高	低＜高	低＜高
	おいらせ	低＜高			低＜高		低＜高
移動歴 地元／Uターン／Iターン （χ二乗検定）	むつ				地元＜U＜I		
	おいらせ			地元＜I≦U			

注）「＜」は5%水準で有意。「有意差あり」は、有意差はあるものの明確な傾向が見られないもの。

(4)人生に関する価値観（問９）

次に、「人生に関する価値観(問９)」についてみてみよう。図2のように、「人生に関する価値観」ついて5つの質問を行った。χ^2検定を行ったところ、「自身の人生に対する評価（問８）」と同様に、5項目すべてにおいて、２地域（むつ市・おいらせ町）で有意差は見られなかった。

肯定的な回答（「全くそう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）の割合が高い項目は、「B 今後の人生では、平凡でもいいから、人並みの幸せを手に入れることが大事だと思っている。」で、肯定率８割以上となっている（むつ市84.7%・おいらせ町81.6%）。また、「A 今後の人生では、無理をしてでも、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。」は、肯定率が約4割にとどまっている（むつ市38.3%・おいらせ町37.1%）。「堅実志向」が強く、「チャレンジ志向」は弱いという傾向がみられ、これは轡田（2016）の広島調査と同様な傾向である。

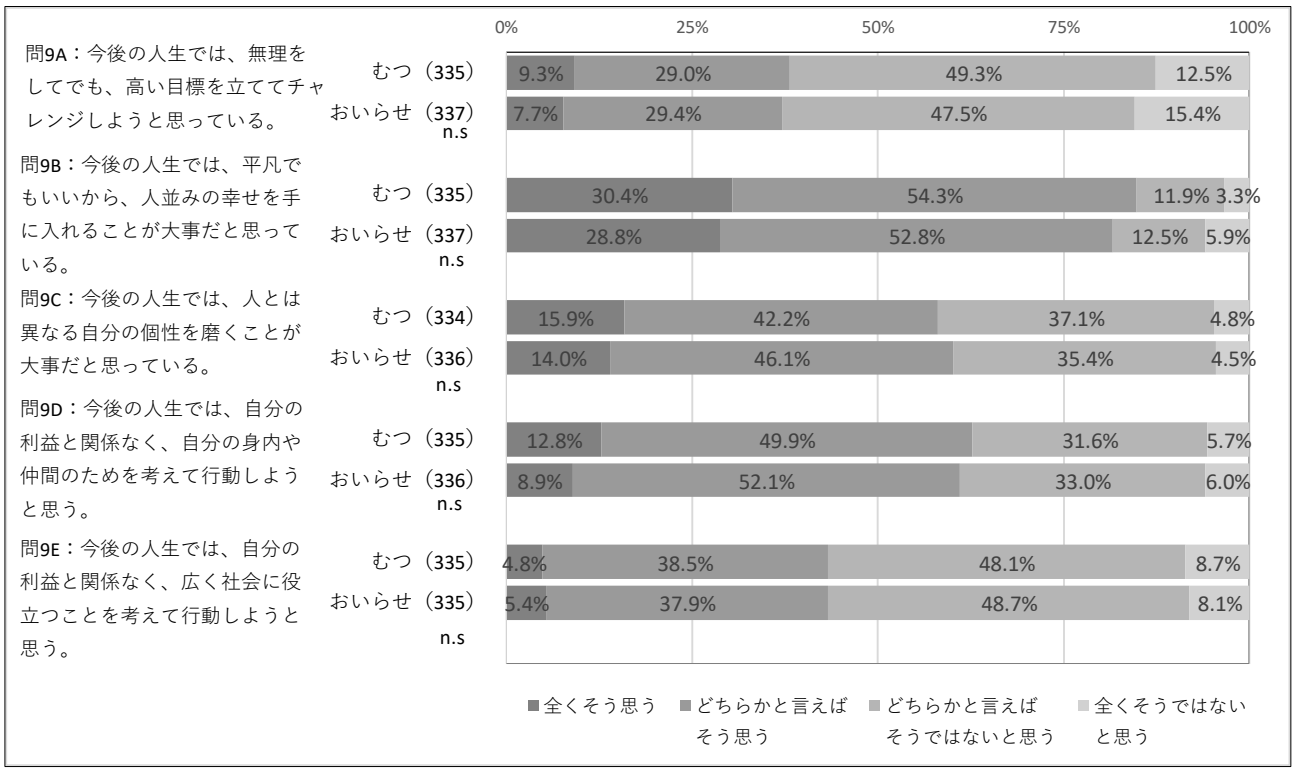


図２　人生に関する価値観（問９）

注）（　）内は回答者数。「n.s.」は、χ^2検定の結果、5%水準で有意差なし。

(5)人生に関する価値観（問９）:広島調査との比較

表3は、「人生に対する価値観（問９）」について、轡田（2016）が行った広島調査の２地域と比較したものである。轡田の分析によれば、「A 今後の人生では、無理をしてでも、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。」において、三次市よりも府中町でポジティブな傾向がみられたとされる（轡田2016:124-5)。

青森の２地域も含め比較すると、４地域とも回答分布は、かなり類似している。この結果をみると、地方における多様性をとらえようとする「地方中枢拠点都市圏／条件不利地域圏」という区分は、「人生に対する価値観（問９）」の差異を分析するうえでも必ずしも有効とは言えないようである。

表３　人生に関する価値観（問９）:広島調査との比較

		全くそう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそうではないと思う	全くそうではないと思う	計
問9A：今後の人生では、無理をしてでも、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。	むつ（335）	9.3%	29.0%	49.3%	12.5%	100.0%
	おいらせ（337）	7.7%	29.4%	47.5%	15.4%	100.0%
	三次市（広島）	6.1%	32.3%	49.9%	11.7%	100.0%
	府中町（広島）	8.9%	32.8%	47.1%	11.2%	100.0%
問9B：今後の人生では、平凡でもいいから、人並みの幸せを手に入れることが大事だと思っている。	むつ（335）	30.4%	54.3%	11.9%	3.3%	100.0%
	おいらせ（337）	28.8%	52.8%	12.5%	5.9%	100.0%
	三次市（広島）	25.8%	61.8%	9.8%	2.6%	100.0%
	府中町（広島）	24.3%	61.0%	12.7%	2.0%	100.0%
問9C：今後の人生では、人とは異なる自分の個性を磨くことが大事だと思っている。	むつ（334）	15.9%	42.2%	37.1%	4.8%	100.0%
	おいらせ（336）	14.0%	46.1%	35.4%	4.5%	100.0%
	三次市（広島）	10.8%	44.5%	39.3%	3.4%	98.0%
	府中町（広島）	10.4%	42.7%	42.9%	4.0%	100.0%
問9D：今後の人生では、自分の利益と関係なく、自分の身内や仲間のためを考えて行動しようと思う。	むつ（335）	12.8%	49.9%	31.6%	5.7%	100.0%
	おいらせ（336）	8.9%	52.1%	33.0%	6.0%	100.0%
	三次市（広島）	9.1%	55.3%	30.8%	4.8%	100.0%
	府中町（広島）	9.0%	50.2%	36.8%	4.0%	100.0%
問9E：今後の人生では、自分の利益と関係なく、広く社会に役立つことを考えて行動しようと思う。	むつ（335）	4.8%	38.5%	48.1%	8.7%	100.0%
	おいらせ（335）	5.4%	37.9%	48.7%	8.1%	100.0%
	三次市（広島）	5.0%	36.4%	49.7%	8.9%	100.0%
	府中町（広島）	4.5%	35.6%	50.5%	9.5%	100.1%

注）（　）内は回答者数。四捨五入の関係で、合計が100.0%になっていない項目がある。ただし、三次市の「C今後の人生では、人とは異なる自分の個性を磨くことが大事だと思っている。」は合計で98.0%であり、報告書の記載ミスの可能性がある。

(6)基本属性別にみた「人生に関する価値観（問９）」

表4は、性別、年齢、婚姻、学歴、世帯収入、移動歴ごとに「人生に関する価値観」をみたものである。全体として、基本的な属性との関係で、有意差がみられる項目は少ない。有意差が見られるのは、性別が最も多く、女性より男性で「A 今後の人生では、無理をしてでも、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。」を肯定する割合が高くなっている。さらに、おいらせ町では、男性よりも女性で「B 今後の人生では、平凡でもいいから、人並みの幸せを手に入れることが大事だと思っている。」を肯定する割合が高い。男性のほうが「チャレンジ志向」が強く、女性のほうが「堅実志向」が強い傾向がみられる。また、世帯収入では、むつ市において、世帯収入が高いほうが「チャレンジ志向」が強く、世帯収入が低いほうが「堅実志向」が強くなっている。

表４　基本属性別にみた「人生に関する価値観（問９）」

		問9A：今後の人生では、無理をしてでも、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。	問9B：今後の人生では、平凡でもいいから、人並みの幸せを手に入れることが大事だと思っている。	問9C：今後の人生では、人とは異なる自分の個性を磨くことが大事だと思っている。	問9D：今後の人生では、自分の利益と関係なく、自分の身内や仲間のためを考えて行動しようと思う。	問9E：今後の人生では、自分の利益と関係なく、広く社会に役立つことを考えて行動しようと思う。
性別 男／女 （χ二乗検定）	むつ	女＜男				
	おいらせ	女＜男	男＜女	女＜男		
年齢（実数）	むつ					
（相関係数）	おいらせ	高＜低				
婚姻 既婚／独身 （χ二乗検定）	むつ					
	おいらせ				独身＜結婚	
学歴（在学含む） 大学・短大／非大学・短大 （χ二乗検定）	むつ					
	おいらせ					
世帯収入（階級値）	むつ	低＜高	高＜低			
（相関係数）	おいらせ					
移動歴 地元／Uターン／Iターン （χ二乗検定）	むつ					
	おいらせ					

注）「＜」は5%水準で有意。「有意差あり」は、有意差はあるものの明確な傾向が見られないもの。

６－３．日本社会と政治（問13・問14）

次に、日本社会や政治に関する意識についてみてみることにしよう。

(1)日本社会と政治に対する評価（問13）

図3に示したように、「日本社会と政治に対する評価（問13)」に関して9つの質問を行った。χ^2検定を行ったところ、9項目すべてにおいて、２つの地域（むつ市・おいらせ町）で有意差は見られなかった。

肯定的な回答（「全くそう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）の割合が高いのは、「B 日本は、安全で安心して暮らせる国だと思う。」で、約７割が肯定的な回答をしている（むつ市73.3%・おいらせ町67.3%)。逆に、肯定的な回答の割合が低いのは、「G　将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。」（むつ市15.4%・おいらせ町16.4%)、「H 将来、日本の伝統や慣習が失われ、社会の雰囲気が悪くなる可能性について、心配しなくていいと思う。」(むつ市17.5%・おいらせ町13.4%)、「A 総合的に見て、日本社会や政治の現状について満足している。」(むつ市18.7%・おいらせ町18.8%）で、肯定率は２割を切っている。

日本を、全般としては安全で安心な社会としつつも、原発事故など個別の点に関しては不安を抱いている人々も少なくないようである。また、社会や政治に対して満足している人の割合は、少なくなっている。

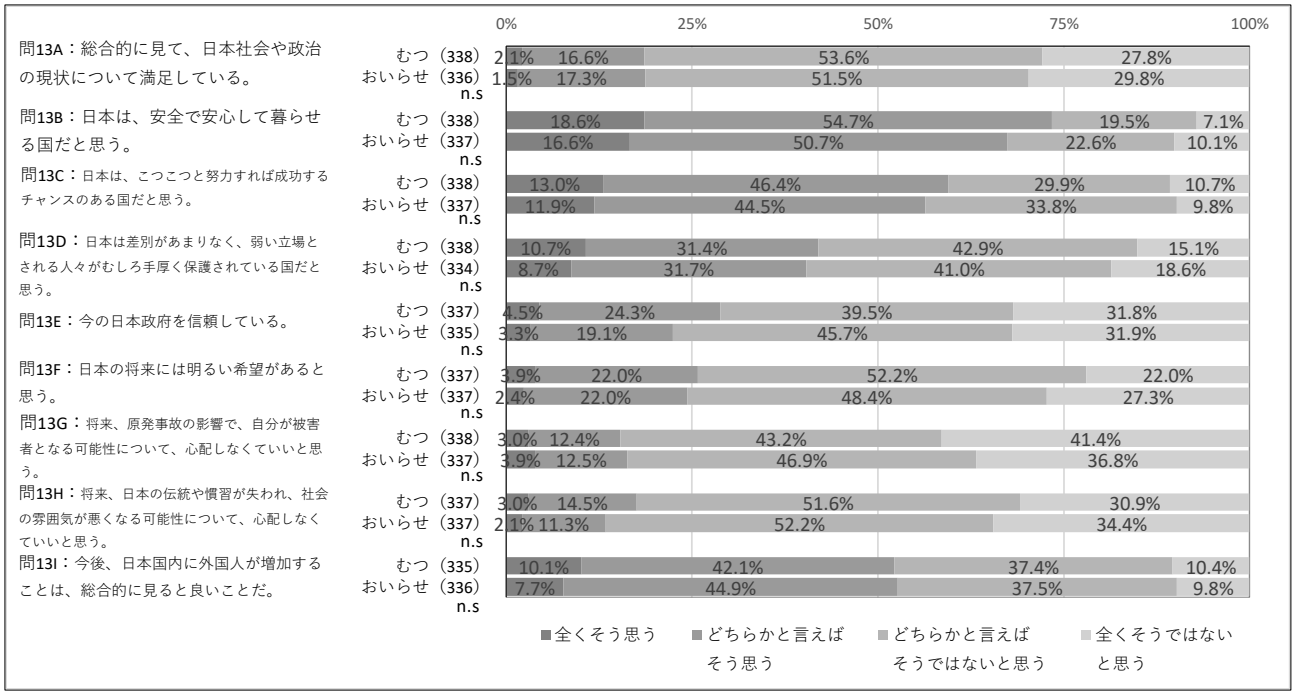


図３　日本社会と政治に対する評価（問13）

注）（　）内は回答者数。n.s.は、χ^2検定の結果、5%水準で有意差なし。

(2)日本社会と政治に対する評価（問13）：広島調査との比較

表5は、「日本社会と政治に対する評価（問13）」について、轡田（2016）が行った広島調査の２地域と比較したものである。轡田の分析によれば、三次市と府中町で有意差がみられるのは３項目である。「G 将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。」「H 将来、日本の伝統や慣習が失われ、社会の雰囲気が悪くなる可能性について、心配しなくていいと思う。」では、三次市より府中町のほうがポジティブな傾向がみられ、「I 今後、日本国内に外国人が増加することは、総合的に見ると良いことだ。」では府中町より三次市でポジティブな傾向がみられたとされる（轡田2016:122-3）。ただし、３項目とも差異はそれほど大きいとは言えない。

青森の２地域も含め比較すると、４地域とも回答分布は、かなり類似している。原発の問題がより身近だと思われる青森の２地域と広島の２地域の間で、「G 将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。」に関してですら、それほど大きな差がみられないのは、やや意外である。もちろん、詳細にみると、「E 今の日本政府を信頼している。」で、広島の２地域よりも青森の２地域のほうが肯定的な割合が若干高くなるなど、地域間で差異がまったくみられないわけではない。

しかしながら、この結果からも、地方における差異を分析するうえで「地方中枢拠点都市圏／条件不利地域圏」という区分が非常に有効だとは言うことは難しい。

(3)基本属性別にみた「日本社会と政治に対する評価（問13）」

表6は、性別、年齢、婚姻、学歴、世帯収入、移動歴ごとに「日本社会と政治に対する評価（問13）」をみたものである。性別および学歴において、有意差がみられる項目が多くなっている。ただし、性別では有意差が見られるものの、明確な傾向がみられない項目も多くなっている。学歴では、「非大学・短大卒」よりも「大学・短大卒」で、「日本社会と政治」に対する肯定的評価の割合が高い傾向がみられる。

表５　日本社会と政治に対する評価（問13）:広島調査との比較

		全くそう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそうではないと思う	全くそうではないと思う	計
問13A：総合的に見て、日本社会や政治の現状について満足している。	むつ（338）	2.1%	16.6%	53.6%	27.8%	100.0%
	おいらせ（336）	1.5%	17.3%	51.5%	29.8%	100.0%
	三次市（広島）	1.1%	16.1%	45.1%	37.7%	100.0%
	府中町（広島）	1.0%	15.6%	49.1%	34.4%	100.1%
問13B：日本は、安全で安心して暮らせる国だと思う。	むつ（338）	18.6%	54.7%	19.5%	7.1%	100.0%
	おいらせ（337）	16.6%	50.7%	22.6%	10.1%	100.0%
	三次市（広島）	13.9%	58.1%	19.7%	8.2%	99.9%
	府中町（広島）	20.1%	59.6%	14.1%	6.2%	100.0%
問13C：日本は、こつこつと努力すれば成功するチャンスのある国だと思う。	むつ（338）	13.0%	46.4%	29.9%	10.7%	100.0%
	おいらせ（337）	11.9%	44.5%	33.8%	9.8%	100.0%
	三次市（広島）	11.5%	44.9%	34.2%	9.4%	100.0%
	府中町（広島）	9.5%	48.8%	33.3%	8.5%	100.1%
問13D：日本は差別があまりなく、弱い立場とされる人々がむしろ手厚く保護されている国だと思う。	むつ（338）	10.7%	31.4%	42.9%	15.1%	100.0%
	おいらせ（334）	8.7%	31.7%	41.0%	18.6%	100.0%
	三次市（広島）	8.5%	34.9%	42.5%	14.1%	100.0%
	府中町（広島）	9.0%	33.6%	40.8%	16.7%	100.1%
問13E：今の日本政府を信頼している。	むつ（337）	4.5%	24.3%	39.5%	31.8%	100.0%
	おいらせ（335）	3.3%	19.1%	45.7%	31.9%	100.0%
	三次市（広島）	1.7%	15.9%	44.6%	37.8%	100.0%
	府中町（広島）	1.5%	17.6%	45.7%	35.2%	100.0%
問13F：日本の将来には明るい希望があると思う。	むつ（337）	3.9%	22.0%	52.2%	22.0%	100.0%
	おいらせ（337）	2.4%	22.0%	48.4%	27.3%	100.0%
	三次市（広島）	2.4%	21.1%	49.6%	27.0%	100.1%
	府中町（広島）	2.5%	20.9%	51.0%	25.6%	100.0%
問13G：将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。	むつ（338）	3.0%	12.4%	43.2%	41.4%	100.0%
	おいらせ（337）	3.9%	12.5%	46.9%	36.8%	100.0%
	三次市（広島）	3.0%	11.7%	39.6%	45.7%	100.0%
	府中町（広島）	3.5%	14.4%	47.4%	34.7%	100.0%
問13H：将来、日本の伝統や慣習が失われ、社会の雰囲気が悪くなる可能性について、心配しなくていいと思う。	むつ（337）	3.0%	14.5%	51.6%	30.9%	100.0%
	おいらせ（337）	2.1%	11.3%	52.2%	34.4%	100.0%
	三次市（広島）	1.1%	10.7%	47.8%	40.4%	100.0%
	府中町（広島）	2.7%	14.1%	46.2%	37.0%	100.0%
問13I：今後、日本国内に外国人が増加することは、総合的に見ると良いことだ。	むつ（335）	10.1%	42.1%	37.4%	10.4%	100.0%
	おいらせ（336）	7.7%	44.9%	37.5%	9.8%	100.0%
	三次市（広島）	7.8%	41.2%	37.7%	13.2%	99.9%
	府中町（広島）	5.5%	39.9%	39.2%	15.5%	100.1%

注）（　）内は回答者数。四捨五入の関係で、合計が100.0%になっていない項目がある。

表６　基本属性別にみた「日本社会と政治（問13)」

		問13A：総合的に見て、日本社会や政治の現状について満足している。	問13B：日本は、安全で安心して暮らせる国だと思う。	問13C：日本は、こつこつと努力すれば成功するチャンスのある国だと思う。	問13D：日本は差別があまりなく、弱い立場とされる人々がむしろ手厚く保護されている国だと思う。	問13E：今の日本政府を信頼している。	問13F：日本の将来には明るい希望があると思う。	問13G：将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。	問13H：将来、日本の伝統や慣習が失われ、社会の雰囲気が悪くなる可能性について、心配しなくていいと思う。	問13I：今後、日本国内に外国人が増加することは、総合的に見ると良いことだ。
性別 男／女 （χ二乗検定）	むつ			有意差あり		女＜男				
	おいらせ	有意差あり		有意差あり		有意差あり				男＜女
年齢（実数） （相関係数）	むつ							高＜低		高＜低
	おいらせ									高＜低
婚姻 既婚／独身 （χ二乗検定）	むつ				有意差あり					
	おいらせ								独身＜結婚	
学歴（在学含む） 大学・短大／非大学・短大 （χ二乗検定）	むつ		非大学＜大学			非大学＜大学				
	おいらせ	非大学＜大学					非大学＜大学			非大学＜大学
世帯収入（階級値） （相関係数）	むつ				低＜高					
	おいらせ				低＜高					低＜高
移動歴 地元／Uターン／Iターン （χ二乗検定）	むつ									
	おいらせ			地元＜I＜U				地元＝U＜I		

注)「＜」は5%水準で有意。「有意差あり」は、有意差はあるものの明確な傾向が見られないもの。

(4)日本社会と政治にかかわる価値観（問14）

図4に示したように、「日本社会や政治にかかわる価値観（問14)」ついて3つの質問を行った。「日本社会と政治に関する評価」と同様、3項目すべてにおいて、２つの地域（むつ市・おいらせ町）で有意差はみられなかった（χ^2検定5%水準)。

３項目とも肯定的な回答（「全くそう思う」＋「どちらかと言えばそう思う」）の割合が５割を超えている。統計的に有意な差ではないが、むつ市のほうが、いずれの項目においても、肯定率が若干高くなっている。

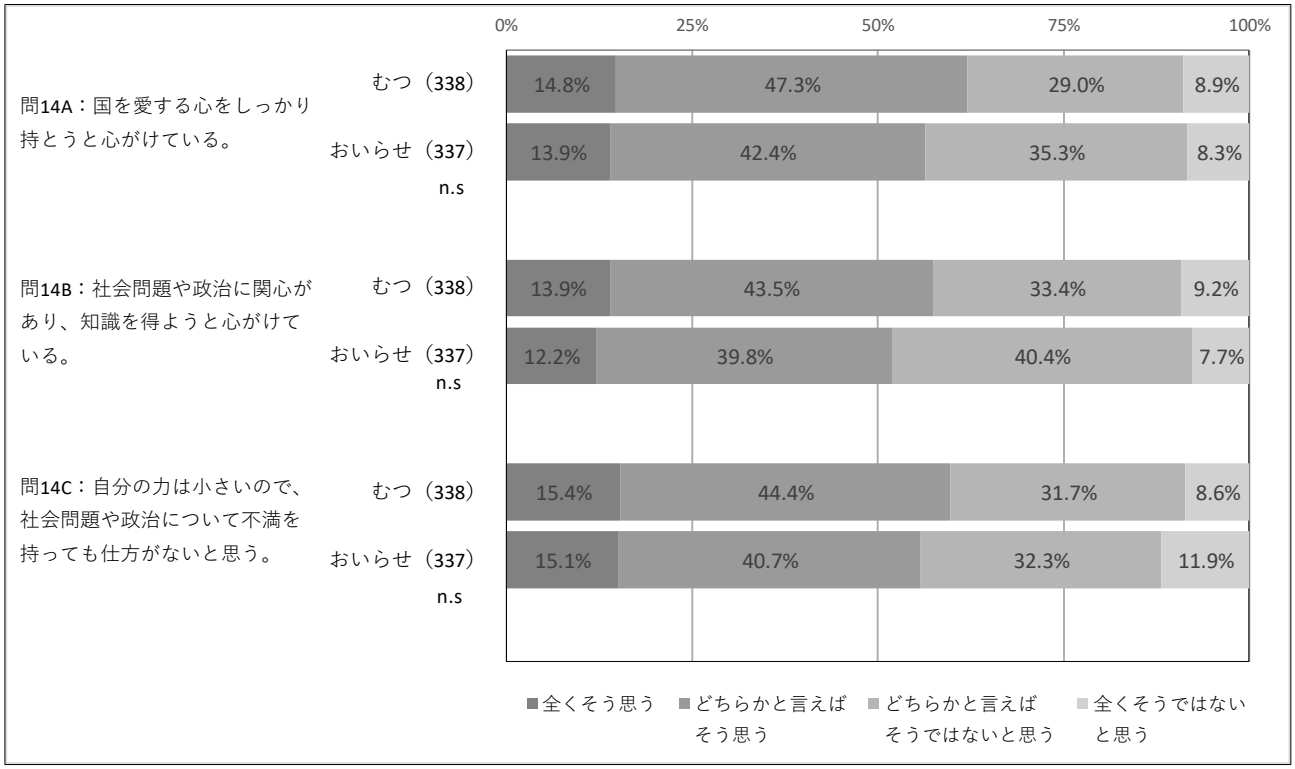


図４　日本社会と政治にかかわる価値観（問14）

注)（　）内は回答者数。n.s.は、χ^2検定の結果、5%水準で有意差なし。

(5)日本社会と政治にかかわる価値観（問14）：広島調査との比較

表7は、「日本社会と政治にかかわる価値観（問14)」について、轡田（2016）が行った広島調査の２地域と比較したものである。轡田の分析によれば、三次市と府中町で有意差がみられる項目はない（轡田2016:122-3)。

青森の２地域も含め比較してみると、４地域の回答分布が、かなり類似していることがわかる。あえて差異を見出すとすれば、３項目とも、広島の２地域よりも青森の２地域のほうが、積極的な肯定の割合が若干高くなっていることである。

この結果からは、「自身の人生に対する評価（問８)」と同様に、「地方中枢拠点都市圏／条件不利地域圏」という区分よりも、「青森／広島」あるいは「東北地方／中国地方」という区分のほうが、地域差を分析するうえでは有効な可能性があるといえるかもしれない。

表７　日本社会と政治にかかわる価値観（問14）：広島調査との比較

		全くそう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそうではないと思う	全くそうではないと思う	計
問14A：国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。	むつ（338）	14.8%	47.3%	29.0%	8.9%	100.0%
	おいらせ（337）	13.9%	42.4%	35.3%	8.3%	100.0%
	三次市（広島）	12.7%	49.3%	31.2%	12.4%	105.6%
	府中町（広島）	12.2%	50.0%	31.1%	6.7%	100.0%
問14B：社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている。	むつ（338）	13.9%	43.5%	33.4%	9.2%	100.0%
	おいらせ（337）	12.2%	39.8%	40.4%	7.7%	100.0%
	三次市（広島）	10.2%	41.5%	41.5%	6.7%	99.9%
	府中町（広島）	10.0%	42.2%	38.4%	9.2%	99.8%
問14C：自分の力は小さいので、社会問題や政治について不満を持っても仕方がないと思う。	むつ（338）	15.4%	44.4%	31.7%	8.6%	100.0%
	おいらせ（337）	15.1%	40.7%	32.3%	11.9%	100.0%
	三次市（広島）	13.3%	38.3%	34.2%	14.2%	100.0%
	府中町（広島）	12.4%	40.5%	36.1%	10.9%	99.9%

注）（　）内は回答者数。四捨五入の関係で、合計が100.0%になっていない項目がある。ただし、三次市の「A国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。」は合計で105.6%であり、報告書の記載ミスの可能性がある。

(6)基本属性別にみた「日本社会と政治にかかわる価値観（問14)」

表8は、性別、年齢、婚姻、学歴、世帯収入、移動歴ごとに「日本社会と政治にかかわる価値観（問14)」をみたものである。性別で最も多く有意差がみられる。女性よりも男性のほうが、「A 国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。」「B 社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている。」で肯定率が高くなっている。また、移動歴別でも比較的多くの有意差がみられ（特にむつ市)、「A 国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。」「B 社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている。」で、「ずっと地元」に比べ「Iターン」で肯定率が高くなっている。逆に、「C 自分の力は小さいので、社会問題や政治について不満を持っても仕方がないと思う。」では、「ずっと地元」の肯定率が高い。地元以外での居住経験がある者に比べ、地元以外での居住経験の無い地元層は、政治的な無力感が強い傾向があるといえよう。

表８　基本属性別にみた「日本社会と政治にかかわる価値観（問14)」

		問14A：国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。	問14B：社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている。	問14C：自分の力は小さいので、社会問題や政治について不満を持っても仕方がないと思う。
性別 男／女 （χ二乗検定）	むつ	女＜男	女＜男	
	おいらせ	女＜男	女＜男	有意差あり
年齢（実数） （相関係数）	むつ			
	おいらせ			
婚姻 既婚／独身 （χ二乗検定）	むつ			
	おいらせ		独身＜結婚	
学歴（在学含む） 大学・短大／非大学・短大 （χ二乗検定）	むつ			
	おいらせ			
世帯収入（階級値） （相関係数）	むつ		低＜高	
	おいらせ	低＜高	低＜高	
移動歴 地元／Uターン／Iターン （χ二乗検定）	むつ	地元＜U＜I	地元＜U＜I	I＜U＜地元
	おいらせ			I＜U＜地元

注）「＜」は5%水準で有意。「有意差あり」は、有意差はあるものの明確な傾向が見られないもの。

６－３．学歴（F19）と年収（F25）

最後に、回答者の社会経済的な側面にかかわる属性項目である学歴と収入についてみてみることにしよう。

(1)学歴（F19）

回答者の最終学歴は、図５のようになっている。χ^2検定を行ったところ、２つの地域（むつ市・おいらせ町）で有意差は見られなかった（その他を除いて検定）。

両地域とも「大卒または大学院卒」が約2割、「高卒」約４割となっている。統計的に有意な差でないものの、むつ市のほうが「大卒または大学院卒」および「高卒」の割合が若干高く、おいらせ町のほうが「短大または高専卒」「専門学校卒」の割合がやや高くなっている。

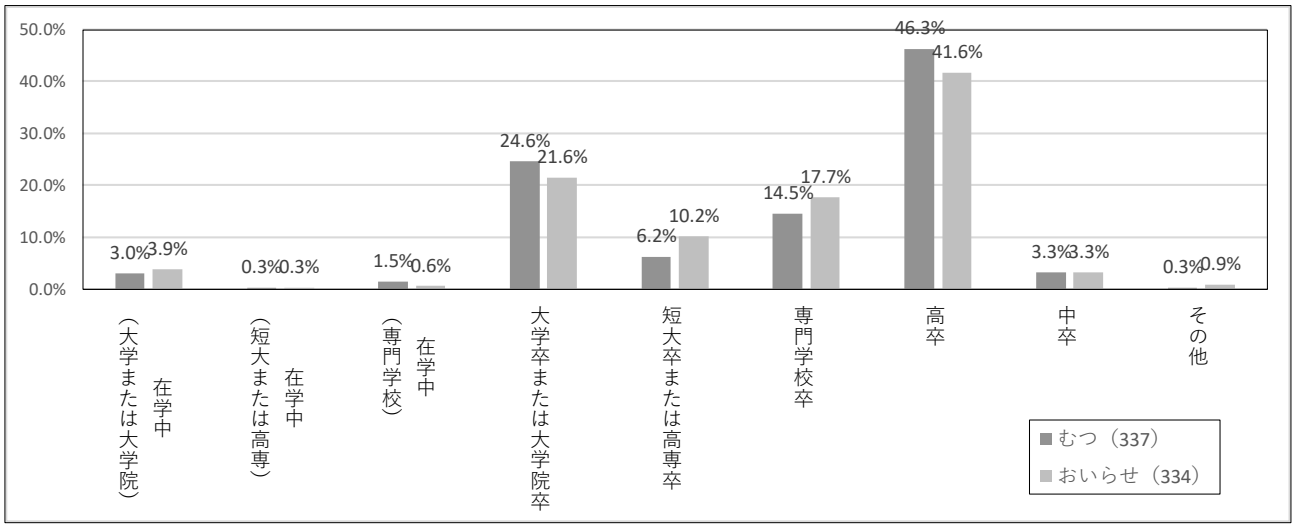


図５　学歴（F19）

注）（　）内は回答者数。χ^2検定の結果（その他を除いて）、5%水準で有意差なし。

表９は、性別、年齢別、移動歴別に、学歴を（在学中も含む。大学・短大卒＝「在学中（大学または大学院)」「在学中（短大または高専)」「大学卒または大学院卒」「短大卒または高専卒」／非大学・短大卒＝「在学中（専門学校)」「専門学校卒」「高卒」「中卒」「その他」）みたものである。性別、年齢別では両地域とも有意差はみられなかった。移動歴別では、「ずっと地元層」で「非大学・短大卒」の割合が非常に高くなっている。

表９　属性（性・年齢・移動歴）別にみた「学歴（F19)」

area				性別			年齢（20代前半・後半／30代前半・後半）					居住歴			
				男性	女性	合計	20代前半	20代後半	30代前半	30代後半	合計	ずっと地元	Ｕターン	Ｉターン	合計
むつ	学歴	非大学・短大	度数	116	106	222	45	45	58	74	222	74	87	56	217
			列の%	62.7%	69.7%	65.9%	64.3%	63.4%	61.1%	73.3%	65.9%	94.9%	57.2%	57.1%	66.2%
		大学・短大	度数	69	46	115	25	26	37	27	115	4	65	42	111
			列の%	37.3%	30.3%	34.1%	35.7%	36.6%	38.9%	26.7%	34.1%	5.1%	42.8%	42.9%	33.8%
	合計		度数	185	152	337	70	71	95	101	337	78	152	98	328
			列の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
おいらせ	学歴ダミー	非大学・短大	度数	103	109	214	31	53	41	87	212	68	63	72	203
			列の%	65.6%	61.6%	64.1%	52.5%	63.9%	60.3%	70.2%	63.5%	84.0%	51.6%	61.5%	63.4%
		大学・短大	度数	54	68	120	28	30	27	37	122	13	59	45	117
			列の%	34.4%	38.4%	35.9%	47.5%	36.1%	39.7%	29.8%	36.5%	16.0%	48.4%	38.5%	36.6%
	合計		度数	157	177	334	59	83	68	124	334	81	122	117	320
			列の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注）χ^2検定の結果、性別と年齢別に両地域ともに5%水準で有意差なし。移動歴は、両地域ともに5%水準で有意差あり。

図６は、轡田が実施した広島調査との関係をみたものである（轡田2016:130-1)。府中町に比べ、むつ市・おいらせ町ともに、大卒の割合が20ポイント程度低く、20ポイント以上高卒の割合が高くなっている。広島調査では、「条件不利地域圏」である三次市のほうが「地方中枢拠点都市圏」である府中町よりも、高卒の割合が高く、大卒の割合が低くなっているが、青森ではそのような傾向はみられない。統計的に有意ではないものの、「条件不利地域圏」のむつ市のほうが、むしろ大卒の割合がやや高くなっている。

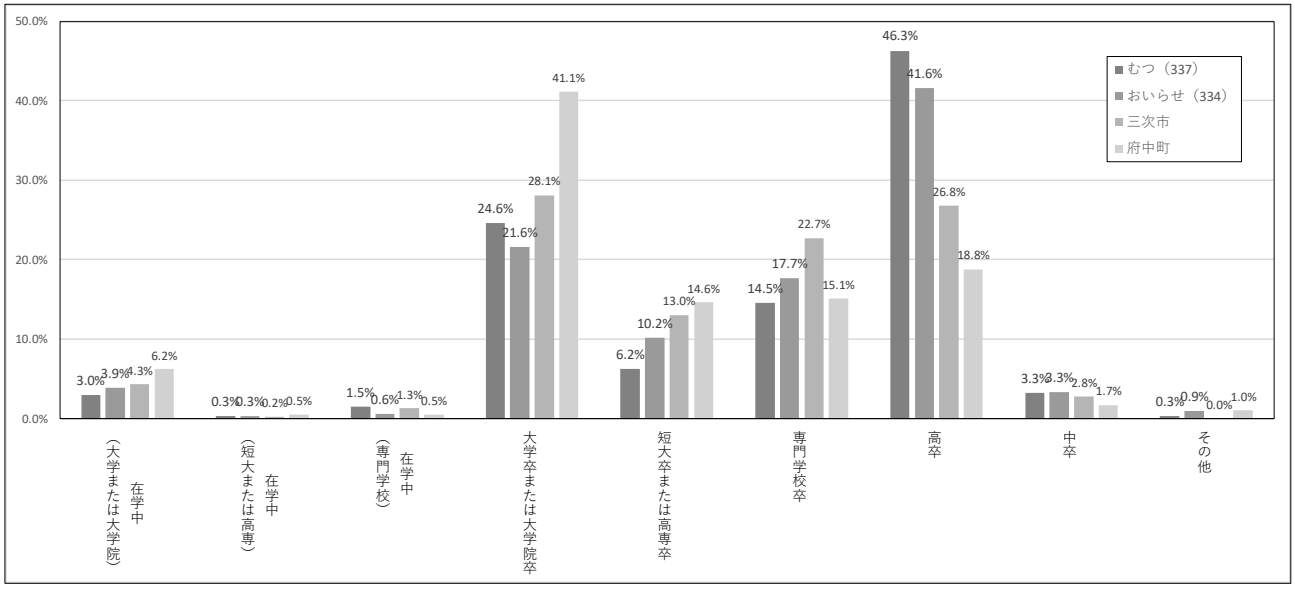


図６　学歴（F19)：広島調査との比較

注）（　）内は回答者数。広島調査については、各質問の回答者数は明記されていないため不明。

「平成22年国勢調査」の結果をみても、おいらせ町の大卒の割合はむつ市よりも低くなっている。むつ市は「大卒・大学院卒＋短大・高専卒」16.6%、「高校・旧中卒」45.1%、おいらせ町は「大卒・大学院卒＋短大・高専卒」15.0%、「高校・旧中卒」50.9%となっている（既卒者における割合)。また、「平成29年度学校基本調査」をみても、大学等進学率は、むつ市41.3%（男性35.9%, 女性46.3%)、おいらせ町10.8%（男性 7.4%、女性13.8%）となっており、おいらせ町の大学進学率は青森県全体（44.6%）よりも、かなり低くなっている。

このような傾向は、「条件不利地域圏」や「地方中枢拠点都市圏」の多様性を表すものといえるかもしれないが、「条件不利地域圏」と「地方中枢拠点都市圏」という類型化に再検討を迫るものということもできるだろう。

(2)個人年収（F25_1）

回答者の個人収入は、図７のようになっている。χ^2検定を行ったところ、２つの地域（むつ市・おいらせ町）で有意差は見られなかった。ただし、選択率が最も高かったのは、むつ市「200万円台」（22.9%）、おいらせ町「100万円台」（21.9%）となっている。階級値を使用して、平均値を求めると、むつ市280.7万円、おいらせ町265.2万円となっている。中央値は、ともに250.0万円である。

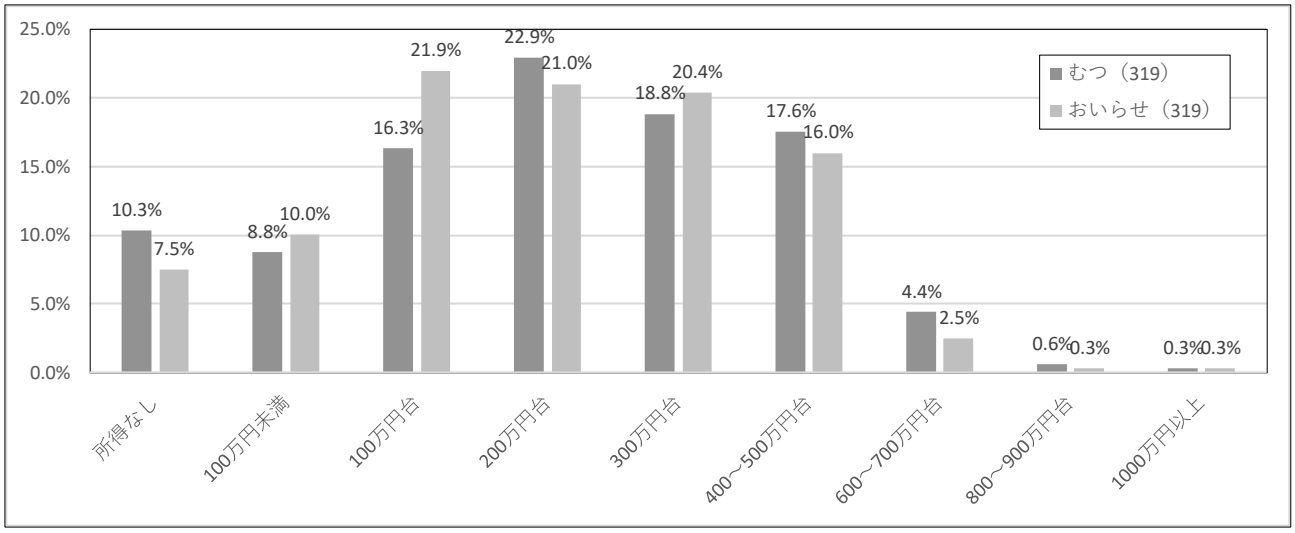


図７　個人年収（F25_1）

注）（　）内は回答者数。χ2検定の結果、5%水準で有意差なし。

表10は、個人年収（階級値を用いた平均）を属性別にみたものである。むつ市、おいらせ町ともに、女性より男性のほうが、独身よりも既婚のほうが、非大学・短大よりも大学・短大のほうが、個人年収は高くなっている。また、むつ市では、移動歴別で「ずっと地元」の個人年収が低い。おいらせ町では、年齢が高いほど、個人年収が高くなっている。

国税庁「平成29年分民間給与実態統計調査」によると、１年を通じて勤務した給与所得者の１人当たりの平均給与は、20～24歳262万円、25～29歳361万円、30～34歳407万円、35～39歳442万円である（国税庁長官官房企画課2018）。男性は、20～24歳279万円、25～29歳393万円、30～34歳461万円、35～39歳517万円となっている。女性は、20～24歳243万円、25～29歳318万円、30～34歳315万円、35～39歳313万円である。この全国平均と比べると、むつ市、おいらせ町ともに本調査の年収は低くなっている。

表10　属性別にみた「個人年収（F25_1）」（万円）

		むつ			おいらせ		
		N	平均	検定	N	平均	検定
性別	男性	179	356	*	147	346	*
	女性	140	183		172	195	
年齢	20代前半	64	218	n. s.	55	198	*
	20代後半	66	312		79	227	
	30代前半	91	297		64	278	
	30代後半	98	285		121	313	
婚姻	独身	182	256	*	191	227	*
	既婚	126	320		117	323	
学歴	非大学・短大	208	253	*	197	249	*
	大学・短大	108	334		116	293	
移動歴	ずっと地元	75	203	*	67	241	n. s.
	Ｕターン	139	271		118	273	
	Ｉターン	96	352		116	276	

注）平均は階級値を用いた算出。検定は性別・婚姻・学歴ではt検定（5%水準）。年齢と移動歴は分散分析（5%水準）。

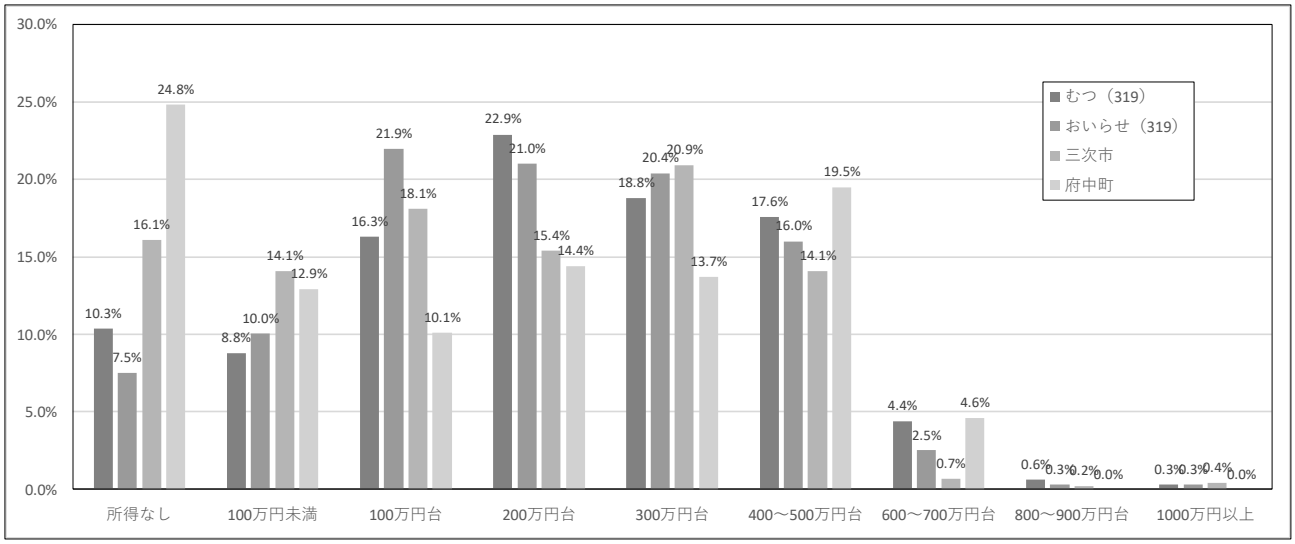


図８　個人年収（F25_1）：広島調査との比較

注）（　）内は回答者数。広島調査については、各質問の回答者数は明記されていないため不明。

　轡田が行った広島調査と比較したのが図８である（2016:136-137）。選択率が高いのは、三次市「300万円台」（20.9%）、府中町の「無収入」（24.8%）「400～500万円台」（19.5%）である。グループ化中央値は、三次市214万、府中町208万円となっている。広島の２地域は無収入の割合が高いこともあり、中央値は青森の２地域のほうが高くないっている。４地域の回答分布をみると、個人年収からも「条件不利地域圏」と「地方中枢拠点都市圏」の関係に関して多様性が見られる。

(3)世帯年収（F25_2）

　回答者の世帯収入は、図９のようになっている。χ^2検定を行ったところ、２つの地域（むつ市・おいらせ町）で有意差は見られなかった。おいらせ町のほうが高収入層の割合が若干高くなっているが、選択率が最も高いのは、むつ市、おいらせ町ともに「400～500万円台」である（むつ市30.8%・おいらせ町25.3%）。階級値を使用して、平均値をもとめると、むつ市540.5万円、おいらせ町562.3万円である。また、中央値は、ともに500.0万円となっている。

　総務省統計局の「平成25年住宅・土地統計調査」のデータ（9区分）でみると、むつ市は「200～300万円」（20.0%）、おいらせ町も「200～300万円」（18.3%）が最も世帯数が多くなっている。また、階級値を使用して世帯年収を求めると、むつ市346.7万円、おいらせ町383.2万円となる。この値は、世帯主の年齢を限定していないものであるが、今回の調査の世帯収入はやや高めとなっている。ただし、むつ市よりも、おいらせ町のほうが世帯収入が高い点は一致している。

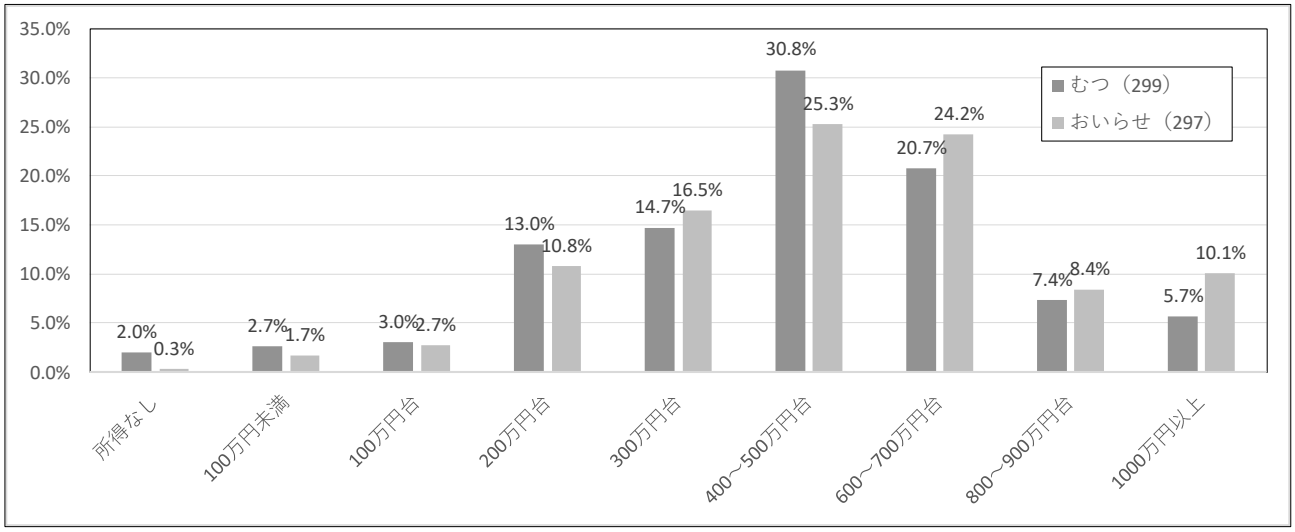


図９　世帯年収（F25_2）

注）（　）内は回答者数。χ2検定の結果、5%水準で有意差なし。

轡田が行った広島調査と比較したのが図10である（2016:136-137）。選択率が高いのは、三次市「400～500万円台」（28.4%）、府中町の「400～500万円台」（34.7%）である。グループ化中央値は、三次市469万、府中町525万円となっている。「条件不利地域圏」よりも「地方中枢拠点都市圏」のほうが世帯収入が多いという傾向は、個人収入とは異なり広島と青森で共通している。

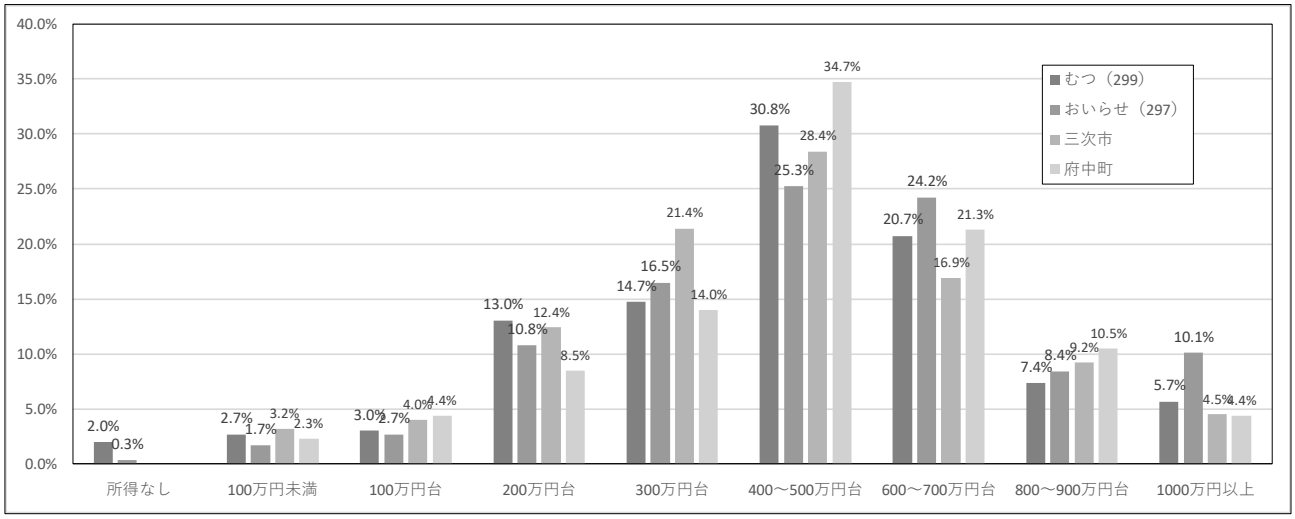


図10　世帯年収（F25_2）：広島調査との比較

注）（　）内は回答者数。広島調査については、各質問の回答者数は明記されていないため不明。

６－４．まとめ

本章では、自身の人生に関する意識、日本社会や政治に関する意識、そして基本属性である学歴と年収についてみてきた。これまでの結果をまとめると次のようになる。

(1)「自身の人生に対する評価」では、両地域とも「E自分は幸せだと思う。」で７割以上が肯定的回答をしており、幸福度が高くなっている。逆に、「C自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。」は両地域とも肯定率が約４割にとどまり、異質な他者との出会いの機会はあまり多いとは言えない。

(2)「人生に関する価値観」では、「B今後の人生では、平凡でもいいから、人並みの幸せを手に入れることが大事だと思っている。」で肯定率８割以上、逆に「A今後の人生では、無理をしてでも、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。」は肯定率が約4割にとどまっている。両地域とも「堅実志向」が強く、「チャレンジ志向」は弱いという傾向がみられた。

(3)「日本社会や政治に対する評価」では、日本を全般としては安全で安心な社会としつつも、原発事故など個別の点に関しては不安を抱いている人々も少なくないようである。また、社会や政治に対して満足している人の割合は少なくなっている。

(4)「日本社会と政治にかかわる価値観」では、次のような３項目ともに肯定率が５割を超えている（「A 国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。」「B 社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている。」「C 自分の力は小さいので、社会問題や政治について不満を持っても仕方がないと思う。」）。女性よりも男性で、愛国心を持つことを心がけており、政治的な関心も強い。また、地元以外での居住経験がある者に比べ、地元以外での居住経験の無い地元層は、政治的な無力感が強い傾向がある。

(5) 学歴は、両地域とも「大卒または大学院卒」が約2割、「高卒」約４割となっている。統計的に有意ではないものの、むつ市のほうが「大卒または大学院卒」および「高卒」の割合が若干高く、おいらせ町のほうが「短大または高専卒」「専門学校卒」の割合がやや高い。

(6) 個人収入（年収）は、選択率が最も高い選択肢は異なるが（むつ市「200万円台」、おいらせ町「100万円台」）、回答分布全体では有意差はみられない。階級値を使用して平均値を求めると、むつ市280.7万円、おいらせ町265.5万円となっている。

(7) 世帯収入（年収）は、選択率が最も高いのは、むつ市、おいらせ町ともに「400～500万円台」であり、回答分布全体で有意差はみられない。階級値を使用して平均値をもとめると、むつ市540.5万円、おいらせ町562.3万円である。

また、自身の人生に関する意識、日本社会や政治に関する意識、そして基本属性である学歴と年収、そのいずれにおいても、「条件不利地域圏」と「地方中枢拠点都市圏」と位置付けたむつ市とおいらせ町で統計的に有意な差は見られなかった。このことは、地方の多様性をとらえるための類型として、「条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏」という類型の限界を示しているとも考えられる。

無論、地域差がまったくみられないわけではない。しかし、その差異は、「条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏」の間にではなかった。轡田が行った広島調査の２地域も加え、地域差をみてみると、「自身の人生に対する評価」や「日本社会や政治に関する価値観」では、「青森／広島」あるいは「東北地方／中国地方」の間に、それほど明瞭にではないが差がみられた。

また、学歴に関しては、「条件不利地域圏」と「地方中枢拠点都市圏」との関係性が逆転していた。広島調査では「条件不利地域圏」である三次市のほうが、「地方中枢拠点都市圏」である府中町よりも、高卒の割合が高く、大卒の割合が低くなっているが、青森ではそのような傾向はみられない。統計的に有意ではないものの、「条件不利地域圏」のむつ市のほうが、むしろ大卒の割合がやや高くなっていた。「条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏」という類型化の観点からすれば、「地方中枢拠点都市圏」と「条件不利地域圏」の多様性を示すものといえるかもしれない。

「地方」が、「中央」との対比において一括りにされ、その多様性に目がむけられてこなかった、という轡田の指摘は、もっともなものである。しかし、今回の結果を素直に解釈するならば、地方内での差異は大きくないということになる。轡田が行った広島調査においても、各種満足度、幸福度において、有意な差がみられたのは、６項目中１項目、地域満足度のみであった（轡田2017:96）。地方に住む人々の多様性をとらえる視点としては、「条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏」という類型が必ずしも有効とは言えないことが、今回の調査からも確認されたことになる。

今後は、調査対象地域を増やすことによって、「地方中枢拠点都市圏／条件不利地域圏」という類型化の有効性をさらに検証するとともに、「中央」との関係、差異にも着目しつつ（差異があるのかどうかということも含め）、地方に住む人々の多様性をとらえる新たな視点を模索していく必要もあるではないだろうか。

【参考文献】

国税庁長官官房企画課2018『平成29年分　民間給与実態統計調査－調査結果報告－』
轡田竜蔵2016『平成26年度 公益財団法人マツダ財団委託研究「広島 20-30 代住民意識調査」報告書（統計分析篇）【第２版】』公益財団法人マツダ財団
轡田竜蔵2017『地方暮らしの幸福と若者』勁草書房
文部科学省2018『平成29年度　学校基本調査』
総務省統計局2012「平成22年国勢調査　小地域集計　02青森県」
総務省統計局2012「平成22年国勢調査　小地域集計　34広島県」
総務省統計局2014「平成25年住宅・土地統計調査　都道府県編（都道府県・市区町村）02青森県」
総務省統計局2015「平成25年住宅・土地統計調査　都道府県編（都道府県・市区町村）34広島県」

第７章　生活に関わる価値観・ジェンダー意識

羽渕　一代（弘前大学）

本章では生活に関わる満足度、価値観、ジェンダー意識について結果をみていきたい。

７－１．生活満足度

若者の生活満足度や幸福を決定する要因については、主として将来の見通し、経済的要因、ライフステージ、人間関係、恋愛などの状況が想定される。青少年研究会がおこなった、都市の若者を対象とした研究においては、①将来の見通しが明るさ、②経済的ゆとり、③人間関係が良好かどうか、が生活に満足しているという結果が報告されている（浅野 2016）。そのいっぽうで、④結婚の有無や⑤恋人の有無は関連がみられたり、みられなかったりという微妙な結果であった。そして、年齢やジェンダーによって異なる要因が生活満足度を規定しているということも示唆された（羽渕 2016）。

生活満足度の規定要因を探る際、調査対象となる若者の居住地域や年齢、さらには質問の仕方によってその結果が異なるのではないかと考えられる。青少年研究会の調査対象が16歳から29歳の都市生活者であることを考えると、仕事の状況や結婚、恋愛が人生の重大事となるかどうかは微妙なところであると言わざるをえない。20歳から39歳の地方の若者を調査した轡田によれば、生活満足度に地域間格差はないとしながらも、地方の若者にも収入と生活満足度との正の関連があることを報告している（轡田 2017）。また轡田は業務の内容なども分析をおこない、仕事との連関も報告している。人間関係については、友人関係などと生活満足度との関連を明らかにしている。しかし、青少年研究会の結果とは異なり、結婚の有無については正の相関があるという結果を報告している。そして将来の見通しが配偶者や恋人の存在と結びついていることも指摘している。おそらく、この相違は轡田の調査対象者が20代、30代と年齢層が高いこと、地方居住者であることなどが要因となっている可能性がある。

本調査も20代、30代の地方居住者であることを考えるならば、これらの生活満足度に関する仮説は轡田の結果と同様の傾向を示すと考えられる。比較的観点からの結果については、第11章で後述されるため、ここでは基本的な状況を確認する。以下、生活満足度に関して、分析結果を紹介していこう。図1から、おおむね経済的な満足は低く、時間的ゆとりや住居の快適性といった質的満足が高い傾向がみられる。次に総合的な生活の満足度と相関する項目を確認していこう。

①将来の見通しの明るさ

総合的な生活満足度を決定する要因の一つとして将来の見通しがある。青森の若者においても同様の傾向がみられた。「20年度、自分は親の生活水準よりも高い暮らしができていると思う」や「今後、自分の生活が経済的に厳しくなる可能性について、心配しなくてもいいと思う」といった将来の見通しが明るい場合、総合的な生活満足度が高い（相関分析：$p<.001$）。また「今後（配偶者がいない場合」結婚できないのではないかとか、（既婚の場合）結婚生活を続けられないのではないかと、心配しなくていいと思う）」や「20年後、子育てを経験し、自分を必要とし大切に思ってくれる人（配偶者・恋人）と暮らしていると思う」といった親密な人間関係の将来的見通しが明るい場合、現在の総合的な生活満足度が高い（相関分析：$p<.001$）。これらのことから、経済的にも親密な人間関係においても将来の見通しが明るいならば、現在の生活に満足が得られるといえる。

②経済的ゆとり

総じて経済的ゆとりと生活満足度と相関するようである。個人収入も世帯収入も生活満足度との相関はみられる。ただし、ここでは数値を示さないが「金銭的余裕のある生活を送っている」という項目よりも「一般的な家庭と比べて、自分の生活水準は高いほうだ」という意識のほうが生活満足度と強い関連がみられるという結果であった。つまり実際の収入や金銭的余裕の意識も生活満足度と相関するが、他と比較することで生活満足度の意識は決まるようである。

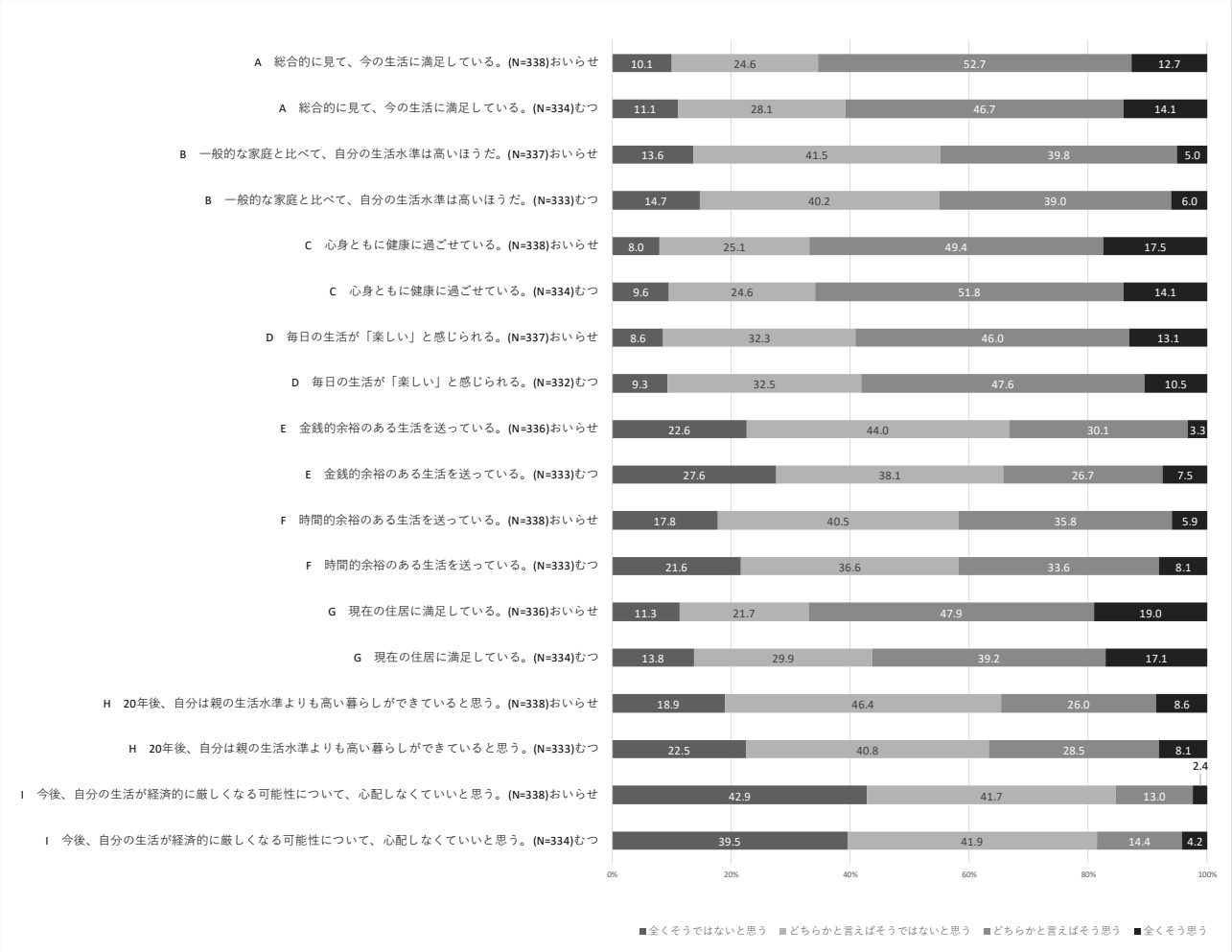


図１　むつ市とおいらせ町における生活満足度

③人間関係

まず結婚の有無について、配偶者がいるほうが独身者（離死別を除く）と比較して生活満足度が高いということがわかった（T検定：p<.001）。しかしジェンダー別に分析をおこなった結果、むつ市では女性のみ正の相関を示し、おいらせ町では男性のみ正の相関を示している。このジェンダー差・地域差は何を意味しているのか、本結果のみではわからない。むつ市とおいらせ町のどのような地域構造がジェンダーと結婚に作用し、それらの属性が生活満足度との連関を決めているのか、より詳細な分析が必要であるだろう。

さらに独身者の親密な人間関係を考える際に恋人の有無という観点も確認しておきたい。恋人の有無と生活満足度との関連は弱い相関であるため、満足度を決定しているというかどうかは微妙であると言わざるを得ない。連関がないとはいえないという

次に、人間関係の満足度と生活満足度との関係はどのようになっているだろうか。親との関係、血縁以外に自分を必要とし大切に思ってくれる人（配偶者・恋人等）の関係、友人関係の満足度と相関がみられた（相関分析：p<.001）。それぞれ人間関係満足度が高い人は生活満足度が高い。

④地域に対する満足度

トランスローカリティという概念を本研究会では提唱しているが、地域性を超えた地域性とでも説明できるような状況を実証的に説明したいと考えている。生活満足度に地域間格差はみられないと先行研究では示されているが、もしも地域満足度と生活満足度に関連がみられないのであれば、それはどこに住んでいても生活満足を得ることが可能である、という結論を導くだろう。そこで、その可能性を探究するべく、地域に対する満足度と生活満足度との関連を分析してみたい。

ただし常識的に考えるならば、地域満足度が高ければ生活満足度は高く、地域満足度が低ければ生活満足度も低いはずである。そして本調査でも地域満足度と生活満足度は正の相関がみられた（相関分析：p<.001）。ただし、現在住んでいる地域に満足していないが、総合的に生活に満足しているという回答がむつ市で31.9%、おいらせ町で11.5%であった。むつ市のような結果は、地域が生活満足度に関わらな

い可能性を示していると解釈することが可能であり、トランスローカリティのあり方を探究するうえでは興味深い結果となった。

⑤小括

以上の結果から、本調査においても生活満足度を決定する要因はおおむね先行研究で指摘されているとおりの傾向があった。①将来の見通しが明るいこと、②経済的ゆとりがあること、③人間関係に満足しているかどうかということが生活満足度と関連する。それに加えて、本調査で仮説的に得られた結果は、②客観的な経済状況よりも主観的な意識、つまり経済的ゆとりとは他者と比較した際に自身の生活水準が高いと感じられるかどうかが生活満足度と関連しているのではないかということである。また④地域に対する満足度は生活満足度と相関するということがわかった。

７－２．生活価値観とジェンダー意識

次に趣味や生活文化に関わるジェンダー意識を確認していこう。

①生活文化

若者の趣味に関わり現代社会をより特徴づける議論がいくつかある。たとえば、おたくやヤンキーという文化行動や生活文化の嗜好による分類である。とくにおたくは現代社会の若者の人間関係やコミュニケーションを先鋭的に特徴づけると説明されてきた。また、ヤンキーという日常文化のあり方は、都市と地方を比較し、地方在住の若者に特徴づけられると説明されてきた。青少年研究会調査によれば、おたく的趣味をもつ都市の若者は2002年と比較して、2倍を超えて増えている（羽渕、2016）。本調査においてもおたく的趣味をもつ若者はむつ市で51.0%、おいらせ町で44.8%であった。また年齢が若くなるほどおたく的趣味をもつようである（相関分析：p<.001）。
ヤンキー的な趣味をもつ若者はむつ市で8.1%、おいらせ町で11.3%であった。居住地域や年齢などの社会的属性との相関はみられなかった。

表1　趣味

	おたく的趣味	ヤンキー的趣味	趣味に個性やこだわり
むつ	51.0 (171)	8.1 (27)	58.5 (196)
おいらせ	44.8 (151)	11.3 (38)	54.5 (183)

②ジェンダー意識

ジェンダー意識についての調査は蓄積があり、性別役割規範意識は低下している傾向が報告されている（石川、2018など）。しかしその意味は女性の二重労働であったり、結婚や子どもをあきらめたりという負担がこれまでも指摘されてきた。性別役割規範を否定するという態度形成は、実際の行動とのギャップをもっている可能性がある。つまり、負担とのバーターとしてキャリア形成であることを隠蔽するものであるかもしれない。性別役割規範意識が低下していることをもって、ジェンダーの差別構造がないとはいえない。先行する意識調査を確認しても8割程度の日本人は「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」という性別規範に否定的である。また本調査でも同様の傾向が認められる。

しかし、実質的に誰が生計を維持する責任を担うのか、誰が家事や子育ての責任を担うのか、と問うならば、多くの家族において男性が経済的責任を担い、家事や子育ての責任を女性が担っているようである。その証拠として共働き家庭において、夫と妻の職場が遠く離れているならば、別居して働き続けるケースと妻が仕事をあきらめるケースは多いであろうことは予測されるが、夫が仕事をあきらめて妻についていくというケースはまれではないだろうか。

今回の調査では、「共働きの場合であっても妻は仕事をやめて夫の転勤についていくべき」という性別役割規範を尋ねている。「共働きの場合であっても夫は仕事をやめて妻の転勤についていくべき」かどうかを尋ねてみたかったが、肯定数が少ないことは予め予測可能であったし、そもそもそのような規範が現代日本社会にはない。ジェンダー規範は常識的な意識のなかに潜んでおり強固なものである。性別役割規範などは「現代社会であれば否定しておくことが正しいだろう」という予測のもとに回答される項目だともいえる。

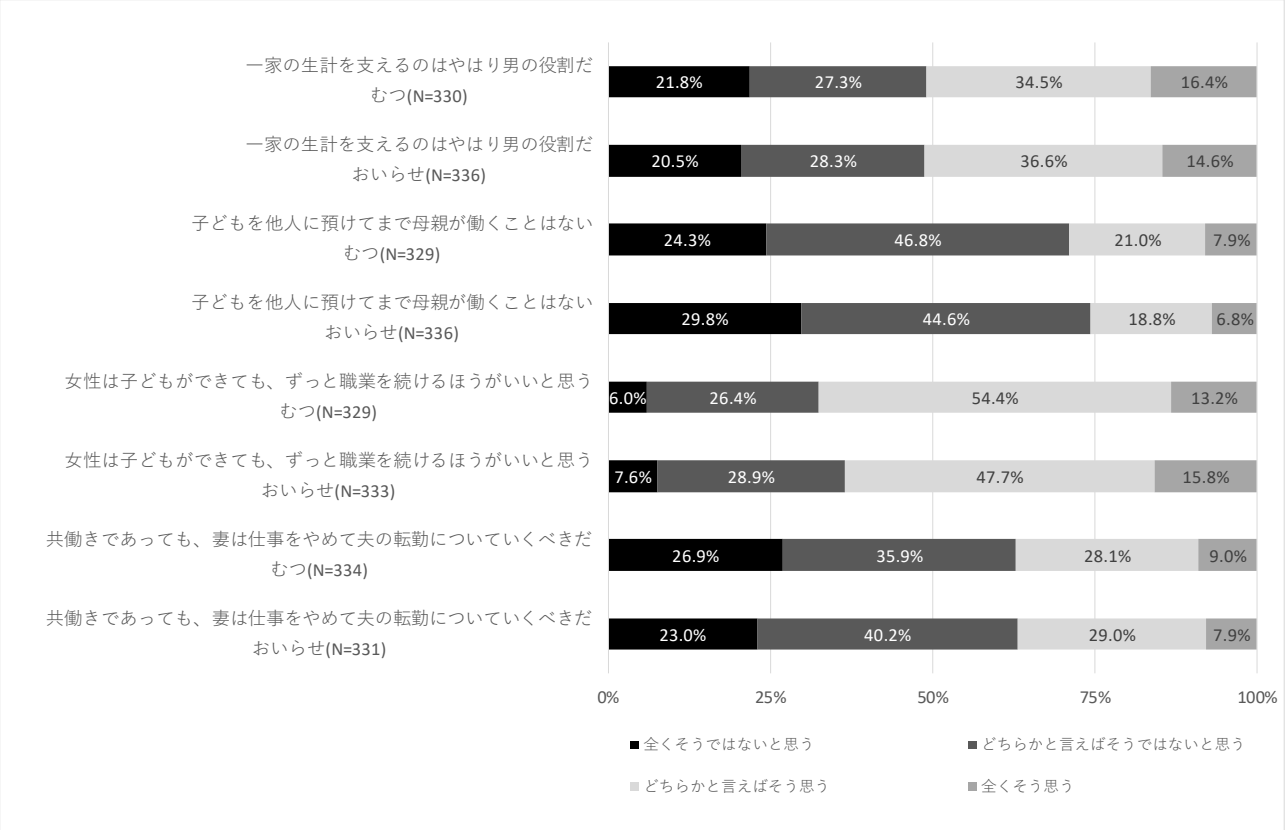


図２　むつ市とおいらせ町のジェンダー意識

今回のジェンダー意識に関する項目についても、常識的に答えやすいだろうと推測される質問を設定している。男女平等を価値としてもつのであれば、「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」の回答分布と同程度になるはずである。しかし回答分布は異なる傾向を示している。つまり性別役割規範が強固なものであることが確認できたといえる。とくに「一家の生計を支えるのはやはり男の役割だ」という項目については約半数が肯定しており、「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」という性別規範に否定的な回答とは矛盾する結果となっている。これらのジェンダー項目について、有意な地域差はみられない。それだけ性別役割規範は常識として根付いており、「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」という項目が空々しい質問項目となっているかが反対に浮き彫りとなってくる。

７－３．まとめ

本調査では、生活満足度が人間関係、経済的ゆとりの主観的意識、将来への見通しなどと関わることがわかった。また、おたく的な文化が20代30代の若者に普及していることや性別役割分業意識が強固であることも示された。しかしむつ市とおいらせ町の比較において有意な差は確認できなかった。したがって、生活満足度や生活文化の享受、ジェンダー的な価値観の相違を地域間格差で説明できないのではないか、という仮説が導出された。

参考文献

浅野智彦　2016「青少年研究会の調査と若者論の今日の課題」藤村正之・浅野智彦・羽渕一代編『現代若者の幸福―不安感社会を生きる』恒星社厚生閣
羽渕一代　2016「21世紀初頭の若者の意識」藤村正之・浅野智彦・羽渕一代編『現代若者の幸福―不安感社会を生きる』恒星社厚生閣
轡田竜蔵　2016『平成26年度 公益財団法人マツダ財団委託研究「広島 20-30 代住民意識調査」報告書（統計分析篇）【第2版】』公益財団法人マツダ財団
轡田竜蔵　2017『地方暮らしの幸福と若者』勁草書房

第８章　むつ市・おいらせ町の未婚率
および独身者の恋愛行動と結婚観

木村絵里子（日本女子大学）

８－１．はじめに

本章では、トランスローカリティ研究会による青森県のむつ市とおいらせ町を対象にした調査（以下、「青森調査」と表記）のデータから、未婚率（f2）と、独身者の恋愛行動（f4）、結婚観（f3、q12f・g）、人間関係満足度（q12b・c・d）について検討する。

日本社会の結婚形成過程は、とりわけ 1970 年代半ば以降に大きく変化し、未婚化・晩婚化現象がみられるようになった。その要因としては、女性の高学歴化による就業機会の拡大や経済的状況の変容による男性の非正規雇用者の増加などが指摘されてきたが、近年では、地域人口の減少や高齢化に伴い、地域差に焦点をあてた研究が散見されるようになっている。たとえば工藤（2011）によると、未婚化・晩婚化は、全国一律に起きているのではなく、地域的な差異を伴いながら進展しており、とくに結婚適齢期の男性未婚率は東日本で高く、一方女性の未婚率は西日本で高くなっているという。また、南(2017)も、北陸地方で確認されていた早婚傾向が、2010 年頃に段階的に解消されつつあることを指摘している。

ただし、未婚率に関して同一県内における地域差を比較している研究は、ほとんどない。本研究会による青森調査では、調査対象地であるむつ市を「条件不利地域圏」、おいらせ町を「地方中枢拠点都市圏」として位置づけており（定義については第 11 章を参照）、両地域における独身者の傾向について比較・検討することが可能となっている。

８－２．国勢調査における青森県の未婚率

本節では、青森調査データの分析に入る前に、青森県の未婚率に関連するマクロデータを確認しておきたい。図１・２には、国勢調査における生涯未婚率（50 歳時の未婚割合[25]）の推移（1990～2015 年）を、性別ごとに、青森県、東京都、全国別の割合を示した（国立社会保障・人口問題研究所 2018）。なお東京都を載せたのは、都市部との比較のためである。2015 年時点の生涯未婚率は、男性では、全国 23.4%、青森県 25.0%、東京都 26.1%、女性では全国 14.1%、青森県 13.9%、東京都 19.2%である。1990 年代以降、男女ともに生涯未婚率が上昇しているが、女性に関しては男性ほど急上昇しているわけではない。また、男性の割合は 2000 年までは全国よりも青森県の割合が下回っていたが、2005 年以降は、全国よりも高い割合となっており、2015 年には全国で２番目に高い東京都の割合に近づいている（全国で最も高いのは沖縄県の 26.2%）。青森県の女性の生涯未婚率は、一貫して全国や東京都よりも低い（2015 年時の女性の生涯未婚率で最も高いのは東京都）。以上の生涯未婚率の推移から、全国的に非婚化が進行していることがうかがえ、とく青森県の男性の生涯未婚率の上昇幅が大きいことがわかる。

---

[25] 生涯未婚率とは、45～49 歳と 50～54 歳の未婚率（配偶関係不詳を除く人口を分母とする）の平均値を取り、50 歳の時点で結婚したことがない人の割合としたものである。

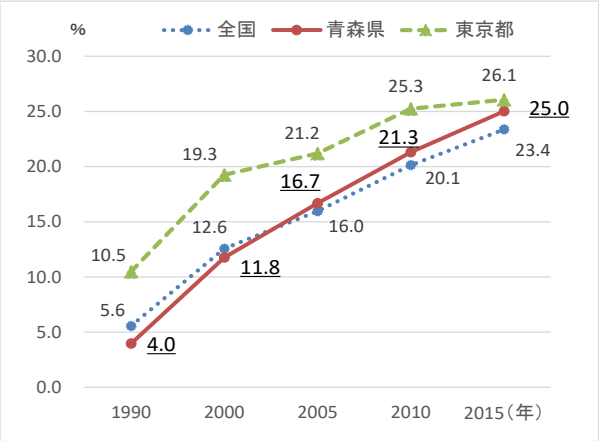


図１. 男性 生涯未婚率

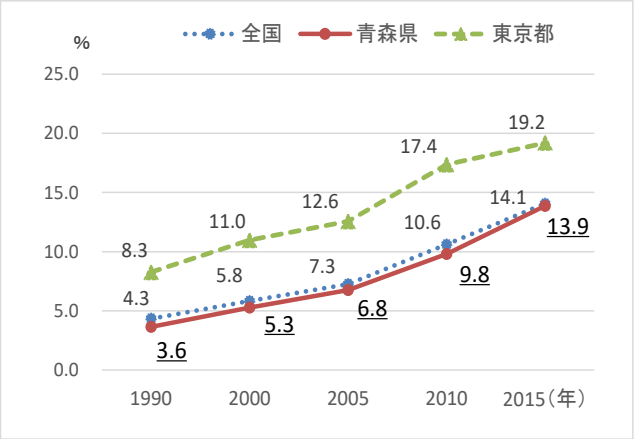


図２. 女性 生涯未婚率

国立社会保障・人口問題研究所 （2018）より作成

図３・４には、国勢調査による平均初婚年齢の推移（1990～2015 年）を、性別ごとに、青森県、東京都、全国別に示した（国立社会保障・人口問題研究所 2018）。2015 年時点の平均初婚年齢は、男性では全国 31.1 歳、青森県 30.5 歳、東京都 32.3 歳、女性では全国 29.4 歳、青森県 29.0 歳、東京都 30.5 歳である。平均初婚年齢は、全国的に年々上昇しており、晩婚化の傾向がみられる。ただし、青森県の初婚年齢は、男女ともに全国および東京都の平均を下回っている

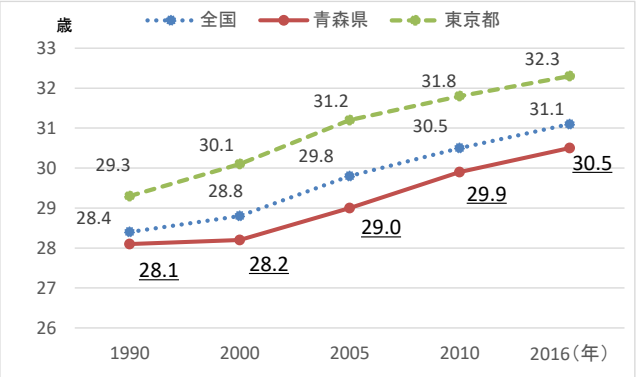


図３. 男性 平均初婚年齢

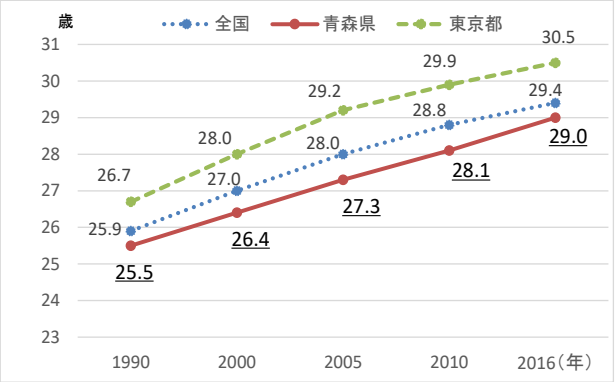


図４. 女性 平均初婚年齢

国立社会保障・人口問題研究所 （2018）より作成

次に、地域別の未婚率を確認する。表１には、平均初婚年齢に近い男性「30～34 歳」、女性「25～29 歳」の年齢層における国勢調査の未婚率の推移（1970～2015 年）を青森県、東京都、全国別に示した。2015 年時における男性の 30～34 歳における未婚率は、全国 47.1%、青森県 49.7%、東京都 50.3%、女性の 25～29 歳における未婚率は、全国 61.3%、青森県 58.0%、東京都 68.3%である。未婚率は、男女ともに上昇傾向にあるが、全国と青森県に関しては、2010 年から 2015 年にかけておおむね横ばいの状態である。青森県の男性（30～34 歳）の未婚率は、2000 年までは全国平均を下回っていたが、2010 年以降、若干ではあるものの全国を上回っており、全国のなかで最も高い東京都の割合に近づいている。青森県の女性（25～29 歳）の未婚率は、総じて全国平均を下回り、男性に比べると東京都との差が大きい。

表１. 地域別、性別の未婚率の推移（%）

都道府県	男　性　30～34歳					女　性　25～29歳				
	1970年	1990年	2000年	2010年	2015年	1970年	1990年	2000年	2010年	2015年
全 国	11.7	32.8	42.9	47.3	47.1	18.1	40.4	54.0	60.3	61.3
青 森	7.0	30.8	40.3	47.7	49.7	12.8	35.4	48.9	56.3	58.0
東 京	20.5	44.4	54.2	54.3	50.3	27.9	53.8	65.3	69.5	68.3

国立社会保障・人口問題研究所　(2018) より作成

８－３．むつ市とおいらせ町の未婚率

(１)青森調査と国勢調査の比較

次に、青森調査（2018 年）の対象地である青森県のむつ市とおいらせ町の婚姻状況を確認した上で、国勢調査（2015 年）のデータと照らし合わせて検討したい。

表２. むつ市とおいらせ町の婚姻状況（青森調査）

配偶関係	むつ市		おいらせ町		全体	
	度数	有効%	度数	有効%	度数	有効%
結婚している	133	40.4	121	36.9	254	38.7
離婚・死別した	22	6.7	21	6.4	43	6.5
結婚したことはない	174	52.9	186	56.7	360	54.8
合計	329	100.0	328	100.0	657	100.0

まず、表２に青森調査の婚姻状況（f2：あなたは結婚されていますか）を示した。「結婚している」と回答した割合は、むつ市 40.4%、おいらせ町 36.9%、むつ市とおいらせ町を合わせた全体では 38.7%、「離別・死別した」は、むつ市 6.7%、おいらせ町 6.4%、全体 6.7%、「結婚したことはない」はむつ市 52.9%、おいらせ町 56.7%、全体 54.8%であった（性別ごとの割合は、第９章を参照）。婚姻状況においては、むつ市とおいらせ町の間に大きな差はみられなかった（χ^2 検定の結果、非有意であった）。なお、轡田（2015）による広島調査の未婚率は、条件不利地域圏である三好町では 38.8%、地方中枢拠点都市圏の府中町では 35.8%であり[26]、単純に比較することはできないものの、青森調査の未婚率がかなり高いことがわかる。

[26] 広島調査のデータ（轡田 2015）および「配偶者」のなかに「事実婚」や「婚約者」も含んでいる。また、本報告書第 11 章も同様。

表３.むつ市・おいらせ町 男性 未婚率（%）

男性		20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	20代	30代	20・30代
青森調査むつ市	未婚率	93.3	62.2	44.4	35.0	74.7	40.0	56.7
(2018年)	N	30	45	45	40	75	85	171
国勢調査むつ市	未婚率	89.1	69.5	45.1	35.2	78.2	39.8	55.7
(2015年)	N	1065	1353	1580	1842	2418	3422	5840
青森調査おいらせ町	未婚率	89.5	81.1	65.5	25.9	83.9	39.8	58.6
(2018年)	N	19	37	29	54	56	83	145
国勢調査おいらせ町	未婚率	90.4	66.1	43.6	35.0	77.2	38.9	54.2
(2015年)	N	425	505	645	755	930	1400	2330

国勢調査データは総務省統計局（2017）より作成（以下表４も同じ）

表４.むつ市・おいらせ町 女性 未婚率（%）

女性		20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	20代	30代	20・30代
青森調査むつ市	未婚率	90.6	63.6	50.0	34.8	79.6	40.8	56.6
(2018年)	N	32	22	30	46	54	76	136
国勢調査むつ市	未婚率	79.6	48.2	28.2	20.0	61.3	23.6	37.6
(2015年)	N	804	1113	1435	1809	1917	3244	5161
青森調査おいらせ町	未婚率	97.1	87.5	65.5	22.2	91.9	37.3	62.3
(2018年)	N	34	40	29	54	74	83	101
国勢調査おいらせ町	未婚率	82.0	52.6	27.0	16.9	65.6	21.7	39.2
(2015年)	N	416	525	667	750	941	1417	2358

次に、青森調査データ（2018 年）と、国勢調査データ（2015 年）の未婚率を確認していく。表３には、上段にむつ市、下段においらせ町の男性の年齢層ごとの未婚率を示した。この表にあるように、青森調査のむつ市の男性未婚率は、20 代で 74.7%、30 代で 40.0%であり、おいらせ町の男性の未婚率は、20 代で 83.9%、30 代で 39.8%である。なお、20 代、30 代ともに統計的に有意な地域差は確認されなかった（χ^2検定）。この青森調査の全ての年齢層における男性未婚率は、国勢調査データよりも高くなっているものの、それほど大きな違いではない。ただし、年齢層をより細かく分けていくと、おいらせ町の 25～29 歳で 14.9 ポイント、30～34 歳で 22 ポイントの差が確認された。

表４には、むつ市とおいらせ町の女性未婚率を示した。青森調査のむつ市の女性未婚率は、20 代で 79.6%、30 代で 40.8%、おいらせ町の女性未婚率は、20 代で 91.9%、30 代で 37.3%であった。表は省略するが、20 代のみ、５%水準で有意な地域差が確認された（χ^2検定）。ただし、青森調査のデータは、国勢調査データとの差が大きくなっており、むつ市女性の 30～34 歳では約 21 ポイント、おいらせ町女性のとくに、25～29 歳で 34.9 ポイント、30～34 歳では 38.5 ポイントもの差がある。以上のように、青森調査の未婚率では、とくに女性の割合において国勢調査データとの比較的大きなずれが確認された。これらの差はかなり大きいことから、両調査の実施年次の違いによるものとは考え難い。青森調査データでは、何らかの理由によって未婚者の回答割合が高くなっているものと考えられる。

（２）属性と婚姻状況との関連

上記の国勢調査と青森調査の未婚率のずれに留意しつつ、基本属性と婚姻状況の関連について確認したい。表５は、むつ市の婚姻状況と性別、年齢層、学歴、雇用形態、移動歴（居住歴）のクロス表である。表にあるように、年齢層で 0.1%水準、移動歴で 10%水準の有意差が確認された。とくに年齢層との関連が強く、20 代の未婚率は、76.7%、30 代の未婚率は 40.4%になっている。移動歴では、他の地域で暮らしたことのない、ずっと地元にいる層の未婚率が 67.1%と最も高く、Ｕターン層が 55.7%、Ｉターン（転入）層が 48.3%となっている。

表５.むつ市 基本属性と婚姻状況のクロス表（%）

むつ市		未婚	既婚	N	χ^2検定（P）	Cramer'V
性別	男性	56.7	43.3	171	0.985	0.001
	女性	56.6	43.4	136		
年齢層	20代	76.7	23.3	129	0.000	0.365
	30代	40.4	59.6	161		
学歴	中・高・専門卒	56.3	43.7	190	0.589	0.032
	短大・大学・大学院卒	53.0	47.0	100		
雇用形態	正規雇用	53.6	46.4	194	0.117	0.103
	非正規雇用	67.6	32.4	37		
移動歴	ずっと地元	67.1	32.9	73	0.056	0.141
	Uターン	55.7	44.3	131		
	Ｉターン	48.3	51.7	87		

表６は、おいらせ町の婚姻状況と性別、年齢層、学歴、雇用形態、移動歴（居住歴）のクロス表である。おいらせ町では、年齢層と移動歴で 0.1%水準、雇用形態で 1%水準の有意差がみられた。やはり年齢層との関連が最も強く、20 代の未婚率は 88.5%、30 代は 38.6%である。移動歴では、先のむつ市と同様にずっと地元の層の未婚率が 78.9%と最も高く、Ｕターン層では 76.0%、Ｉターン層では 31.6%である。雇用形態別では、非正規雇用者の未婚率が 82.1%と高くなっている。

むつ市とおいらせ町の両地域ともに、ずっと地元に居住している者の未婚率が高く、Ｉターン層の未婚率が低くなっている。とくにおいらせ町のＩターン層の既婚率が高いのは、第２章で詳述されているように、結婚や住み替えを契機に転入する層が多くみられることと関連していると推察される。

表６. おいらせ町 基本属性と婚姻状況のクロス表（%）

おいらせ町		未婚	既婚	N	χ^2検定（P）	Cramer'V
性別	男性	58.6	41.4	145	0.505	0.038
	女性	62.3	37.7	162		
年齢層	20代	88.5	11.5	130	0.000	0.507
	30代	38.6	61.4	166		
学歴	中・高・専門卒	57.5	42.5	186	0.329	0.058
	短大・大学・大学院卒	63.5	36.5	96		
雇用形態	正規雇用	59.9	40.1	202	0.009	0.169
	非正規雇用	82.1	17.9	39		
移動歴	ずっと地元	78.9	21.1	76	0.000	0.455
	Uターン	76.0	24.0	100		
	Ｉターン	31.6	68.4	114		

８－４．独身者の恋愛行動

次に、青森調査データにおける独身者[27]の恋愛行動（ｆ４：あなたには、現在、恋愛交際相手がいますか）について、確認する（表７）。むつ市では、「恋人がいる」（以下「恋人あり」と表記）24.3%、「今はいないが恋愛交際をしたことがある」（以下「恋人なし・恋愛経験あり」と表記）41.0%、「恋愛交際をしたことがない」（以下「恋愛経験なし」と表記）34.7%、おいらせ町では、「恋人あり」29.5%、「恋人なし・恋愛経験あり」44.3%、「恋愛経験なし」26.2%となっている。恋愛行動において、むつ市とおいらせ町で統計的に有意な差は確認されなかった。

表８は、むつ市の恋愛行動と、性別、年齢層、学歴、雇用形態、移動歴（居住歴）のクロス表（独身者のみ）である。移動歴で 1%水準、性別で 5%水準の有意差が確認された。

表７. むつ市とおいらせ町の恋愛行動（独身者のみ、%）

	恋人あり	恋人なし・恋愛経験あり	恋愛経験なし	N	χ^2検定
むつ市	24.3	41.0	34.7	173	n.s.
おいらせ町	29.5	44.3	26.2	183	
全体	27.0	42.7	30.3	356	

[27] 本章では、f2 で「結婚したことはない」と回答した者（初婚の未婚者）のみを「独身者」とし、「離婚・死別した」は含んでいない。

表８.むつ市 基本属性と恋愛行動のクロス表（%）

むつ市		恋人あり	恋人なし・恋愛経験あり	恋愛経験なし	N	χ^2検定(P)	Cramer'V
性別	男性	16.5	46.4	37.1	97	0.024	0.207
	女性	34.2	34.2	31.6	76		
年齢層	20代	28.6	32.7	38.8	98	0.101	0.168
	30代	20.0	49.2	30.8	65		
学歴	中・高・専門卒	24.3	36.4	39.3	107	0.051	0.194
	短大・大学・大学院卒	25.0	53.8	21.2	52		
雇用形態	正規雇用	29.1	43.7	27.2	103	0.054	0.214
	非正規雇用	16.0	32.0	52.0	25		
移動歴	ずっと地元	24.5	22.4	53.1	49	0.006	0.212
	Uターン	20.5	47.9	31.5	73		
	Ｉターン	31.7	48.8	19.5	41		

表９.おいらせ町 基本属性と恋愛行動のクロス表（%）

おいらせ町		恋人あり	恋人なし・恋愛経験あり	恋愛経験なし	N	χ^2検定(P)	Cramer'V
性別	男性	17.6	50.6	31.8	85	0.004	0.244
	女性	39.8	38.8	21.4	98		
年齢層	20代	30.4	37.4	32.2	115	0.025	0.204
	30代	27.4	56.5	16.1	62		
学歴	中・高・専門卒	26.7	45.7	27.6	105	0.499	0.092
	短大・大学・大学院卒	35.0	38.3	26.7	60		
雇用形態	正規雇用	34.5	43.7	21.8	119	0.325	0.122
	非正規雇用	21.9	46.9	31.3	32		
移動歴	ずっと地元	29.7	40.4	29.8	57	0.765	0.070
	Uターン	30.3	42.1	27.6	76		
	Ｉターン	25.0	52.8	22.2	36		

移動歴に関しては、Ｉターン層の「恋人あり」(31.7%）と「恋人なし・恋愛経験あり」(48.8%）の割合が最も高い。一方、ずっと地元層の「恋人あり」は、24.5%と先のＩターン層に次ぐ割合であるものの、半数以上（53.1%）が「恋愛経験なし」となっている。むつ市では、先の婚姻状況においても移動歴との関連があり、ずっと地元層の未婚率が高くなっていたが、それは恋愛経験のない層が多くみられることが影響していると推察される。第１章で、むつ市において「リラックスして付き合える関係の友人が多くいる」の肯定回答率が、ずっと地元層よりもＵターン層のほうが高くなっていたように、条件不利地域のむつ市では、移動歴のある者のほうが、友人数が多く、また恋愛経験を持つ者が多い傾向にあるようだ。轡田（2017）によれば、地元以外の地域で暮らした経験のある者のほうが人間関係の広がりを有しているという。それぞれのネットワークや移動経験者の前住地などを分析していくことが課題となる。

一方、性別については、「恋人あり」が男性 16.5%、女性 34.2%と、男性で恋人のいる割合がかなり低い。また、学歴、雇用形態では 10%水準の有意差がみられ、短大・大学・大学院卒、そして正規雇用のほうがのほうが、恋愛経験率（「恋人あり」+「恋人なし・恋愛経験あり」）が高くなっている。

表９は、おいらせ町の恋愛行動と、性別、年齢層、学歴、雇用形態、移動歴とのクロス表である（独身者のみ）。性別において１%水準、年齢層において５%水準の有意差が確認された。「恋人あり」の男性は 17.6%、女性は 39.8%で、女性の方が恋人のいる割合が高く、以下の年齢層よりも性別との関連が強い。20 代と 30 代の「恋人あり」の割合にはほとんど差がないものの、「恋人なし・恋愛経験あり」では 30 代が 20 代より 19. 1 ポイント高く、「恋愛経験なし」では、20 代が 16.1 ポイント高くなっている。女性の方が恋人のいる割合が高く、また年齢が高くなるにつれて恋愛経験が増えていくのは、都市部でもみられる傾向である（木村 2016）[28]。また、おいらせ町では、先のむつ市では関連がみられた学歴、雇用形態、移動歴の有意差は確認されなかった。

８－５．独身者の結婚観

次に、独身者の結婚観について検討する。まずむつ市とおいらせ町における結婚観 1（f3：あなたは結婚について、どのようにお考えですか）について、表 10 に示した。むつ市では、「理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてかまわない」(49.1%）が最も多く、次に「ある程度の年齢までに結婚するつもり」(40.5%)、「一生結婚するつもりがない」(10.4%）が続く。一方、おいらせ町では、「ある程度の年齢までに結婚するつもり」(46.5%）が最も多く、「理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてかまわない」は 43.8%、「一生結婚するつもりがない」は 9.7%となっている。ただし、むつ市、おいらせ町において統計的に有意な差はみられず、ともに「一生結婚するつもりはない」は、約 1 割とごく少数であり、「理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてかまわない」派と、「ある程度の年齢までに結婚するつもり」派に分かれている。

次に、この結婚観 1 と性別、年齢層、恋愛行動、移動歴との関連について確認する。表 11 は、むつ市のクロス表である。表にあるように、恋愛行動で 0.1%水準、移動歴で５%水準、年齢層で 10%水準の有意差がみられ、恋愛行動との関連が最も強くなっている。現在恋人のいる者の約７割が「ある程度の年齢までに結婚するつもり」であり、「恋人なし・経験あり」と「恋愛経験なし」では、「理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてかまわない」が５割強となっている。また、「恋愛経験なし」の 18.6%が「一生結婚するつもりはない」と回答しており、他に比べて高い。移動歴別にみると、Ｉターン層は「ある程度の年齢までに結婚するつもり」(52.4%)、Ｕターン層は「理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてかまわない」(57.6%)、ずっと地元の層は「ある程度の年齢までに結婚するつもり」と「理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてかまわない」が 39.6%であるが、「一生結婚するつもりはない」は 20.8%となっている。むつ市では、先の婚姻状況と恋愛行動と同じように、こうした結婚観１にも移動歴が影響を与えていることがわかる。

---

[28]地域別、かつ 20 代の前半と後半の層に分けてみると、むつ市の 20 代前半では、恋人あり 30.4%、恋人なし・恋愛経験あり 25.0%、恋愛経験なし 44.6%、20 代後半では、同 26.2%、42.9%、31.0%、おいらせ町の 20 代前半では、恋人あり 32.0%、恋人なし・経験あり 32.0%、恋愛経験なし 36.0%、20 代後半では、同 29.2%、41.5%、29.2%となる。参考までに青少年研究会の調査による都市部（東京都杉並区・神戸市灘・東灘区）の恋愛行動（2012 年）を示しておくと、20 代前半で恋人あり 41.2%、恋人なし・恋愛経験なし 32.0%、恋愛経験なし 26.8%、20 代後半で同 48.5%、39.0%、12.5%であった（木村 2016)。大まかな傾向として都市部のほうが、恋愛未経率が低いといえるだろう。

表 10. むつ市とおいらせ町の結婚観１（%）

	ある程度の年齢までに結婚するつもり	理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてかまわない	一生結婚するつもりはない	N	χ^2検定
むつ市	40.5	49.1	10.4	173	n.s.
おいらせ町	46.5	43.8	9.7	185	
全体	43.6	46.4	10.1	358	

表 11. むつ市 性別、年齢層、恋愛行動、移動歴と結婚観１のクロス表（%）

むつ市		ある程度の年齢までに結婚するつもり	理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてかまわない	一生結婚するつもりはない	N	χ^2検定 (P)	Cramer'V
性別	男性	39.2	53.6	7.2	97	0.207	0.135
	女性	42.1	43.4	14.5	76		
年齢層	20代	47.5	43.4	9.1	99	0.078	0.177
	30代	29.7	57.8	12.5	64		
恋愛行動	恋人あり	69.0	26.2	4.8	42	0.000	0.266
	恋人なし・恋愛経験あり	38.0	54.9	7.0	71		
	恋愛経験なし	23.7	57.6	18.6	59		
移動歴	ずっと地元	39.6	39.6	20.8	48	0.031	0.181
	Uターン	34.2	57.5	8.2	73		
	Ｉターン	52.4	42.9	4.8	42		

表 12. おいらせ町 性別、年齢層、恋愛行動、移動歴と結婚観１のクロス表（%）

おいらせ町		ある程度の年齢までに結婚するつもり	理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてかまわない	一生結婚するつもりはない	N	χ^2検定 (P)	Cramer'V
性別	男性	40.0	50.6	9.4	85	0.212	0.129
	女性	52.0	38.0	10.0	100		
年齢層	20代	50.4	40.0	9.6	115	0.351	0.108
	30代	39.7	50.8	9.5	63		
恋愛行動	恋人あり	75.9	24.1	0.0	54	0.000	0.324
	恋人なし・恋愛経験あり	40.7	51.9	7.4	81		
	恋愛経験なし	22.9	54.2	22.9	48		
移動歴	ずっと地元	45.8	44.1	10.2	59	0.403	0.108
	Uターン	43.4	47.4	9.2	76		
	Ｉターン	47.4	27.8	13.9	36		

表 12 は、おいらせ町の結婚観１と、性別、年齢層、恋愛行動、移動歴とのクロス表である。おいらせ町では、恋愛行動のみに 0.1%水準の有意差が確認された。現在恋人のいる者の７割強が「ある程度の年齢までに結婚するつもり」と回答しており、「恋人なし・経験あり」と「恋愛経験なし」では、「理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてかまわない」が５割程度となっている。「一生結婚するつもりはない」という回答は、現在恋人のいる者にはみられないが、「恋愛経験なし」では 22.4%となっている。

次に、結婚観２と家族形成に関する将来展望の地域差についても簡単に確認しておこう（表 13)。結婚観２とは、「あなたは、ご自身と親しい人との関係について、どのように感じていますか」と尋ねた q12 の f :「今後、(配偶者がいない場合）結婚できないのではないかとか、(既婚の場合）結婚生活を続けられないのではないかと、心配しなくていいと思う[29]」、家族形成に関する将来展望とは、同じ q12 の g:「20 年後、子育てを経験し、自分を大切に思ってくれる人（配偶者・恋人等）と暮らしていると思う」であり、本章では独身者のみの回答を取り出している。両項目ともに、むつ市とおいらせ町に統計的な差はみられなかった。結婚観２の「結婚できないのではないかという心配」のいらない者（肯定回答率）は、むつ市では 32.9%、おいらせ町では 40.4%に過ぎず、将来の結婚に悲観的な者が半数以上を占めている。将来展望の「20 年後、子育てを経験し、大切に思ってくれる人（配偶者・恋人等）と暮らしていると思う」の肯定回答率は、むつ市 49.4%、おいらせ町 54.１%であり、先の結婚観２に比べるとやや高くなっているものの、半数程度である。先の２節で確認したように青森県では未婚化が進行しているが、独身者の結婚や家族形成に関する意識も、明るいものではないようだ。

表 13. むつ市とおいらせ町における結婚観２・将来展望（独身者のみ、%）

		むつ市	おいらせ町	全体	χ^2検定
今後、結婚できないのではないかと心配しなくていい（結婚観２）	そう思う	32.9	40.4	36.8	n.s.
	そう思わない	67.1	59.6	63.2	
N		170	183	353	
20年後、子育てを経験し、自分を必要とし大切に思ってくれる人（配偶者・恋人等）と暮らしていると思う（将来展望）	そう思う	49.4	54.1	51.8	n.s.
	そう思わない	50.6	45.9	48.2	
N		172	183	355	

８－６．独身者の人間関係満足度

本節では、独身者の人間関係に対する満足度と地域差の関連について確認する。人間関係の満足度としては、q12d:「友人関係に満足している」、q12c:「血縁以外に自分を必要とし大切に思ってくれる人（配偶者・恋人等）がいて、その関係に満足している」、q12b :「親との関係に満足している」をみていく。なお、本節でも独身者のみを分析対象としている。表 14 には、むつ市、おいらせ町ごとに、友人、恋人、親との関係の満足度との関連を示した。これら人間関係の満足度では、むつ市とおいらせ町に有意な差はみられなかった。両地域ともに「親との関係」では約８割、「友人関係」では、７割弱から７割強の肯定回答率となっており、満足度が高い。一方、「血縁以外に自分を必要とし大切に思ってくれる人（恋人等)」との関係に対する満足度は、むつ市 36.7%、おいらせ町 42.5%と、先の親や友人関係の満足度に比べると低くなっている。ただ、先の表７で確認したように、恋人がいる割合は、むつ市 24.３%、

[29] q12f は、二重否定を含んでおり、質問内容が分かりづらくなっているため、今後の調査では改善を要する。

おいらせ町 29.5%となっていたことから、この満足度も当然の結果として捉えることができる。また、既婚者における配偶者などの「血縁以外に自分を必要とし大切に思ってくれる人」に対する満足度は、むつ市では 88.0%、おいらせ町では 88.3%、全体 88.1%と非常に高くなっている（χ^2検定は非有意）。

表 14. むつ市とおいらせ町における人間関係満足度（独身者のみ、%）

		むつ市	おいらせ町	全体	χ^2検定
友人関係に満足している	そう思う	73.8	77.0	75.5	n.s.
	そう思わない	26.2	23.0	24.5	
N		172	183	355	
自分を必要とし大切に思ってくれる人（恋人等）がいて、その関係に満足している	そう思う	36.7	42.5	39.7	n.s.
	そう思わない	63.3	57.5	60.3	
N		169	181	350	
親との関係に満足している	そう思う	77.9	80.9	79.4	n.s.
	そう思わない	22.1	19.1	20.6	
N		172	183	355	

８－７．おわりに

本章では、むつ市とおいらせ町の未婚率（f2）と、独身者の恋愛行動（f4)、結婚観（f3、q12f・g)、人間関係満足度（q12b・c・d）について、検討してきた。条件不利地域圏であるむつ市と地方中枢拠点都市圏であるおいらせ町では、婚姻状況（表２)、恋愛行動（表７)、結婚観１（表 10)、結婚観２・家族形成に関する将来展望（表 13)、人間関係満足度（表 14）に関する明らかな違いはみられなかった。

ただし、むつ市の恋愛行動では、移動歴との関連があり、ずっと地元に住んでいる層の半数以上が恋愛交際未経験となっていた。おいらせ町ではこのような関連はみられなかった。また、結婚観１では、むつ市とおいらせ町ともに、現在恋人と交際中の者ほど「ある程度の年齢までに結婚するつもり」と回答する割合が高くなっていたが、むつ市では、この結婚観でも移動歴との関連がみられた。むつ市のＩターン層の半数以上が「ある程度の年齢までに結婚するつもり」と回答しているのに対し、ずっと地元の層では約４割ほどである。さらに、ずっと地元の層では「一生結婚するつもりがない」の肯定回答率が２割となっていた。おいらせ町では、やはり移動歴との関連は確認されなかった。他方で、婚姻状況においては、むつ市だけでなくおいらせ町でも、移動歴との関連があり、両地域ともにずっと地元層の未婚率が最も高く、次にＵターン層、そしてＩターン層の順となっている。移動歴別のネットワークや移動経験者の前住地や職業など、より詳細な分析が必要となるだろう。また、本章では、むつ市とおいらせ町の比較を優先したため、恋愛行動や婚姻状況に関して性別ごとの分析を十分に行うことができていない。３節で確認した国勢調査データとのずれに留意しながら今後の課題としたい。

文献

木村絵里子, 2016, 「『情熱』から『関係性』を重視する恋愛へ――1992年、2002年、2012年調査の比較から」藤村正之・浅野智彦・羽渕一代編『現代若者の幸福――不安感社会を生きる』恒星社厚生閣: 119-150.

国立社会保障・人口問題研究所, 2018,「人口統計資料集（2018年版)」.

工藤 豪, 2011,「結婚動向の地域性――未婚化・晩婚化からの接近」『人口問題研究』67-4：3-21.

轡田竜蔵, 2015,『公益財団法人マツダ財団委託研究「広島 20-30 代住民意識調査」報告書（統計分析篇)』公益財団法人マツダ財団.

――――, 2017,『地方暮らしの幸福と若者』勁草書房.

南 拓磨, 2017,「都道府県別未婚率の地域差――未婚率の地域差はなぜ縮小したのか」『経済学研究論集』46：65-81.

総務省統計局, 2017,「平成 27 年国勢調査　世帯構造等基本集計　02 青森県」.

第９章　家族・人間関係について

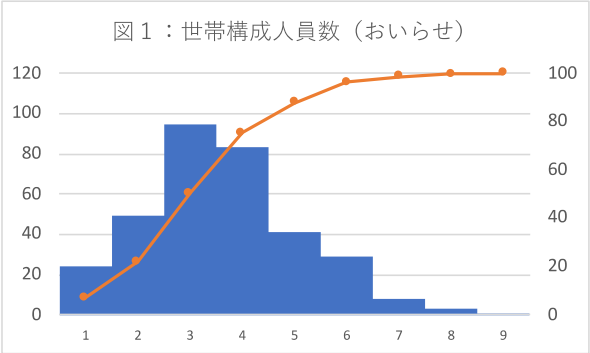
永田夏来（兵庫教育大学）

９－０．はじめに

本章では家族に関連する調査項目（問12、F2、F5、F6、F24）の中から世帯構成と既婚者の状況を中心にF2、F5、F6を用いた検討を行う。

９－１．むつ・おいらせにおける世帯構成の特徴

まずは世帯構成人員数からみていこう。利用する変数は「F5：現在あなたは何人暮らしですか。数字でお答えください。（同じ世帯を構成する人数）」である。世帯構成人員数は同居している家族の規模を示しており、これが多ければいわゆる「大家族」となり、３−４人ならば「核家族」、１人ならば「独り住まい」との見取り図を得ることができる（なお、今回調査は若者を対象としているので高齢単独世帯について考慮する必要はない）。おいらせ・むつの世帯構成について、図１、図２に世帯構成人員数を棒グラフで、累積パーセントを折れ線グラフで示した。



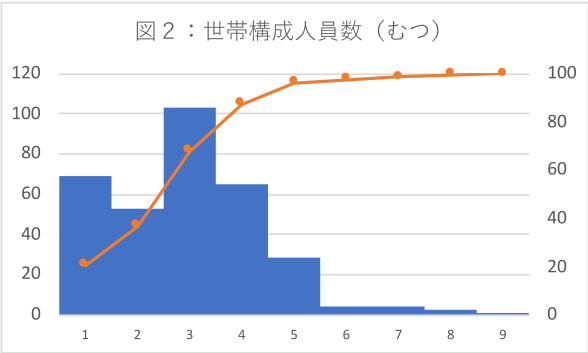
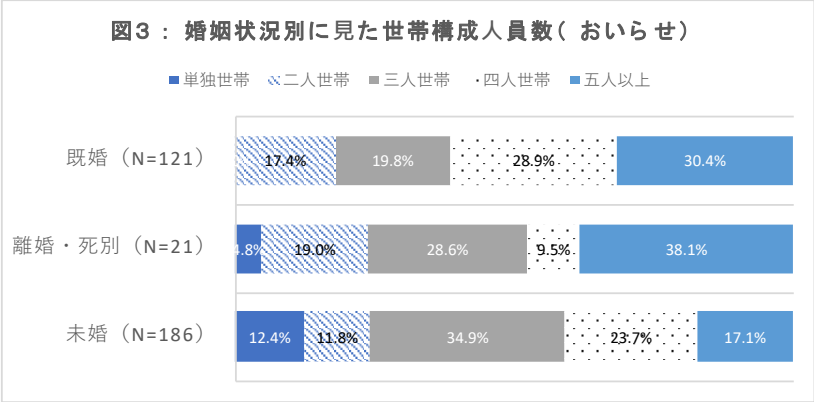


図１・図２にあるように、おいらせとむつにおいて最も多いのは３人世帯だが、おいらせでは４人世帯、むつでは単独世帯が２番目に多くなっている。特に、むつにおいては単独世帯が４人世帯を上回っていて、おいらせに比べてかなり「独り住まい」が多いとの特殊な状況が見えてくる。若者を対象にした本調査において、３ー４人で構成される「核家族」世帯とは１）回答者が夫婦と小さな子供からなる「子育て世帯」２）大人になった回答者とその両親からなる「親同居未婚者世帯」の二つの可能性があるだろう。この点について、次項で確認してく必要がある。また、おいらせでは５人以上からなる「大家族」が２割以上程度みられる一方、むつでは全体の８割以上が４人世帯までにおさまっている点も押さえておきたい。まとめると、おいらせとむつ両方で最も見られるのは「核家族」世帯であること、また、おいらせは「大家族」が多くむつは「独り住まい」が多いとの特徴があると言えそうだ。

９－２．世帯構成人員数と婚姻経験

今回調査では婚姻状況について「 F2：現在、あなたは結婚されていますか」で尋ねている。おいらせの婚姻状況は、男性（n=154）で「結婚している」39.0%「離婚・死別した」5.8%「結婚したことはない」55.2%、女性（n=174）は「結婚している」35.1%、「離婚・死別した」6.9%、「結婚したことはない」58.0%となっていて結婚経験を持たないものが最も多い。むつも同様に男性（n=181）で「結婚している」40.9%「離婚・死別した」5.5%「結婚したことはない」53.6%、女性（n=148）で「結婚している」39.9%

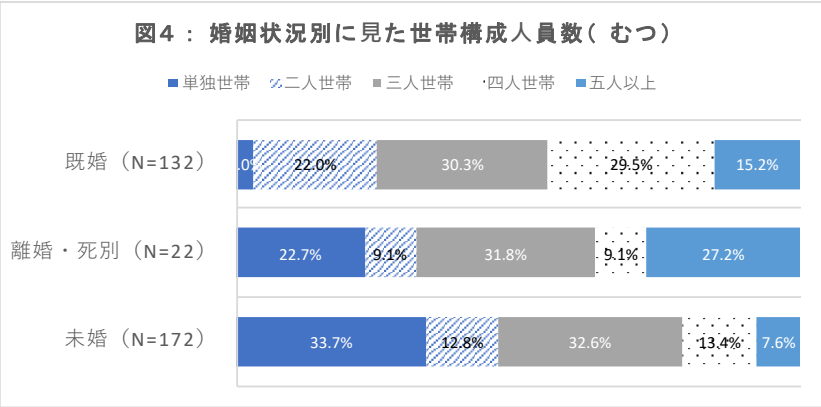


「離婚・死別した」8.1%「結婚したことはない」52.0%と結婚経験を持たないものが最も多い結果となった。

これらの結果を世帯構成人員数と検討した結果が図３、図４である。おいらせにおいては既婚、離死別に「大家族」が多く、五人以上世帯にすむ既婚者は30.4%、離死別は38.1%となった。結婚経験を持つもの（子供を持っていると想像される）の多くは親と同居している可能性が示唆されたといえる。未婚者は３人世帯が34.9%と最も多いが、1割以上の「独り住まい」を含め、様々な規模の世帯で暮らしていることがわかる。むつにおいては、５人以上の「大家族」で生活する既婚者は15.2%、離死別は27.2%となっており、おいらせと比べて既婚者世帯で15ポイント、離死別10ポイント程度、それぞれ少なくなっている。未婚者は「独り住まい」が最も多く33.7%となっており、おいらせを20ポイント以上上回った。５人以上の「大家族」は7.6%となっており、おいらせに比べて10ポイントほど少なくなっている。

国勢調査によれば、青森県における単独世帯および二人世帯は平成７年（1995年）調査から平成27年（2015年）までの間で増加傾向にあり、逆に４人以上の世帯は減少傾向にあることが指摘されている。この傾向は一般には高齢化の影響（お年寄りの「独り住まい」や「夫婦暮らし」が増加した結果）とみなされることが多い。青森県の場合、女性の単独世帯については高齢化の影響として理解できるが、男性の単独世帯では20～24　歳が26.4%と高くなっている点が他県とは異なる特徴としてしばしば言及されるところである（青森県企画政策部統計分析課,2017:p7)。

本調査では男性の未婚単独世帯は無配偶（「結婚したことはない」と回答したもの）のうち、おいらせ（n=94）が14.9%、むつ（n=107）が40.2%となった。20歳代だけを取り出したわけではないので厳密な比較はできないが、むつの無配偶男性における単独世帯が多くなっている点に留意が必要だ。未婚者の分析は次章に譲るとして、本項では「結婚している」とした有配偶者の同居状況について概観しておきたい。



９－３．有配偶者における親との同居状況

「結婚している」と回答した有配偶者の同居状況はむつ・おいらせでどのようになっているのか、以下で見ていく。使用した変数は「F6A：A自分の父親　F6B：B　自分の母親　F6C：C　配偶者（事実婚、婚約者を含む）　F6D：D　配偶者の父親　F6E：E　配偶者の母親　F6F：F　自分の子ども（長子)」である。ただしこのデータは統計的に有意であることが確認できなかったため、参考程度のものである。

まず配偶者との同居状況について見ておこう。おいらせにおける有配偶男性（n=60）のうち96.7%、有配偶女性（n=61）のうち93.4%が配偶者と同居しているとしている。むつも同様に、有配偶男性（n=73）のうち91.8%、有配偶女性（n=57）のうち89.5%から配偶者と同居しているとの回答を得た。「１時間以内に行ける場所に住んでいる」という近居、「日帰りできる場所に住んでいる」「日帰りできない場所に住んでいる」という別居が男女ともにわずかながら存在しているが、基本的には配偶者と同居している者が多数派と見て良いだろう。

次に長子との同居について見ておく。おいらせに住む有配偶男性（n=59）のうち最も多かったのが「長子と同居している」の74.6%であり、ついで多いのが「該当する者がいない（＝子供がいない)」の22.0%であった。有配偶女性（n=61）も同様で「長子と同居している」が78.7%と最も多く、「該当する者がいない（＝子供がいない)」が19.7%で２番目に多い結果となっている。むつにおいては、有配偶男性（n=73）のうち最も多かったのが「長子と同居している」の69.9%であり、ついで多いのが「該当する者がいない（＝子供がいない)」の21.9% であった。有配偶女性（n=59）も同様で「長子と同居している」が69.5%と最も多く、「該当する者がいない（＝子供がいない)」が30.5%で２番目に多い。なお、むつの有配偶男

性において、子供と別居および近居が8.2%となっている。

まとめると、おいらせ・むつ共に基本的には配偶者と同居、子供と同居のパターンが最も多い。細かくデータを見ていくと、おいらせ、むつ共に男性よりも女性に別居・近居が多く、男女ともにおいらせよりもむつに別居・近居が多い。これらを総合すると、むつに住む有配偶者には夫が単身赴任をしている者が多いという可能性を考えることができるかもしれないが、有意差が確認できないので可能性の言及にとどめておく。また、若者を対象にした調査であるため子供がいないケースが一定数いる様子も見えた。

続いて、親との同居状況である。表１から表４で「自分の父親」「自分の母親」「配偶者の父親」「配偶者の母親」との同居について示した。

青森県に住む30-34歳の親との同居状況を国勢調査でみてみると、既婚男性では平成21年（2009年）12.0%が平成27年（2015年）には10.0%、既婚女性では平成21年（2009年）12.8%が平成27年（2015年）には10.8%とわずかながら減少傾向が見られているものの、およそ１割程度であることがわかっている（青森県企画政策部統計分析課,2017）。今回調査とは対象年齢がややずれるため厳密に比べることはできないが、おいらせにおいては「自分の父親／母親と同居している」とした者が男性で15-17%、「配偶者の父親／母親と同居している」とした者が女性で15%程度いることから、夫の親と同居する夫方居住が青森県全体に比べて強い傾向にある可能性が示唆されている。むつにおいては「自分の父親／母親と同居している」としたものは１割程度で青森県全体の水準と合致している。しかし父親と同居する娘がやや少ない結果となった。「自分の父親」「自分の母親」で数値が異なっている点については、配偶者と死別・離別した親が子と同居する途中同居の影響が考えられるだろう。「配偶者の父親／母親と同居している」はおいらせ同様女性に多く、夫方居住の様子を示唆している可能性がある。また、おいらせ、むつにおいて男女ともに最も多いのは「１時間以内」の近居となった。

表１：自分の父親との同別居（有配偶）

	おいらせ		むつ	
	男性（n=60）	女性（n=60）	男性（n=74）	女性（n=58）
同居	15.0%	5.0%	10.8%	3.4%
近居（１時間以内）	**45.0%**	**43.3%**	**43.2%**	**41.4%**
別居（日帰り可能）	8.3%	13.3%	10.8%	10.3%
別居（日帰り不可能）	13.3%	16.7%	14.9%	25.9%
その他	18.3%	21.7%	20.3%	18.9%

表２：自分の母親との同別居（有配偶）

	おいらせ		むつ	
	男性（n=60）	女性（n=60）	男性（n=74）	女性（n=58）
同居	16.7%	11.7%	10.8%	12.1%
近居（１時間以内）	**51.7%**	**56.7%**	**52.7%**	**51.7%**
別居（日帰り可能）	15.0%	13.3%	14.9%	17.2%
別居（日帰り不可能）	13.3%	11.7%	14.9%	15.5%
その他	3.4%	6.7%	6.8%	3.4%

表３：配偶者の父親との同別居（有配偶）

	おいらせ		むつ	
	男性（n=59）	女性（n=60）	男性（n=73）	女性（n=58）
同居	0.0%	15.0%	1.4%	6.9%
近居（１時間以内）	**50.8%**	**45.0%**	**46.6%**	**43.1%**
別居（日帰り可能）	20.3%	8.3%	28.8%	10.3%
別居（日帰り不可能）	15.3%	8.3%	11.0%	13.8%
その他	13.6%	23.3%	12.4%	26.2%

表４：配偶者の母親との同別居（有配偶）

	おいらせ		むつ	
	男性（n=59）	女性（n=60）	男性（n=73）	女性（n=58）
同居	1.7%	15.0%	2.7%	8.6%
近居（１時間以内）	**61.0%**	**51.7%**	**50.7%**	**46.6%**
別居（日帰り可能）	18.6%	11.7%	30.1%	13.8%
別居（日帰り不可能）	11.9%	8.3%	8.2%	17.2%
その他	6.8%	13.3%	8.2%	13.8%

大和礼子は「父のみ」および「父母」からなる「父を含む同居」において、夫方居住は拡大家族の伝統がある地域に見られること、妻方居住は妻がフルタイムで勤務しているなどで親からの支援が必要とされている場合に見られることを指摘している。これに対し、「母のみ」の同居は、母親が無配偶であるなど、親の方が援助を必要としている場合が多いと大和は言う（大和,2018)。西南日本は核家族が多いが東日本は直系家族を背景に「大家族」が生じやすい状況と合わせて考えれば（小島,1997)、夫方であれ妻方であれ、親からの援助がなくては生活が成り立たない状況が若者世代の同居の背景にあり、直系家族の残滓と共に親の権威が保たれやすくなる可能性があるかもしれない。この視点からの分析が今後必要となっていくだろう。また、大和によれば、夫側親との近居の理由は同居とそれほど違いがないが、妻側親との近居は子供側の収入よりも育児などの支援のニーズによるという。子育て世代を対象とした本調査においても、おいらせ、むつ共に「配偶者の親」との近居は男性に多く「自分の母親」との近居は女性に多かった。これらのことから、近居の背景として妻側の育児ニーズがあることが推察されると言える。

文献

青森県企画政策部統計分析課,2017,『平成27年国勢調査世帯構造等基本集計 青森県集計結果の概要』
小島克久,1997,「我が国の世帯構造の地域差-都道府県別データを用いた分析:1980-1995-」『人口学研究』21日本人口学学会
大和礼子,2017,『オトナ親子の同居・近居・援助:夫婦の個人化と性別分業の間』学文社

第10章　SNS利用と地元ネットワークの維持

羽渕一代（弘前大学）

モバイルメディアの研究において、とくにケータイは親しい友人関係や家族といった親密性のネットワーク保持に利用されているということが報告されてきた（岡田・松田・羽渕 2001, 中村 2001, 辻 2008, 阪口 2016など）。ケータイ技術の様相も1990年代後半の携帯電話の爆発的普及、インターネットとの接続可能技術の普及、スマートフォンの2010年代の急速普及と目まぐるしいものがある。このようなケータイによるコミュニケーションもそれぞれの時代でアプリケーション利用が異なる。現在では、電話やメールといったコミュニケーションではなく、お手軽なSNSによるコミュニケーションが常態化している。

SNSの利用に関しては国内外を問わず多くの実証的研究がおこなわれているが、SNSが物理的距離を超えた親密性の保持にどの程度役立っているのか、という点については質的研究がみられる（Sample 2014など）。たとえば、育児中の母親がSNSを利用して別の場所にいる友人とのやりとりをおこなうことで育児ストレスから解放される効果の事例がある（天笠、2016）。物理的距離は個人の生活状況に規定され遠近に関わらずコミュニケーションの障壁となっているが、ケータイのSNSはその障壁を取り除く機能がある。このようなSNSが物理的距離を超えて人々のコミュニケーションを促進し、親密性の保持に役立てているのかどうか、質的研究は蓄積されてきているが量的研究による検証が充分におこなわれているわけではない。ここでは、SNSの利用と親密な人間関係の物理的距離とに注目して、分析をおこなっていきたい。

まず、むつ市で92.3%、おいらせ町で90.0%のSNS利用率であった。SNS利用の内訳は表1に示した。おおむね、LINEの利用が9割前後であり、最もポピュラーなメディアである。次にFacebookとtwitterの利用が30%台となっている。両地域とも、SNSの利用に差があるとはいえないだろう。このSNSの機能について簡単に特徴を説明するならば、LINEはパーソナルメディアとしての機能に特化しており、メールや電話の延長上にある。いっぽうで、Twitterはマスコミュニケーション機能に特化している。Facebookはその中間的な利用が可能なメディアである。

表1　SNSの利用

	むつ市	おいらせ町
LINE	90.2	86.9
Facebook	38.7	36.8
twitter	39.3	35.9
mixi	5.1	4.0
N	336	329

このようなメディアのアーキテクチャの相違は、マッチングの良い親密な人間関係が異なると考えられるし、またコミュニケーションの目的も異なるかもしれない。たとえば、小笠原（2016）は、この3つのSNSの社会争点知識と共有ニュース接触との関連を分析している。LINEのように強い紐帯のコミュニケーションを強化するメディアでは、社会争点知識の減少と使用頻度が関連するという結果であった。LINEの利用は、人々のあいだの社会争点知識の格差を拡大させる可能性が示されている。

強い紐帯は、家族関係、恋愛関係、親友といった地縁や血縁、学校縁や職業縁の上に選択縁が重なるような縁の重層に支えられている。本報告では、とくに地縁にもとづいて形成された「地元の友だち」とのコミュニケーションを支えているのかどうか、確認していこう。表1は、利用しているSNSの種類別にみた地元の友だちとのSNSでのやりとりの頻度である。地元の友だちと毎日SNSでやりとりをしていると回答する率は3割程度となっている。

表2　地元の友だちとのSNSのやりとり（頻度）

		毎日やりとりがある	月に一度以上、やりとりがある	半年に一度以上、やりとりがある	年に一度以上、やりとりがある	連絡をとったりおしゃべりしたりすることはない	N
むつ	LINE	27.9	41.5	13.6	8.5	8.5	294
	Facebook	26.2	50.0	10.8	5.4	7.7	130
	Twitter	28.2	43.5	9.9	8.4	9.9	131
	mixi	23.5	64.7	5.9	0.0	5.9	17
おいらせ	LINE	29.6	42.3	10.2	6.9	10.9	274
	Facebook	32.8	44.5	11.8	4.2	6.7	119
	Twitter	35.3	41.4	6.9	3.4	12.9	116
	mixi	15.4	61.5	7.7	0.0	15.4	13

①地元の友だちとSNSでやりとりする人は誰か

地元の友だちとSNSでやりとりをおこなうかどうかについて、基本的属性による差を確認したが、年齢、性別、年収、結婚の有無、家族同居、引越経験に相関はみられなかった。いっぽう、地元居住かどうかとSNSによる地元の友だちとのやり取りについて関連が確認できた。地元に居住している人のほうが、SNSで地元の友だちとのやりとりをおこなっているということがわかった（表3）。この結果は、これまでモバイルメディア研究で報告されてきたように、地理的にも心理的にも身近な人間関係のなかでケータイが利用されているということの延長にある。SNSもモバイルメディアの利用と同様に人間関係を拡大していくメディアではない。その意味は心理的のみならず、地理的な意味でもネットワークの拡大は確認できない。つまりSNSには既存の人間関係のコミュニケーションを活発化させる機能があり、ネットワークの地理的拡大という機能はそれほど顕著なものではない。

さらにいえば、その地元の人間関係のなかに「リラックスしてつきあえる関係の友人が多くいるかどうか」という点も関連している（表4）。

上記のような結果から、まずSNSは地元に居住しているひとのほうが流入者よりも地元の友だちとの利用頻度が高いということがわかった。地理的な距離などにより、地理的距離をSNSの連絡ツールで補完するというわけではない。また、地元の友だちとの親密性の質が地元の友だちとSNSで頻繁にやりとりするのかということに関わっている。

表3　地元居住とSNSの地元の友だちとのやりとり

		毎日やりとりがある	月に一度以上、やりとりがある	半年に一度以上、やりとりがある	年に一度以上、やりとりがある	連絡をとったりおしゃべりしたりすることはない	N
むつ＊	地元でない	20.8	35.4	21.9	12.5	9.4	96
	地元である	30.3	44.8	9.5	6.0	9.5	201
おいらせ＊	地元でない	26.9	37.5	9.6	12.5	13.5	104
	地元である	30.8	43.0	10.5	3.5	12.2	172

χ2検定：＊＝p<.01

表4　リラックスしてつきあえる関係の地元友人の有無とSNSの地元の友だちとのやりとり

		毎日やりとりがある	月に一度以上、やりとりがある	半年に一度以上、やりとりがある	年に一度以上、やりとりがある	連絡をとったりおしゃべりしたりすることはない	N
むつ*	そう思う	36.2	43.0	12.1	3.4	5.4	149
	そうではないと思う	18.7	40.7	14.7	12.7	13.3	150
おいらせ	そう思う	35.5	42.8	8.0	5.1	8.7	138
	そうではないと思う	23.2	39.1	12.3	8.7	16.7	138

χ2検定：*＝p<.01

②利用するSNSと地元の友人関係

利用するSNSの種類と地元の友人とのコミュニケーションの頻度には目立った関連はみられなかった。それでは、使用するSNSの種類と人間関係やその意識、人間関係や生活に対する満足度などとはどのような関係にあるのか確認しておこう。まずどのようなSNSも本調査では親子関係と友人関係の満足度に関して相関はみられなかった。また居住している地域での交流への関心も関連しなかった。いっぽう、LINE、Facebook、Twitterのそれぞれの利用と人間関係や生活満足度などに相関がみられた。以下、LINE、Facebook、Twitterの順番で確認をおこなっていこう。

まず、LINEについて確認していこう。LINEの利用者が回答者の約9割を占めており、LINEを利用しない回答者はマイノリティであるといえる。LINEの利用の有無と「自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う」かどうか相関があった（χ2検定：p<.05）。LINE利用者は非利用者と比較して、異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられているという感覚をもつようである。友人関係満足度については、相関がみとめられたが（χ2検定：p<.01）、むつ市では有意な差がみられなかった。

また生活満足度とも弱い相関ではあるが、利用者のほうが非利用者と比較して生活満足度が高いという結果となった。生活に満足しているかという質問に対して、「全くそう思う」から「全くそう思わない」までの4件にLINE非利用者の回答が均等に散らばっている。LINE利用者は生活に満足しているかどうかの質問に対して「全くそう思う」と「そう思う」をあわせると6割を超えている。

次にFacebookの利用と人間関係や生活満足度に関して確認していこう。Facebookの利用はLINE利用と比較すると低率であり、世界的にみても日本人の利用率は低い。本調査では、Facebookのイメージからすればやや意外な結果が得られた。Facebook利用の有無と「自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う」かどうかとの相関は認められる（χ2検定：p<.001）もののむつ市では有意な差はみられなかった。いっぽうで、「自分と近い仲間たちと交流する機会に恵まれ、深い絆を築けていると思う」かどうかとの相関がみとめられた（χ2検定：p<.05）。Facebook利用者は、非利用者と比較して「自分と近い仲間たちと交流する機会に恵まれ、深い絆を築けていると思う」傾向がある。

生活満足度についても弱い相関であった（χ2検定：p<.01）。Facebook利用者は生活満足度が高い。特徴的であったのは、Facebook利用者は非利用者と比較して「自分の将来に明るい希望をもっている」点である（χ2検定：p<.05）。これは次に確認するTwitter利用者とは異なる傾向であった。

Twitterの利用は、先にみたLINEやFacebookの利用とは異なる傾向が確認できた。おいらせ町では相関を確認することができないが、むつ市では人間関係との相関を確認することができた。まず生活満足度との関連については有意な差はみられなかった。しかし「総合的に見て、自分の現状に満足している」かどうかという項目と有意な相関がみられた（χ2検定：p<.05）。Twitterの利用者は非利用者と比較して、自分の現状に満足していないという結果であった。おそらくこのような傾向とか関わり、幸福感、自分の将来へに明るい希望をもっているかどうかという点についても関連がみられた。弱い相関ではあるが、Twitterの利用者は非利用者と比較して、「自分は幸せだ」と思わないという傾向がみられた（χ2検定：p<.05）。Twitter利用者は非利用者と比較して「自分の将来に明るい希望をもって」いないという結果であった（χ2検定：p<.05）。

以上の結果から、SNSは普及初期のケータイ研究で明らかになった利用行動の特徴と同様の傾向を有していることがわかった。つまり心理的にも物理的にも近い距離にある人間関係においてSNSは利用されている。さらに利用するSNSの種類によって人間関係や生活に関する意識が異なることも明らかになった。

LINEやFacebookの利用者は自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられている

という意識をもっており、生活満足度も比較的高いようである。とくにFacebook利用者は自分の将来に明るい希望をもっていると回答している。反対にTwitter利用者は自分の現状に満足していないようであり、自分の将来に明るい希望を持っていないという傾向があった。

SNSの種類によって異なる意識がみられるのであれば、SNSと一口で表現しても、何をイメージするのかによってまったくばらばらな回答が得られてしまうということがこの結果からわかる。これはメディアの機能がSNSの種類によって異なり、目的の異なったコミュニケーションをおこなっているということを示している。

今回、非常に面白い結果であったのは、LINEとFacebookの利用を比較するならば、LINEのほうが身近なネットワークに特化したコミュニケーション機能をもち、Facebookが身近ではない世界とのコミュニケーションを促進する機能をもつというイメージをもたれているが、必ずしもそうではないメディア特性をもつということにある。SNSはその機能によって使用目的が異なる。ローカリティを超えてSNSを利用することはなかなか難しいのかもしれない。今回調査では、Twitterが完全ではないにしろ比較的匿名性が高いことや広く意見や感想をつぶやくことが可能であるがゆえに、ローカリティを超えて使用されるSNSではないかと思われる。さらに幸福感や将来の展望にポジティブでない意識をもつことと弱い相関がみられることから、ローカルな関係性における不満感がネット空間へと駆り立てているのではないだろうか。これは90年代初期にみられたメールの利用感覚、テレコクーンの状況と似ている(Habuchi, 2005)。ローカルな環境への不適応がネット空間の新しい人間関係の形成可能性にSNSを使用するならば、それはトランスローカリティの要素であるだろう。

参考文献

天笠邦一、2016「子育て空間におけるつながりとメディア利用—社会的想像力の換気装置としてのスマートフォン」富田英典編『ポスト・モバイル社会—セカンドオフラインの時代へ』世界思想社

Habuchi, I., 2005. Accelerating Reflexivity, Ito, M., Okabe, D. and Matsuda, M. (eds.) *Perspmal, Portable, Pedestrian: Mobile Phones in Japanese Life*, MIT Press.

中村功、2001「携帯メールの人間関係」東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動2000』東京大学出版会

小笠原盛浩、2016「ソーシャルメディアで共有されるニュース—シェアやリツイートは社会の分断を招くのか」富田英典編『ポスト・モバイル社会—セカンドオフラインの時代へ』世界思想社

岡田朋之・松田美佐・羽渕一代、2000「移動電話利用におけるメディア特性と対人関係—大学生を対象とした調査事例より—」『平成11年度　情報通信学会年報』情報通信学会

阪口祐介、　2016「若者におけるメディアと生活の相関系の変容—2002年と2012年の時点間比較」藤村正之・浅野智彦・羽渕一代編『現代若者の幸福—不安感社会を生きる』恒星社厚生閣

Sample, M., 2014, Location Is Not Compelling (Until It Is Haunted), Farman, J. (eds.) *THE MOBILE STORY: Narrative Practices Locative Technologies*, Routledge.

辻大介、2008「若者のコミュニケーションの変容と新しいメディア」橋元良明・船津衛編『子ども・青少年とコミュニケーション』北樹出版

第11章　地方暮らしの若者のバリエーションを捉える
―青森20-30代調査と広島20-30代調査の比較から

轡田　竜蔵（同志社大学）

11－１．　広島20-30代調査から青森20-30代調査へ

2014年7月、筆者は公益財団法人マツダ財団の委託を受けて広島の２つの地域（広島都市圏の郊外にあたる「安芸郡府中町」と、広島県北部の中山間地である「三次市」）で、20～30代を対象に郵送調査を実施した（以下、広島20-30代調査。両自治体の住民基本台帳より無作為抽出で選ばれた各1500人、計3000人を対象に郵送し、867人から回答を得た）。この調査は、「地方圏」を一枚岩に捉えるのではなく、都市地理学でいうところの「都市雇用圏」概念をアレンジするかたちで、「地方中枢拠点都市圏」とそれに隣接する「条件不利地域圏」（すなわち地方圏の「まち―いなか」）を操作的に定義し、若者の実態と意識を比較検討するなかで、そのバリエーションを捉えようとすることが目的であった[30]。その結果は、2015年７月に『「広島20-30代住民意識調査」報告書（統計分析篇）』としてまとめ、マツダ財団より発行された。そして、そこからさらに分析を進め、インタビュー調査の結果を加え、理論的考察を踏まえたうえで、2017年２月に『地方暮らしの幸福と若者』（勁草書房）という単著にまとめた。

2017年3月、マツダ財団の主催で、この単著刊行を記念するシンポジウムが開かれた。このシンポジウムを契機に、関心のある社会学者・文化人類学者が集まり、「トランスローカリティ研究会」が立ち上げられた。そして、研究会として、広島20-30代調査の知見を他地域の調査を通して確かめ、若者問題の地域的なバリエーションに関する考察を深めることを目標として、今回の質問紙調査が企画され、マツダ財団の支援を得て実施された。2018年4月、質問紙調査は、青森県の八戸都市圏の郊外にあたる「上北郡おいらせ町」と、下北半島の北部にある「むつ市」で、広島と同じく、両自治体の20-30代の各1500人を対象に、郵送調査として実施され、計680票を回収した（以下、青森20-30代調査。この調査設計の詳細については、本報告書の羽渕論文を参照）。

この共同研究において、轡田の担当は、広島20-30代調査と青森20-30代調査に共通する質問項目を取り上げ、４地域のデータを比較検討することである。この報告書原稿は、早期に集計結果を公表することを主目的とした「速報」としての意味があり、さしあたり単純集計レベルにおける４地域のデータの差異の意味について、最も重要なポイントを提示することを目標としている。したがって、それぞれの質問項目に規定力をもつ複数の変数について、「広島20-30代調査」で行ったような多変量モデルを使った検討結果については記述していない。その点については、今後発表予定の論文のなかで深める予定である。

本稿における統計データの分析結果の記述について最初に記しておく。４件法の質問項目については、質問紙にあるように「全くそう思う/どちらかというとそう思う/どちらかというとそう思わない/全くそう思わない」にそれぞれ４・３・２・１点を割り当て、その平均値の差異について、一元配置分散分析もしくは「まち―いなか」「青森―広島」の二元配置分散分析を行い、４地域の間の１％水準での有意差の有無を確かめている。また、クロス表の分析については、カイ二乗分析および各セルの残差分析を行い、その結果に基づいて記述している。本文中の記述は、全てこれらの検定手続きを経たものであるが、煩雑さを避けるために、簡略な記述にとどめている。また、わかりやすさを重視して、本文中では肯定的な回答（「４　全くそう思う」と「３　どちらかというとそう思う」）をした者の総計の比率を記述している。

---

[30] 「都市雇用圏」とは、DID 人口が１万人以上（５万人以上のばあいは「大都市雇用圏」）の都市を中心都市とし、その中心都市への通勤率の高い（10%以上）郊外市町村を合わせた圏域のことを指す都市地理学の概念である。「地方中枢拠点都市圏」というのは、これをベースに拙著『地方暮らしの幸福と若者』のなかで定義した概念であり、大都市圏を除く都市雇用圏内の常住人口が 30 万人を越える都市雇用圏のことを指す。広島都市圏は 140 万人台の比較的大きな都市雇用圏であり、八戸都市圏は 30 万人台の小さな「地方中枢拠点都市圏」である。ちなみに、山陰地方や北東北には 50 万人台以上の「地方中枢拠点都市圏」は存在していない。具体的には、広島都市圏には広島市、廿日市市、安芸郡（坂町、熊野町、府中町）、安芸太田町、江田島市が含まれる。一方、八戸都市圏には、八戸市、おいらせ町、五戸町、南部町、新郷村、階上町、岩手県洋野町が含まれる。また、「大都市圏」「地方中枢拠点都市圏」の両方に含まれない圏域が、「条件不利地域圏」と定義する。

①地域特性の比較ポイント

下北半島の北部に位置するむつ市は、中国山地に位置する三次市との共通点が多い。どちらも人口は５万人台で、全域的な人口減少傾向は明らかである。むつ市も三次市も、平日生活圏に高等教育機関は無く、大学進学は地元外転出を意味するという点は同じである。そして、その中心市街地から最寄りの「地方中枢拠点都市圏」である八戸市・青森市、あるいは広島市の市街地に達するまでに、２時間程度を要する。休日には行くことができるかもしれないが、一般的には通学・通勤は困難な距離である。２地域とも、都市機能の集積したエリアへのアクセスという点で、条件不利性を抱える「いなか」であることは明らかである。

三次市の場合は、その居住地域の特性は、市内唯一のDID（人口集中地区）を含む中心市街地（４つの小学校区）と、それを取り巻く広大な農山村地域に分けることができる。むつ市についても同様に、平成の大合併前の「旧むつ市」についてはその人口の大半がDIDに含まれるとみられ、DIDの面積規模は三次市とあまり変わらない。周辺に、中心市街地をはるかに上回る面積の農山漁村や山林（旧脇野沢村、旧大畑町、旧川内町）によって取り囲まれている点も同じである。

ただし、むつ市と三次市の間には、地域特性の違いもある。三次市の農山村地域（中心市街地の４小学校区以外）については、近代以前より続く村落の風景が広汎に残っていて、広島20-30代調査でも農山村地域の人口の割合は３割程度と多い。これに対して、旧むつ市の場合は近代以降に農地開拓や鉱業などで流入した人口が大半を占めており、それらの衰退とともに周辺地域の人口は著しく減少し、現在では大半の人口が中心市街地である旧むつ市に集中している状況がある。また、旧むつ市のなかでも、その郊外にあたる大湊中学校区については、自衛隊の官舎が立地しており、単身の20代男性が偏在しているという特殊事情があるので、分析のさいにはその点に注意してみる必要がある。

八戸市工業地帯から八甲田山を望む（手前丘陵部の向こうがおいらせ町）

広島駅前から府中町方向（丘陵部手前の住宅地）

その一方、八戸市に隣接したおいらせ町を、広島の府中町と同じ地方中枢拠点都市圏＝「まち」の事例として捉えることには、異論もあろう。確かに、それぞれ八戸市と広島市の平日生活圏、都市雇用圏に含まれるという意味において、いずれも都市圏の「郊外」とみなしうるが、その都市圏の規模については大きく異なる。広島都市圏は140万人台であるが、八戸都市圏は30万人台にとどまり、就学や就職の選択肢という点でもかなりの格差がある。また、府中町とおいらせ町とでは、どちらも都市圏の中心からのアクセスは変わらないとはいえ、土地利用のされ方が大きく異なっている。府中町は広島市の中心から続く市街地の延長線上に立地しており、高度経済成長期から開発された瀬戸ハイムなどの団地を含む「東部」と、広島中心部に近く、新しい住宅供給がある「西部」も含め、居住可能地域は全面的に都市化している。これに対して、おいらせ町の場合は、スプロール型に開発されている住宅地ないしニュ

ータウンが点在しているものの、東の「旧百石町（町東部）」についていえば、大半が伝統的な農村集落という状況であり、町内にDID（人口集中地区）は存在していない。拙著『地方暮らしの幸福と若者』で示した基準からすると、八戸都市圏は、総人口では30万人を越えているという点で、地方中枢拠点都市圏の定義を満たすが、中心都市である八戸市の人口が30万人に満たず（22万人）、その求心力は広島と比べて弱いと考えられる。

しかし、その一方で、それでもここで定義した意味において、「地方中枢拠点都市圏」と「条件不利地域圏」という概念区分にこだわるのは、それが地方圏の若者の暮らしのあり方のバリエーションとして最も重要な分断線であると考えたからである。その理由としては、以下の三つの点が重要である。

第一に、それぞれの県内でほとんどの地域人口が減少傾向にあるのに対して、調査地として取り上げた青森のおいらせ町と広島の府中町については、現状維持もしくは微増傾向にあるという点である。おいらせ町は八戸市中心部まで車で30分程度と近い郊外であり、この関係は府中町と広島市中心部との関係と似ている。それぞれの都市圏のベッドタウンとして、おいらせ町には三沢市にも近い「旧下田町（町西部）」の木ノ下小学校区など、ニューファミリー向けの新しい住宅供給が比較的盛んな地域もある。農村地帯にある甲洋小学校区と下田小学校区では人口減少が課題になっているが、全域的に人口減少が進んでいる条件不利地域圏とは状況が異なっている。

第二に、おいらせ町も府中町も、自治体のなかに都市圏全体の消費秩序において大きな意味を持つ巨大ショッピングモールが立地しているという点である。おいらせ町には旧下田町にイオンモール下田が、府中町には広島市に近い西部にイオンモール広島府中があり、それぞれ生活密着型GMSとしてのイオン直営店のほかに、多くの若者が利用するような専門店を100店舗以上備えている。この規模のショッピングモールは30万人以上の商圏があるところでなければ立地しないという意味で、全国の「地方中枢拠点都市圏」の重要なメルクマールとみなしうる。これに対して、三次市には「サングリーン」と「プラザ」、むつ市には「マエダ本店」という生活密着型のショッピングセンターがあるが、若者や子育て世代が魅力を感じるような消費・娯楽の場としては機能していない。このほかにも、若者が集まる都市的な場所の選択肢について言えば、おいらせ町は八戸市に、府中町は広島市の中心市街地に出ればいくらかあるが、むつ市や三次市には、中心市街地の一部の飲食店に限られる。

三次市中心市街地

三次市周辺部（三次市の大半は農山村地域）

むつ市中心市街地（旧むつ市）

廃校舎が目立つむつ市周辺（旧川内町。むつ市街地から車で約１時間）

第三に、条件不利地域圏の人々は、休日には、かなり頻繁に、平日生活圏を越えて、隣接する地方中枢拠点都市圏に移動しているとみられる点である。若者の旺盛な消費・娯楽のニーズを満たすためには、居住地域の生活では物足らないからである。具体的には、三次市からイオンモール広島府中へ、むつ市からイオンモール下田へのそれぞれ約２時間をかけた移動は、特に若者にとって日常的となっているとみられる。三次市と府中町、おいらせ町とむつ市との間には、それぞれに、こうした「まち―いなか」間のトランスローカルな移動関係があることが想定される。

こうした理由から、本稿においては、広島と青森の調査データを比較することをとおして、「まち―い

なか」関係を主軸として捉えるモデルの妥当性を確かめる。ただし、地方圏の若者のバリエーションが、すべて「まち―いなか」関係から分析しきることはできないだろう。そのため、本稿では、若者問題の地域特性をつかむという目的に向かって、４つの地域のデータを比較しながら、他の分析軸が持つ意味についても探っていきたいと思う。

１・広島の「府中町」と「三次市」で見られたような「地方中枢拠点都市圏―条件不利地域圏」の関係性、すなわち地方圏の「まち―いなか」関係の構造は、青森の「おいらせ町」と「むつ市」との間においても同様に見られるのであろうか。
２・若者の社会的属性あるいはその現状評価や価値観に関して、「広島―青森」の間の地域差としてみなしうる点は何か。その地域差は、どのような要因によるものと考えられるのか（都市圏の規模、大都市からの距離、社会規範、土地利用のあり方等）。
３・若者の暮らしの地域差を探るうえで、何が明らかになったか。今後の研究プロジェクトにおいて、どういった課題が考えられるか。

11－２．　基本属性の地域比較

(1)就業構造、世帯年収、就労時間、家事時間

就業構造に関しては、「まち―いなか」の違い、すなわち地方中枢拠点都市圏（おいらせ町、府中町）とそれぞれに隣接する条件不利地域圏（むつ市、おいらせ町）の差異が明らかに出ている。

就業状態についてみると、正規雇用の比率は、むつ市64.2%（男性77.8%、女性48.0%）、おいらせ町67.5%（男性79.6%、女性56.6%）、三次市52.0%（男性68.4%、40.7%）、府中町48.6%（男性74.3%、女性33.7%）。男性に関しては三次市がやや低いが、これは自営業者が比較的多いためである（三次市12.8%に対して、むつ市3.3%、おいらせ町3.8%、府中町1.4%）。女性の正規雇用の比率は、広島の２地域は青森の２地域に比べて低くなっている。これは、専業主婦の比率が広島の２地域（三次市21.6%、府中町31.4%）が青森の２地域（むつ市14.7%、おいらせ町8.6%）よりも高いことと連動している。

業種について、４地域の差異として一番目立つのは、製造業と回答した者の比率である。青森調査では、おいらせ町が12.0%を占めるのに、むつ市では3.9%しかいない。一方、県間の政府統計の比較では、製造業が比較的強い広島でも、府中町が17.0%を占めるのに対して、三次市は11.0%と比較的少ない。製造業の比率の差という点では、「まち―いなか」格差が大きい。ただし、府中町では、製造業でも専門・技術職や事務職が多いとみられ、製造作業・機械操作従事者の比率については４地域に有意差は無い。

雇用先のバリエーションが少ない分、条件不利地域圏では公務員比率が高くなるという点にも注目できる。この点、むつ市には、自衛隊関係の施設があるということもあって、23.8%という突出した値を示している（自衛隊を除くと、公務員比率は半分近くになる）。

このほか、青森の２地域と広島の２地域で差が出ているのが、建設業従事者の比率である。青森の２地域（むつ市9.6%、おいらせ町7.7%）は、広島の２地域（三次市4.1%、府中町4.7%）よりその比率が高い。また、職業の種類についても、建設作業従事者は、青森の２地域（むつ市5.6%、おいらせ町5.3%）は、広島の２地域（三次市1.9%、府中町2.2%）と一致する。こうした傾向についても、政府統計の県別データと同様である。

また、世帯年収の平均値（各ケース値を各階級の中央値に置き換えて算出。「1000万円以上」については1100万円として算出）について見てみると、「まち―いなか格差」、すなわち、条件不利地域圏の２地域（むつ市502万円、三次市506万円）と地方中枢拠点都市圏の２地域（おいらせ町572万円、府中町543万円）との間に有意差がみられる。その一方で、青森の２地域と広島の２地域の差は無く、「まち―いなか」格差のほうが明瞭であることが確認できる。

就労している者についての週当たり平均就労時間については、むつ市45.8時間、おいらせ町45.6時間、三次市42.6時間、府中町42.1時間となっており、青森の２地域のほうが長い。これは、女性の正規雇用の比率の違いによるものである。男性に限ると、むつ市49.9時間、おいらせ町48.6時間、三次市48.4時間、府中町50.1時間で４地域の間に有意差は無い。女性については、むつ市39.9時間、おいらせ町42.7時間、三次市36.2時間、府中町36.1時間となっており、青森の２地域は女性の正社員率が高い分、就労時間も長めになっている。なお、週60時間以上の長時間労働者の数字には有意差は無く、男性に限ると、むつ市24.9%、おいらせ町21.3%、三次市23.6%、府中町28.0%。政府の労働力調査に基づく都道府県比較では大都市圏のほうがやや高い割合となっているが、本調査の結果を見る限り、地方圏の４地域の労働時間が短いとは決して言えない。

一方、家事時間については、男性についてはむつ市8.7時間、おいらせ町8.2時間、三次市7.3時間、府

中町8.9時間で４地域に有意差は無い。一方、女性についてはむつ市27.2時間、おいらせ町23.6時間、三次市34.6時間、府中町40.2時間となっており、広島の２地域のほうが青森の２地域より長い。これは、広島の２つの地域の専業主婦率の高さによって説明できる。

(2)家族構成の違い

次に、家族構成の違いに関するデータを比較してみたい。この点については、「まち―いなか」の差異よりもむしろ、広島の２地域と青森の２地域の違いが目立っている。その意味するところが家族規範の地域差であるのか、都市化の度合いの違いであるのかについては慎重に見極める必要がある。また、各自治体内の地域特性による違いも考慮して、比較する必要がある。

国勢調査データの推移をみると、近年、東日本の生涯未婚率が高まっており、青森県も生涯未婚率の上位県となっていることがわかる。それに対して、広島県の未婚率は全国平均を下回っている。本調査については、パートナーがいる者（この論文では、法律婚だけではなく、婚約、事実婚関係にある者を含めた数字を用いている＝以下、「有配偶者」）の比率の差は、国勢調査以上に顕著になっている。20代で者の比率は、青森の２地域（むつ市69.3%、おいらせ町82.8%）が広島の２地域（三次市57.0%、府中町62.9%）より高い。30代についても差がついている（むつ市38.9%、おいらせ町33.7%、三次市27.7%、府中町18.6%）。このように青森で有配偶者率が低くなっている背景として、直系家族制の強い地域のほうが結婚に求められるハードルが高いという仮説が考えられる。ただし、この点を明らかにするには、本調査のデータでは不十分であり、ここでは深入りを避けておく。

また、この有配偶者率に関するデータでは、「まち―いなか」の違いにも注目できる。20代では条件不利地域圏（むつ市、三次市）のほうが高いのに対して、30代になると地方中枢拠点都市圏（おいらせ町、府中町）の自治体のほうが高くなっているという点である。「いなか」では同級生ネットワークを中心とした早婚傾向があり、その一方で、「まち」では、30代の若い子育て世代向けの住宅供給が比較的多いためであると考えることができる。

４つの地域の配偶者がいない者の親との同居率を比較すると、むつ市62.2%に対して、三次市65.7%、府中町70.2%の３地域に有意差は無いが、おいらせ町の比率が85.5%と高い。むつ市や三次市は、周辺の村落地域においては、親との同居率が高いが、中心市街地については都市部と遜色なく若者の単身世帯が多い。いくつかの事情が考えられるが、一つには、周辺農山村出身者が交通事情の悪さゆえに、雇用のある市中心部に単身で賃貸住宅に住む者が多いということが考えられる。また、府中町の場合はマンションやアパートが多く、単身者向けの住宅も豊富だが、おいらせ町の場合はファミリー向けの一戸建て物件ばかりで、単身者向けが乏しい。府中町もおいらせ町も比較的住宅供給の多い地方中枢拠点都市圏の郊外であるのだが、都市化の規模の違いと関係し、住宅供給のあり方に違いがある。

4つの地域の有配偶者の親もしくは配偶者の親との同居率を比較すると、むつ市17.6%、おいらせ町25.4%、三次市23.9%に比べて、府中町は5.8%とその低さが際立っている。これに関しても、都市化の規模が大きく影響していると見られる。府中町は完全に都市化している郊外であり、結婚後の親との同居の規範は弱い。これに対して、おいらせ町は同じ郊外といっても、伝統的農村地帯を多く含む。特に、おいらせ町の旧百石町については35.1%と非常に高い値を示し、旧むつ市以外の農山漁村地区33.0%、三次市農山村地区では47.1%と比べて遜色ない。伝統的な農山村地域については広島も青森も関係なく同居規範が比較的強いということであろう。ただし、その一方で、これまでにマクロデータから議論されてきたように、広島と青森の間にある家族規範の地域差の影響の可能性も排除できない。この点について、各自治体のなかで、比較的新しい住宅供給が多い地区を比較してみると、解像度が上がる。三次市中心市街地が13.4%であるのに対し、同じ程度に市街地化している旧むつ市（大湊地区を除く）で17.6%、イオンモール周辺のおいらせ町の旧下田町でも21.8%と高値になっている。この違いは、青森のほうが広島よりも直系家族制を背景にした親との同居規範が強いという意味であることも考えられる。

(3)学歴・居住歴

学歴は、在学中の者を除き、大卒・短大卒以上の学歴を持つ者の比率について言うと、むつ市32.4%、おいらせ町33.4%、三次市44.0%、府中町60.3%。全体として青森の２地域（むつ市、おいらせ町）のほうが広島の２地域（三次市、府中町）より高学歴層が少ないのは明白である。これは、マクロな全国統計とも一致する。都市圏内の大学・短大の選択肢の幅の違いはもちろんあるが、先行研究では東京や関西からの距離の違いの影響が指摘されている（北海道・東北、九州・沖縄は大学進学率が低い）。府中町から通える範囲の広島都市圏には、銘柄大学の選択肢こそ少ないが、約２０の大学・短大がある。これに対して、おいらせ町は八戸都市圏に含まれるわけであるが、都市圏内には私立大学が２つあるだけ

である。そのため、広島の２地域とは異なり、学歴に関する「まち―いなか」格差は、青森の２地域の間には見られない。

居住歴に関して、「今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域で暮らしたことがない」人の比率は、むつ市23.7%、おいらせ町24.4%、三次市11.1%、府中町26.2%。どの地域についても少数派となる。この中では、都市度が最も高い府中町については比率が高めであるが、４つの地域のどこでも、地元外で暮らした経験がある人が30代で８割程度になるという点では変わりはない。「ずっと地元」にいる者については、府中町では60.9%が大卒・短大卒以上であるが、他の地域についてはほとんどが非大卒・非短大卒である（むつ市０.0%、おいらせ町16.0%、三次市10.0%）。これは、府中町以外については、実家から通える範囲に通える選択肢がほとんどないことを意味している。この点において、同じ地方中枢拠点都市圏といっても、おいらせ町と府中町とのあいだで、都市雇用圏の規模の違いの差が大きいといえる。

地元にUターンした者の比率は、おいらせ町の35.8%に対するむつ市の43.9%、府中町の15.4%に対する三次市の40.2%は高く、「まち―いなか」格差が見られる。条件不利地域圏では、就学や就職などの選択肢が乏しいので、押し出されるようにいったんは地元外に出るしかないのだが、地元の親や友人ネットワークへのアクセスも考えて、Uターンする誘因が地方中枢拠点都市圏よりも強くはたらくとみられる。また、学校を卒業もしくは中退後にUターンした者については、4地域ともその６割以上は大卒・短大卒以上である。これに対して、転職でUターンをした者については、広島（府中町、三次市）では大卒・短大卒者が多いが、青森（おいらせ町、むつ市）は非大卒・短大卒の比率が高い。

結婚で転入した者の比率について、広島に比べて青森の２地域の比率の低さが目立つ。地区別にみると、さらにこの点は鮮明になる。三次市中心部で21.8%、府中町西部では25.1%を占めるのに対して、旧むつ市（大湊中学校区を除く）ではわずかに5.5%、比較的新しい住宅供給がある旧下田町（おいらせ町）でも12.9%にとどまっている（そのかわり、旧下田町は既婚者が78.6%を占める「住み替え」を理由とする転入者が21.4%と、全４地域のなかで最も多い）。また、結婚で転入した者については、広島（府中町、三次市）では大卒・短大卒者が多いが、青森（おいらせ町、むつ市）は非大卒・短大卒の比率が高い。

居住歴に関する質問の回答から、４地域の「地元」在住者の割合を比較してみた。その結果、20代ではむつ市68.8%、おいらせ町72.5%、三次市56.1%、府中町60.9%。30代では、むつ市71.0%、おいらせ町56.8%、三次市49.3%、府中町33.7%である。

この数字からは、二つの点に注目ができる。第一に、「まち―いなか」の違いである。青森でも広島でも、20代では地方中枢拠点都市圏（おいらせ町、府中町）のほうが「地元」率が高いが、30代では逆に条件不利地域圏（むつ市、三次市）のほうが「地元」率が高くなっている。条件不利地域圏では、10～20代の就学や就職を契機に「地元」を離れる比率も多いが、その一方で、３0代までにUターンする層が少なくないためである。卒業（中退）後Uターンした人々の比率はむつ市24.3%に対しておいらせ町19.9%であり、また、就職後にUターンした人々の比率はむつ市20.1%に対しておいらせ町15.7%と、いずれもむつ市のほうが多い。三次市の府中町に対する関係も同様で、条件不利地域圏においてはUターン層が全体の多数を占めている。第二に、青森の２地域のほうが、広島の２地域よりも「地元」率が高くなっている点に注目できる。この点については、単に都市化の度合いによるものではないと考えられる。「地元」率が高い各地域の農村地区を除いて、比較的新しい住宅供給のある市街地を中心とする地区に限って比較しても変わらないからである。むしろ、先に指摘したように、結婚転入者の比率の低さによって、青森の２地域は広島の２地域よりも「地元」率が高くなっているのだと考えられる。

11－３．　現状評価に関する項目の地域比較

(1)地域に関する現状評価―圧倒的な「まち―いなか」格差

本調査においては、三次市とむつ市を「条件不利地域圏」の事例として、府中町とおいらせ町を「地方中枢拠点都市圏」の事例として、広島20-30代調査で見られたのと同様の回答傾向がみられるかどうかが一つの注目点であった。

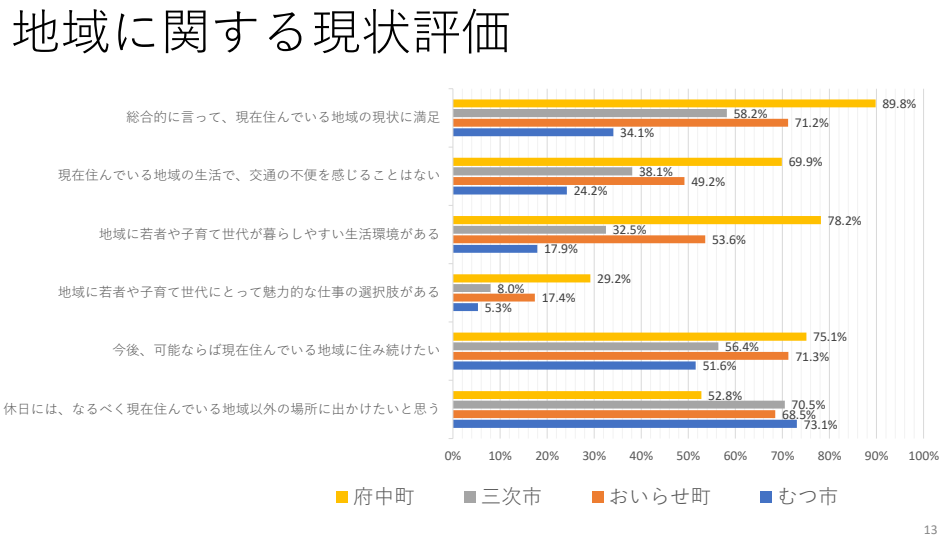
分散分析をした結果、意識調査項目の平均値の有意差の有無について、三次市と府中町の関係は、むつ市とおいらせ町との関係と基本的には同じであった。かなり強い意味において、「まち―いなか」格差が出ている。

まず、地域に関する現状評価項目について。総合的に見て、「現在住んでいる地域の現状に満足している」のは、むつ市34.1%に対して、おいらせ町71.2%。おいらせ町のほうがむつ市よりも圧倒的に現状評価が高い。「現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている」と思う者についても、むつ市は17.9%ときわめて少ないのに対して、おいらせ町は53.6%と半

数を上回っている。広島20-30代調査でも、地域の現状評価については、広島市へのアクセスが良い府中町の値は、三次市をはるかに上回っている。このほか「現在住んでいる地域には、20~30代の若者や子育て世代にとって魅力的な仕事の選択肢がある」者は、おいらせ町が17.4%と低いが、むつ市はそれよりもさらに低く、わずか5.3%にとどまっている。また、「今後、可能ならば、現在住んでいる地域に住み続けたいと思っている」のも、むつ市は51.6%と値が低く、おいらせ町71.3%に比べると定住意識が低いとみられる。このような点についても、広島20-30代調査の三次市と府中町との比較と同様である。「休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」人の比率についても、むつ市73.1%に対しておいらせ町68.5%は低く、三次市70.1%に対して府中町52.8%と低いのと同様である。条件不利地域圏の若者のほうが、地方中枢拠点都市圏の若者よりも休日に積極的に地域外に出る意欲を持っているという意味で、ここでも「まち—いなか」格差を確認できる。

世帯年収の平均値についても、先にもみたように、青森と広島のあいだではなく、「まち—いなか」格差がある。ただし、広島20-30代調査と同様に、世帯年収や学歴、性別等の主要な社会的属性が地域の現状評価の規定要因となっているわけではない。決定的な意味を持つのは、都市機能の集積地域へのアクセスの格差であるとみられる。じっさい、「現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない」と考える人は、広島20-30代調査では三次市38.1%、府中町69.9%と著しい違いがあったが、青森20-30代調査においても、むつ市24.2%、おいらせ町49.2%と大差がある。

そして、ここに挙げた地域の現状評価項目のすべての平均値について、「地方中枢拠点都市圏」の２地域（おいらせ町、府中町）の値が、「条件不利地域圏」（むつ市、三次市）の２地域の値をはるかに上回るという明瞭な結果が出ている。これら４地域の調査から全体を語ることには慎重であるべきだが、少なくともこれらの結果からは、地域の現状評価の現状評価の違いは、青森と広島の違いによるものではなく、「まち—いなか」格差によって説明される部分が大きいという仮説を支持しているといえるだろう。



(2)生活満足度—地域満足度とは関係無し

このように、地域の現状評価項目について、「まち—いなか」格差は大きい。しかし、興味深いのは、それにも関わらず、その他の主題の現状評価に関わる意識調査項目のすべてについて、「まち—いなか」格差がみられなかったという点である。この点においても、青森20-30代調査と広島20-30代調査は一致している。

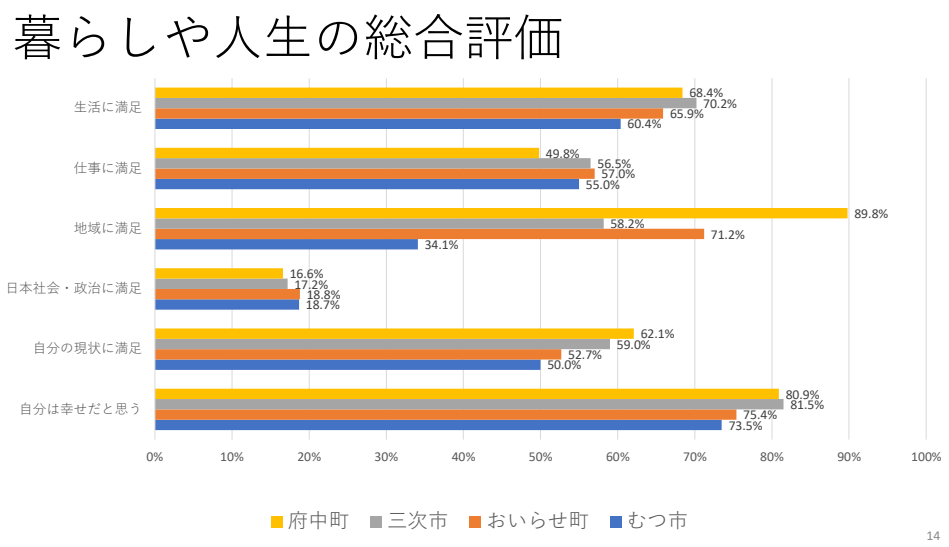
まず、「総合的に見て、今の生活に満足している」のは、むつ市60.4%、おいらせ町65.9%。広島20-30代調査の三次市70.2%は、府中町68.4%であり、４地域のあいだに有意差は無い。むつ市や三次市の地域に対する評価の低さは、個人の生活満足度には関係していないのである。

そして、先に確認したように、世帯年収に関する「まち—いなか」格差は有意であるのだが、これが生活満足度の格差には結びついていない。「一般的な家庭と比べて、自分の生活水準は高いほうだ」と考える人の比率について、４地域間の有意差は無く、階層意識の地域間格差は見いだせなかった。また、「金銭的余裕のある生活を送っている」と思っている者の割合において、４地域のあいだに有意差は無

いことからすると、「まち」と「いなか」の間にみられる世帯年収格差は、必ずしも経済格差の感覚には結びついていないと考えられる（むつ市34.1%、おいらせ町33.4%、三次市34.4%、府中町43.3%）。

経済的な感覚に関する項目は、いずれをとっても４地域の差異は見いだせない。「20年後、自分は親の生活水準よりも高い暮らしができていると思う」者の比率は３割前後、「今後、自分の生活が経済的に厳しくなる可能性について、心配しなくていいと思う」者の比率は２割前後と、どの地域でも同様に経済状況に対する評価は一律に低い。

また、「毎日の生活が「楽しい」と感じられる」人の比率については、青森の２地域（むつ市57.8%、おいらせ町59.1%）は、広島の２地域（三次市67.9%、府中町70.4%）よりも低い。ただし、これは、有配偶者の比率の差によって説明される差である。配偶者がいる者については、むつ市71.1%、おいらせ町67.6%、三次市77.9%、府中町78.6%で有意差は無い。配偶者がいない者に限定すると、むつ市44.6%、おいらせ町51.8%、三次市52.2%、府中町55.3%と、むつ市がやや少ないが、その他の３地域については有意差が無い。



(3)仕事の現状評価―「まち―いなか」格差は見られず、低めの評価

先に、「魅力的な雇用」の有無に関しては、むつ市・三次市のほうが、おいらせ町・府中町よりも厳しい評価が出ていることを確認した。しかし、「総合的に見て、自分の仕事の現状に満足している」者の比率については、４地域の間に有意差は見られない（むつ市55.0%、おいらせ町57.0%、三次市49.7%、府中町47.7%）。広島20-30代調査の場合には、女性に限れば仕事満足度は三次市のほうが府中町よりも高いという結果が出たが、青森20-30代調査においてはおいらせ町とむつ市の間で有意差はみられなかった。「給料や報酬に満足している」「毎日の仕事が「楽しい」と感じられる」など、仕事に関する現状評価のすべてについて、４地域の間に有意差の見られる項目は無かった。

生活に関する項目と同様に、仕事についての現状評価は、４地域とも同様に低い数値を示している。「今後の自分自身の仕事の将来について、明るい希望を持っている」者はいずれも３割台、「今後の勤務先の将来（経営など）について、明るい希望を持てると思う」者については３割前後にとどまっている。ただし、「現在の職場の人間関係について満足している」者は３分の２程度と多数を占め、「自分は「やりがい」がある仕事をしていると思う」者の比率も４地域揃って６割台であり、比較的ポジティブな評価となっていると言える。

(4)社会の現状に対する評価―地域差無く、厳しい評価

「総合的に見て、日本社会や政治の現状について満足している」者の比率については、４地域の数値はほぼ同様で、10%台のきわめて低い数値を示している（むつ市18.7%、おいらせ町18.8%、三次市17.2%、府中町16.7%）。「日本の将来には明るい希望があると思う」者の比率も４地域とも２割台にとどまり、有意差は無い。その評価はかなり厳しいものであるといってよいだろう。

「将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていい」と考える者について、４地域ともわずかに１割台。他の自治体とは異なり、むつ市は原発関連施設が立地する地域で

あるが、地域性とは関係なく、原発事故の不安を感じる者の比率の高さは変わらないということがわかった。
　社会の現状評価に関するそのほかの項目についても、「まち―いなか」の差異や、「青森―広島」の有意差はみられなかった。「日本は、こつこつと努力すれば成功するチャンスのある国だと思う」人の比率は、４地域とも半数を上回る５割台と比較的高い。また、「日本は、安全で安心して暮らせる国だと思う」人の比率も、４地域とも７割前後と高い。日本社会の将来への不安は強くても、現状の社会秩序に対する信頼が崩れるほどではないということがわかる。その一方、「日本は差別があまりなく、弱い立場とされる人々がむしろ手厚く保護されていると思う」人の比率は４割台であり、評価が分かれている。
　また、「国を愛する心をしっかり持とうと心がけている」者は６割前後、「社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている」者は５割台で、４地域の有意差は見られない。社会や政治に関する現状評価や価値観について、目立った地域差は無いと結論できる。

(5)人生に対する評価―４地域の有意差なし
　「自分は幸せだと思う」人の比率については、むつ市73.5%、おいらせ町75.4%、三次市81.5%、府中町80.9%で、４地域の間に有意差は無い。「自分の将来に明るい希望を持っている」という人の比率についても同様である（むつ市51.2%、おいらせ町53.5%、三次市53.1%、府中町55.9%）。そして、人生の価値観に関する質問項目においても、すべてについて４地域の間に有意差は確認できない。
　ただし、「総合的に見て、自分の現状に満足している」人については、青森の２地域の比率（むつ市50.0%、おいらせ町52.7%）のほうが広島の２地域（三次市59.0%、府中町62.1%）よりも低くなっている。ただし、この差異は、広島のほうが青森よりも有配偶者率が高いことによるものであって、配偶者（パートナー）の有無によってクロス分析すると地域差は解消する。配偶者がいない場合、現状評価は低く出る傾向にあり、４地域の有意差は無い（むつ市39.6%、おいらせ町47.7%、三次市47.7%、府中町48.6%）。

(6)家族・友人関係についての評価―４地域とも高評価
　「家族との関係に満足している」人の比率について、４地域ともいずれも８割台の高い値を示し、有意差は見られない。配偶者（パートナー）の有無に分けてみても、変わりはない。配偶者が無いと回答した人のなかで、「血縁以外に自分を必要とし大切に思ってくれる人（配偶者・恋人等）がいて、その関係に満足している」のは、むつ市34.0%、おいらせ町38.9%、三次市42.7%、府中町37.8%で、やはり有意差は無い。「今後、（配偶者がいない場合）結婚できないのではないかとか、（既婚の場合）結婚生活を続けられないのではないかと、心配しなくていいと思う」人の比率についても、配偶者がいない場合について、むつ市35.7%、おいらせ町39.3%、三次市31.5%、府中町35.7%とやはり差はみられない。４地域において、配偶者がいない者は、６割台の者が「結婚できないのではないか」と心配している現状がある。同じく配偶者がいない者について、「20年後、子育てを経験し、配偶者と暮らしていると思う」は、むつ市48.1%、おいらせ町51.6%、三次市56.2%、府中町52.1%で、大きな差はない（30代に限ると、４地域とも３割台以下となる）。結婚に関する将来不安について、４地域の差は数字としてはみられない。
　「友人関係に満足している」人の比率について、４地域はいずれも８割前後の高い値を示し、有意差は見られない。「自分と近い仲間たちと交流する機会に恵まれ、深い絆を築けていると思う」人の割合についても、同様である。「自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられている」については、むつ市（41.2%）よりもおいらせ町（45.0%）の比率のほうが高く、これは三次市（32.3%）よりも府中町（35.7%）のほうが高いのと同様で、「まち―いなか」格差が関係あると考えられる。また、この項目について、青森のほうが広島より高い数値を示している点であるが、居住歴による格差が目立ち、「ずっと地元」層に限るとこの差は無くなる（むつ市27.9%、おいらせ町32.5%、三次市26.5%、府中町38.5%）。
　「現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる」者の比率については、むつ市48.0%、おいらせ町48.9%、三次市43.5%の間に有意差は見られず、府中町39.9%だけがやや低い。府中町には結婚を理由に転入した層（その多くは専業主婦）が多いが、この層については、この項目の評価は25.2%と低いためである。この質問項目について、一般に、転入層についてはネガティブな評価が出る傾向が強い。その点を制御すると、４地域の間に比率の差はみられない。

11－４．　価値観に関する項目の地域比較

(1)地域活動・社会活動と地域コミュニティについての価値観

地域活動・社会活動に関して、青森20-30代調査と広島20-30代調査では、「積極的参加」「一般的参加」「消極的参加」「不参加」の４段階で尋ねている。それぞれ４・３・２・１点を割当て、４地域の参加度について比較分析した。

何らかの地域活動・社会活動について「積極的参加」がある者の比率は、むつ市27.0%、おいらせ町28.4%、三次市34.8%、府中町26.4%で、三次市がやや多めである。活動ごとに見てみると、「地縁組織の活動」あるいは「業界団体・同業者団体・労働組合の活動」に関しては、都市度の高い府中町の値がやや低く出ており、これに対して「条件不利地域圏」であるむつ市と三次市の高さが目立つ。また、「趣味活動」について、三次市の参加度が他の３つの地域よりもやや高いが、他の３地域について有意差はみられなかった。「ボランティア団体・消費者団体・NPO等」への参加度については、４地域のあいだで有意差は無かった。これらの参加度を規定する要因については、学歴、居住歴、配偶者や子どもの有無などの社会的属性が複雑にかかわっており、さらに検討する必要がある。

「隣近所の人たちとは、何でも相談したり、助け合ったりできるような深い関係になりたい」人の比率は、むつ市42.8%はおいらせ町38.8%より高く、三次市49.1%も府中町46.8%より少し高い。この点を見ると、「いなか」のほうが「まち」よりも近隣の相互扶助規範があるようにも見えるが、地区別にみると、三次市の中心市街地を除いた農山村地域が50.6%と最も高いのに対して、むつ市の農山漁村地域（旧むつ市以外）では30.4%にとどまっている。広島と青森で農山漁村のコミュニティのあり方に違いがある可能性が考えられる。

また、「今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている」のは、三次市が45.6%と比較的高く、これに対してむつ市36.7%、おいらせ町38.4%、府中町38.1%はあまり差が無い。こうしたデータから、三次市の地域活動・社会活動の活発さがうかがえる。三次市については、UIターンの大卒者が地域活動の核となっていることがわかっているが、その要因に関して、さらに学歴や居住歴などの他の変数との関係を分析する必要がある。

また、「現在住んでいる地域にいる多様な人たちと交流することに興味がある」人の比率については、４地域とも40%前後で、有意差が無い。ただ、「現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えることは良いことだ」と思う人の比率が、むつ市60.3%、おいらせ町64.8%、三次市55.2%でこの３地域については有意差が無いが、都市部にあって最も外国人比率が高い府中町において43.2%と低くなっていることに注目できる。「まち」のほうが「いなか」よりも「多様性」に寛容というわけではないということである。

(2)ライフスタイルについての価値観

「自分が一生暮らす場所として、××のような田舎はいいと思う」という質問について、青森では「下北半島」、広島では「中国山地」と入れて尋ねている。むつ市は下北半島にあり、三次市は中国山地にある。その結果は、当然ながら「まち―いなか」格差がみられ、三次市とむつ市が高くなるのだが、三次市のばあいは66.1%と高いのに対して、むつ市は58.0%と大差がついている。「非地元」在住者に限ると、三次市は60.8%と高いのに対して、むつ市42.4%と、この差はさらに広がる。また、この質問について、府中町が40.5%あるのに対して、おいらせ町は30.1%とさらに低くなっている。この結果は、むつ市のばあいは転勤以外のかたちで転入してくる層が少ないという事実に対応していると言える。「下北半島」と「中国山地」との間には、田舎暮らし志向の若者をひきつける求心力において、現時点で差があるといえる結果ともいえるだろう。

「自分が一生暮らす場所として、××のような地方都市はいいと思う」という質問について、青森では「青森市」、広島では「広島市」と入れて尋ねている。その結果は、むつ市70.9%、おいらせ町62.5%、三次市65.3%、府中町92.1%。三次市については「田舎」と「地方都市」の評価がほぼ同程度であるが、他の３地域については、「田舎」「大都市」と比べて、「地方都市」を理想とする者が圧倒的に多数を占めることがわかる。何よりも、下北半島にあるむつ市の若者が、居住地域である「下北半島のような田舎」よりも「青森市のような地方都市」のほうを12.9ポイントも高く評価しているという点に注目したい。ちなみに、この質問について、おいらせ町の値が低くなっているが、これは、おいらせ町が八戸都市圏にあり、青森都市圏との関わりはむつ市以上に薄いものであるということを示す結果であろう。４地域比較という点を考えれば、質問紙で「青森市」としたことはワーディング上のミスであり、「八戸市」であったとしたら、この質問についておいらせ町の20-30代の肯定的回答のポイントはかなり高くなったのではないかとも考えられる。

「自分が一生暮らす場所として、東京のような大都市はいいと思う」のは、４地域とも３割以下で、

大都市志向は地方志向や田舎志向に比べると圧倒的に弱いことがわかる。ただし、４地域を比較してみると、青森の２地域（むつ市26.3%、おいらせ町19.0%）の比率は、広島の２地域（三次市12.0%、府中町16.3%）よりも高く、特にむつ市の高さが目立つ。この違いは何を意味するのかは、さらなる分析を要する。むつ市と三次市、おいらせ町と府中町の東京への時間距離は、それぞれそれほど大きく変わるものではない。だが、太平洋ベルトに属する広島の場合、東京に至るまでに京阪神や名古屋といった求心力の大きい大都市圏があるのに対して、青森と東京の間には、広島と同程度の規模の仙台都市圏くらいしかない。広島における「東京」の意味は、青森に比べて小さいものであるとも考えられる。

「休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」人の比率については、「いなか」のむつ市が73.1%、三次市が70.5%と高いのに対して、地方中枢拠点都市圏のおいらせ町68.5%、府中町52.8%は低い。「いなか」の地域に暮らす若者は、「まち」に暮らす者よりも積極的に居住地域外に出る傾向があることを示す数字である。また、「現在住んでいる地域に、大型商業施設や大型小売店が増えれば嬉しく思う」人の比率については、都市度が高い府中町が68.1%と最も少ない。三次市81.6%とおいらせ町81.3%が同じ水準で、むつ市91.1%が最も高くなっている。都市度の低い地域、あるいは「いなか」の若者のほうが、利便性の高いライフスタイルを渇望する傾向の現れであると考えられる。

このほか、「現在住んでいる地域での生活には、自家用車は欠かせないと思う」人の比率について、むつ市、おいらせ町、三次市が100%に近い人たちが「欠かせない」と回答しているのに対して、府中町では63.4%にとどまっている。府中町もおいらせ町もともに都市郊外であるが、全面的に都市化している府中町では、広島の中心部に移動する電車やバスなどの公共交通機関の便利が良い。ところが、おいらせ町では、自家用車への依存率がきわめて高い。車にどの程度依存しているかという点について、府中町とそれ以外の３地域との間には大きな違いがある。

(3)生活と仕事に関する価値観

仕事や生活についての価値観に関する項目を見てみると、青森とくにむつ市と広島の２地域との間で、若干の差異が見られる。

「満足な収入が得られるのであれば、長時間働いてもかまわないと思う」のが、むつ市56.8%、おいらせ町53.6%、三次市49.7%、府中町47.7%。その一方、「やりがいのある仕事であれば、満足な収入が得られなくてもかまわないと思う」のは、むつ市は23.5%で、他の３地域（おいらせ町27.1%、三次市30.8%、府中町30.4%）より低い。そして、「やりがいのある仕事のためなら長時間働いてもかまわない」という者の比率は、むつ市44.2%、おいらせ町37.9%、三次市44.7%、府中町47.1%。おいらせ町がやや低い。これらの結果は、青森の２地域のほうが広島の２地域よりやや多いが、これは青森の正規雇用の比率の高さに対応している。さらに、むつ市のほうがおいらせ町よりも収入が低いこともあり、「収入のための仕事」を重視する価値観が４地域のなかでは若干強いとみなすことができる。

ただし、「余暇の生活を優先させたいので、仕事で長時間働きたくない」人の比率については、４地域はいずれも７割前後が肯定的な回答をしており、有意差は見られない。「社会情勢を考えれば、今後、生活水準が上がらなくても仕方ない」と考えるのも、４地域とも有意差は無く、同程度にネガティブである（むつ市37.6%、おいらせ町35.2%、三次市41.1%、府中町40.2%）。「自分なりに楽しくお金をかけずに暮らす方法はあるので、今後、生活水準が上がらなくてもかまわない」者も４地域とも20%前後と変わらず、拙著『地方暮らしの幸福と若者』でも指摘したように、昨今の移住ブームのなかで言われるようは「ダウンシフター的な生き方」を志向する者は、けっして多数派ではないということが４地域に共通する事実として確認される。

ジェンダーや家族に関する規範についていうと、「まち—いなか」格差ではなく、「青森—広島」の地域差がみられる項目がいくつかあった。「男性も女性と平等に家事（育児・介護を含む）を分担するのが当然だと思う」のは、青森の２地域（むつ市87.7%、おいらせ町85.2%）が広島の２地域（三次市80.4%、府中町85.1%）よりも高い。また、「親は要介護になったら、子どもが家で面倒をみるのは当然だと思う」のは、逆に広島の２地域（三次市58.0%、府中町62.4%）のほうが、青森の２地域（むつ市46.1%、おいらせ町47.5%）より比率が高い。また、「家事（育児・介護を含む）の負担に関する不満はない」比率は、青森の２地域（むつ市71.1%、おいらせ町72.9%）のほうが、広島の２地域（三次市66.9%、府中町68.2%）よりもやや高い。これらを共通して説明する背景として有力なのが、青森のほうが女性の正規雇用率が高く、広島の専業主婦率が高いという傾向である。ここでは、これ以上立ち入ることを控えるが、それに関わる家族規範の地域差が存在する可能性についても考えられる。ただし、「女性は子どもができても、ずっと職業を続けるほうがいい」と思う人の比率は、４地域とも６割台であり、この点において地域によるジェンダー規範の違いがあるとは言えない。

趣味については、「自分の趣味には「おたく」的な要素があると思う」者の比率が、青森の２地域で

はむつ市50.9%、おいらせ町44.8%と高いのに対して、広島の２地域は三次市36.8%、府中町36.0%と低い。この差を説明する最も大きな要因は、先に見たように青森の２地域では、男性で配偶者がいない者ないし男性子無しの比率が比較的高いためである。「男性子無し」に限ると、むつ市56.4%、おいらせ町58.9%、三次市55.0%、府中町54.2%と４地域の有意差は無くなる。ただし、「女性子無し」については、青森の２地域（むつ市54.7%、おいらせ町52.0%）は、広島の２地域（三次市44.2%、府中町36.5%）に比べると高く、趣味の中身やあり方について地域差があることがうかがえる。

また、「自分の趣味には「ヤンキー」的な要素があると思う」者の比率は、むつ市8.8%、おいらせ町11.4%、三次市5.7%、府中町5.7%。青森の２地域のほうが、広島の２地域よりも高くなっている。業種では、４地域とも全業種のなかで、建設業が最も「ヤンキー」的と回答する者の比率が多く、青森県の建設業従業者の比率の高さが全体の比率に影響している。

そして、「自分は趣味に関して、個性やこだわりが強いほうだと思う」者の比率は、やはり青森の２地域（むつ市58.5%、おいらせ町54.5%）のほうが、広島の２地域（三次市48.7%、おいらせ町46.1%）よりも高くなっている。この点についても、青森の男性子無しの比率の高さから説明できる部分が多いと見られるが、趣味の中身やあり方についてさらに検討をしてみる必要があり、この統計からだけでは判断できない。

また、「自分は趣味に関して、個性やこだわりが強いほうだと思う」という項目は、広島20-30代調査と同様に、少数派である「自分の一生暮らす場所として、東京のような大都市はいいと思う」という質問項目との相関が強い。「東京志向」のある者に限ってみると、「趣味に個性やこだわりが強い」のは、４地域とも各地域の平均値を上回る（むつ市60.5%、おいらせ町65.2%、三次市57.4%、府中町58.5%）。趣味へのこだわりと大都市志向との相関を示す、示唆的な数字である。

11－５．　総括

(1)「まち―いなか」関係

広島と青森の計４地点における20-30代調査を経て、地方暮らしの若者のバリエーションに関して、どのような示唆が得られただろうか。本稿で述べた、データ分析結果のポイントについて、本章末尾の表にまとめた。

まず、都市雇用圏概念をベースとした「地方中枢拠点都市圏―条件不利地域圏」（「まち―いなか」）の差異や関係性の重要性が改めて浮き彫りになった。

おいらせ町には、むつ市や三次市にもあるようなDID（人口集中地区）は無い。生活インフラへアクセスするためには、基本的には自動車での移動が必須であるという点において、府中町ともライフスタイルは異なる。豊富な雇用を提供する大企業があるわけでも、社会的に注目を集めるような行政施策や地域活動があるわけでもない。町内の面積のかなりの部分は農地であり、そこだけに注目すれば紛れもない「いなか」である。しかし、今回の調査において、地域の現状評価に関しては、おいらせ町は、どの項目をとっても肯定的な評価が「条件不利地域圏」であるむつ市や三次市をはるかに上回っている。おいらせ町にはある程度の雇用のバリエーションを提供する地方都市（八戸市）へのアクセスと、若者にとって魅力的な消費・娯楽機能を備えた100店舗以上の専門店を含む大型ショッピングモールがあり、それがむつ市とは決定的に異なる点である。こうした調査結果について、広島20-30代調査と青森20-30代調査の結果は完全に一致している。地域満足度のバリエーションは、居住地域の都市度や土地利用のあり方ではなく、若者にとって魅力的な都市機能の集積した地域へのアクセス格差、すなわち地方の「まち―いなか」格差によって説明できる部分が大きいということが改めて確認された。

また、もう一つ重要なのは、居住地域の現状評価に関して、これほどはっきりと「まち―いなか」格差があるにも関わらず、そのことが個々人の生活や仕事、人生の現状評価、そして幸福度の低さを意味しないという点である。地域に関わる問題を除けば、４地域の現状評価に関する項目において、基本的に有意差はみられなかった。また、「まち―いなか」の間で、世帯年収に有意差があるにもかかわらず、両方の地域の個人の経済状況の評価には差は無かった。この点についても、広島と青森の調査結果から得られる知見は一致する。これらの事実から、以下の三つの示唆が得られる。

第一に、条件不利地域圏（「いなか」）の地域的な衰退が問題とされているが、個々人の暮らしや仕事の現状評価に焦点を合わせれば、それは必ずしも「まち」に比べて低いものではないという点である。友人や家族などのつながりに対する評価は高いが、個々人の生活や仕事、そして社会の将来についてはネガティブな意識が強くなるという点で、４地域の間に有意差は無かった。

第二に、若者の暮らしやネットワークが居住地域のなかで完結していない点である。むつ市や三次市では、「ずっと地元」を離れたことが無い若者はごく一部であり、就学や就職のために他地域に転出したのちにUターンした者が最も多い。また、むつ市や三次市では、そのライフスタイル観は必ずしも「田舎

志向」が多数を占めるわけではなく、利便性の高い生活を求める傾向はむしろ「まち」よりも強い。そのため、多くの若者は、休日には、居住地域を越えて、２時間先のおいらせ町のイオンモール下田や、さらにその先の八戸都市圏や青森都市圏に移動している者も多いことが確かめられた。むつ市や三次市の若者たちは、個人的なモビリティを活用することにより、こうしたトランスローカルな関係性を維持することによって、地域の条件不利性を克服している場合が多いとみられる。すなわち「条件不利地域圏」に暮らす若者の生活や人生等の現状評価を捉えるうえでは、居住地域内の生活だけではなく、その平日生活圏の外側にある「地方中枢拠点都市圏」とのトランスローカルな関係性を分析することによってはじめて総体的な理解ができるということである。

第三に、４地域のデータを比較してみて、個々人の生活や仕事や人生の見通し、日本社会の評価についていえば、「まち」も「いなか」も「青森」も「広島」も関係なく、総じてネガティブであり、その一方で、家族や友人などの人間関係については比較的ポジティブであるという点について、有意差が見られなかった点である。これらの論点について、地方暮らしの若者の数値としてのバリエーションは無い、ととりあえず結論できる。ただし、ここで出た数値が、今回比較対象として除外している三大都市圏に暮らす若者と比べて、その実態や価値観がどのように異なっているのだろうか。世帯年収の水準でいうと、日本の中央値は「地方中枢拠点都市圏」にあると考えられるが、この点についてより高い水準にあり、専門・技術職の比率や学歴等がより高い大都市圏の若者との比較は、検討課題として残る。

⑵「青森―広島」の差異の意味

今回の調査データの分析からは、地方の「まち―いなか」関係だけでなく、青森の２地域と広島の２地域との間の差異についても多くの示唆が得られた。

第一に、本州の北端にあたる青森の２地域と、西日本の広島の２地域とでは、地理的な意味において、大都市圏へのアクセスに大きな差異がある。そのため、青森は広島よりもかなり学歴が低くなっている。また、Iターン、特に結婚を理由して転入する層が、青森は広島よりも圧倒的に薄いことも、大都市からの距離に関係していると考えられる。田舎暮らしのライフスタイルを求める者は一定数いるが、「下北半島」は「中国山地」より求心力を持ち得ていない。じっさい、移住・定住化政策において自治体関係者に尋ねたところ、むつ市ではIターンよりもUターンの増加を重視しており、さかんにIターン移住者を誘致しようとしている三次市とは異なるようである。

第二に、家族構造・人口構造において、青森と広島にいくらかの差異が見られた点である。そのなかでは、青森は結婚転入者が少ないぶん、「地元」在住者の比率が高く、有配偶者の比率も広島よりも低くなり、そのことが各種の意識調査項目における地域差につながっているという部分が大きいということがわかった。ただし、東西日本の家族規範の違いが残っている可能性も否定しきれない。今回の調査ではそこまで踏み込めていないが、こうした家族構造・人口構造のあり方の違いが、若者の暮らしや人生の地域差とどのように結びついているのかについて、今後深めるべき課題は多いと考えられる。

第三に、30万人台の八戸都市圏と、140万人台の広島都市圏との間にある都市規模の差異が持つ意味である。おいらせ町と府中町を比較すると、大型ショッピングモールの存在がある点では似通っており、消費・娯楽機能とそれがもたらす満足度の高さという点では決定的な格差は無い。しかし、大きく異なるのが学歴と雇用の選択肢である。広島都市圏と比べて、八戸都市圏には高等教育機関が乏しく、18歳の時点で地元を離れる者の比率が格段に高いとみられる。また、都市圏の人口規模と相関するかたちで、産業構造においても差異がみられる。広島都市圏には多数の雇用をもたらす製造業の大企業の立地があるが、八戸都市圏では製造業の雇用が比較的少ない分、建設業や公務員の比率が高くなっている。また、八戸都市圏のほうが広島都市圏よりも就業機会が限られるぶん、雇用の柔軟性に乏しく、その結果として正規雇用で働く者の比率が高くなっている。それにともなって、女性の労働時間は長く、家事や介護に関するジェンダー意識についても違いがみられる。こうした点については、「まち―いなか」の違いよりも、「地方中枢拠点都市圏」の規模の違い、あるいは大学や企業の集積の度合いが意味を持っているとみられ、さらなる分析にあたっては、どこで線引きするかについての議論が必要と考えられる。

⑶今後の調査研究の課題

以上みてきたように、一言で地方圏と言っても、「まち―いなか」の格差やトランスローカルな関係の構造を理解する必要があること、そして、地方の「まち（地方中枢拠点都市圏）」といってもそのバリエーションを分析的に見る必要があるということが本調査をとおしてわかった。この結果を踏まえて、若者の暮らしの地域性を分析するという実践的課題も視野に入れた場合、以下のような調査研究の必要性があると考えている。

第一に、単に居住地域に愛着を持ち、定住人口を増やして地域を活性化することをゴールと定めるの

ではなく、地域的制約にうまく対応しながら、個々の若者が排除されない居場所や他者とのつながる場をみつけ、暮らしやキャリア、そして人生の選択肢を広げることがゴールであるという認識が必要である。そのためには、本稿が注目した地域間の差異だけではなく、個々人の職業・学歴・居住歴・婚姻状況・経済状況などの社会的属性の差異に着目しつつ、それと地域的課題との結びつき方についての考察を深める必要がある。そのためには、統計調査だけでなく、フィールドワークやインタビューの成果も踏まえて、地方暮らしの若者が抱える問題の共通性とバリエーションを探り、一般性のあるかたちで若者問題の地域的性格を明るみにする調査研究の蓄積が求められるだろう。

第二に、上記の目的を達するためにも、本調査から導かれたキーワードである「まち—いなか」の「トランスローカリティ」の意味を明確にするべく、さらに調査研究を深める必要がある。「トランスローカリティ」とは、個々人の居住地域を越えた人間関係、社会経験のことを指す。広島と青森の調査を通して、地方圏の若者において、「ずっと地元」である若者は少数派であり、他地域の生活経験が大きな意味を持っていると考えられること、そして条件不利地域圏の若者のネットワークは、隣接する地方中枢拠点都市圏に広がっており、それによって地域満足度と生活満足度との間にあるギャップを埋め合わせている側面があることが示唆された。そのうえで、青森と広島の差異についての考察を通して、「まち—いなか」関係のバリエーションも見えてきた。今後、「まち—いなか」の関係を、「地方中枢拠点都市圏—条件不利地域圏」として一般化するだけではなく、「いなか」に近接する都市圏の規模による求心力の違いに注目するとともに、大都市圏との関係性の違いに注目し、「大都市圏—地方圏」とのあいだのトランスローカリティのあり方にどのような意味の違いが出てくるのかについても、考察を深める必要がある。そして、地域特性を捉えつつ、地域を越えたトランスローカルな関係性のなかから学び合うことは、若者の居場所の構築という実践的課題に関わる人たちにとっても、重要な契機を与えるものだと考える。

（表）　青森と広島の４地点比較のデータ分析結果のまとめ

＊地方中枢拠点都市圏（まち：おいらせ町・府中町）／条件不利地域圏（いなか：むつ市・三次市）

地方圏の「まち―いなか」格差（都市機能の集積した地域へのアクセス格差）	・製造業（まち＞いなか） ・世帯年収（まち＞いなか）・・・いなかでは「収入のための仕事」意識が強くなる。 ・有配偶者率：20代（まち＜いなか）／30代（まち＞いなか） ・学歴（都市圏の規模が大きい場合　まち＞いなか） ・「ずっと地元」比率（まち＞いなか） ・「地元」比率（20代：まち＞いなか　30代：まち＜いなか） ・Uターン比率（まち＜いなか） ・地域満足度（まち＞＞＞いなか）・・・定住意識、生活環境評価 ⇒利便性志向（まち＜いなか） ・モビリティの意識（まち＜いなか）・・・休日に居住地域外に出る意欲 ・異質な人たちとの出会いの可能性（まち＞いなか）
青森―広島の差異	●大都市圏からの距離 ・学歴（青森＜広島） ・大都市志向（青森＞広島）⇒趣味へのこだわりの格差 ●ライフスタイルの差異 ・田舎志向の比率（青森＜広島）⇒「下北半島」は「中国山地」よりIターンを引き寄せていない。 ●家族構造・人口構造の差異 ・有配偶者の比率（青森＜広島）⇒自称「おたく」比率／「毎日の生活が「楽しい」と感じられる」人の比率 ・専業主婦比率（青森＜広島）⇒家事時間格差 ・結婚転入者（青森＜広島）⇒「地元」比率（青森＞広島） ●「地方中枢拠点都市圏（まち）」の都市規模の差異（八戸都市圏30万人台＜広島都市圏140万人台） ・都市度：府中町＞むつ市・おいらせ町・三次市・・・有配偶者の親もしくは配偶者の親との同居率の低さ／「地縁組織」の活動参加の差異（府中町は少ない）／外国人の増加への危惧感の差異／自動車依存度の差異 ・学歴（広島都市圏では「まち＞いなか」、八戸都市圏ではその差異無し） ・土地利用の違い（府中町は都市化した郊外、おいらせ町は伝統的農村のなかでのスプロール型開発が進む郊外） ●産業構造の差異 ・正規雇用比率（青森>広島）⇒就労時間格差 ・・・女性の正規雇用比率の格差⇒男女平等意識（青森＞広島）／「家」で介護する意識（青森＜広島）／家事分担への不満（青森＜広島） ・就業の選択肢の差異 製造業（青森＜広島）／公務員（青森＞広島）／建設業（青森＞広島）⇒自称「ヤンキー」の比率
４地域に差異無し	・経済的な感覚 ・生活の現状評価 ・仕事の現状評価は比較的低い ・日本社会の現状評価・・・かなり低い ・人生に対する現状評価 ・家族・友人に対する現状評価・・・８割は満足 ・仕事よりも余暇という価値観 ・ダウンシフター志向はネガティブ ・社会意識 ・女性の職業継続を支持する意識・・・６割台

青年層の生活と意識に関する調査
単純集計表
（むつ市）

Ⅰ　最初に、あなたの生活全般に対する意識についてお尋ねいたします。

問１　あなたは、現在住んでいる地域について、どのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

%	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　総合的に見て、現在住んでいる地域の現状に満足している。(N=335)	4.8	29.3	47.5	18.5
B　現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。(N=335)	7.8	16.4	31.6	44.2
C　現在住んでいる地域の外に、買い物や遊びに行く必要を感じない。(N=335)	2.1	6.9	24.5	66.6
D　総合的に見て、現在住んでいる地域の行政サービスに満足している。（N=333）	1.2	31.2	47.4	20.1
E　現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている。(N=335)	0.9	17.0	50.7	31.3
F　現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる。(N=335)	17.0	31.0	29.6	22.4
G　今後、可能ならば、現在住んでいる地域に住み続けたいと思っている。(N=335)	21.5	30.1	24.5	23.9
H　20年後も、現在住んでいる地域か、その近くに住んでいると思う。(N=334)	31.7	29.0	19.2	20.1

問２　あなたの住居に関わる価値観についてお伺いいたします。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

%	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　自分が一生暮らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。(N=335)	19.4	38.2	28.7	13.7
B　自分が一生暮らす場所として、青森市のような「地方都市」はいいと思う。(N=334)	19.2	51.5	21.9	7.5
C　自分が一生暮らす場所として、東京のような「大都市」はいいと思う。(N=335)	8.1	17.9	38.8	35.2
D　共働きであっても、妻は仕事をやめて夫の転勤についていくべきだ。(N=334)	9.0	28.1	35.9	26.9

問３　あなたの住居に関わる意識についてお伺いいたします。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

%	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている。(N=335)	5.7	31.0	44.5	18.8
B　現在住んでいる地域にいる多様な人たちと交流することに興味がある。(N=335)	6.9	32.5	39.4	21.2
C　隣近所の人たちとは、何でも相談したり、助け合ったりできるような深い関係になりたい。(N=334)	7.5	35.3	41.0	16.2
D　休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う。(N=335)	32.8	40.3	21.2	5.7
E　現在住んでいる地域に、大型商業施設や大型小売店が増えれば嬉しく思う。(N=335)	66.3	24.8	8.7	0.3
F　現在住んでいる地域での生活には、自家用車は欠かせないと思う。(N=335)	95.2	3.6	0.9	0.3
G　現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えるのは良いことだ。(N=335)	19.7	40.6	29.6	10.1

問４　あなたが同居されているご家族で車をもっている方はどなたですか。いくつでも〇をつけてください。％（N）

A　自分　77.8(259)　　B　配偶者　36.4(121)　　C　きょうだい　14.4(48)

D　父親　39.0(130)　　E　母親　35.4(118)　　F　祖父　3.6(12)

G　祖母　1.2(4)　　H　子ども　0.9(3)

I　家族は誰も車をもっていない　2.9(10)

問5　あなたの**居住歴**について、以下から**最も近い選択肢ひとつに〇印**を付けてください。％(N=323)

A　今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域で暮らしたことがない。　23.9

B　今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域の学校を卒業（または中退）後、戻ってきた。　24.2

C　今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域で就職後、戻ってきた。　19.4

D　結婚のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。　4.5

E　仕事のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。　19.1

F　就学のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。　1.5

G　住み替えのため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。　0.9

H　家族の都合で今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。　3.0

I　その他　3.6

問6　あなたは仕事についてどのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。【現在、**収入のある仕事をしていない人**、あるいは**アルバイトをしている学生の方**については、回答せずに次ページの**問7に進んでください。**】

%	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　総合的に見て、自分の仕事の現状に満足している。(N=284)	10.6	44.4	32.4	12.7
B　給料や報酬に満足している。(N=284)	10.9	34.2	30.3	24.6
C　毎日の仕事が「楽しい」と感じられる。(N=284)	7.7	40.1	36.6	15.5
D　自分は「やりがい」がある仕事をしていると思う。(N=281)	19.2	44.8	26.3	9.6
E　勤務時間(長さ、時間帯)に関する不満はない。(N=284)	21.8	37.0	21.1	20.1
F　自分の仕事ぶりは、人に認められていると思う。(N=284)	9.5	51.1	30.6	8.8
G　現在の職場の人間関係に満足している。(N=284)	15.1	50.7	24.6	9.5
H　現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代にとって魅力的な仕事の選択肢がある。(N=284)	0.0	5.3	47.9	46.8
I　今よりよい条件の勤務先に移ろうとか、チャンスを求めて転職しようという考えは持っていない。(N=284)	20.4	17.3	34.2	28.2
J　今後の自分自身の仕事の将来について、明るい希望を持っている。(N=284)	8.5	30.3	43.3	18.0
K　今後の勤務先の将来(経営など)について、明るい希望を持てると思う。(N=284)	7.4	25.7	48.2	18.7
L　20年後も現在の延長線上にある内容の仕事をしていると思う。(N=283)	22.6	41.3	20.8	15.2
M　20年後も勤務先を変えずに働いていると思う。【配置転換は、同じ勤務先とみなします。】(N=283)	18.0	30.4	27.9	23.7
N　20年後は、今よりも高い給料や報酬をもらって仕事をしていると思う。(N=284)	20.1	33.8	27.8	18.3

問7　あなたの仕事に関わる価値観についてお伺いいたします。それぞれの項目で、考えに一番近い番号に〇をつけてください。【収入のある仕事をしていない方も、**全員回答してください**。】

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　満足な収入が得られるのであれば、長時間働いてもかまわないと思う。(N=330)	23.9	33.0	32.7	10.3
B　やりがいのある仕事であれば、満足な収入が得られなくてもかまわないと思う。(N=330)	7.0	16.7	50.3	26.1
C　やりがいのある仕事であれば、長時間働いてもかまわないと思う。(N=329)	14.3	30.1	35.3	20.4
D　女性は子どもができても、ずっと職業を続けるほうがいいと思う。(N=329)	15.8	47.7	28.9	7.6
E　男は外で働き、女は家庭を守るべきだ。(N=330)	2.7	14.2	40.6	42.4
F　子どもを他人に預けてまで母親が働くことはない。(N=329)	7.9	21.0	46.8	24.3
G　一家の生計を支えるのはやはり男の役割だ。(N=330)	16.4	34.5	27.3	21.8

問８　あなたは、ご自身の人生についてどのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　総合的に見て、自分の現状に満足している。(N=331)	6.6	43.5	32.6	17.2
B　自分と近い仲間たちと交流する機会に恵まれ、深い絆を築けていると思う。(N=331)	13.6	40.5	31.4	14.5
C　自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。(N=329)	8.2	33.1	38.9	19.8
D　自分は人の役に立っていると思う。(N=331)	8.5	49.8	31.7	10.0
E　自分は幸せだと思う。(N=331)	20.5	53.2	20.2	6.0
F　自分の将来に明るい希望を持っている。(N=331)	12.1	39.3	32.6	16.0

問９　あなたの人生に関わる価値観についてお伺いいたします。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　今後の人生では、無理をしてでも、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。(N=335)	9.3	29.0	49.3	12.5
B　今後の人生では、平凡でもいいから、人並みの幸せを手に入れることが大事だと思っている。(N=335)	30.4	54.3	11.9	3.3
C　今後の人生では、人とは異なる自分の個性を磨くことが大事だと思っている。(N=335)	15.9	42.2	37.1	4.8
D　今後の人生では、自分の利益と関係なく、自分の身内や仲間のためを考えて行動しようと思う。(N=335)	12.8	49.9	31.6	5.7
E　今後の人生では、自分の利益と関係なく、広く社会に役立つことを考えて行動しようと思う。(N=335)	4.8	38.5	48.1	8.7

問10　あなたの生活に関わる価値観についてお伺いいたします。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　余暇の生活を優先させたいので、仕事で長時間働きたくない。(N=335)	23.0	47.5	26.9	2.7
B　社会情勢を考えれば、今後、生活水準が上がらなくても仕方ないと思う。(N=335)	6.3	31.3	44.8	17.6
C　自分なりにお金をかけずに楽しく暮らす方法はあるので、今後、生活水準が上がらなくてもかまわない。(N=334)	2.7	14.4	52.4	30.5
D　自分の趣味には「おたく」的な要素があると思う。(N=335)	23.3	27.8	24.8	24.2
E　自分の趣味には「ヤンキー」的な要素があると思う。(N=334)	3.0	5.1	30.8	61.1
F　自分は趣味に関して、個性やこだわりが強いほうだと思う。(N=335)	25.1	33.4	27.2	14.3
G　親が要介護になったら、子どもが家で面倒をみるのは当然だと思う。(N=334)	10.8	35.3	38.6	15.3
H　男性も女性と平等に家事（育児・介護を含む）を分担するのが当然だと思う。(N=334)	45.5	42.2	11.1	1.2

問11　あなたは、ご自身の生活について、どのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　総合的に見て、今の生活に満足している。(N=334)	14.1	46.7	28.1	11.1
B　一般的な家庭と比べて、自分の生活水準は高いほうだ。(N=333)	6.0	39.0	40.2	14.7
C　心身ともに健康に過ごせている。(N=334)	14.1	51.8	24.6	9.6
D　毎日の生活が「楽しい」と感じられる。(N=332)	10.5	47.6	32.5	9.3
E　金銭的余裕のある生活を送っている。(N=333)	7.5	26.7	38.1	27.6
F　時間的余裕のある生活を送っている。(N=333)	8.1	33.6	36.6	21.6
G　現在の住居に満足している。(N=334)	17.1	39.2	29.9	13.8
H　20年後、自分は親の生活水準よりも高い暮らしができていると思う。(N=333)	8.1	28.5	40.8	22.5
I　今後、自分の生活が経済的に厳しくなる可能性について、心配しなくていいと思う。(N=334)	4.2	14.4	41.9	39.5

問12　あなたは、ご自身と親しい人との関係について、どのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　自分の生活は、親から完全に自立した状態である。(N=338)	19.5	27.5	29.3	23.7
B　親との関係に満足している。(N=338)	36.1	45.0	15.4	3.6
C　血縁以外に自分を必要とし大切に思ってくれる人（配偶者・恋人等）がいて、その関係に満足している。(N=335)	32.5	26.3	19.4	21.8
D　友人関係に満足している。(N=338)	31.4	45.9	15.4	7.4
E　家事（育児・介護を含む）の負担に関する不満はない。(N=332)	27.1	44.0	23.8	5.1
F　今後、（配偶者がいない場合）結婚できないのではないかとか、（既婚の場合）結婚生活を続けられないのではないかと、心配しなくていいと思う。(N=332)	19.6	29.8	29.2	21.4
G　20年後、子育てを経験し、自分を必要とし大切に思ってくれる人（配偶者・恋人等）と暮らしていると思う。(N=336)	27.1	38.4	21.4	13.1

問13　あなたは、日本社会や政治について、どのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A 総合的に見て、日本社会や政治の現状について満足している。(N=338)	2.1	16.6	53.6	27.8
B 日本は、安全で安心して暮らせる国だと思う。(N=338)	18.6	54.7	19.5	7.1
C 日本は、こつこつと努力すれば成功するチャンスのある国だと思う。(N=338)	13.0	46.4	29.9	10.7
D 日本は差別があまりなく、弱い立場とされる人々がむしろ手厚く保護されている国だと思う。(N=338)	10.7	31.4	42.9	15.1
E 今の日本政府を信頼している。(N=338)	4.5	24.3	39.5	31.8
F 日本の将来には明るい希望があると思う。(N=337)	3.9	22.0	52.2	22.0
G 将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。(N=338)	3.0	12.4	43.2	41.4
H 将来、日本の伝統や慣習が失われ、社会の雰囲気が悪くなる可能性について、心配しなくていいと思う。(N=337)	3.0	14.5	51.6	30.9
I 今後、日本国内に外国人が増加することは、総合的に見ると良いことだ。(N=337)	10.1	42.1	37.4	10.4

問14　あなたの日本社会や政治に関わる価値観についてお伺いいたします。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A 国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。(N=338)	14.8	47.3	29.0	8.9
B 社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている。(N=338)	13.9	43.5	33.4	9.2
C 自分の力は小さいので、社会問題や政治について不満を持っても仕方がないと思う。(N=338)	15.4	44.4	31.7	8.6

Ⅱ　次に、**あなた自身の基本的な事柄**についてお尋ねいたします。

F1　**年齢　／　性別**

A　年齢	B　性別（N=333）
平均28.5	0　男性　55.3　　1　女性　44.7

F2　現在、あなたは結婚されていますか。（N=329）

A　結婚している　40.4　　B　離婚・死別した　6.7　　C　結婚したことはない　52.9

F3　**独身の方にお伺いいたします。**あなたは結婚について、どのようにお考えですか。（N=194）

A　ある程度の年齢までにはするつもり　38.7

B　理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてかまわない　50.0

C　一生結婚するつもりはない　11.3

F4　**独身の方にお伺いいたします。**あなたには、現在、恋愛交際相手がいますか。（N=194）

A　恋人がいる　24.2　　B　今はいないが、恋愛交際をしたことがある　44.8

C　恋愛交際をしたことがない　30.9

F5　現在あなたは**何人暮らし**ですか。**数字で**お答えください。（同じ世帯を構成する人数）

平均　2.94　人暮らし

F6　以下に挙げる**あなたの家族・親族**がそれぞれ**現在どこに住んでいますか。A～Fそれぞれのあてはまる番号に○印**を付けてください。該当する方がいない場合には、6を選択してください。

	1 同居している	2 1時間以内に行ける場所に住んでいる	3 日帰りできる場所に住んでいる	4 日帰りできない場所に住んでいる	5 わからない	6 存在しない
A　自分の父親（N=329）	31.0	25.5	10.9	16.7	2.4	13.4
B　自分の母親（N=327）	37.0	30.9	12.8	13.8	0.6	4.9
C　配偶者（事実婚、婚約者を含む）（N=308）	41.2	1.9	1.9	3.2	0.0	51.6
D　配偶者の父親（N=311）	1.9	21.2	9.6	6.4	2.3	58.5
E　配偶者の母親（N=310）	2.6	23.2	10.6	6.8	1.3	55.5
F　自分の子ども（長子）（N=314）	34.4	1.0	1.6	1.3	0,3	61.5

F7　あなたにとって**「地元」と感じられる地域の範囲**について、以下から**最も近い選択肢ひとつに○印**をつけてください。％（N=331）

A　出身の小学校区　7.9

B　出身の中学校区　15.1

C　出身の市町村全体　61.0

D　他市町村を含む生活圏　10.3

E　青森県全体　4.8

F　その他　0.9

F8　ご出身の都道府県、市町村、および中学校、高校をお教えください。

	都道府県		市町村
	中学校　卒業		高校　卒業

F9　あなたが現住地に引っ越された時期をお教えください。(N=329)

A　引っ越したことがある　73.9

B　引っ越したことはない　26.1

F10　現住地に引っ越される前の地域についてお教えください。

	都道府県		市町村

F11　あなたが現住地に引っ越された理由をお教えください。あてはまるものに、いくつでも○をおつけください。％(N)

A　ご自分の転勤　34.0(81)　　B　配偶者(ご自分の夫あるいは妻)の転勤　5.0(12)

C　子どもの進学　2.5(6)　　D　住宅の購入や建設など　13.0(31)

E　ご自分の親との同居の必要　5.0(12)

F　配偶者(ご自分の夫あるいは妻)の親との同居の必要　3.8(9)

G　その他　39.9(95)

F12　あなたが今後引っ越される場合、次のお引越しは何年後だとお考えですか。％(N=320)

A　おそらく（平均4.5）　年後に引っ越す　45.6

B　これからの引っ越しは考えにくい　54.4

F13　あなたが今後、引っ越される場合、次のお引越し先はどこだとお考えでしょうか。それぞれにひとつ○をつけて、想像できる場合には具体的な地名をご記入ください。

F13-1　A 国内 [　　] 都道府県 [　　] 市町村　　B 海外

F13-2　A 大都市　　B 地方都市　　C 田舎（町村郡）

F14　あなたが今後、引っ越される場合、次の引っ越しの理由はどのようなものになるとお考えですか？あてはまるものに、いくつでも○をおつけください。％（N）

A　ご自分の転勤　45.5(71)　　B　配偶者（ご自分の夫あるいは妻）の転勤　13.5(21)

C　子どもの進学　7.7(12)　　D　住宅の購入や建設など　13.5（21）

E　ご自分の親との同居の必要　8.3(13)

F　配偶者（ご自分の夫あるいは妻）の親との同居の必要　3.8（6）

G　その他　25.6（40）

F15　あなたが**これまでに参加してきた地域活動・社会活動の関わりの程度**について、以下に挙げた活動の種類ごとに、**最も近いと考えられる番号にひとつずつ○印**をつけてください。あなたの参加した活動の分類が難しい場合は、「その他」に具体的に書いてください。

％	4 積極的な関わり	3 一般的な関わり	2 消極的な関わり	1 全く関わりがない
A　趣味関係（スポーツを含む）のグループの活動 (N=334)	14.7	22.8	16.5	46.1
B　職場参加としての地域活動・社会活動	6.6	28.2	24.9	40.2
C　地縁組織の活動（町内会・自治会・青年団・消防団、祭の運営等）	6.9	18.4	16.9	57.7
D　学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動	6.6	19.8	21.0	52.6
E　業界団体・同業者団体・労働組合の活動	4.2	14.5	13.6	67.8
F　政治団体の活動	0.6	2.1	7.2	90.1
G　宗教団体の活動	1.2	1.2	6.9	90.7
H　上記以外のボランティア団体・消費者組織・NPO等の活動	2.1	4.2	8.8	84.8
I　その他（　　）				

F16　ここ一年の間、あなたが**以下の場所に出かけた頻度**を教えてください。それぞれの場所について、**最も近いと考えられる番号にひとつずつ〇印**を付けてください。

％	4 週に数日程度	3 月に数日程度	2 年に数日程度	1 出かけていない
A　現住所の自治体の中にある大型商業施設(N=333)	23.7	43.8	15.3	17.1
B　現住所の自治体の外にある県内の大型商業施設(N=334)	3.3	32.6	54.2	9.9
C　国内の県外地域(N=332)	1.2	6.3	57.5	34.9
D　（Cのうち）首都圏・関西圏などの国内の大都市(N=333)	0.6	2.7	41.4	55.3
E　日本国外(N=331)	0.0	0.0	4.5	95.5

F17　あなたは以下のＳＮＳを利用していますか。利用しているものについて、いくつでも〇をつけてください。％　(N=336)

A　LINE 90.2　B　Facebook　38.7　C　twitter　39.3　D　mix　5.1

E　その他　9.5　F　SNSは利用していない　7.7

F18　SNSを利用している方にお伺いします。地元のお友だちとSNSで連絡をとったり、おしゃべりしたりすることはありますか。**最も近いものにひとつ〇**をつけてください。％　(N=301)

A　毎日、やりとりがある　24.4　　B　月に一度以上、やりとりがある　41.5

C　半年に一度以上、やりとりがある　13.3　　D　年に一度以上、やりとりがある　8.3

E　連絡をとったり、おしゃべりをしたりすることはない　9.3

F19　あなたの**最終学歴**について、**ひとつ選んで〇印**をつけてください。（高卒で大学中退の場合は、高卒とお考え下さい）％　(N=337)

A　在学中（大学または大学院）　3.0　　B　在学中（短大または高専）　0.3

C　在学中（専門学校）　1.5　　D　大学卒または大学院卒　24.6

E　短大卒または高専卒　6.2　　F　専門学校卒　14.5

G　高卒　46.3　　H　中卒　3.3

I　その他　0.3

F20 ここ1か月の間のあなたの**就業状態と雇用形態**について、以下から**最も近い選択肢ひとつに○印を**付けてください。（ただし、在籍しながら休職中の人は休職直前の状態について、兼職されている方は主な仕事ひとつについてお答えください）％ （N=330）

A 仕事を主にしていて、正規雇用（フルタイム）の仕事で収入を得た。 64.2

B 仕事を主にしていて、自営業主またはその家族従業員として収入を得た。 2.4

C 仕事を主にしていて、会社経営者または役員として収入を得た。 2.4

D 仕事を主にしていて、パート・アルバイト・派遣・有期契約の非正規雇用の仕事で収入を得た。 12.4

E 家事を主にしつつ、正規雇用以外の仕事もしていて収入を得た。 4.5

F 通学を主にしつつ、正規雇用以外の仕事もしていて収入を得た。 0.9

G 家事を主にしていて、仕事で収入を得ていない。（→**F24にお進みください**） 7.9

H 通学を主にしていて、仕事で収入を得ていない。（→**F24にお進みください**） 2.1

I 家事も通学もしておらず、仕事で収入も得ていない。（→**F25にお進みください**） 3.0

F21 **【F20で「仕事で収入を得た」と答えた人だけお答えください】**あなたの主な仕事の**職業の種類**に関して、以下から**最も近い選択肢ひとつに○印を**つけてください。分類が難しい場合は、「その他」の回答欄に仕事内容を書いてください。％ （N=271）

A 専門・技術（研究者、教員、技術者、看護師、保育士等） 18.9

B 管理（会社・団体などの課長以上） 1.0

C 事務（係長以下の一般事務） 18.2

D 販売（販売員、セールス、不動産仲介等） 6.3

E サービス（理容師・美容師、介護職員、調理人、接客等） 17.5

F 製造作業・機械操作（製品の製造・検査、機械の組立・整備・製造等） 7.7

G 輸送・機械運転（トラック運転手、バス運転手、建設機械運転手等） 1.4

H 運搬・清掃・包装（郵便配達、荷物運搬、清掃員、包装作業等） 2.1

I 建設作業（とび職、左官、土木工事、採掘等） 5.6

J 保安（警察官、消防士、警備員等） 15.4

K 農林漁業 0.7

L その他 5.2

F22 【F20で「仕事で収入を得た」(A～F)と答えた人だけお答えください】あなたの主な仕事の**勤務先の業種または業務内容**に関して、以下から**最も近い選択肢ひとつに○印**をつけてください。分類が難しい場合は、「その他」の解答欄に、勤務先の業種または業務内容を書いてください。% (N=282)

A 農林漁業・鉱業 1.1

B 建設業 9.6

C 製造業 3.9

D 電気・ガス・熱供給・水道 2.8

E 情報通信 1.8

F 運輸・郵便(旅客運送、貨物運送、郵便配達等) 1.8

G 卸売・小売(物品の販売を行っている店舗、事業所等) 12.1

H 金融・保険 1.8

I 不動産・金品売買 1.1

J 飲食店・宿泊サービス 5.3

K 生活関連サービス(美容院、クリーニング店、スポーツ施設、娯楽施設等) 4.3

L 専門技術サービス(研究所、デザイン事務所、法律事務所、経営コンサルタント等) 1.4

M その他のサービス(農業協同組合、自動車整備、各種の修理業等) 3.2

N 教育・学習支援(学校、幼稚園、図書館などの社会教育機関、学習塾等) 3.5

O 医療・福祉(病院・医療施設、保育所、介護事業、社会福祉事務所等) 18.8

P 上記に分類されない公務員 23.8

Q その他 3.9

F23 あなたが**収入のある仕事のために費やしている時間**は、一週間合計でほぼどれほどですか。最近の一般的な状況について**数字で**お答えください。(残業時間を含む。休憩時間は除く。)

平均45.8時間

F24 あなたが**家事をしている時間**(日常生活に必要な炊事、洗濯、買い物、掃除等。育児、介護も含む)は、一週間でほぼどれほどですか。最近の一般的な状況について**数字で**お答えください。

平均 17.0時間

F25　あなたの**個人年収**（税込。本年度見通し。）と**世帯年収**（税込。同じ住居に住み、生計を同じくする人たち全員の個人年収を合わせた額。一人暮らしの方は個人年収と同額になります。）のそれぞれについて、以下から**最も近い選択肢の記号A～Hをひとつずつ回答欄に**書いてください。％

	個人年収	世帯年収
A　所得なし	9.7	1.8
B　100万円未満	8.2	2.4
C　100万円台	15.3	2.6
D　200万円台	21.5	11.5
E　300万円台	17.6	12.9
F　400～500万円台	16.5	27.1
G　600～700万円台	4.1	18.2
H　800～900万円台	0.6	6.5
I　1000万円以上	0.3	5.0
N	319	299

質問は以上です。長時間にわたり、ご協力を誠にありがとうございました。

青年層の生活と意識に関する調査
単純集計表
（おいらせ）

Ⅰ　最初に、あなたの生活全般に対する意識についてお尋ねいたします。

問１　あなたは、現在住んでいる地域について、どのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

%	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　総合的に見て、現在住んでいる地域の現状に満足している。(N=333)	12.0	59.2	22.2	6.6
B　現在住んでいる地域での生活で、交通の不便を感じることはない。(N=333)	18.6	30.6	32.4	18.3
C　現在住んでいる地域の外に、買い物や遊びに行く必要を感じない。(N=333)	5.1	14.4	36.9	43.5
D　総合的に見て、現在住んでいる地域の行政サービスに満足している。（N=329）	8.2	45.6	35.9	10.3
E　現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代が暮らしやすい生活環境が整っている。(N=332)	7.5	46.1	34.3	12.0
F　現在住んでいる地域には、リラックスして付き合える関係の友人が多くいる。(N=335)	14.7	34.2	30.6	20.4
G　今後、可能ならば、現在住んでいる地域に住み続けたいと思っている。(N=335)	22.4	48.9	19.9	8.8
H　20年後も、現在住んでいる地域か、その近くに住んでいると思う。(N=334)	28.0	43.4	18.4	10.2

問２　あなたの住居に関わる価値観についてお伺いいたします。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

%	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　自分が一生暮らす場所として、下北半島にあるような「田舎」はいいと思う。(N=335)	8.7	21.7	41.6	28.0
B　自分が一生暮らす場所として、青森市のような「地方都市」はいいと思う。(N=334)	8.1	53.6	27.7	10.5
C　自分が一生暮らす場所として、東京のような「大都市」はいいと思う。(N=335)	3.9	16.9	38.0	41.3
D　共働きであっても、妻は仕事をやめて夫の転勤についていくべきだ。(N=334)	7.9	29.0	40.2	23.0

問３　あなたの住居に関わる意識についてお伺いいたします。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に○をつけてください。

%	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている。(N=333)	6.3	32.1	44.7	16.8
B　現在住んでいる地域にいる多様な人たちと交流することに興味がある。(N=333)	6.0	33.0	43.5	17.4
C　隣近所の人たちとは、何でも相談したり、助け合ったりできるような深い関係になりたい。(N=332)	8.7	30.1	43.4	17.8
D　休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う。(N=332)	21.1	46.4	28.0	4.5
E　現在住んでいる地域に、大型商業施設や大型小売店が増えれば嬉しく思う。(N=332)	46.1	35.2	16.6	2.1
F　現在住んでいる地域での生活には、自家用車は欠かせないと思う。(N=333)	90.4	8.1	1.5	0.0
G　現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えるのは良いことだ。(N=333)	18.9	45.9	28.5	6.6

問４　あなたが同居されているご家族で車をもっている方はどなたですか。いくつでも○をつけてください。％（N）

A　自分　83.8(280)　　B　配偶者　36.0(120)　　C　きょうだい　25.7(86)

D　父親　50.9(170)　　E　母親　53.2(177)　　F　祖父　3.9(13)

G　祖母　3.6(12)　　H　子ども　1.8(6)

I　家族は誰も車をもっていない　1.2(4)

問5　あなたの**居住歴**について、以下から**最も近い選択肢ひとつに○印**を付けてください。(N=323)

A　今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域で暮らしたことがない。　24.4

B　今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域の学校を卒業（または中退）後、戻ってきた。　19.9

C　今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域で就職後、戻ってきた。　15.7

D　結婚のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。　11.1

E　仕事のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。　9.0

F　就学のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。　0.9

G　住み替えのため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。　11.1

H　家族の都合で今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である。　4.2

I　その他　3.6

問6　あなたは仕事についてどのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。【現在、**収入のある仕事をしていない人**、あるいは**アルバイトをしている学生の方**については、回答せずに次ページの**問7に進んでください。**】

%	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　総合的に見て、自分の仕事の現状に満足している。(N=293)	10.9	46.1	24.9	18.1
B　給料や報酬に満足している。(N=294)	10.5	33.3	31.6	24.5
C　毎日の仕事が「楽しい」と感じられる。(N=294)	9.2	39.1	34.0	17.7
D　自分は「やりがい」がある仕事をしていると思う。(N=294)	18.4	47.3	23.1	11.2
E　勤務時間(長さ、時間帯)に関する不満はない。(N=294)	19.7	38.4	25.5	16.3
F　自分の仕事ぶりは、人に認められていると思う。(N=293)	10.9	50.9	31.4	6.8
G　現在の職場の人間関係に満足している。(N=291)	18.2	46.7	26.8	8.2
H　現在住んでいる地域には、20～30代の若者や子育て世代にとって魅力的な仕事の選択肢がある。(N=293)	1.4	16.0	50.9	31.7
I　今よりよい条件の勤務先に移ろうとか、チャンスを求めて転職しようという考えは持っていない。(N=292)	21.2	22.3	29.8	26.7
J　今後の自分自身の仕事の将来について、明るい希望を持っている。(N=293)	8.5	29.4	42.3	19.8
K　今後の勤務先の将来(経営など)について、明るい希望を持てると思う。(N=294)	6.5	29.3	44.9	19.4
L　20年後も現在の延長線上にある内容の仕事をしていると思う。(N=294)	18.4	40.5	25.9	15.3
M　20年後も勤務先を変えずに働いていると思う。【配置転換は、同じ勤務先とみなします。】(N=292)	17.8	27.7	28.1	26.4
N　20年後は、今よりも高い給料や報酬をもらって仕事をしていると思う。(N=293)	17.7	31.1	36.2	15.0

問7　あなたの仕事に関わる価値観についてお伺いいたします。それぞれの項目で、考えに一番近い番号に〇をつけてください。【収入のある仕事をしていない方も、**全員回答してください**。】

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　満足な収入が得られるのであれば、長時間働いてもかまわないと思う。(N=334)	15.9	37.7	29.3	17.1
B　やりがいのある仕事であれば、満足な収入が得られなくてもかまわないと思う。(N=336)	5.7	21.4	47.9	25.0
C　やりがいのある仕事であれば、長時間働いてもかまわないと思う。(N=335)	10.1	27.8	39.4	22.7
D　女性は子どもができても、ずっと職業を続けるほうがいいと思う。(N=333)	13.2	54.4	26.4	6.0
E　男は外で働き、女は家庭を守るべきだ。(N=334)	2.4	10.2	45.5	41.9
F　子どもを他人に預けてまで母親が働くことはない。(N=336)	6.8	18.8	44.6	29.8
G　一家の生計を支えるのはやはり男の役割だ。(N=336)	14.6	36.6	28.3	20.5

問８　あなたは、ご自身の人生についてどのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　総合的に見て、自分の現状に満足している。(N=338)	8.0	44.7	29.3	18.0
B　自分と近い仲間たちと交流する機会に恵まれ、深い絆を築けていると思う。(N=338)	15.4	44.1	29.0	11.5
C　自分と異なる世界の人たちと出会う機会に恵まれ、視野を広げられていると思う。(N=338)	9.2	35.8	34.6	20.4
D　自分は人の役に立っていると思う。(N=338)	7.7	42.3	39.1	10.9
E　自分は幸せだと思う。(N=338)	20.7	54.7	18.3	6.2
F　自分の将来に明るい希望を持っている。(N=337)	13.1	40.4	33.8	12.8

問９　あなたの人生に関わる価値観についてお伺いいたします。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　今後の人生では、無理をしてでも、高い目標を立ててチャレンジしようと思っている。(N=337)	7.7	29.4	47.5	15.4
B　今後の人生では、平凡でもいいから、人並みの幸せを手に入れることが大事だと思っている。(N=337)	28.8	52.8	12.5	5.9
C　今後の人生では、人とは異なる自分の個性を磨くことが大事だと思っている。(N=336)	14.0	46.1	35.4	4.5
D　今後の人生では、自分の利益と関係なく、自分の身内や仲間のためを考えて行動しようと思う。(N=336)	8.9	52.1	33.0	6.0
E　今後の人生では、自分の利益と関係なく、広く社会に役立つことを考えて行動しようと思う。(N=335)	5.4	37.9	48.7	8.1

問10　あなたの生活に関わる価値観についてお伺いいたします。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　余暇の生活を優先させたいので、仕事で長時間働きたくない。(N=336)	22.6	44.0	28.0	5.4
B　社会情勢を考えれば、今後、生活水準が上がらなくても仕方ないと思う。(N=336)	3.9	31.3	44.6	20.2
C　自分なりにお金をかけずに楽しく暮らす方法はあるので、今後、生活水準が上がらなくてもかまわない。(N=336)	3.0	16.7	50.3	30.1
D　自分の趣味には「おたく」的な要素があると思う。(N=337)	20.8	24.0	24.3	30.9
E　自分の趣味には「ヤンキー」的な要素があると思う。(N=335)	1.8	9.6	26.3	62.4
F　自分は趣味に関して、個性やこだわりが強いほうだと思う。(N=336)	23.2	31.3	26.5	19.0
G　親が要介護になったら、子どもが家で面倒をみるのは当然だと思う。(N=337)	10.4	37.1	36.5	16.0
H　男性も女性と平等に家事（育児・介護を含む）を分担するのが当然だと思う。(N=337)	39.5	45.7	13.1	1.8

問11　あなたは、ご自身の生活について、どのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　総合的に見て、今の生活に満足している。(N=338)	12.7	52.7	24.6	10.1
B　一般的な家庭と比べて、自分の生活水準は高いほうだ。(N=337)	5.0	39.8	41.5	13.6
C　心身ともに健康に過ごせている。(N=338)	17.5	49.4	25.1	8.0
D　毎日の生活が「楽しい」と感じられる。(N=337)	13.1	46.0	32.3	8.6
E　金銭的余裕のある生活を送っている。(N=336)	3.3	30.1	44.0	22.6
F　時間的余裕のある生活を送っている。(N=338)	5.9	35.8	40.5	17.8
G　現在の住居に満足している。(N=336)	19.0	47.9	21.7	11.3
H　20年後、自分は親の生活水準よりも高い暮らしができていると思う。(N=338)	8.6	26.0	46.4	18.9
I　今後、自分の生活が経済的に厳しくなる可能性について、心配しなくていいと思う。(N=338)	2.4	13.0	41.7	42.9

問12　あなたは、ご自身と親しい人との関係について、どのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A　自分の生活は、親から完全に自立した状態である。(N=336)	16.7	21.7	32.1	29.5
B　親との関係に満足している。(N=335)	29.9	52.5	12.5	5.1
C　血縁以外に自分を必要とし大切に思ってくれる人(配偶者・恋人等)がいて、その関係に満足している。(N=334)	26.3	34.4	16.8	22.5
D　友人関係に満足している。(N=336)	25.9	54.2	14.0	6.0
E　家事(育児・介護を含む)の負担に関する不満はない。(N=332)	21.1	51.8	21.4	5.7
F　今後、(配偶者がいない場合)結婚できないのではないかとか、(既婚の場合)結婚生活を続けられないのではないかと、心配しなくていいと思う。(N=331)	21.8	31.4	26.0	20.8
G　20年後、子育てを経験し、自分を必要とし大切に思ってくれる人(配偶者・恋人等)と暮らしていると思う。(N=336)	1.5	17.3	21.4	13.1

問13　あなたは、日本社会や政治について、どのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A 総合的に見て、日本社会や政治の現状について満足している。(N=336)	1.5	17.3	51.5	29.8
B 日本は、安全で安心して暮らせる国だと思う。(N=337)	16.6	50.7	22.6	10.1
C 日本は、こつこつと努力すれば成功するチャンスのある国だと思う。(N=337)	11.9	44.5	33.8	9.8
D 日本は差別があまりなく、弱い立場とされる人々がむしろ手厚く保護されている国だと思う。(N=334)	18.6	41.0	31.7	8.7
E 今の日本政府を信頼している。(N=335)	3.3	19.1	45.7	31.9
F 日本の将来には明るい希望があると思う。(N=337)	2.4	22.0	48.4	27.3
G 将来、原発事故の影響で、自分が被害者となる可能性について、心配しなくていいと思う。(N=337)	3.9	12.5	46.9	36.8
H 将来、日本の伝統や慣習が失われ、社会の雰囲気が悪くなる可能性について、心配しなくていいと思う。(N=337)	2.1	11.3	52.2	34.4
I 今後、日本国内に外国人が増加することは、総合的に見ると良いことだ。(N=336)	7.7	44.9	37.5	9.8

問14　あなたの日本社会や政治に関わる価値観についてお伺いいたします。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に〇をつけてください。

	4 全くそう思う	3 どちらかと言えばそう思う	2 どちらかと言えばそうではないと思う	1 全くそうではないと思う
A 国を愛する心をしっかり持とうと心がけている。(N=337)	13.9	42.4	35.3	8.3
B 社会問題や政治に関心があり、知識を得ようと心がけている。(N=337)	12.2	39.8	40.4	7.7
C 自分の力は小さいので、社会問題や政治について不満を持っても仕方がないと思う。(N=337)	15.1	40.7	32.3	11.9

Ⅱ　次に、**あなた自身の基本的な事柄**についてお尋ねいたします。

F1　**年齢　／　性別**

A　年齢	B　性別（N=340）
平均28.4	0　男性　47.1　　1　女性　52.9

F2　現在、あなたは結婚されていますか。（N=329）

A　結婚している　36.9　　B　離婚・死別した　6.4　　C　結婚したことはない　56.7

F3　**独身の方にお伺いいたします。**あなたは結婚について、どのようにお考えですか。（N=201）

A　ある程度の年齢までにはするつもり　44.3

B　理想の結婚相手が見つかるまでは結婚しなくてかまわない　46.8

C　一生結婚するつもりはない　9.0

F4　**独身の方にお伺いいたします。**あなたには、現在、恋愛交際相手がいますか。（N=201）

A　恋人がいる　30.8　　B　今はいないが、恋愛交際をしたことがある　44.8

C　恋愛交際をしたことがない　24.4

F5　現在あなたは**何人暮らし**ですか。**数字で**お答えください。（同じ世帯を構成する人数）

平均　3.63　人暮らし

F6　以下に挙げる**あなたの家族・親族**がそれぞれ**現在どこに住んでいますか。A～Fそれぞれのあてはまる番号に○印**を付けてください。該当する方がいない場合には、6を選択してください。

	1 同居している	2 1時間以内に行ける場所に住んでいる	3 日帰りできる場所に住んでいる	4 日帰りできない場所に住んでいる	5 わからない	6 存在しない
A　自分の父親（N=332）	42.2	22.0	7.8	9.0	3.0	16.0
B　自分の母親（N=331）	55.3	26.0	9.4	6.0	0.9	2.4
C　配偶者（事実婚、婚約者を含む）（N=306）	40.8	2.0	1.6	1.0	0.3	54.2
D　配偶者の父親（N=303）	3.0	21.8	6.6	5.6	2.3	60.7
E　配偶者の母親（N=303）	3.3	25.4	6.9	5.0	1.0	58.4
F　自分の子ども（長子）（N=306）	35.3	1.0	1.3	0.7	0.3	61.4

F7　あなたにとって**「地元」と感じられる地域の範囲**について、以下から**最も近い選択肢ひとつに○印**をつけてください。(N=331)

A　出身の小学校区　9.7

B　出身の中学校区　14.5

C　出身の市町村全体　44.7

D　他市町村を含む生活圏　23.6

E　青森県全体　6.9

F　その他　0.6

F8　ご出身の都道府県、市町村、および中学校、高校をお教えください。

	都道府県		市町村
	中学校　卒業		高校　卒業

F9　あなたが現住地に引っ越された時期をお教えください。(N=329)

A　引っ越したことがある　71.4

B　引っ越したことはない　28.6

F10　現住地に引っ越される前の地域についてお教えください。

	都道府県		市町村

F11　あなたが現住地に引っ越された理由をお教えください。あてはまるものに、いくつでも○をおつけください。

A　ご自分の転勤　16.2(37)　　B　配偶者(ご自分の夫あるいは妻)の転勤　5.3(12)

C　子どもの進学　1.8(4)　　D　住宅の購入や建設など　28.9(66)

E　ご自分の親との同居の必要　5.7(13)

F　配偶者(ご自分の夫あるいは妻)の親との同居の必要　4.8(11)

G　その他　40.6(93)

F12　あなたが今後引っ越される場合、次のお引越しは何年後だとお考えですか。(N=323)

A　おそらく（平均4.3）　年後に引っ越す　39.6

B　これからの引っ越しは考えにくい　60.4

F13　あなたが今後、引っ越される場合、次のお引越し先はどこだとお考えでしょうか。それぞれにひとつ○をつけて、想像できる場合には具体的な地名をご記入ください。

F14　あなたが今後、引っ越される場合、次の引っ越しの理由はどのようなものになるとお考えですか？あてはまるものに、いくつでも○をおつけください。

A　ご自分の転勤　37.5(51)　　B　配偶者（ご自分の夫あるいは妻）の転勤　11.0(15)

C　子どもの進学　6.6(9)　　D　住宅の購入や建設など　9.1（31）

E　ご自分の親との同居の必要　4.4(6)

F　配偶者（ご自分の夫あるいは妻）の親との同居の必要　11.0（15）

G　その他　30.9（42）

F15　あなたが**これまでに参加してきた地域活動・社会活動の関わりの程度**について、以下に挙げた活動の種類ごとに、**最も近いと考えられる番号にひとつずつ○印**をつけてください。あなたの参加した活動の分類が難しい場合は、「その他」に具体的に書いてください。

%	4 積極的な関わり	3 一般的な関わり	2 消極的な関わり	1 全く関わりがない
A　趣味関係（スポーツを含む）のグループの活動(N=332)	14.8	24.4	12.0	48.8
B　職場参加としての地域活動・社会活動(N=333)	7.2	32.4	17.7	42.6
C　地縁組織の活動（町内会・自治会・青年団・消防団、祭の運営等）(N=331)	6.9	23.0	20.8	49.2
D　学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動(N=332)	7.5	25.3	16.9	50.3
E　業界団体・同業者団体・労働組合の活動(N=332)	3.6	13.9	14.2	68.4
F　政治団体の活動(N=332)	0.9	3.0	7.2	88.9
G　宗教団体の活動(N=331)	1.5	2.4	2.4	93.7
H　上記以外のボランティア団体・消費者組織・NPO等の活動(N=329)	1.8	3.6	6.7	87.8
I　その他（　　）				

F16　ここ一年の間、あなたが**以下の場所に出かけた頻度**を教えてください。それぞれの場所について、**最も近いと考えられる番号にひとつずつ○印**を付けてください。

%	4 週に数日程度	3 月に数日程度	2 年に数日程度	1 出かけていない
A　現住所の自治体の中にある大型商業施設(N=333)	32.1	53.2	11.7	3.0
B　現住所の自治体の外にある県内の大型商業施設(N=333)	7.5	36.9	42.6	12.9
C　国内の県外地域(N=332)	0.6	8.1	66.3	25.0
D　(Cのうち)首都圏・関西圏などの国内の大都市(N=329)	0.6	1.5	41.0	56.8
E　日本国外(N=327)	0.0	0.0	4.3	95.7

F17　あなたは以下のＳＮＳを利用していますか。利用しているものについて、いくつでも○をつけてください。％　(N=329)

A　LINE 86.9　　B　Facebook　36.8　C　twitter　35.9　D　mixi　4.0

E　その他　11.2　　F　SNSは利用していない　9.7

F18　SNSを利用している方にお伺いします。地元のお友だちとSNSで連絡をとったり、おしゃべりしたりすることはありますか。**最も近いものにひとつ○**をつけてください。％　(N=281)

A　毎日、やりとりがある　29.2　　B　月に一度以上、やりとりがある　41.3

C　半年に一度以上、やりとりがある　10.0　　D　年に一度以上、やりとりがある　6.8

E　連絡をとったり、おしゃべりをしたりすることはない　12.8

F19　あなたの**最終学歴**について、**ひとつ選んで○印**をつけてください。(高卒で大学中退の場合は、高卒とお考え下さい)％　(N=334)

A　在学中(大学または大学院)　3.9　　B　在学中(短大または高専)　0.3

C　在学中(専門学校)　0.6　　D　大学卒または大学院卒　21.6

E　短大卒または高専卒　10.2　　F　専門学校卒　17.7

G　高卒　41.6　　H　中卒　3.3

I　その他　0.9

F20 ここ1か月の間のあなたの**就業状態と雇用形態**について、以下から**最も近い選択肢ひとつに○印を**付けてください。（ただし、在籍しながら休職中の人は休職直前の状態について、兼職されている方は主な仕事ひとつについてお答えください）％ （N=332）

A 仕事を主にしていて、正規雇用（フルタイム）の仕事で収入を得た。 67.5

B 仕事を主にしていて、自営業主またはその家族従業員として収入を得た。 3.0

C 仕事を主にしていて、会社経営者または役員として収入を得た。 1.2

D 仕事を主にしていて、パート・アルバイト・派遣・有期契約の非正規雇用の仕事で収入を得た。 14.8

E 家事を主にしつつ、正規雇用以外の仕事もしていて収入を得た。 3.0

F 通学を主にしつつ、正規雇用以外の仕事もしていて収入を得た。 1.8

G 家事を主にしていて、仕事で収入を得ていない。（→**F24にお進みください**） 4.8

H 通学を主にしていて、仕事で収入を得ていない。（→**F24にお進みください**） 1.8

I 家事も通学もしておらず、仕事で収入も得ていない。（→**F25にお進みください**） 2.1

F21 **【F20で「仕事で収入を得た」と答えた人だけお答えください】**あなたの主な仕事の**職業の種類**に関して、以下から**最も近い選択肢ひとつに○印を**つけてください。分類が難しい場合は、「その他」の回答欄に仕事内容を書いてください。％ （N=301）

A 専門・技術（研究者、教員、技術者、看護師、保育士等） 23.6

B 管理（会社・団体などの課長以上） 1.3

C 事務（係長以下の一般事務） 15.6

D 販売（販売員、セールス、不動産仲介等） 8.3

E サービス（理容師・美容師、介護職員、調理人、接客等） 21.9

F 製造作業・機械操作（製品の製造・検査、機械の組立・整備・製造等） 10.6

G 輸送・機械運転（トラック運転手、バス運転手、建設機械運転手等） 1.7

H 運搬・清掃・包装（郵便配達、荷物運搬、清掃員、包装作業等） 1.3

I 建設作業（とび職、左官、土木工事、採掘等） 5.3

J 保安（警察官、消防士、警備員等） 3.3

K 農林漁業 3.0

L その他 4.0

F22 【F20で「仕事で収入を得た」(A～F)と答えた人だけお答えください】あなたの主な仕事の**勤務先の業種または業務内容**に関して、以下から**最も近い選択肢ひとつに〇印**をつけてください。分類が難しい場合は、「その他」の解答欄に、勤務先の業種または業務内容を書いてください。% (N=300)

A 農林漁業・鉱業 3.7

B 建設業 7.7

C 製造業 12.0

D 電気・ガス・熱供給・水道 2.3

E 情報通信 0.7

F 運輸・郵便(旅客運送、貨物運送、郵便配達等) 2.7

G 卸売・小売(物品の販売を行っている店舗、事業所等) 12.7

H 金融・保険 1.7

I 不動産・金品売買 2.0

J 飲食店・宿泊サービス 5.7

K 生活関連サービス(美容院、クリーニング店、スポーツ施設、娯楽施設等) 4.3

L 専門技術サービス(研究所、デザイン事務所、法律事務所、経営コンサルタント等) 1.0

M その他のサービス(農業協同組合、自動車整備、各種の修理業等) 3.0

N 教育・学習支援(学校、幼稚園、図書館などの社会教育機関、学習塾等) 8.0

O 医療・福祉(病院・医療施設、保育所、介護事業、社会福祉事務所等) 20.7

P 上記に分類されない公務員 8.3

Q その他 3.7

F23 あなたが**収入のある仕事のために費やしている時間**は、一週間合計でほぼどれほどですか。最近の一般的な状況について**数字で**お答えください。(残業時間を含む。休憩時間は除く。)

平均45.4時間

F24 あなたが**家事をしている時間**(日常生活に必要な炊事、洗濯、買い物、掃除等。育児、介護も含む)は、一週間でほぼどれほどですか。最近の一般的な状況について**数字で**お答えください。

平均 16.2時間

F25　あなたの**個人年収**（税込。本年度見通し。）と**世帯年収**（税込。同じ住居に住み、生計を同じくする人たち全員の個人年収を合わせた額。一人暮らしの方は個人年収と同額になります。）のそれぞれについて、以下から**最も近い選択肢の記号A～Hをひとつずつ回答欄に**書いてください。％

	個人年収	世帯年収
A　所得なし	7.5	0.3
B　100万円未満	10.0	1.7
C　100万円台	21.9	2.7
D　200万円台	21.0	10.8
E　300万円台	20.4	16.5
F　400～500万円台	16.0	25.3
G　600～700万円台	2.5	24.2
H　800～900万円台	0.3	8.4
I　1000万円以上	0.3	10.1
N	319	297

質問は以上です。長時間にわたり、ご協力を誠にありがとうございました。